

荒 迫 遺 跡

宮崎フリーウェイ工業団地造成に伴う発掘調査報告書

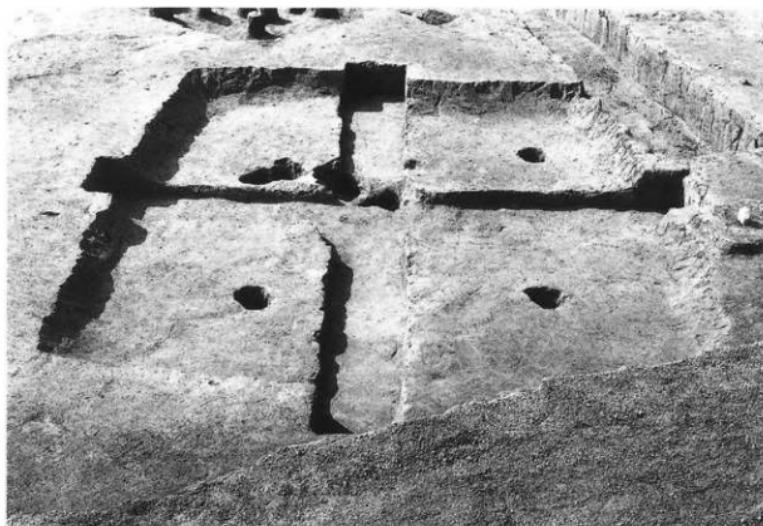
1998年3月

宮崎県埋蔵文化財センター

正 誤 表

修正箇所	誤	正
5頁第2図中	B5地区白地	B5地区アミかけ（別添(A)参照）
6頁第3図中	數状遺構	畝状遺構
25頁下から9行目	量4棟とが	量4棟が
35頁下から1行目	(S=1/3)	(S=1/60)
39頁第31図中	208.900	208.400
63頁第48図中SC2	B	B ^{209.100}
63頁第48図中SC12	A	A ^{209.300}
84頁第57図中SA1	A	A ^{208.200}
187頁下から15行目	第132図 D地区 IV層出土遺物実測図	第132図 D地区 IV層出土遺物実測図
226頁2号住居址	写 真	写真別添(B)に差し換え

(B) (226頁)



2号住居址

(A) (5頁)



第2図 荒迫遺跡調査範囲図 (1/5,000)

荒 迫 遺 跡

宮崎フリーウェイ工業団地造成に伴う発掘調査報告書

1998年3月

宮崎県埋蔵文化財センター

序 文

埋蔵文化財の保護・活用に対しまして、日頃より深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

このたび宮崎県教育委員会では、宮崎フリーウェイ工業団地造成事業に伴い、荒迫遺跡の発掘調査を行いました。本書はその報告書です。

荒迫遺跡が所在する高原町大字広原は、中世においては高原城をめぐる島津氏と伊東氏の激戦の地として著名であり、また、近辺には立切や日守などの地下式横穴墓群が分布することも知られています。

しかしながら、集落や生産関係の遺跡が発掘された例はほとんどなく、また、それらのものが文献に現れることもありません。その意味で今回の調査で古代の畠跡が広大な面積から検出できたことは、この地域の人々の当時の生活を知る貴重な資料となるでしょう。

本書が学術資料としてだけではなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待します。

調査にあった手御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、並びに地元の方々に心から謝意を表します。

平成10年3月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 藤本健一

例　　言

- 1 本書は、宮崎フリーウェイ工業団地造成事業に伴い宮崎県教育委員会が行った荒迫遺跡の発掘調査 報告書である。
- 2 本遺跡は調査当初より「広原地区遺跡」と呼称し、関連諸文書でもそのように扱ってきたが、調査 区の全てが「大字広原字荒迫」に含まれることが確認できたので、今後は統一して「荒迫遺跡」と呼称する。
- 3 発掘調査は、宮崎土地開発公社の依頼を受けた宮崎県教育委員会が主体となり、平成 6 年度および平成 7 年度は宮崎県文化課が、平成 8 年度は宮崎県埋蔵文化財センターが行った。
- 4 発掘調査は平成 7 年 1 月 17 日から平成 9 年 3 月 29 日まで行った。
- 5 現地での実測・写真撮影は久木田浩子、和田理啓、平原英樹が行い、空中写真は業者に委託した。
- 6 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、図面の作成・実測・トレースは主として和田理啓と久木田浩子が行い、一部整理作業員の協力を得た。またトレースにおいて、宮崎県埋蔵文化財センターの米久田慎二氏、高橋誠氏に多大な協力を得た。
- 7 本書で使用した位置図は国土地理院発行の 1/50,000 図を基に作成し、調査範囲図は高原町作成の 1/2,500 都市計画図を基に作成した。
- 8 土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修の「新版標準土色帳」に掲った。
- 9 本書で使用した方位は全て磁北である。
- 10 本書の執筆は第 I 章・第 II 章第 1 節および第 2 節の 7 、第 4 節・第 III 章は和田が、第 II 章第 2 節および第 3 節は久木田が行った。
- 11 本遺跡では自然科学分析を古環境研究所に委託して行った。その結果は附編として本書に掲載している。
- 12 荒迫遺跡に関する遺物および図面は宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第I章 序説

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と歴史的環境	2
第4節 調査の概要	3

第II章 調査の成果

第1節 A地区の調査	6
1. 基本層序	6
2. 調査の概要	6
3. 繩文時代の遺物	8
4. 弥生時代および古墳時代の遺構	9
5. 弥生時代および古墳時代の遺物	9
6. 古代の遺構	20
7. 古代の遺物	20
8. その他の遺構と遺物	22
9. 小結	25
第2節 B地区の調査	29
1. 基本層序	29
2. 調査の概要	29
3. B1地区	30
(1) 繩文時代の遺構と遺物	30
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	30
(3) 古代の遺構と遺物	41
(4) その他の遺構と遺物	58
(5) 小結	70
4. B2地区	81
(1) 繩文時代の遺構と遺物	81
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	81
(3) 古代の遺構と遺物	92
(4) その他の遺構と遺物	95
(5) 小結	106
5. B3地区	114
(1) 繩文時代の遺構と遺物	114
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	114
(3) 古代の遺構と遺物	116

(4) その他の遺構と遺物	116
(5) 小結	122
6. B 4 地区	125
(1) 縄文時代の遺構と遺物	125
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	125
(3) 古代の遺構と遺物	125
(4) その他の遺構と遺物	130
(5) 小結	138
7. B 5 地区	143
(1) 縄文時代の遺物	143
(2) 弥生時代から古墳時代にかけての遺構	143
(3) 弥生時代から古墳時代にかけての遺物	151
(4) 古代の遺構	156
(5) 古代の遺物	157
(6) その他の遺構	157
(7) その他の遺物	158
(9) 小結	158
第3節 C 地区の調査	163
1. 基本層序	163
2. 調査の概要	163
(1) 縄文時代の遺構と遺物	163
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物	165
(3) 古代の遺構と遺物	165
(4) その他の遺構と遺物	165
(5) 小結	169
第4節 D地区の調査	170
1. 基本層序	170
2. 調査の概要	170
(1) 縄文時代の遺構と遺物	173
(2) 弥生時代および古墳時代の遺構	173
(3) 弥生時代および古墳時代の遺物	178
(4) 古代の遺構	187
(5) 古代の遺物	187
(6) その他の遺物	191
(7) 小結	191

第三章　まとめ

第1節　高原スコリアについて	197
第2節　畠跡について	197
第3節　出土した古代の坏について	198
第4節　結語	200
附　編　自然科学分析調査報告書	201

挿　図　目　次

第1図　遺跡位置図及び周辺地形図	4
第2図　広原地区遺跡調査範囲図	5
第3図　A地区基本土層図	6
第4図　A地区遺構分布図	7
第5図　A地区IV層出土縄文時代遺物実測図	8
第6図　A地区1号住居址実測図	10
第7図　A地区2号住居址実測図	11
第8図　A地区3号住居址実測図	12
第9図　A地区4号住居址実測図	13
第10図　A地区1号住居址出土遺物実測図	14
第11図　A地区2号住居址出土遺物実測図	14
第12図　A地区3号および4号住居址出土遺物実測図	15
第13図　A地区IV層出土遺物実測図（弥生時代～古墳時代①）	18
第14図　A地区IV層出土遺物実測図（弥生時代～古墳時代②）	19
第15図　A地区IV層出土遺物実測図（弥生時代～古墳時代③）	20
第16図　A地区3号土壤実測図	21
第17図　A地区出土遺物実測図（古代）	22
第18図　A地区IV層上面出土遺物実測図	22
第19図　A地区1号土壤実測図及び出土遺物	23
第20図　A地区2号土壤実測図	23
第21図　A地区溝状遺構及び出土遺物実測図	24
第22図　A地区IV層上面出土遺物実測図	25
第23図　B1地区基本土層図	29
第24図　B1地区遺構分布図	31
第25図　B1地区出土縄文土器実測図	33
第26図　B1地区出土石器実測図	34
第27図　B1地区1号竪穴住居（S A 1）実測図	35
第28図　B1地区1号竪穴住居（S A 1）出土遺物実測図	36

第29図	B 1 地区 2 号竪穴住居 (S A 2) 実測図	37
第30図	B 1 地区 2 号竪穴住居 (S A 2) 出土遺物実測図	38
第31図	B 1 地区 3・19号土壤 (S C 3・19) 実測図	39
第32図	B 1 地区 3 号 (115~120)・19号 (121~123) 土壤出土遺物実測図	40
第33図	B 1 地区出土弥生土器・土師器実測図	42
第34図	B 1 地区出土土師器実測図	43
第35図	B 1 地区出土土師器実測図	44
第36図	B 1 地区出土土師器実測図	45
第37図	B 1 地区出土土師器実測図	46
第38図	B 1 地区出土土師器実測図	47
第39図	B 1 地区出土土師器・須恵器実測図	48
第40図	B 1 地区 3 号竪穴状造構及び 2 号溝状造構 (S E 2) 実測図	50
第41図	B 1 地区 2 号溝状造構 (S E 2) 及び 4 号竪穴状造構 (S Z 4) 出土遺物実測図	50
第42図	B 1 地区出土土師器実測図	53
第43図	B 1 地区出土土師器実測図	54
第44図	B 1 地区出土土師器実測図	55
第45図	B 1 地区出土土師器実測図	56
第46図	B 1 地区出土土師器・須恵器実測図	57
第47図	B 1 地区 1・2・3 号掘立柱建物跡 (S B 1・2・3) 実測図	60
第48図	B 1 地区 2・12 号土壤 (S C 2・12) 実測図	63
第49図	B 1 地区 1・2 号炉跡 (S R 1・2) 実測図	64
第50図	B 1 地区 3 号炉跡 (S R 3) 実測図	65
第51図	B 1 地区 1 号・2 号階下穴状造構 (S T 1・2) 実測図	66
第52図	B 1 地区出土鉄器・石器実測図	67
第53図	B 1 地区出土石器実測図	68
第54図	B 1 地区出土石器実測図	69
第55図	B 2 地区遺構分布図	82
第56図	B 2 地区出土繩文土器・石器実測図	83
第57図	B 2 地区 1 号竪穴住居 (S A 1) 実測図及び出土遺物実測図	84
第58図	B 2 地区 1 号土壤 (S C 1) 実測図及び出土遺物実測図	85
第59図	B 2 地区出土弥生土器・土師器実測図	86
第60図	B 2 地区出土土師器実測図	87
第61図	B 2 地区出土土師器実測図	88
第62図	B 2 地区出土土師器実測図	89
第63図	B 2 地区出土土師器実測図	90
第64図	B 2 地区出土土師器実測図	91
第65図	B 2 地区 2・2' 号土壤 (S C 2・2') 実測図及び出土遺物実測	93

第66図	B 2 地区 1号溝状遺構 (S E 1)・土層実測図	94
第67図	B 2 地区出土土師器実測図	96
第68図	B 2 地区出土土師器・須恵器実測図	97
第69図	B 2 地区出土土師器実測図	98
第70図	B 2 地区出土土師器・土製紡錘車実測図	99
第71図	B 2 地区 1~7号掘立柱建物跡 (S B 1~7) 実測図	100
第72図	B 2 地区 3号土壤 (S C 3) 実測図	101
第73図	B 2 地区 1・2・3・4号炉跡 (S R 1・2・3・4) 実測図	102
第74図	B 2 地区 5・6号炉跡 (S R 5・6) 実測図	103
第75図	B 2 地区出土鉄器・輪の羽口・石器実測図	104
第76図	B 2 地区出土石器実測図	105
第77図	B 3 地区 遺構分布図	115
第78図	B 3 地区出土石器実測図	116
第79図	B 3 地区 1号土壤 (S C 1)・土層実測図	117
第80図	B 3 地区 1号壤出土遺物実測図	118
第81図	B 3 地区出土土師器実測図	119
第82図	B 3 地区出土土師器・石器実測図	120
第83図	B 3 地区 1・2・3・4・5号掘立柱建物跡 (S B 1・2・3・4・5) 実測図	121
第84図	B 4 地区 遺構分布図	126
第85図	B 4 地区出土繩文土器・石器実測図	127
第86図	B 4 地区出土土師器実測図	128
第87図	B 4 地区出土須恵器実測図	129
第88図	B 4 地区 1号溝状遺構 (S E 1)・土層実測図	131
第89図	B 4 地区出土土師器実測図	132
第90図	B 4 地区出土土師器実測図	133
第91図	B 4 地区出土土師器・土製紡錘車実測図	134
第92図	B 4 地区 1・2・3号掘立柱建物跡 (S B 1・2・3) 実測図	135
第93図	B 4 地区出土鉄器・石器実測図	135
第94図	B 4 地区 1・2・3号土壤 (S C 1・2・3) 実測図	136
第95図	B 4 地区 1・2号炉跡 (S R 1・2) 実測図	137
第96図	B 5 地区IV層出土繩文時代遺物実測図	143
第97図	B 5 地区 遺構分布図	145
第98図	B 5 地区 1号住居址実測図	147
第99図	B 5 地区 1~7号掘立柱建物跡 (S B 1~7) 実測図①	148
第100図	B 5 地区 8~13号掘立柱建物跡実測図②	149
第101図	B 5 地区14~18号掘立柱建物跡実測図③	150
第102図	B 5 地区IV層出土遺物実測図 (弥生時代から古墳時代①)	152

第103図	B 5 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代②）	153
第104図	B 5 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代③）	154
第105図	B 5 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代④）	155
第106図	B 5 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代⑤）	156
第107図	B 5 地区 1号溝状遺構実測図	157
第108図	B 5 地区IV層出土古代遺物実測図	158
第109図	B 5 地区IV層出土砥石実測図	158
第110図	C 地区基本土層図	163
第111図	C 地区遺構分布図	164
第112図	C 地区出土遺物実測図	166
第113図	C 地区 1・2・3号掘立柱建物跡（S B 1・2・3）実測図	167
第114図	C 地区 1・2・3・4号土壤（S C 1・2・3・4）実測図	168
第115図	D 地区基本土層図	170
第116図	D 地区遺構分布図	171
第117図	D 地区IV層出土縄文時代石器実測図	173
第118図	D 地区出土縄文土器実測図	174
第119図	D 地区 1号土壤実測図	175
第120図	D 地区 2号土壤実測図	176
第121図	D 地区 3号土壤実測図	176
第122図	D 地区 4号土壤実測図	177
第123図	D 地区 5号土壤実測図	177
第124図	D 地区土壤内出土遺物実測図	178
第125図	D 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代①）	180
第126図	D 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代②）	181
第127図	D 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代③）	182
第128図	D 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代④）	183
第129図	D 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代⑤）	184
第130図	D 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代⑥）	185
第131図	D 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代⑦）	186
第132図	D 地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代⑧）	187
第133図	D 地区屋外窯実測図	188
第134図	D 地区IV層出土遺物実測図（古代および時期不明遺物）	189
第135図	D 地区IV層出土遺物実測図（時期不明遺物）	190

表 目 次

第1表	A 地区出土石器計測表	26
第2表	A 地区出土鉄器計測表	26

第3表	A地区出土土器観察表(1)	26
第4表	A地区出土土器観察表(2)	27
第5表	A地区出土土器観察表(3)	28
第6表	古代の土器分類基準表	49
第7表	B 1 地区土壤計測表	59
第8表	B 1 地区出土遺物観察表(1)	71
第9表	B 1 地区出土遺物観察表(2)	72
第10表	B 1 地区出土遺物観察表(3)	73
第11表	B 1 地区出土遺物観察表(4)	74
第12表	B 1 地区出土遺物観察表(5)	75
第13表	B 1 地区出土遺物観察表(6)	76
第14表	B 1 地区出土遺物観察表(7)	77
第15表	B 1 地区出土遺物観察表(8)	78
第16表	B 1 地区出土遺物観察表(9)	79
第17表	B 1 地区出土石器計測表	80
第18表	B 2 地区出土遺物観察表(1)	107
第19表	B 2 地区出土遺物観察表(2)	108
第20表	B 2 地区出土遺物観察表(3)	109
第21表	B 2 地区出土遺物観察表(4)	110
第22表	B 2 地区出土遺物観察表(5)	111
第23表	B 2 地区出土遺物観察表(6)	112
第24表	B 2 地区出土遺物観察表(7)	113
第25表	B 2 地区出土石器計測表	113
第26表	B 3 地区出土遺物観察表(1)	123
第27表	B 3 地区出土遺物観察表(2)	124
第28表	B 3 地区出土石器計測表	124
第29表	B 4 地区出土遺物観察表(1)	139
第30表	B 4 地区出土遺物観察表(2)	140
第31表	B 4 地区出土遺物観察表(3)	141
第32表	B 4 地区出土遺物観察表(4)	142
第33表	B 4 地区出土石器計測表	142
第34表	B 5 地区出土土器観察表(1)	159
第35表	B 5 地区出土土器観察表(2)	160
第36表	B 5 地区出土土器観察表(3)	161
第37表	B 5 地区出土石器計測表	162
第38表	B 5 地区土壤計測表	162
第39表	C 地区出土遺物観察表	169

第40表 C地区出土石器計測表	169
第41表 D地区出土土器観察表(1)	192
第42表 D地区出土土器観察表(2)	193
第43表 D地区出土土器観察表(3)	194
第44表 D地区出土土器観察表(4)	195
第45表 D地区出土土器観察表(5)	196
第46表 D地区出土土器計測表	196
第47表 D地区出土鉄器計測表	196

図 版 目 次

A地区	225
B 1 地区	230
B 1・2・4 地区	238
B 2 地区	239
B 2・3 地区	242
B 3 地区	243
B 4 地区	244
B 4・5 地区	246
B 5 地区	247
C地区	248
D地区	249

第Ⅰ章 序 説

第1節 調査に至る経緯

宮崎土地開発公社は平成3年度より企業誘致に伴う宮崎フリーウェイ工業団地開発事業の検討を始めている。開発予定地内は過去調査が行われた経験はなかったが、国道を挟んですぐ北側には高原城跡、また近辺には、1977年に文化庁が発行した全国遺跡地図に散布地として紹介されている広原、荒迫、立山の各遺跡が分布しており遺跡の存在が確実視された。このため宮崎県文化課は平成5年10月12日から20日までの間で開発予定地内の確認調査を行い、その結果遺構の確認はできなかったが、158,000m²の広範囲に弥生時代から古代にかけての遺物の分布がみられた。これを受けて宮崎県文化課では関係各機関と調整を行い、平成7年1月4日に宮崎土地開発公社と発掘調査委託契約を締結し、平成7年1月17日より発掘調査を行うこととなった。発掘調査は平成6年度および7年度は、宮崎県文化課主体で和田理啓を調査員として行い、平成8年度は宮崎県埋蔵文化財センター主体で久木田浩子を調査員として引き継いだ。調査は平成9年3月29日に終了している。

第2節 調査の組織

荒迫遺跡の発掘調査は平成6年度から7年度にかけては宮崎県文化課が行い、平成8年度は宮崎県埋蔵文化財センターが行った。また整理作業は平成9年度に宮崎県埋蔵文化財センターが行った。調査組織は以下のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教育長	田原直廣（平成6～8年度）
教育次長	八木 洋 中田 忠（平成6～7年度）
文化課長	川崎富康 河野聚（平成8年度）
副参事	江崎富治（平成6～8年度）
同課長補佐	木幡文夫（平成8年度）
庶務係長	田中雅文（平成6～7年度）
同 主査	稻田憲男（平成8年度）
主幹兼埋蔵文化財	高山恵元（平成6～8年度）
第一係長	宮越 尊（平成6～7年度）
埋蔵文化財係長	青木英子（平成8年度）
	岩永哲夫（平成6～7年度）
	面高哲郎（平成8年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	藤本健一（平成8～9年度）
副所長	岩永哲夫（平成8～9年度）
庶務係長	三石泰博（平成8～9年度）
調査第二係長	北郷泰道（平成8年度）
調査担当	
文化課埋蔵文化財第一係主事	和田理啓（平成6～7年度） (現：埋蔵文化財センター調査第二係主事)
同調査員	平原英樹（平成7年度）
宮崎県埋蔵文化財センター	久木田浩子（平成8年度）
調査第二係主事	
同調査員	平原英樹（平成8年度）

第3節 遺跡の位置と歴史的環境

荒迫遺跡は、岩瀬川の支流である辻ノ堂川の南西約1.5 kmに広がる標高約200mの丘陵上に位置する。国道沿いの路頭を見ると、この丘陵は約2万2千年前の入戸火碎流（シラス）によって形成されていることが確認できる。その上部には約6,300年前に降下した牛のすね上下層（御鉢起源）、アカホヤ火山灰（鬼界カルデラ起源）、11世紀から13世紀に降下したと考えられる高原スコリア（御鉢起源）、1717年降下の新燃岳スコリア等多くの火山性噴出物が堆積している。遺跡周辺には、平成6年度の調査で古墳時代の住居址を30軒近く検出した立山遺跡（第1図2）が宮崎自動車道路を挟んですぐ南側に、南西約4 kmには縄文後期の包含層が広がる大谷遺跡（第1図9）、南東約1 kmには中世における伊東氏と島津氏の激戦の地として著名な高原城跡（第1図3）等が知られている。

高原町内の遺跡は、今まで面的な調査が行われたもののが少なく、遺跡の分布調査も進んでいないので断片的な情報しかないので現状である。特に縄文前期以前の遺跡は厚い火山灰に遮断され、ほとんど確認できていない。弥生時代の遺跡は、1969年に行われた九州縦貫自動車道関連の分布調査^④で7遺跡が紹介されており生活の痕跡は各所で認められるが詳細は不明であり、高原畜産高校遺跡で弥生時代中期の土器を含む包含層が調査^⑤されている以外は一般に知られるものは皆無である^⑥。古墳時代の遺跡では日守、立切等の地下式横穴墓群がよく知られるが、集落や生産関係の遺跡は前述した立山遺跡以外には確認できていない。

古代から中世においては島津庄真幸院に属する莊園が広がっていたと思われるが、文献、考古のどちらにも明確な資料はない。中世において著名な遺跡には高原城がある。高原城は永禄年間に島津家臣の梅北掃部により築城され、後に伊東四十八城に数えられている。高原周辺は、中世において島津氏と伊東氏の激戦の地であり、天正4（1576）年の島津氏の高原城攻めの慎重さを見ても解るように軍略上重要な位置を占めていたようである^⑦。（高原城については1996年に高原町教育委員会によって縄張図が作成されている。）

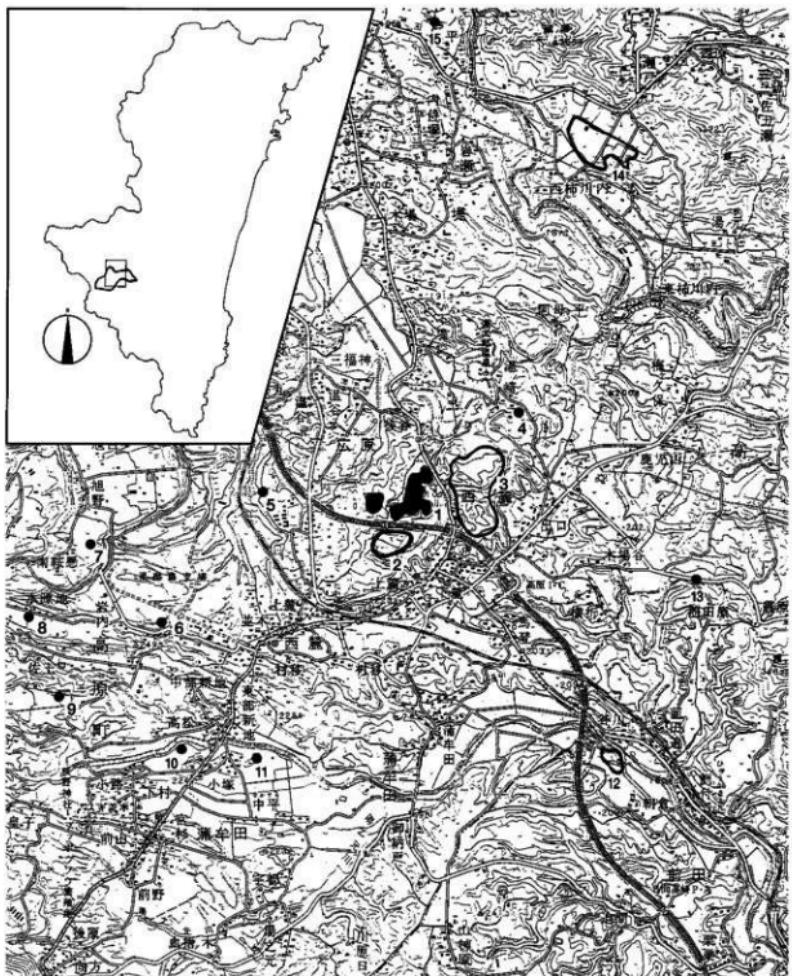
以上のように高原周辺の歴史的環境は不明な点が多い。最大の理由は、この地域において大規模開発

があまり行われず、遺跡の発掘調査自体が少なかったことである。早急な遺跡詳細分布調査が望まれる地域の一つである。

荒迫遺跡においては弥生時代後期以降の遺物が顯著である。古代のものでは、調査区のはば全面に古代の畠の畝と思われる遺構が検出できた。また、從来延暦7（788）年といわれていた高原スコリアの年代をその下層から出土した土器により大幅に引き下げる考古学的な根拠を提示できたのも大きな成果であったといえよう。^④

第4節 調査の概要

荒迫遺跡は、谷等の地形により調査区をA地区からD地区の4地区に分け、このうちB地区は範囲が広いため調査順に5区に分けて調査を行った。グリッドは、國土座標に平行する形で10m四方で組み、図面の作成は平板測量と簡易造形測量を併用して行った。調査の結果、高原スコリアド約20～30cmで調査区のはば全面に古代の畠跡が検出できた。また、畠跡を検出した面から下に10～15cmで弥生時代から古墳時代にかけての遺構が検出できた。A地区では畠跡の下から住居址4棟、土壙3基、溝状遺構1条、B地区では高原スコリア上面から彫り込まれた陥穴状遺構1基、畠跡の下面から住居址4棟、堀立柱建物20数棟のほか、時期や性格のはっきりしない土壙、溝状遺構等が確認できている。C地区では堀立柱建物が3棟、D地区は土壙5基に軽石で組まれた屋外竈1基の他ピット群が検出できた。



- | | | |
|---------------|--------------|----------------|
| 1. 荒迫遺跡 | 6. 常磐台遺跡 | 11. 小塚古墳 |
| 2. 立山遺跡 | 7. 旭台地下式横穴墓群 | 12. 高崎城 |
| 3. 高原城(松ヶ城)跡 | 8. 高原水源池遺跡 | 13. 日守地下式横穴墓群 |
| 4. 湯ノ崎地下式横穴墓群 | 9. 大谷遺跡 | 14. 立切地下式横穴墓群 |
| 5. 高原畜産高校遺跡 | 10. 花堂遺跡 | 15. 下ノ平地下式横穴墓群 |

第1図 遺跡位置図及び周辺遺跡分布図 (1 : 50,000)



第2図 荒迫遺跡調査範囲図 (1/5,000)

第Ⅱ章 調査の成果

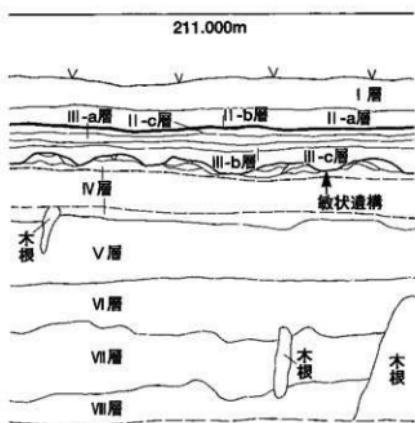
第1節 A地区の調査

1. 基本層序

A地区は以前畠地として開墾されていたが、後に杉の植林が行われ調査直前まで林地であったため、表層には腐葉土が堆積している。その直下からかつて畑であった頃の耕作土（I層）が20cm前後の厚さで層を成している。耕作土の下には高原スコリアとよばれる焼けボラの層（II-a,c層）が炭化物の間層（II-b層）をはさんで25cmから30cmの厚さで、その下には灰白色火山灰層（III-b層）を含んだ30cmから40cmの黒褐色土層（III-a,b,c層）が堆積している。遺構の検出はⅢ層の直下からの黄褐色上層（IV層）中で行った。IV層の下層には、鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰（VI層）の層が牛ノ脛上層（V層）、下層（VII層）に挟み込まれるように存在する。遺物は主にⅢ層最下部からIV層にかけて出土し、Ⅲ層最下部では古代の土器が、IV層中では縄文後期から古墳時代初頭までの土器が混在していた。

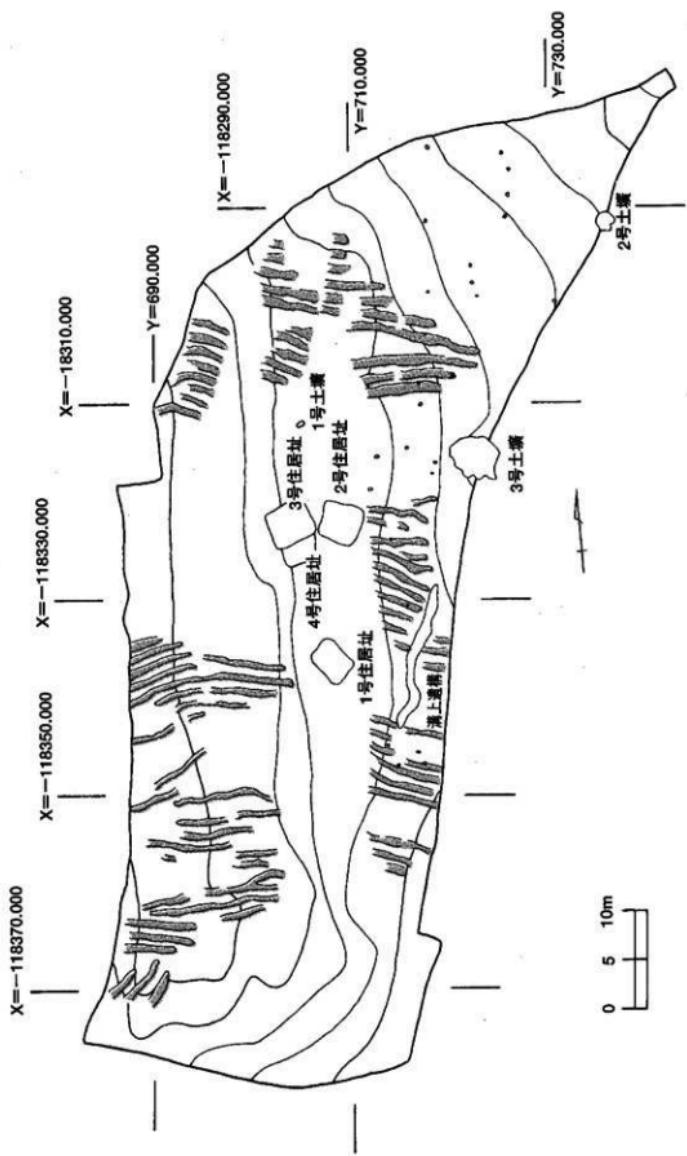
2. 調査の概要

A地区では、土地買収の関係から、まず調査区中央部を重機によってⅡ層上面まで掘削し、そこから人力でⅢ層上面で遺構検出を行ったが、遺構、遺物とも検出できなかつたため、重機でIV層上面まで掘削し遺構検出を行うこととした。重機の借上げとの関係から、第二次掘削は重機でⅢ-b層上面まで行い、そこからⅢ-c層下面まで掘削、精査したところ、すじ状に平行に走る畝状遺構が確認できた。以上のように畝状遺構が確認できたのは全くの偶然によってであり、調査区中央部には畝状遺構は検出できないものの、全面に分布していたと予想される。



第3図 A地区基本土層図 (S=1/40)

III-a層上面では時期、性格ともに不明のピット群が、III-c層上面では、土壤2基と畝状遺構、IV層では弥生時代末から古墳時代にかけての住居址4棟、時期不明の土壤1基が検出できている。



第4图 A地区造林分布图 ($S = 1/500$)

3. 繩文時代の遺物

確実に縄文時代といえる遺構はA地区では確認できなかったが、IV層中で縄文後期以降の遺物が若干ではあるが確認できている。

第5図の1はIV層包含層中出土の縄文土器である。横約9cm、縦約4cm程度の小片であり、器形、径等は不明である。外面は器表目穀条痕を施した後に、ヘラ状の工具で沈線を施している。内面は器表の風化が激しく調整ははっきりしない。指宿式であると思われる。

第5図の2はIV層包含層中より出土した磨消縄文土器の3cm×3cm程度の小片である。撫糸文が確認できる。西平式であると思われるが、小片のためははっきりとしたことは確認できない。

第5図の3は北久根山式の深鉢である。口縁部の直下までが残存しており、その部分に単沈線文を施してある。復元径は、残存部上端で約21.2cm、下端で約23.6cmを測る。

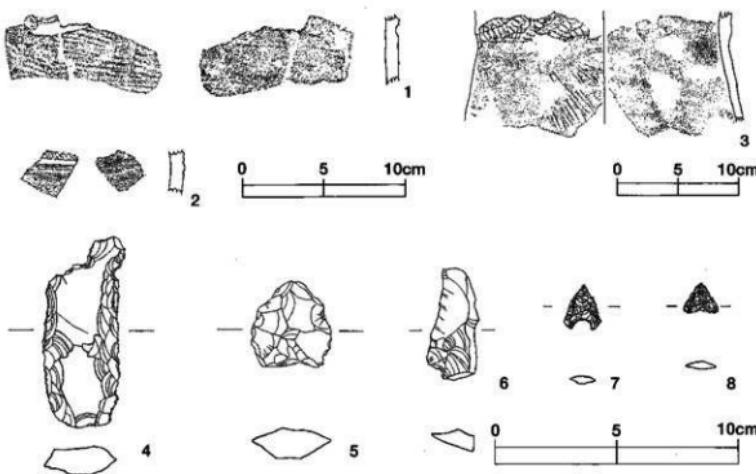
第5図の4はチャート製の石匙である。綫7.9cm、幅3.4cmの綾型で、最大厚1.15cmである。

第5図の5はチャート製の楔形石器である。長さ3.6cm、最大幅3.25cm、最大厚1.15cmを測る。

第5図の6はチャートの剥片である。長さ4.6cm、最大幅2.2cm、厚さ0.7cmである。側縁に微細な使用痕が確認できる。

第5図の7はチャート製の石鎌である。鎌長1.57cm、鎌身幅1.92cm、最大厚0.33cmを測り、抉りを有す。

第5図の8は黒曜石製の石鎌である。鎌長1.13cm、鎌身幅1.43cm、最大厚0.33cmである。明確な抉りではなく平面形は三角形である。



第5図 A地区IV層出土縄文時代遺物実測図

4. 弥生時代および古墳時代の遺構

竪穴住居址

。1号住居址（第6図）

南北約4.0m、東西約3.3mのやや歪な長方形プランの竪穴住居址である。遺存状況が悪く、検出面から5cmから10cmほどの掘り込みしか確認できなかった。主柱穴は4本で、径20cm前後、深さは床面から25cmから35cm、柱間は南北約2.3m、東西約1.7mから1.8mをかる。壁帶溝や貼床、炉跡等は確認できなかった。住居址のほぼ中央部からは弥生末から古墳時代初頭と思われる甕（第10図の9）が出土している。

。2号住居址（第7図）

南北約3.4mから3.8m、東西約4.0mから4.2mのやや東西に長い方形の竪穴住居址である。A地区の住居址の中では住居址の中央南西よりには土壌が一基確認できている。土壌の規模は南北約80cm、東西約50cmで埋土には炭化物が多く含まれていた。住居址の出土遺物は弥生末から古墳時代初頭にかけてのものと思われる土器片が数点出土している。主柱穴は4本で、径25cmから30cm、深さは床面から20cm強、柱間は1.7mから1.8mをかる。壁帶溝、貼床等は確認できていない。

。3号および4号住居址（第8・9図）

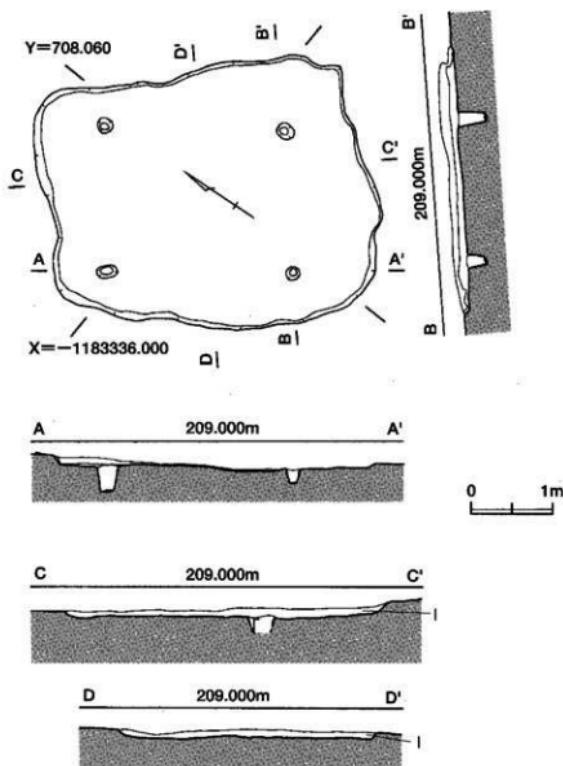
2棟の住居址の切りあいである。北のものを3号、南のものを4号住居址とした。埋土の状態から4号住居址よりも3号住居址の方が新しいことが確認できた。3号住居址からは土師器片が十数点、4号住居址のほぼ中央からは古墳時代の脚台付鉢（第12図の25）が出土している。3号住居址は一辺約4.4mの方形の住居址である。主柱穴は4本で柱穴の径は20cm前後と小さく、深さは床面から40cm弱である。柱間は約2mである。壁帶溝、貼床等は確認できなかった。炉跡は確認できなかったが北西側の壁面に焼土の分布が確認できた。4号住居址は3号住居址に切られており、明確な規模は確認できなかったが、復元すると、一辺約3.5mの方形の住居址になる。主柱穴は4本確認でき、床面より30cm前後掘り込んである。柱穴の径は25cmから30cmで柱間は1.5mから2.4mである。貼床、壁帶溝、炉跡などの施設は確認できなかった。

5. 弥生時代および古墳時代の遺物

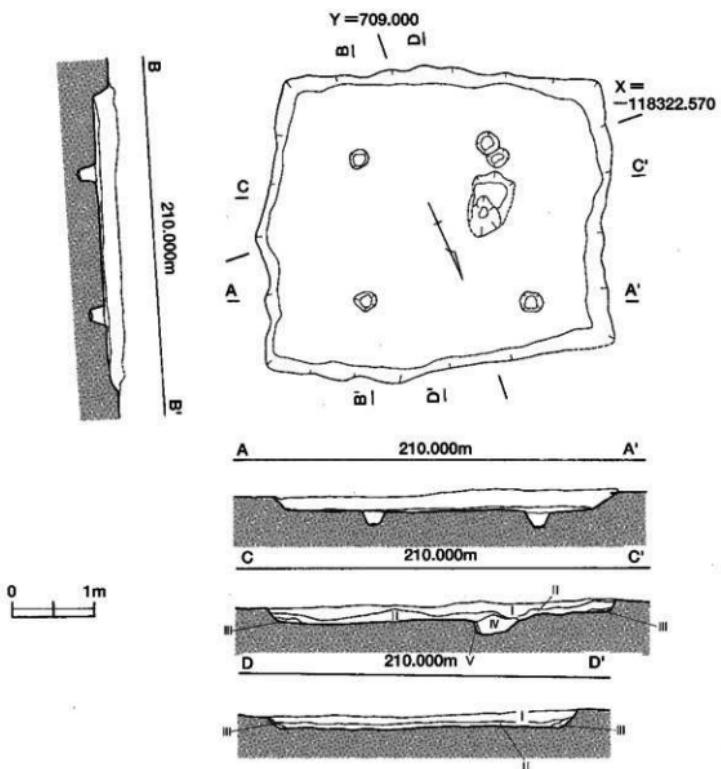
1号住居址出土遺物（第10図）

第10図の9はA地区のほぼ中央で、床面直上からつぶれた状態で出土した甕である。復元すると、口縁部はほぼ全周したが、体部の一部を欠く。口径は約22.9cmで器高は約30cmを測る。外面は赤褐色で表面の体部は粗い刷毛目調整のあと縦方向のナデを施している。口縁部から体部最大幅の部分にかけて全面に煤が付着しているが、そこから脚部にかけては付着していない。内面は荒い刷毛目調整を施し、頸部に指押さえ痕が確認できる。脚部は指押さえにより造り出されている。全体に歪な作りで、左右で体部の膨らみが違い、脚部も歪んでいるため、そのままでは立たない。煤の付着のしかたなどからみて、炉内に埋め据えるなどして使ったと思われるが、住居址内には炉跡などは確認できていない。

第10図の10は甕である。口縁部は3/5を欠損しており頸部より下は確認できていない。復元径は

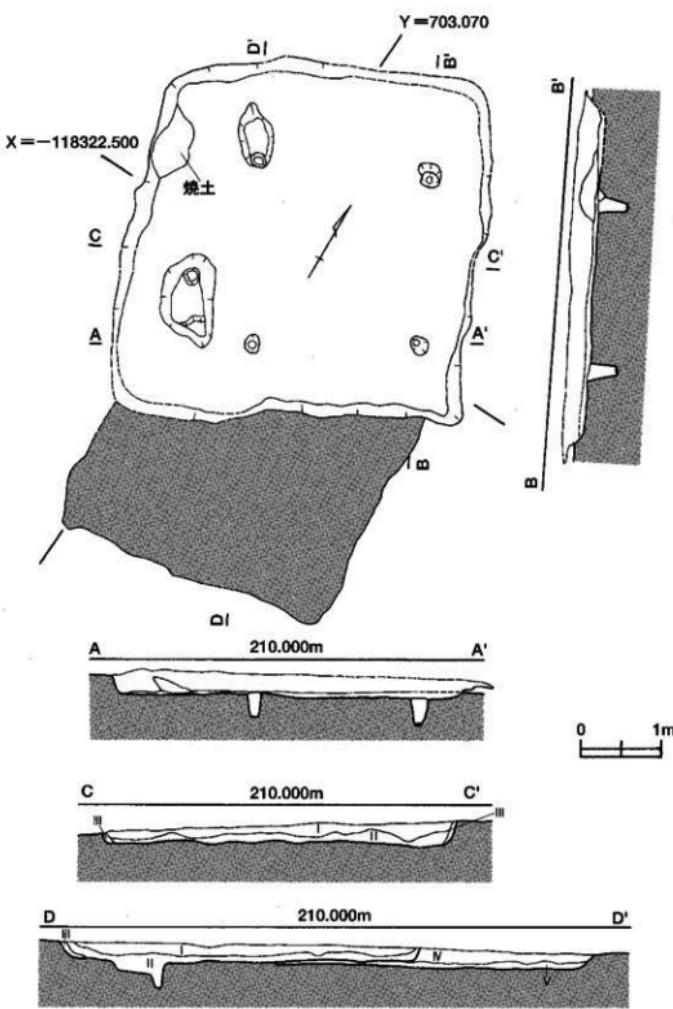


第6図 A地区1号住居址実測図 (S=1/60)

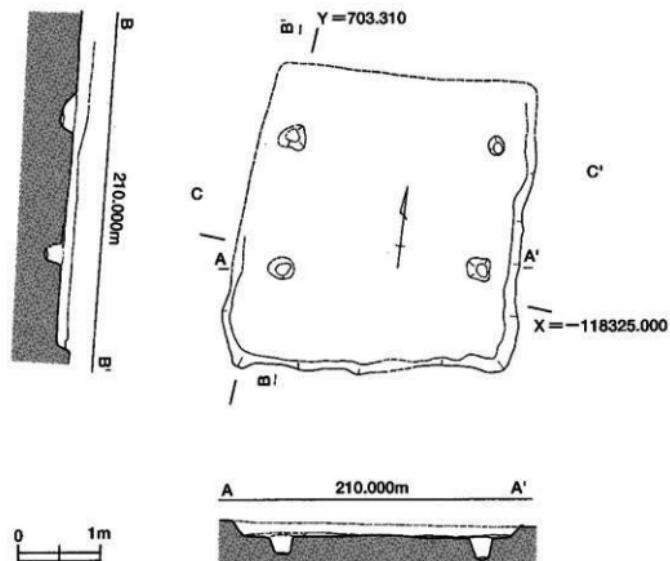


- Iやや暗い黄褐色土。ボラを含まない。
- IIやや暗い黄褐色土。ボラの細かい粒を含む。I層に比べやや硬い。
- IIIやや明るい黄褐色土。風化による埋土と思われる。
- IVやや明るい黄褐色土。ボラを含まない。かなり軟い。
- Vやや暗い黄褐色土。1cm以下のボラを含む。炭化物を多く含み、非常に軟い。

第7図 A地区2号住居址実測図(1/60)



第8図 A地区3号住居址実測図 ($S=1/80$)



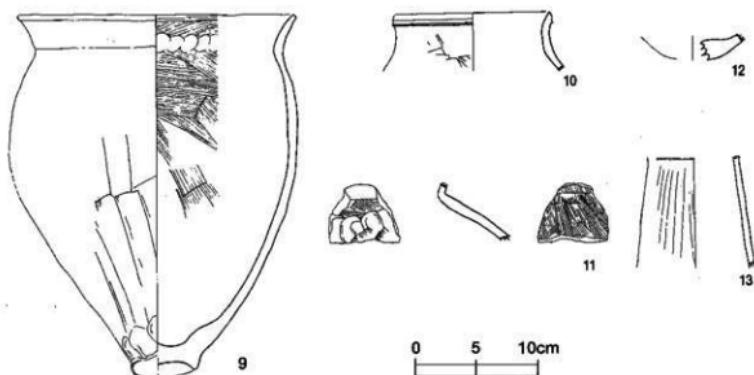
- I ……やや暗い黄褐色土。炭化物の細粒を含む。3号住居址埋土。
- II ……Iよりやや明るい黄褐色土。1cm足らずのボラの細粒を含む。3号住居址埋土。
- III ……IIよりやや暗く、Iよりやや明るい黄褐色土。I、IIに比べやや硬く、5mm以下のボラをわずかに含む。3号住居址埋土。
- IV ……やや明るい黄褐色土。ボラを含まない。かなり軟い。
- V ……、に比べやや明るく、やや軟い黄褐色土。1cm以下の炭化物の細粒を含む。4号住居址埋土。

第9図 A地区4号住居址実測図 ($S=1/60$)

12.7cmとなる。頸部から体部にかけては細かい刷毛目調整を施しているが表面の風化が激しくはっきりとは確認できない。残存部の器表には煤が全面に付着している。

第10図の11は壺である。頸部から肩部にかけての一部が出土している。器表の色調はにぶい黄橙を成し、内面は黒褐色である。器表の調整には刷毛目が施され、内面は指ナデが確認できる。

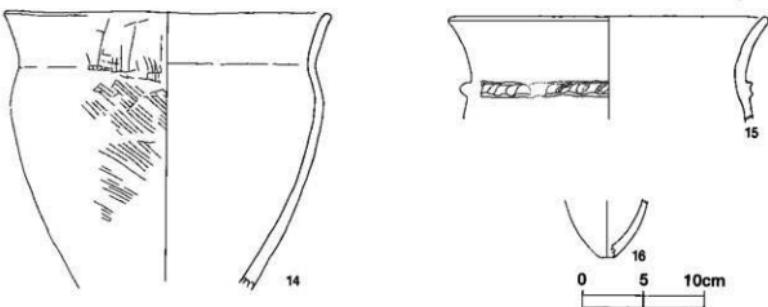
第10図の12は壺の底部である。外面はにぶい黄橙で、内面は黒褐色を呈す。底部付近は磨きが施され



第10図 A地区1号住居址出土遺物実測図 ($S = 1/4$)

ているが原体の幅等は確認できない。

第10図の13は高環の脚部である。脚部全体の1/4ほどのみで、坏部などは確認できていない。内面は器表が剥落しており調整は定かではない。外面はにぶい黄橙をなし、全面にへら磨きを施す。ヘラ磨きの原体の幅は5mm前後である。器壁の厚さは5mm前後であり、焼きは堅緻である。復元径は現存部上端で7.6cm、下端で9.7cmとなる。3号住居址出土の高環脚部と同一個体である。



第11図 A地区2号住居址出土遺物実測図 ($S = 1/4$)

2号住居址出土遺物（第11図）

第11図の14は甕である。口縁部の1/4程度が検出できた。内外面とも、鈍い赤褐色を呈し、外面には煤が付着している。外面に斜め方向の刷毛目を施した後、内外面ともに丁寧にナデを施している。二次焼成を受け赤変した箇所が所々確認できる。復元口縁径は26.4cmになり、胴部最大幅は25.7cmとなる。

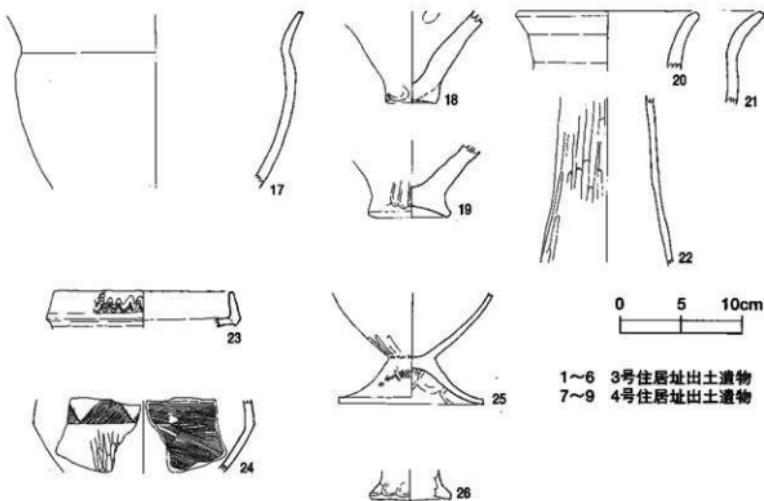
第11図の15は甕である。口縁部の1/4程が出土している。内外面ともに風化が激しく、表面調整ははっきりしないが、口縁部付近は横ナデが施されているのがわかる。頸部には刻目突帯が張り付けられており、刻目の表面には布痕が確認できる。器表の色は内外面ともに淡黄色で、外面には煤が付着する。復元径は25.6cmである。

第11図の16は小型尖底の鉢の底部である。残存部分は底部の1/3程度である。内外面ともに淡黄色で、丁寧なナデが施されている。

3号住居址出土遺物（第12図）

第12図の17は甕である。口縁部の1/8程度が出土している。復元径は、現存部上端で24.4cm、器高は現存で14.4cmを測る。器表外面は淡赤褐色を呈し、体部中位あたりから上端にかけて煤が付着している。内面は淡黄色で、黒斑がかなりの部分で確認できる。

第12図の18は甕の底部である。復元径は底部で4.4cm、器高は現存で7.6cmである。器表の色調は内外面ともに淡黄色を呈し、底部の脚合は張り付けによるもので、指揮さえが確認できる。底面はわずかに上げ底となっている。器面は内外ともにナデを施してあり、内面には指ナデが確認できるが風化が激しく細かい点は不明である。



第12図 A地区3号および4号住居址出土遺物実測図 (S = 1/4)

第12図の19は壺の底部である。底部の径は約6.5cm、器高は現存で4.6cmである。器表外面は淡黄色で縦方向の指ナデが確認できる。内面は淡赤褐色で、器表の剥落が激しく細かい調整は確認できない。

第12図の20は短頸壺の口縁部であると思われる。口縁部の1/8程度出土している。復元径は14.4cmを測る。内外面ともに淡黄色であり、外面には煤が付着している。内面は器表の剥落が激しく調整は確認できないが、外面は口縁部から1cm程度まで横ナデが施され、それ以下にミガキが確認できるが、原体の単位はわからない。

第12図の21は壺の口縁部の一部である。径の復元は行えなかった。内外面ともに橙色を成し、ナデが施されているが器表の剥落が激しく、細かい調整は確認できない。外面には煤が一面に付着している。

第12図の22は高坏の脚部である。1号住居址のものと同一個体であり、接合するところ全周する。径は現存最上端で約7.6cm、最下端で約11cmである。外面は丁寧なヘラ磨きが施され、内部はナデ調整が行われている。

4号住居址出土遺物（第12図）

第12図の23は複合口縁壺の口縁部である。体部の最大径の部分で1/9程度が出土している。器表の色調は外面は淡黄色で、内面は灰褐色である。復元径は14.5cmである。口縁部には横描波状文が施され、一次口縁の部分には刷毛目が、内面はヨコナデが確認できるが摩耗が激しく細かい部分は不明である。

第12図の24は重弧文土器である。内外面ともに黄灰色を成し、外面はヘラ状の工具で丁寧にミガキが施された後に、体部に鋸歯文を巡らしている。内面は刷毛目調整が施されている。復元径は、体部の最大径の部分で18cmとなる。

第12図の25は脚台付の鉢である。全体の1/2程を欠損している。復元径は底部で約12cm、現存上端で13.2cm、脚部と坏部との接合部で約4cmである。色調は内外面ともに淡黄色で、外面調整には刷毛目の後ヘラ磨きが施されているが、器表の摩耗が激しくはっきりしない。坏部内面は外面以上に摩耗が激しく調整の痕跡はほとんど確認できない。脚部内面は比較的良好な依存状態で、指押さえ後のヨコナデが確認できる。

第12図の26は壺の脚部である。底部円周の1/4程が残存している。底部の復元径は6.5cmである。色調は内外面ともに淡黄色で、内面は黒斑が確認できる。外面には指押さえが施されている。

A地区IV層包含層中出土遺物（第13図・14図・15図）

27は壺である。口縁部の1/8程度が出土している。復元径は25.5cmになる。外面は刷毛目調整を行っており、内面はナデが施されている。口縁部から体部中位あたりまで煤が付着している。

28から31は壺の口縁部である。28は口縁部が大きく外反するが、体部の張り出しあほとんどない。内面は指押さえ後のヨコナデが確認できる。外面にはヨコナデが施されている。29は、口縁部と体部の最大径がほぼ同一となる。内外面ともに丁寧にナデを施している。30は口縁部から体部へどのようにつながるのか小片のため確認できない。ヨコナデが施されており、器壁の厚さが5mm以下のかなり薄手の土器である。31は口縁部の1/8程度が出土している。口縁部の径が体部の最大径を若干上回るようである。口縁部分に縦方向の刷毛目を施した後に、ヨコナデを行っている。復元径は20cmになる。

32から35は壺の体部である。32、33は体部が大きく張り出し半球状をなす。32は刻目突帯文が確認でき、内外面は荒い刷毛目の後ナデが施されている。34と35は体部の張り出しそれほど大きくななく、やや直線的に底部につながるようである。34は残存部下端に指押さえが確認できるほかは全面にナデが施されている。35は内外面ともに荒い刷毛目の後、荒いナデが施されている。調整が甘く、粘土の接合痕がはっきりと残る。

36は小型の壺である。内面はナデが施され、外面は指ナデが確認できる。底部は指押さえにより脚台が造り出されている。

37と38は壺の底部である。37は外面は削りを施した後、丁寧になでている。内面には指押さえと工具による横方向のナデが確認できる。底部は底径6.6cmから6.9cmの梢円である。38は底径9.6cmで、深い上げ底の脚台を作る。外面は指押さえ後ナデを施している。

39から43は高坏である。39は口縁部の1/6程度が出土している。復元径は約30cmになる。内外面ともに丁寧なミガキが施されている。40は内外面ともに器表の摩耗が激しく調整が確認できない。頭部の1/8程が出土しており、復元径は現存最上端で27cmとなる。41は高坏の脚部であるが、摩耗が激しく、小片のため細部は不明である。42は高坏の脚部である。1/5程が出土している。外面はミガキが施され、円形の穿孔が二つ確認できる。内面は荒いナデが施される。43は高坏の脚部である。ハの字に直線的に開く。内面は指ナデが確認できるが、外面は摩耗が激しく調整は確認できない。

44は器台の脚部である。2/3程度が出土している。外面は縦方向の刷毛目が確認でき、内面はナデが施されている。

45は高坏の脚裾部である。底部の1/4程が出土している。復元底径は18.4cmである。円形の穿孔が二つ確認できるが内外面ともに摩耗が激しく調整は確認できない。46は脚台付の鉢である。底部径は8.4cmで、内外面ともに丁寧なミガキが施されている。

47から49は鉢である。47は口縁部の1/2程度出土しており、復元径は10.9cmとなる。器壁が5mm以下と薄く、焼きも非常に堅緻である。底部はわずかに上げ底状になっている。外面は緻密な刷毛目の後、口縁部にヨコナデを施している。内面は丁寧ナデを施している。48は鉢の底部である。内外面ともにナデが施されてるが、器表の摩耗が激しく細かい点は不明である。底部は円形の平底がつく。49は口縁部の1/5程度が出土しており、復元径は21.3cmになる。体部が外方にのび口縁部付近でやや内湾する。

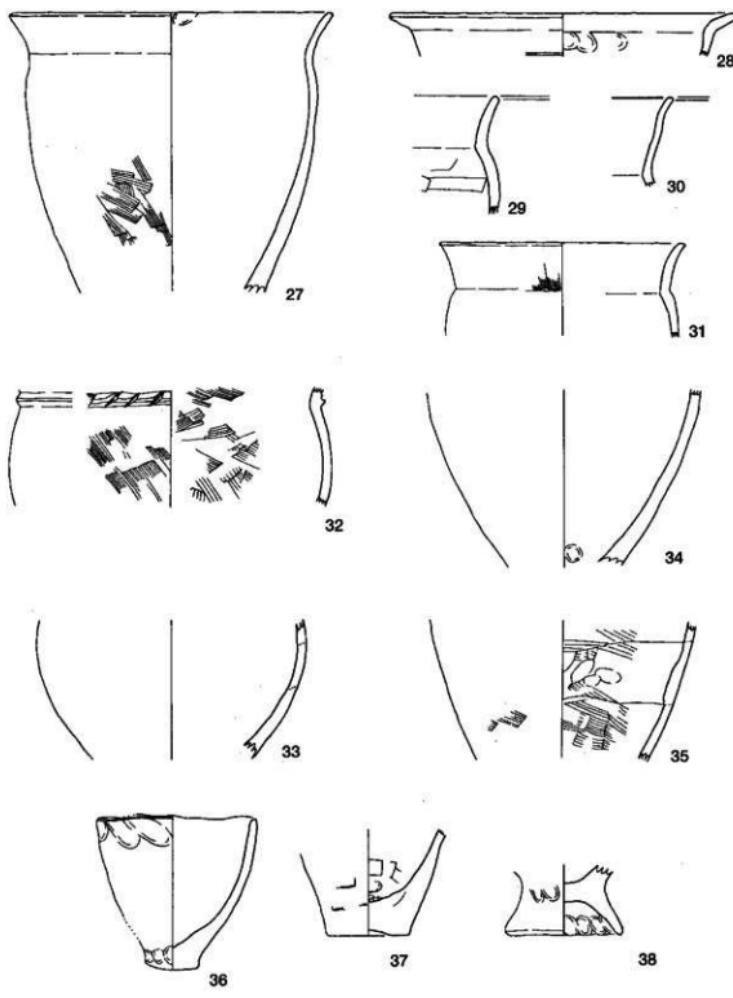
器表外面には煤が付着し、内外面ともにナデが施されている。

50と51は複合口縁壺である。50は口縁部の1/6ほど出土しており、復元径は14cmになる。一次口縁直下まで刷毛目調整が施してあり、二次口縁には櫛描波状文が巡る。内面はヨコナデが確認できる。51は口縁部の1/8程が出土しており、復元径は11cmになる。一次口縁直下まで刷毛目調整がされた後ヨコナデが施されているようであるが内外面ともに摩耗が激しく、細かい調整は確認できない。

52と53は壺の肩部である。52は内外面とも刷毛目調整を施し、内面はその後指ナデを施しているが器表の剥落が激しく内外面ともに調整は明瞭ではない。外面には煤が付着している。53は外面に刷毛目、内面に指ナデが確認できる。

54は壺の口縁部である。口縁部の一部分しか出土しておらず、径の復元は不可能であった。外面に刷毛目が確認できるが器表の摩耗が激しく細かい調整は不明である。

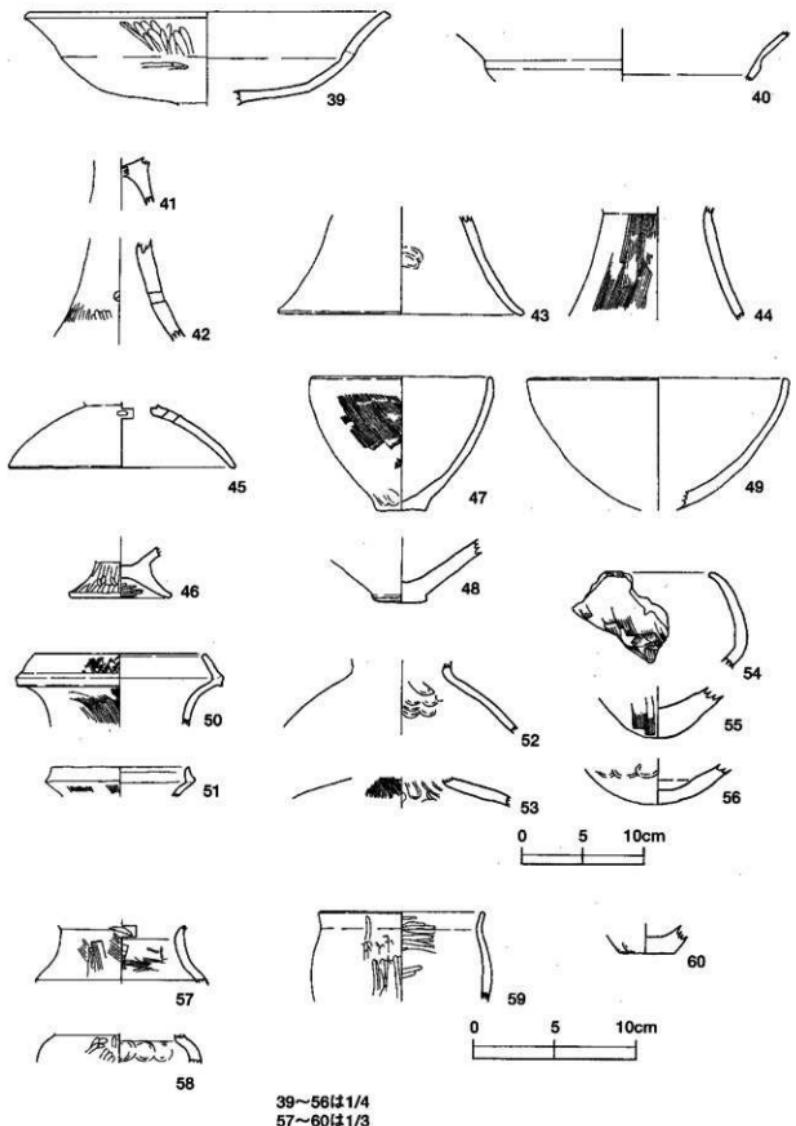
55と56は壺の底部である。どちらも丸底である。55は底部先端まで刷毛目が確認でき、内面はナデを



0 5 10cm

S=1/4

第13図 A地区IV層出土遺物実測図（弥生時代～古墳時代①）



39~56は1/4
57~60は1/3

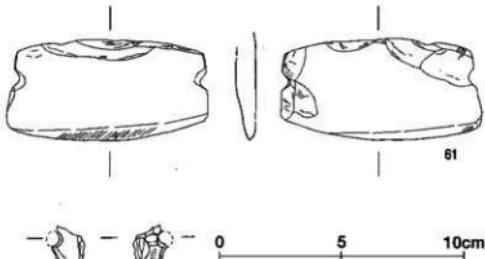
第14図 A地区IV層出土遺物実測図 (弥生時代~古墳時代②)

施す。56は底部端に指ナデの痕跡が確認できるが、摩耗が激しく細かい調整は確認できない。

57から59は壺である。57は壺の頸部である。1/7ほど出土しており、復元径は現存上端で11cmとなる。内外面ともに刷毛目調整を行っているが器表の摩耗が激しく、他の調整は確認できない。58は壺の肩部である。1/6程が出土しており、復元径は現存部上端で11cmである。外面は丁寧なヘラ磨きが施してあり、内面には指押さえが確認得る。59は小型の短頸壺の口縁部である。1/9程出土しており、復元径は10.4cmである。内外面ともに丁寧なヘラ磨きが施してある。

60は機種不明の底部である。外面には指押さえが確認できる。壺かまでは鉢と思われる。

61と62は石庖丁である。61は両側に刃を持ち、ほぼ完形である。刃部に使用痕が確認できる。62は石庖丁の穿孔の部分で、穿孔部に紐を通した痕が確認できる。



6. 古代の遺構

畝状遺構（第3図、4図参照）

第2次掘削以降のほぼ全面から畝状遺構が検出できた。畝間の方向、および検出状況から調査区のほぼ全面に広がっていたと思われる。畝幅は60cmから80cmとかなり広い。畝高はセクションで確認したところ約10cmから約15cmであった。プラントオパールの分析では、スキと若干のキビ・粟類が確認できたにすぎず、陸稲の可能性は薄い。また、検出できた畝状遺構に重複が少ないとから、この土地で長期間継続されて畠の耕作が行われたとは考えにくく、短期間で放棄された可能性高い^⑨。遺構の直上の黒色土の14C年代測定法では9世紀末葉の年代が与えられている。

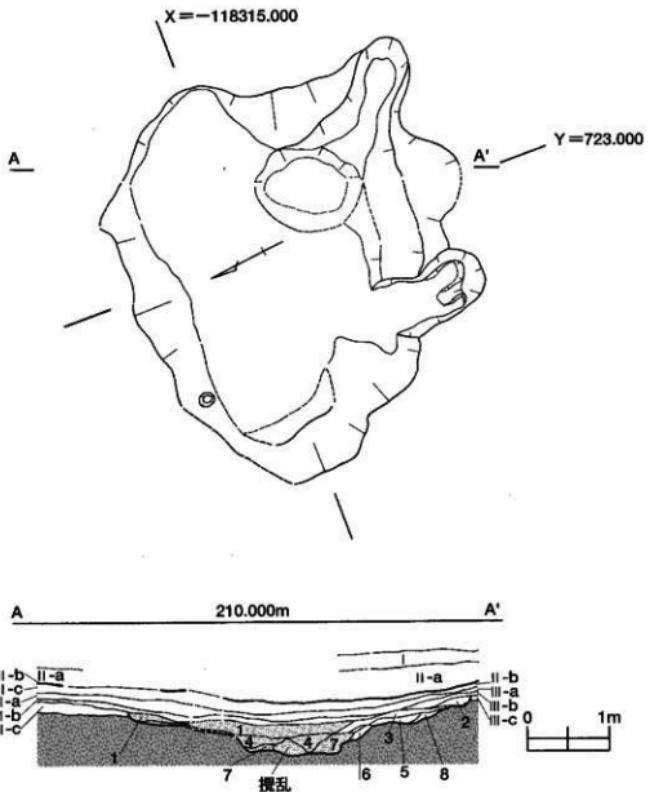
3号土壤（第16図）

高原スコリア下の黒褐色土層から掘り込まれた不正型の土壤である。埋土中に多量の炭化物と焼土が確認できた。性格は不明である。土壤中には高原スコリアがレンズ状に堆積しており、この土壤の埋没過程でスコリアの降灰があったことがわかる。この土壤中から出土した土師器（第17図の63）は9世紀後半から10世紀のものと考えられ、高原スコリアがこれまでいわれていたように788年の霧島の噴火によるものでないことが確認できた。

7. 古代の遺物

63は3号土壤出土の高台付の壺である。全体の1/2程出土しており、復元径は13.3cmとなる。外面は回転ヘラ削りを施し、内面は丁寧にナデている。

64と65は内黒の高台付の壺の底部である。64は底部円周の1/9程出土している。高台の復元径は8.4cmとなる。65は底部円周の1/7程出土している。高台の復元径は5.9cmである。底部にはヘラ切り痕



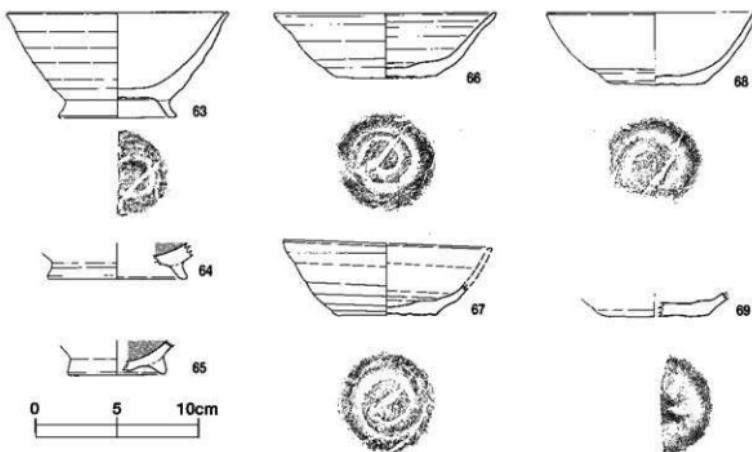
I ~ III-cは基本上層図に準拠する。

■部分には焼土が混じる

- 1 暗褐色土、褐色土ブロック及び赤変した焼土を含む。
- 2 暗褐色土。
- 3 暗褐色砂質土。2よりやや暗く、しまりがない。
- 4 暗褐色砂質土、焼土炭化物を多く含み、しまりがない。
- 5 褐色土、黒褐色ブロックをわずかに含む。
- 6 褐色土。しまりが非常に強い。
- 7 暗褐色土。焼土、炭化物を多量に含む。4に比べややしまりが強い。
- 8 暗褐色土。しまりが非常に強い。

第16図 A地区3号土壤実測図 ($S=1/60$)

が確認できるが小片のため単位等は不明である。66から69は土師器の环である。66から68には板状压痕が確認できる。66は口縁部が1/6ほど残存する。復元口縁は13.5cm、器高約4cmとなる。内面にナデを施す。口縁端部がやや外反する。67は口縁部が1/4程残存しており、復元径は5.7cm、器高は4.7cmである。内面はナデを施す。口縁端部は直線的に立ち上がる。68はほぼ完形で、径は12.9cm、器高は4.5cmである。内外面ともにナデを施し、ヘラ削りの痕跡を消している。底部のヘラ切り痕も明瞭ではない。口縁端部はやや内湾する。69は环の底部である。底部の1/2程度が出土している。内外面ともに丁寧にナデであり、切り離しの痕跡は確認できない。



第17図 A地区出土遺物実測図(古代)

70は甕の口縁部である。口縁部の1/8程が出土している。復元径は21.6cmとなる。口縁部は肉厚で、体部内面には板状工具による荒い削りが確認できるが小片のため細部は不明である。

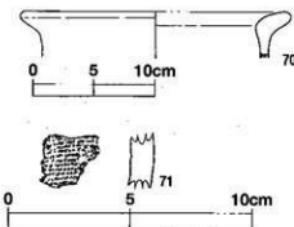
71は内面に布目痕が残る土器である。2cm×2cm程度の小片であり、詳細は不明である。器壁の厚さは8mm程度である。

8. その他の遺構と遺物

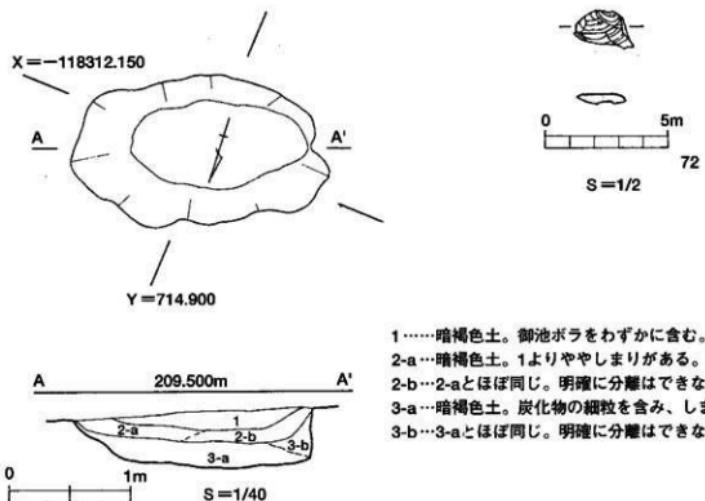
土壤

○ 1号上塙(第19図)

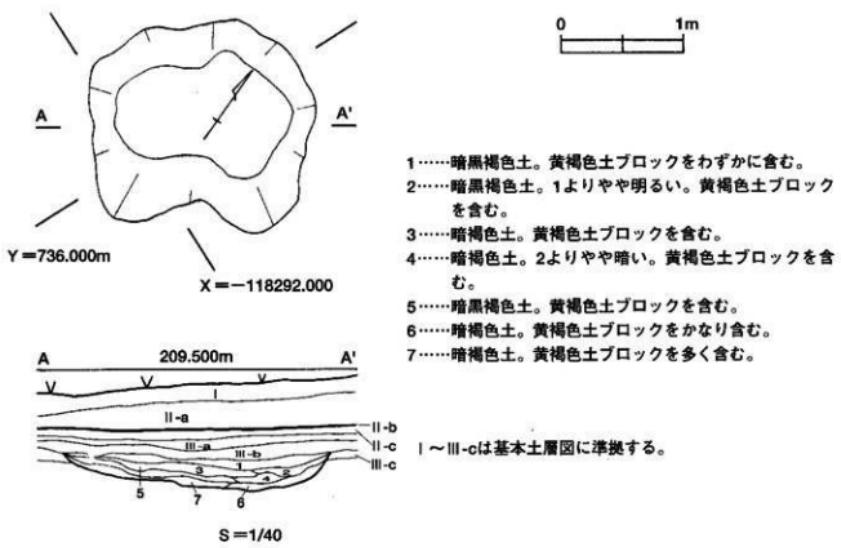
調査区の中央やや北寄りで検出できた土壤である。東西約2m、南北約1.25mの楕円形をなす。深さは検出面から約50cmである。黒曜石の二次加工剥片(第19図の72)と土師器の小片が1点出土しているが、出土状況から見ると流れ込みの可能性が高く、時期や性格



第18図 A地区IV層上面出土遺物実測図

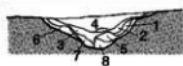


第19図 A地区 1号土壤実測図及び出土遺物



第20図 A地区 2号土壤実測図

A' 209,500m A



B' B



- 1漆黒色土。黄褐色ブロックをわずかに含み、しまりがない。
- 2黒褐色土。黄褐色ブロックを15%程含み、しまりがない。
- 3暗褐色土。炭化物を10%程含み、しまりがない。
- 4暗褐色土。炭化物、黄褐色ブロックを含まず、しまりがない。
- 5暗褐色土。3よりやや暗い。炭化物を10%程含み、しまりがない。
- 6暗褐色土。炭化物をわずかに含む。
- 76と同様。壁面風化の堆積土か。
- 8暗褐色土。3よりやや明るい。炭化物をわずかに含み、しまりがない。

A
B
A'
B'

X = -118332.000

Y = 718.000

0 1m

X = -118334.000

Y = 716.000

S = 1/60

0 5 10cm

S = 1/3



第21図 A地区溝状遺構及び出土遺物実測図

の決定の決め手とはならない。

・2号土壤（第20図）

調査区の北東で検出できた土壤である。東西1.8m、南北1.6~1.5mの不整形をなす。遺物は1点も出土していない。検出面からの掘り込みは15cmから20cmと浅く、時期、性格とも不明である。埋土は戦闘のものに似ており、時期は近いと考えられる。

溝状遺構（第21図）

調査区の東側中央を南北に走る短い溝で全長約15.8mである。幅は0.6~1.4mで深さは最深部で検出面から45cm程度である。土器片が1点出土しているが、どれも時期を決定するものではない。埋土の質が戦闘のものと近似しており、時期的には近いものであると思われる。溝状遺構がこの溝の周囲で途切れることから畑を区画する溝である可能性も考えられる。出土した土器片（第21図の73）はミニチュアの壺であると思われ、刻目突帯文を巡らしている。小片のため径などの復元は困難である。出土状況から流れ込みの可能性が高い。

ピット群（第4図参照）

時期不明のピット群が27基検出できた。径20cm足らずの小さなもので規則性はない。すべて高原スコリアより上面から掘り込まれており、遺物はなにも出土していない。

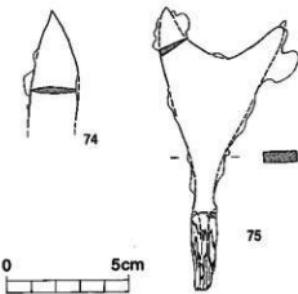
鉄器（第22図）

74はIV層上面出土の鋒である。残存部が少なく、もとの器形は判断しがたい。残存部長は4.9cmで、重さは5.3gである。75はIV層上面出土の雁股鐵である。ほぼ完形であり、基部には籠被が残存する。軟X線照射器で確認したところ、関部は台形関であると思われる。鐵身最大幅5.1cm、重さは38.8gを測る。鐵身断面は平造である。

9. 小結

A地区では弥生時代から古墳時代にかけての住居址4棟とが検出できているが、同時存在性は薄く該期の集落が広がっていたというようなイメージは持てない。また、古代のものも畠跡が調査区の全面で検出できた他は生活の痕跡を確認できるような遺構はない。小丘陵上の狭い平坦地の上なので当然のことだが、非常に生活臭の薄い感は否めない。

尚、遺構から出土した遺物については流れ込みの可能性が強く、確実に伴うものは9の1号住居址の壺と25の4号住居址の脚台付鉢だけである。



第22図 A地区IV層上面出土遺物

第1表 A地区出土石器計測表

遺物番号	出土地点	品種	最大長(m)	最大幅(m)	最大厚(m)	重量(g)	石材	備考
4	IV層中	石片	7.9	3.4	1.15	31.3	チャート	
5	IV層中	側形石器	3.6	3.25	1.15	16.3	チャート	
6	IV層中	刮片	4.6	2.2	0.7	7.0	チャート	
7	IV層中	石鏃	1.43	1.15	0.3	0.5	黒曜石	
8	IV層中	石鏃	1.57	1.92	0.3	0.7	チャート	
61	IV層中	石磨丁	4.15	8.3	0.85	39.8	結晶片岩	
62	IV層中	石磨丁	-	-	-	-	結晶片岩	穿孔部の小片
72	1号土塗	二次加工刮片	1.8	2.3	0.45	1.3	黒曜石	

第2表 A地区出土鉄器計測表

遺物番号	出土地点	品種	最大長(m)	最大幅(m)	最大厚(m)	重量(g)	備考
74	IV層上面	刀子(?)	-	-	-	5.3	錐の一部
75	IV層上面	環状鐵	11.4	5.0	0.5	38.8	ほぼ完形で複数が残る

第3表 A地区出土土器観察表(1)

遺物番号	種別	出土地点	寸法(㎜)			手法・調査・文様ほか	色調	地土の特徴	備考		
			口径	底径	高さ						
1	束手と蓋(縫合式)	脚窓下	IV層中			沈縫・貝殻条痕	ナゲ	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	3.0mm以下の褐色・黑色・淡黃褐色の砂粒を含む。	
2	束手と蓋(縫合式)	脚窓下	IV層中			沈縫・ナゲ	ナゲ	暗黄褐色 (2.5YR7/4)	暗黄褐色 (2.5YR7/4)	1.5mm以下の半透明光沢、淡黄色、黑色光沢砂粒を含む。	
3	束手と蓋(久保樹山)	脚窓下	IV層中			短沈縫・貝殻条痕	ナゲ	に bei 黄褐色 (7.5YR7/4)	に bei 黄褐色 (7.5YR7/4)	2.0mm程度の淡褐色、乳白色、淡黃褐色の砂粒を含む。	
9	束手と蓋	1号土塗	1号住居跡	22.0	5.65	29.0	刷毛目後ナゲ	刷毛目・ナゲ	褐色 (7.5YR7/4)	褐色・青褐色 (GYR6/8)	2.0mm程度の褐色、茶褐色の砂粒、2.0mm以下下の灰色、茶褐色、乳白色の砂粒を含む。
10	筒状土器	束	1号住居跡	12.6	(推定)		刷毛目後ナゲ	ナゲ	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	暗黄褐色 (GYR6/8)	2.0mm以下の灰色、褐色の砂粒を含む。
11	筒状土器	束	1号住居跡				刷毛目	刷毛目	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	褐色 (N21)	0.5mm~1.0mm程度の褐色の砂粒、0.5mm程度の透明光沢を含む。
12	筒状土器	束	1号住居跡	4.25	(推定)		ナゲ	ナゲ	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	ヨリエーブ風 (GYR3/1)	0.5mm~2.0mm程度の乳白色の砂粒、0.1mm以下の灰粒を含む。
13	筒状土器	束・蓋	1号住居跡				ナゲ	ナゲ	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	0.5mm~1.0mm程度の褐色、黑色の砂粒、3.0mm程度の黑色の砂粒を含む。
14	土師器	束・口縫い	1号住居跡	26.4	(推定)		刷毛目後ナゲ	ナゲ	に bei 黄褐色 (7.5YR7/4)	に bei 黄褐色 (7.5YR7/4)	2.0mm以下の淡黃褐色・黑色光沢の砂粒を含む。
15	土師器	束	1号住居跡	26.3			ナゲ	ナゲ	淡黄色 (2.5Y7/4)	に bei 黄褐色 (10YR7/4)	0.1mm~0.4mm程度の灰褐色、黑色の砂粒を含む。
16	筒状土器	束・蓋	1号住居跡				ナゲ	ナゲ	淡黄色 (2.5Y7/4)	淡黄色 (2.5Y7/4)	0.1mm以下の黑色、灰褐色、赤褐色の砂粒を含む。
17	土師器	束・口縫い	1号住居跡	24.4			ナゲ	ナゲ	明黄褐色 (GYR3/1)	明黄褐色 (GYR3/1)	0.5mm以下の灰色、褐色の砂粒を含む。
18	砂生土器	束・蓋	1号住居跡	4.4	(推定)		ナゲ	ナゲ	に bei 黄褐色 (7.5Y7/4)	淡黄色 (2.5Y7/4)	0.1mm~1.0mm程度の黑色、灰褐色、乳白色の合む。
19	筒状土器	束・蓋	1号住居跡	6.5	(推定)		ナゲ	ナゲ	明黄褐色 (GYR6/8)	明黄褐色 (GYR6/8)	2.0mm以下の茶褐色、白色の砂粒を含む。

第4表 A地区出土器観察表(2)

遺物 番号	種別	測定 部位	出土 地点	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色・圖		胎土の特徴	備考	
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
20	陶片(?) 土器	東・山陽	1号 住居	14.4 (測定)		ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/2) 5YR 7/3	淡青色(2. 5YR 7/6) 6YR 7/6	8.0mm以下の褐色・黑色・灰褐色の砂 粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
21	陶片(?) 土器	東・山陽	3号 住居			ナデ	ナデ	褐色(7.5Y R 6/6)	褐色(7.5Y R 6/6)	3.0mm以下の灰色、褐色、灰白色の 砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
22	骨生土器	動物の頭骨	1号 住居	14.5 (測定)		刷毛目・備施被状 文	ヨコナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	青灰色(5Y R 7/1)	1.0mm以下の透明光沢、黑色光沢、 深灰色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
23	骨生土器	頭骨	1号 住居					ミガキ・三角新痕 文	褐色・青褐色 (2.5YR 7/4)	1.0mm以下の乳白色、透明光沢の砂 粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
24	骨生土器	頭骨	1号 住居					刷毛目	青灰色(2. 5YR 7/6)	1.0mm以下の乳白色、透明光沢の砂 粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
25	土師器	台形	4号 住居	11.6 (測定)		ミガキ・刷毛目	ナデ	明黄色 色(GOYR 7/6)	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	0.5mm~2.0mm程度の乳白色、透明 光沢の砂粒を含む。	3/8程度残 存。	
26	陶片(?) 土器	東・山陽	4号 住居	6.5 (測定)		指オナエ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	青灰色(2. 5YR 7/1)	2.5mm程度の暗褐色、灰色、乳白色 の砂粒を含む。	底部の1/ 4程度残存。	
27	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中	25.5 (測定)		刷毛目	ナデ	青灰色(2. 5YR 7/2)	青灰色(2. 5YR 7/2)	3.0mm以下の灰褐色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残 存。	
28	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中	28.4 (測定)		ヨコナデ	ヨコナデ	明黄色 色(GOYR 7/6)	褐色(7.5Y R 6/6)	0.15mm程度の褐色、黑色砂粒を含 む。	口縁部の1/ 8程度残 存。	
29	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中			ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/3)	青灰色(2. 5YR 7/1)	2.5mm以下の黑色光沢の砂粒、2.0m m以下の褐色、透明光沢の砂粒を含 む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
30	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中			ヨコナデ	ヨコナデ	褐色(7.5Y R 6/6)	褐色(7.5Y R 6/6)	0.5mm~1.0mm程度の乳白色、灰色 の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
31	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中	20.0 (測定)		ナデ	ナデ	淡黄色(2. 5YR 7/3)	淡青色(2. 5YR 7/3)	1.0mm程度の黑色、暗褐色、黑色、 乳白色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残 存。	
32	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中			刷毛目	刷毛目	に赤い青褐色 (2.5YR 7/3)	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	1.5mm以下の透明光沢、乳白色の砂 粒を含む。	底部の1/ 8程度残存。	
33	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中			ナデ	ナデ	褐色(7.5Y R 6/6)	明黄色 色(GOYR 7/6)	2.0mm以下の黑色、暗褐色、黑色光 沢の砂粒を含む。	底部の1/ 4程度残存。	
34	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中			ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	青灰色(2. 5YR 7/1)	4.0mm以下の褐色の砂粒、2.0mm以 上の黑色光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残 存。	
35	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中			ナデ	刷毛目	褐色(7.5Y R 6/6)	褐色(7.5Y R 6/6)	3.0mm以下の灰白色、褐色の砂粒を 含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
36	陶片(?) 土器	東(?)	2号 住居中			ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	2.0mm以下の黑色、褐色の砂粒を含 む。	ほぼ完形。	
37	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中	6.6~ 6.9		ケズリ抜ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	明赤褐色 (2.5YR 7/4)	4.0mm以下の灰白色、乳白色の砂粒、 1.0mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
38	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中			ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	青褐色(2. 5YR 7/3)	2.0mm程度の淡黄色、灰色の砂粒、 1.0mm程度の透明光沢、黑色光沢の 砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
39	陶片(?) 土器	東(?)	2号 住居中	30 (測定)		ミガキ	ミガキ	淡黄色(2. 5YR 7/2)	淡黄色(2. 5YR 7/2)	0.2mm以下の灰褐色、灰色の砂粒を 含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
40	陶片(?) 土器	東・山陽	2号 住居中			ナデ	ナデ	褐色(10Y R 6/4)	褐色(10Y R 6/4)	0.5mm~1.0mm程度の乳白色、褐色 の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
41	土師器	解・漆	2号 住居中			ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	3.0mm以下の灰白色、半透明の砂粒、 1.0mm以下の透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
42	土師器	解・漆	2号 住居中			ミガキ	ナデ	青褐色(10 YR 7/6)	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	3.0mm以下の赤褐色、褐灰色の砂粒 を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
43	土師器	解・漆	2号 住居中	20 (測定)		刷毛目	ナデ	明黄色 色(GOYR 7/6)	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	3.0mm以下の透明光沢、黑色光沢、 赤褐色、灰色、黄褐色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
44	土師器	解・漆	2号 住居中			刷毛目	ナデ	明黄色 色(GOYR 7/6)	明黄色 色(GOYR 7/6)	0.1mm程度の透明光沢、黑色、黑 褐色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
45	土師器	解・漆	2号 住居中	18.4 (測定)		ナデ	ナデ	明黄色 色(GOYR 7/6)	明黄色 色(GOYR 7/6)	0.5mm以下の黑色光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
46	陶片(?) 土器	解・漆	2号 住居中	8.35		ミガキ	ミガキ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	1.0mm以下の透明光沢、浅黄色の砂 粒を含む。	底部は全開。	
47	陶片(?) 土器	解・漆	2号 住居中	10.9	2.9	8.35	刷毛目	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	微細な透明光沢の砂粒を含む。	ほぼ光沢。
48	陶片(?) 土器	解・漆	2号 住居中	2.6~ 3.1		ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/3)	成黄褐色 (2.5YR 7/3)	2.0mm程度の暗褐色、乳白色、灰色 の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
49	陶片(?) 土器	解・漆	2号 住居中	21.8		ナデ	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/3)	淡青色(2. 5YR 7/6)	2.0mm以下の灰褐色、褐色の砂粒を含 む。	口縁部の1/ 8程度残存。	
50	骨生土器	解・漆	2号 住居中	14.0 (測定)		刷毛目・備施被状 文	ナデ	に赤い青褐色 (2.5YR 7/4)	青灰色(2. 5YR 7/6)	微細な透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 8程度残存。	

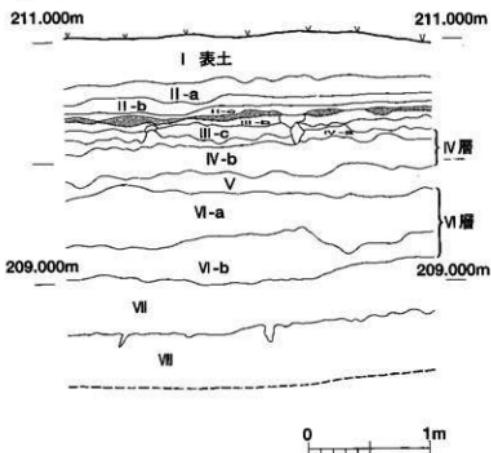
第5表 A地区出土土器觀察表(3)

遺物 番号	種別 部位	山土 地点	法 量(cm) 口径 底径 高さ	手法・開鑿・文様ほか	色 調		地 土の特徴	考 査
					外 面	内 面		
51 有土器 點打目	口	Ⅱ層中	11.0 (8.0)	刷毛目	ナデ	淡黄色(2. SYR7/4)	淡黄色(2. SYT9/4)	1.0mm程度の透明光沢の砂粒、1.0m m以下の中性光沢の砂粒を含む。
52 有土器 点打目	裏・側面	Ⅱ層中		ナデ	指ナデ	褐色(7SY R7/6)	淡黄色(2. SYT7/4)	0.1mm以下の中性光沢の砂粒を含む。
53 有土器 点打目	裏・側面	Ⅱ層中		刷毛目	指ナデ	褐色(7SY R7/6)	淡黄色(2. SYT7/4)	1.0mm以下の半透明光沢、黒色光沢 の砂粒を含む。
54 有土器 点打目	裏・ 側面	Ⅱ層中		刷毛目	ナデ	明黄褐色 (GYR7/6)	褐色(7SY R7/6)	0.1mm以下の淡黄色、灰色、茶色、 黑色光沢、透明光沢の砂粒を含む。
55 有土器 点打目	裏・ 側面	Ⅱ層中		刷毛目	ナデ	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	0.1mm以下の灰白色、褐色の砂粒、 0.1mm以下の黑色光沢の砂粒、2.0m m以下の中性光沢の砂粒を含む。
56 有土器 点打目	裏・ 側面	Ⅱ層中		指ナデ	ナデ	明黄褐色 (GYR7/6)	明黄褐色 (GYR7/6)	0.1mm以下の透明、灰白色、灰色の 砂粒を含む。
57 土瓶 点打目	裏・側面	Ⅱ層中		ミガキ	指オサエ	褐色(7SY R6/6)	褐色(7SY R6/6)	1.0mm以下の淡黄色、灰白色の砂 粒を含む。
58 土瓶 点打目	裏・側面	Ⅱ層中		刷毛目	刷毛目	明黄褐色 (GYR7/6)	明黄褐色 (GYR7/6)	0.1mm以下の灰白色、褐色、光沢 の砂粒を含む。
59 土瓶 点打目	小口・口 縁部・側 面	Ⅱ層中	10.0 (8.0)	ミガキ	ミガキ	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	2.0mm以下の半透明、透明光沢の砂 粒を含む。
60 土瓶 点打目	底 部	Ⅱ層中	3.5	指ナデ	ナデ	淡灰褐色 (LSYR5/ 2)	赤褐色(5. YR4/6)	2.0~3.0m以下の褐色の砂粒、1.5mm 以下の中性光沢の砂粒を含む。
61 土瓶器 高台付杯	1号壺	13.3	7.0	ナデ+ヘラケズリ	ナデ	淡黄褐色 (2SYR7/ 4)	淡黄褐色 (2SYR7/ 4)	1.0mm以下の褐色の砂粒を含む。 口縁部の1/ 6程度残存
64 蓝色土器 高台付 底部	Ⅱ層上		8.4 (8.0)	ナデ	ミガキ	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	オーラー風 (SY3/1)	0.5mm~1.0mm程度の茶色の砂粒を 含む。底部の1/ 4程度残存
65 黑色土器 高台付 底部	Ⅱ層上		5.9 (5.0)	ナデ	ミガキ	淡黄色(2. SYB7/3)	オーラー風 (SY3/1)	0.5mm~1.0mm程度の茶色の砂粒を 含む。底部の1/ 4程度残存
66 土瓶器 耳	Ⅲ層上	13.4 (8.0)	6.2	4.0cm	ナデ+ヘラケズリ	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	褐色(7SY R7/6)	1.0mm以下の黒色、褐色の砂粒を含 む。口縁部の1/ 6程度残存
67 土瓶器 耳	Ⅲ層上	13.6 (8.0)	6.3	4.4cm	ナデ+ヘラケズリ	淡黄褐色 (2SYR8/4)	深灰色(2. SY6/1)	1.0mm以下の黒色、灰白色、灰色の 砂粒を含む。口縁部の1/ 6程度残存
68 土瓶器 耳	Ⅲ層上	13.0	5.8	4.4cm	ナデ+ヘラケズリ	淡黄褐色 (GYR7B/ 6)	淡黄褐色 (GYR7B/ 6)	0.5mm~1.0mm程度の黒色の砂粒を 含む。ほぼ完形
69 土瓶器 耳	Ⅲ層上		6.6 (6.0)	ナデ	ナデ	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	に近い黃褐色 (GYR7B/ 6)	0.5mm以下の褐色の砂粒を含む。 底部の1/ 3程度残存
70 土瓶器 耳	Ⅲ層上	21.4 (8.0)		ナデ	ヘラケズリ	に近い黃褐色 (2SYR7/ 4)	に近い黃褐色 (2SYR7/ 4)	0.5mm~0.8mm程度の乳白色、褐色 の砂粒を含む。口縁部の1/ 8程度残存
71 土瓶器 底部	Ⅲ層上			ナデ	布痕	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	きわめて堅かで、砂粒などは確認で きない。
73 有土器 点打目	1号壺 底部	收容部		ナデ	ナデ	に近い黃褐色 (10YR7 /4)	褐色(7SY R6/6)	2.0mm以下の乳白色、黑色光沢、透 明光沢の砂粒を含む。

第2節 B地区の調査

1. 基本層序

第Iは表土である。第II層は11~12世紀に降下したとされる霧島御鉢延暦テフラに由来する高原スコリア層で、a~cの3層に分かれる。第II-a層は、暗灰色スコリアを含む大粒の褐色スコリア層である。



第23図 B1地区基本土層図 ($S = 1/40$)

c層のにじみ部で、第IV-b層と同一層である。第IV層は縄文時代後・晚期の土器、弥生後期～古代の土器を包含する褐色土層である。第V層は2~3mm程の大きめの御池ボラを含む黄褐色土層で、無遺物層である。第VI-a、b層は高千穂ノ峰起源の牛の脛火山灰の上層で、およそ6,400年前に降下したとされている。a層が若干b層よりも軟質である。第VII層は鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰層である。第VIII層は牛の脣火山灰の下層である。

2. 調査の概要

B地区は標高約205~211mの丘陵地に位置し、総面積約27,600m²である。調査対象地は丘陵地全域であるため、耕作地の境を目安に1~5地区に便宜的に分けて発掘調査を行なった。また、谷合の斜面部についてはトレーニングを数箇所に設置し、確認調査を行なった結果、遺構・遺物の検出はなかった。

調査は、基本的に試掘調査で確認された結果をもとに、第II層の高原スコリアまでを重機によって表土剥ぎを行い、第IV層の褐色土と第V層の牛の脣上層ブロックが混在する褐色土の2面で遺構検出を行なった。丘陵上は、調査前は畑地として利用されていたが、高原スコリアの堆積が厚かったこともあり、遺跡の状態はほぼ良好であった。若干B2地区の西側で七の天地返しが行なわれており、B5地区の北側については第IV層の遺物包含層が一部掘削されていた。

遺構は第IV層上で畝状遺構、溝状遺構、土壤、炉跡、陥り穴状遺構など、第V層上で、古墳時代の堅

る。第II-b層は、1cm前後の粒子の暗褐色細粒スコリア層である。第II-c層は、3mm程の粒子の暗褐色細粒スコリア層である。aとb層、bとc層のそれぞれの間に3mm程の黒色の有機物層が堆積しており、スキの炭化物が見られる。第III層はa~cの3層に分かれる。第III-a層は、高原スコリアの細粒を多少含む黒褐色土層である。第III-b層は暗灰褐色火山灰層で、降下年代は不明である。第III-c層は火山性の噴出物を多少含む暗褐色土層で、古代の遺物を包含する。第IV層は2層に分かれているが、第IV-a層は第III-

穴住居、土壤、掘立柱建物跡、柱穴群などが確認されている。遺物は、縄文後期・晩期の土器片や石器、弥生時代から古墳時代、古代の遺物が第IV層中から一括した状態で出土している。

3. B 1 地区

B 1 地区は、B 地区の中央西側に位置する。調査面積約8,390m²である。検出された遺構は、古墳時代の竪穴住居2軒、土壤2基、古代の遺構と思われる斂状造構、竪穴状造構5基、溝状造構7条、時期不明の掘立柱建物跡3棟、柱穴群、土壤18基、炉跡3基、陥し穴状造構2基である。遺物は縄文後期・晩期の土器、石器、弥生・古墳時代の壺、甕、高坏、古代の甕、坏、高台付坏、黒色土器、布痕土器、石器、鉄製品などが調査区の全体から出土している。調査区は、中央部が微高地になっていて、北、西、南に向かって傾斜している。遺構・遺物は微高地に多く分布する特徴がみられ、斂状造構は全面に検出されているが、中央部では若干地山が削平されているため、確認されていない。

(1) 縄文時代の遺構と遺物

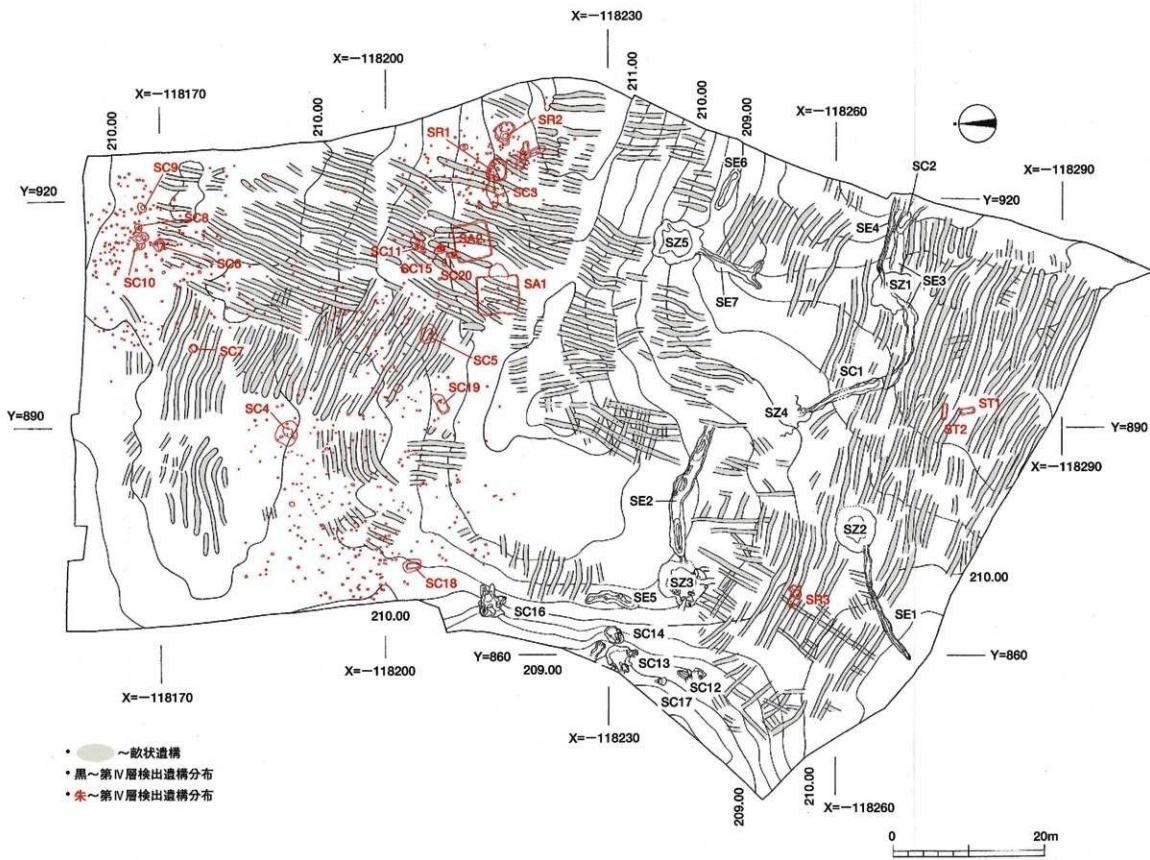
縄文時代の遺構は確認されていないが、第IV層中に縄文時代後期の土器が数点出土している。出土した遺物は第25・26図に示している。76・77は深鉢で、同一固体である。口縁部に棒状工具による斜位の押線文と口唇部に粘土紐を貼り付け、押圧刻み目を施している。器面調整は内外器面ともヘラナデである。78は深鉢の口縁部である。79は波状口縁を呈する深鉢である。口縁の下に突帯を貼り付け、口縁部には弧状に沈線文を施している。外器面は貝殻条痕調整で、スヌが付着している。80は深鉢の胴部で、内外器面とも貝殻条痕調整である。外器面に円形貼付文状の突起がみられる。81~83は深鉢の口縁付近である。81は刻み目を持つ貼り付け突帯と沈線が施されている。82は波状口縁になると思われる。口縁に工具による連続刺突が施されている。83は突帯を貼り付けた後、指による刻みを施している。84・85は胴部である。外器面に弧状の沈線文が施されている。86は胴部で、外器面に交差する斜方向の沈線が施されている。87・88は深鉢の底部である。89~97は打製石鐵である。89・90は頁岩製、91~93、95~97はチャート製、94は黒曜石製である。98はチャート製の石匙である。99はチャートを用いた使用痕剥片である。

(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

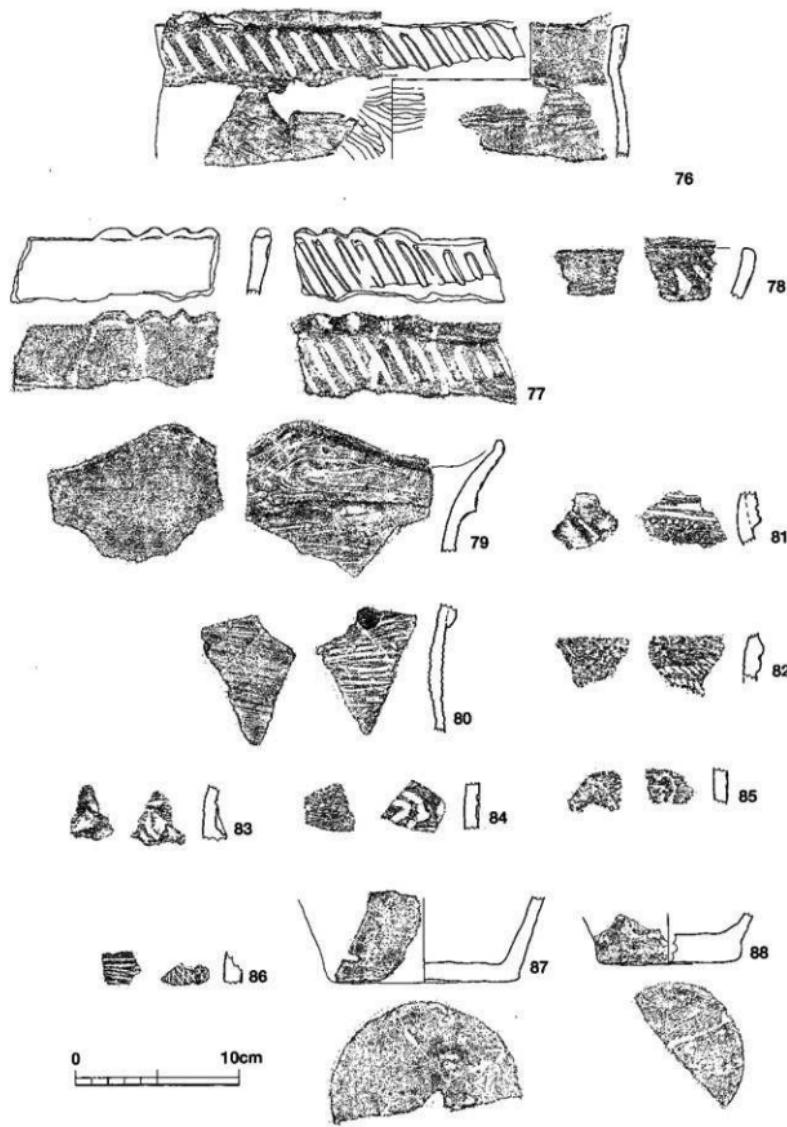
竪穴住居

①号竪穴住居（S A 1、第27図）

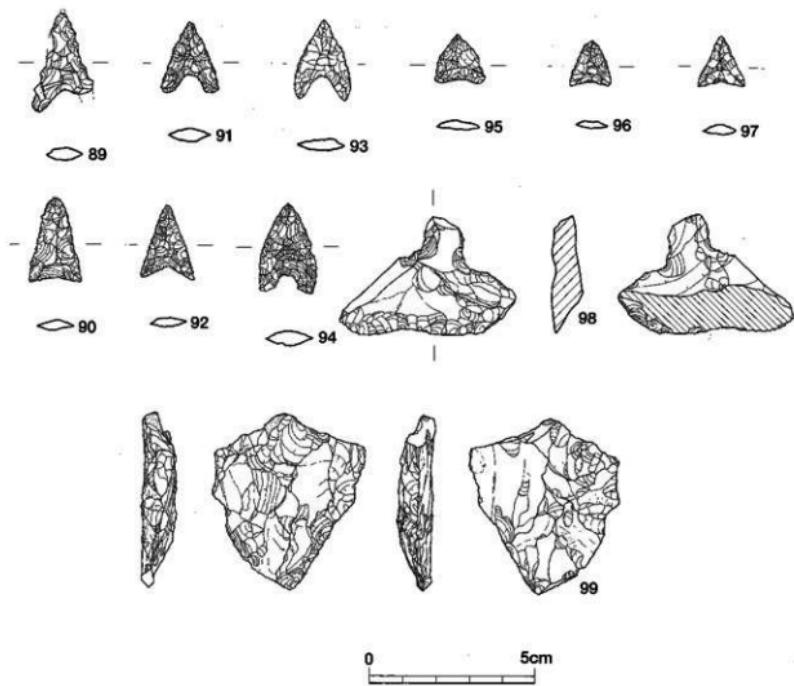
B 1 地区の東側中央微高地に位置する。長軸5.55m、短軸5m、検出面からの深さ約0.3mの方形プランである。遺構に伴う遺物は少ないが、北側中央壁際に土壤状の落ち込みが検出され、多くの炭化材や焼土が堆積していた。主柱穴は6本で、東側壁は別の遺構に切られている。出土遺物は第28図に示している。100・101は長脚形の壺で、外器面に縦ハケ目が施されている。丸味を持つ底部で、口唇部は平らに仕上げられている。102は壺の口縁部である。緩やかに頸部がくびれ、口唇部に向かって若干外反しながら立ち上がる。103・104は壺である。103は胴部最大径と口径がほぼ同じで、くびれ部に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。104は小さい平底の底部から逆ハの字状に胴部が延びている。105は高杯の脚部である。裾が広がる脚柱部の短いものと思われる。



第24図 B1地区造溝分布図(S=1/500)



第25図 B1地区出土縄文土器実測図 (S = 1/3)



第26図 B1地区出土石器実測図 (S = 2/3)

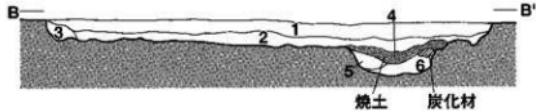
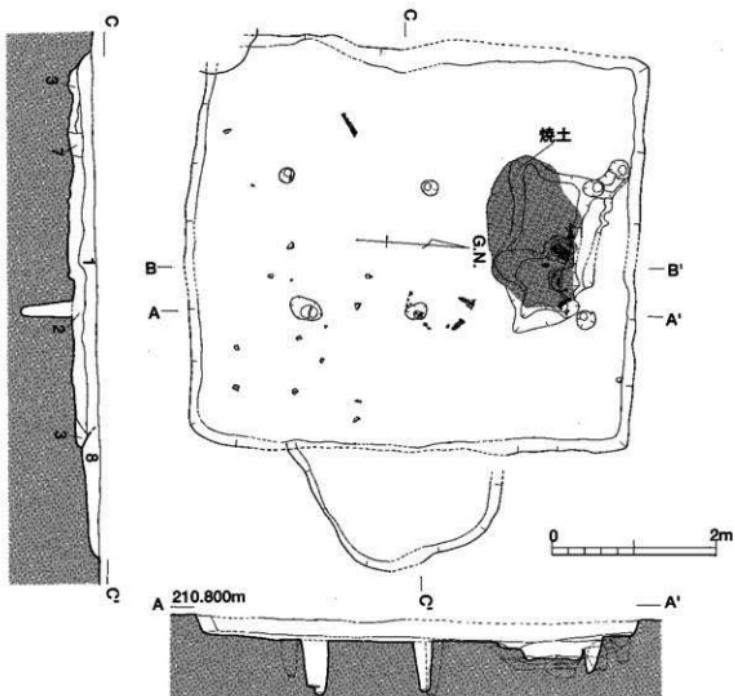
。2号堅穴住居 (SA2、第29図)

1号堅穴住居の東隣に位置する。5×5mの方形プランを呈し、検出面からの深さは約0.35mである。主柱穴は直徑が15~20cm程で、床面からの深さ約65cmの2本柱である。出土した遺物は第30図に示している。106・107は蓋である。丸味を帯びた平底と球形の洞部を呈する。108~112は蓋である。108・109は同一固体と思われる。頸部が緩やかに「く」の字に屈曲し、底部は上げ底を呈する。外器面には平行タタキが施される。110は平底を呈し、バケツ状に洞部が延びるが、口縁部下に若干のくびれを持つ。口縁に最大径を持つ。外器面は丁寧にハケ目が施されている。111・112は若干上げ底の底部である。113・114は鉢である。

土壤

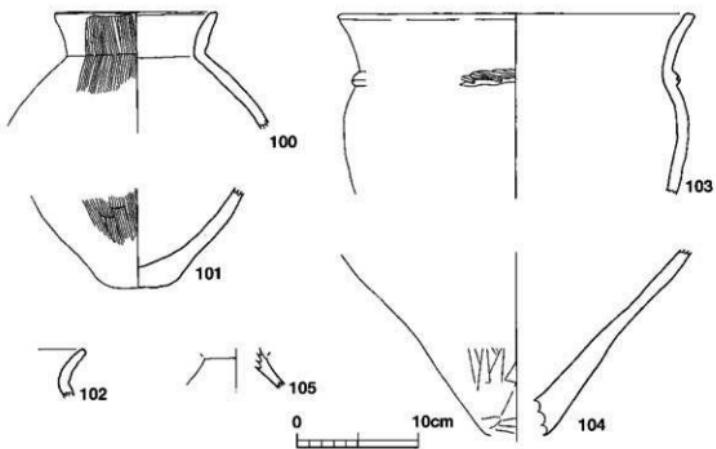
。3号土壤 (SC3、第31図)

調査区中央東側、2号堅穴住居址の東側に位置する。長軸3.3m、短軸1m、深さ0.95mの不整形な



- 1 暗褐色土やや硬質でしまりがある。御池ボラ粒を少量含み、白色粒、炭化物粒等を若干含む。
- 2 暗褐色土粒子が粗く、やや軟質。御池ボラ粒、白色粒、炭化材および炭化物粒等を多く含む。
- 3 棕色土粒子が粗く、やや軟質。御池ボラ粒、炭化物粒を若干含む。
- 4 にぶい赤褐色土焼土。
- 5 にぶい黄褐色土焼土粒を若干含む。
- 6 棕色土やや軟質。御池ボラ粒、炭化物粒を若干含む。
- 7 棕色土焼土粒多く含み、御池ボラ粒、白色粒、炭化物粒等を若干含む。
- 8 暗褐色土1層に似るが、色調がやや暗い。別造構の埋土。

第27図 B-1地区 1号堅穴住居 (SA 1) 実測図 (S = 1 / 3)



第28図 B1地区1号堅穴住居(SA1)出土遺物実測図(S=1/4)

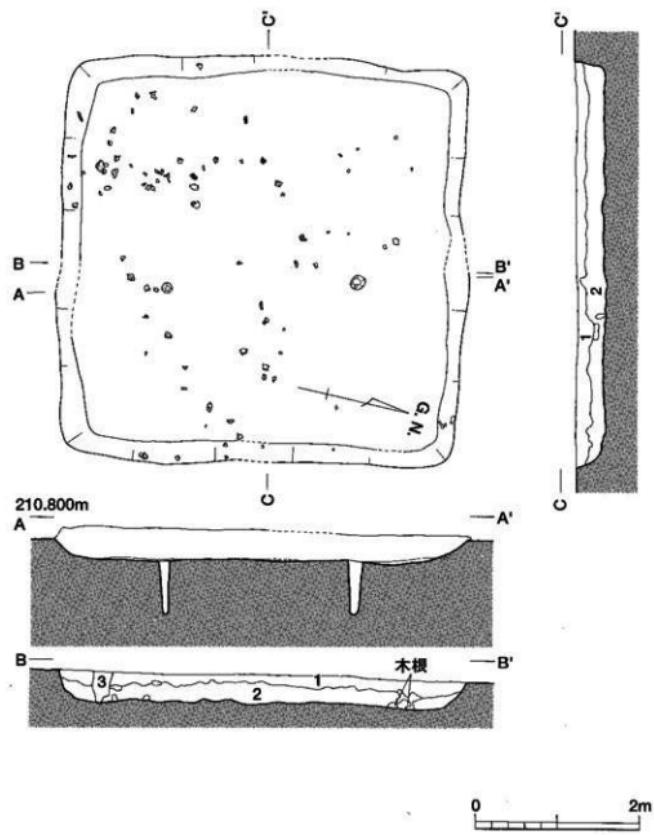
楕円形プランを呈する。土壇の東隣には1号炉があり、その周辺にじみ部とつながるかたちで確認された。埋土中からは古墳時代の土師器片が多く出土している。出土遺物については第32図に示している。115は壺の底部である。小さい平底を呈し、球形の胴部をもつものと思われる。116~119は甕である。116・117は同一個体である。頸部で緩やかに屈曲し、口縁に最大径を持つものである。外器面にススが付着している。118は上げ底を呈する小型の甕である。内外器面に丁寧なハケ日が施されている。119は刻み目を持つ貼り付け突帯を持つ甕である。120は高杯の裾部である。

・19号土壇(SC19、第31図)

調査区の中央部、やや北寄りに位置する。長軸2.9m、短軸1.38m、検出面からの深さ約0.26mの楕円形プランを呈する。土壇中央には二個体の土器(壺と甕)が圧し潰されたように重なっていた。上器周辺の土壇中央部の埋土には、炭化物が多く混在しており、甕は頸部にススが付着していた。また、土壇中央には土器下部に柱穴状の落ち込みがある。土壇に伴うものではないと思われる。出土遺物については第32図に示している。121は丸みを帯びた平底と球形の胴部を持ち、頸部が「く」の字に屈曲する壺である。調整は、外器面にハケ目と一部ミガキ、内器面は口縁部にミガキと胴部にハケ目がみられる。122は脚台付き甕である。口縁部に最大径を持ち、くびれ部だけにススが付着している。123は張った胴部上位から緩やかに頸部がくびれ、口縁に最大径を持つ甕である。口唇部は平らに仕上げている。

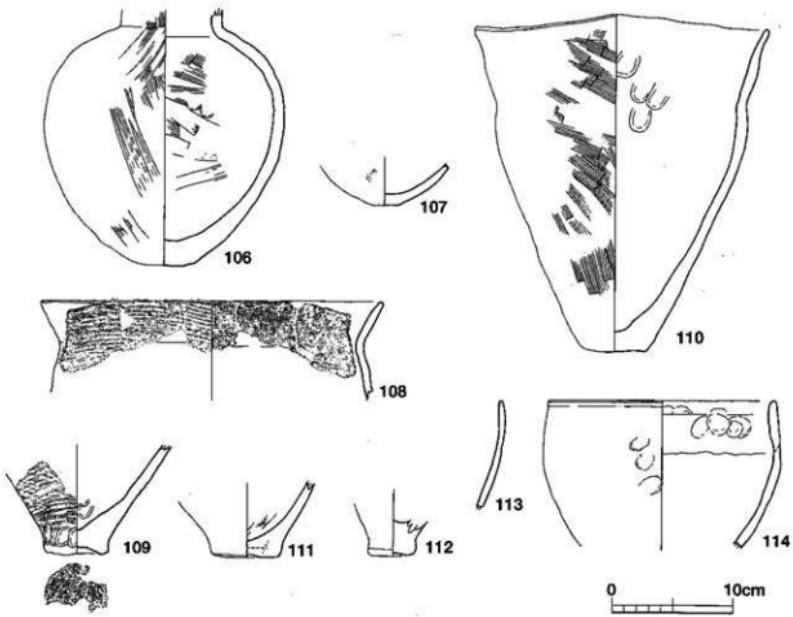
遺構外出土の遺物(第33~39図)

124~126は複合口縁壺である。125は口縁部にヘラ状工具による斜方向の刻み目がみられる。127・128は長頸壺である。127は丸底に球形の胴部を呈する。外器面はミガキ調整である。129は小型壺か。130



- 1 暗褐色土…粒子が細かく、ややしまりがある。御池ボラ粒、白色粒を若干含む。
- 2 暗褐色土…粒子が粗く、やや軟質でしまりがある。御池ボラ粒、白色粒を多く含み、牛の脛上層ブロックを含む。
- 3 暗褐色土…軟質。白色粒および炭化物粒を若干含む。上からの柱穴。

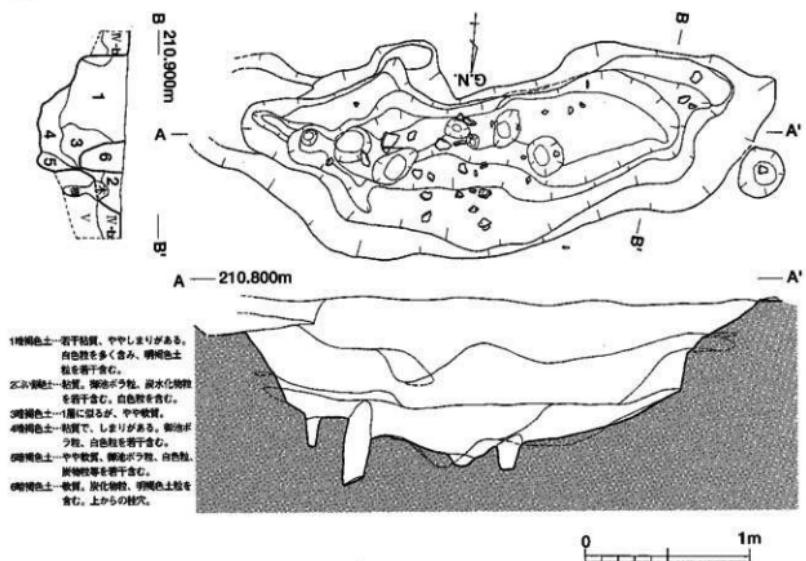
第29図 B1地区2号堅穴住居 (SA 2) 実測図 ($S = 1/60$)



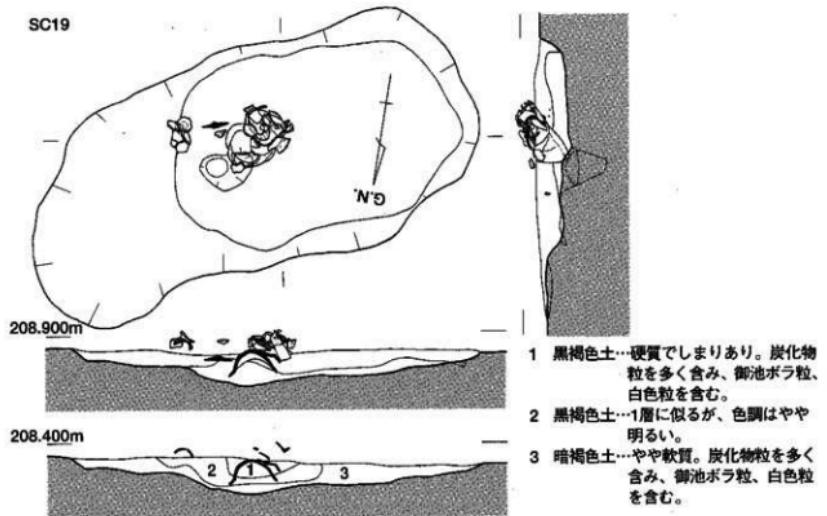
第30図 B1地区2号堅穴住居(SA2)出土遺物実測図(S=1/4)

は小型壺で、胴部が球形になると思われる。短い口縁には擗波波状文が施されている。131・132は重弧文土器である。133～135は頸部がくびれ、口唇部に向かって口縁が広がるタイプの壺である。136は球形の胴部を持つと思われる壺である。137～139は肩が張った半球形の胴部を呈すると思われる広口の壺である。140は胴部中位が張った半球形の壺で、小さい平底を呈する。141は肩の張った長胴形の壺か。142・143は同一固体で、長胴の壺と思われる。144は丸みを帯びた平底と長胴形の球形を呈する。145～148は長胴形の壺の底部である。146は丸底、147は小さい平底、148は尖底を呈する。149・150は同一固体である。肩の張った半球形の壺か。151は若干長胴気味の球形を呈する壺と思われる。152は器壁が薄く、布留系の壺と思われる。153は粘土をつまみ出してつくった突帯に、刻み目を施した壺の胴部と思われる。154～162は壺の底部である。154・155は長胴形の壺か。154は平底、155は丸底を呈する。156は平底の小さい平底の底部から逆ハの字状に胴部が延びるものと思われる。157は長胴形で丸底の小型壺である。163・166・167は頸部が「く」の字に屈曲する壺である。163は胴部上位と口縁に最大径を持ち、口唇部を平らに仕上げている。164・165は平行タキギが施された壺である。168・169は同一固体で、緩やかに頸部がくびれ、口縁が外反しながら延びる壺である。170は胴部中位に最大径を持つ球形の胴部を呈する壺である。171の壺はいびつな器形を呈する。丸みを帯びた胴部から底部にかけて外に広がるように胴部が延びている。172～183は、刻み目のある貼り付け突帯を行する壺である。172～174は

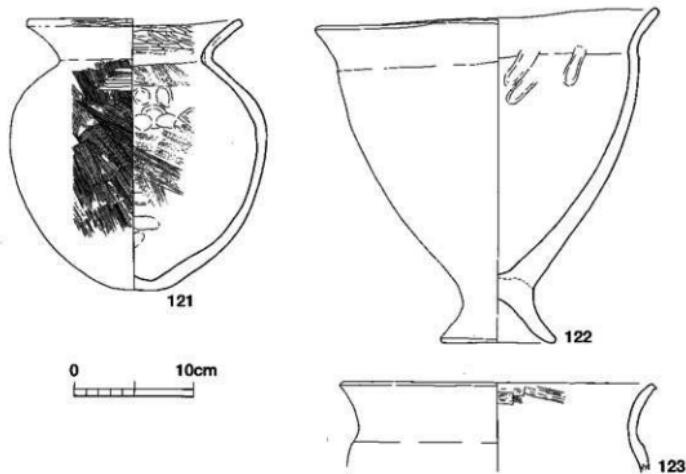
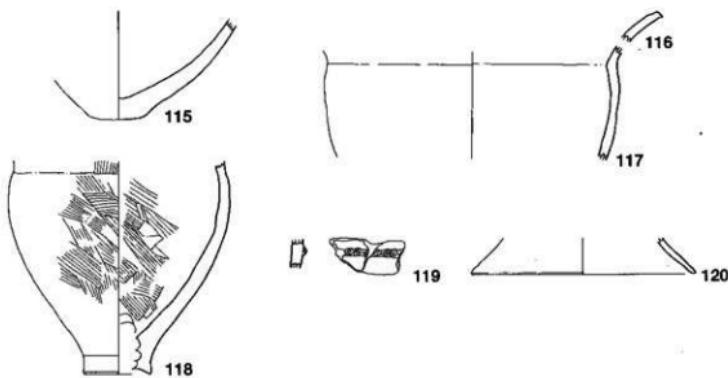
SC3



SC19



第31図 B1地区3・19号土壤 (SC3・19) 実測図 (S = 1/60)



第32図 B1地区3号(115~120)・19号(121~123) 土塗出土遺物実測図(S=1/4)

「く」の字に屈曲する頸部に貼り付け刻み目突帯を有している。175~179は緩やかにくびれる頸部に貼り付け刻み目突帯を有している。180は底部から胴部にかけて内湾しながら延び、若干くびれを持って口縁がわずかに外反する器形の壺である。くびれの下に貼り付け刻み目突帯を有する。181~183はくびれを持たない壺に貼り付け刻み目突帯を有するものである。185~186は口唇部に刻み目を持つものである。貼り付け刻み目突帯を持つ壺の口唇部になると思われる。187~204は壺の底部である。187・188は上げ底で底部が外反している。189~196は平底である。189・192・193は底部が若干外反する。195・196は底部から胴部にかけて膨らみを持って立ち上がる器形を呈している。197・198・204は平底の底部で、

底部から立ち上がった部分にくびれを持ち、膨らみのある胴部を呈する。199は上げ底である。200は臺の脚台部である。201は平底で、底部から胴部が真っすぐ立ち上がる。202は底部にくびれを持つ平底である。203は底部がわずかに外反し、中央に凹がある。205～213は高杯の杯部である。205は外器面、206は内外器面に底部の明瞭な稜線がみられる。207～210は大きく開く口縁部を有する。211・212は同一個体で、外器面に丹塗りが施されている。214～221は高杯の脚部である。214はラッパ状に脚柱部から裾にかけて開き、穿孔を持つ。216は直線的な脚柱部に丁寧なミガキが施され、穿孔を持つ。222～224は小杯か。225は浅鉢か。226・227は碗か。228～230は小型の鉢である。231～235は脚台付きの鉢か壺の脚台部である。236～241は小型の壺である。239は尖底気味の丸底、240・241小さい平底を持つ。242・243は外器面に丹塗りの施された小型の壺である。244・245は小型の壺である。246刻み目を持つ貼り付け突帯を有する小型の壺である。247は手づくねの小壺である。248・249は須恵器である。同一固体の可能性があり、俵壺か。外器面は格子目タキで内器面は放射状の当て具痕がみられる。

(3) 古代の遺構と遺物

畠状遺構(第24図)

古代の畠跡と思われる畠状遺構を第IV層上で検出した。畠状遺構は、畠の盛土の明確な確認はできず、平面的に平行して走る黒褐色土の溝として捉えた。畠状遺構は調査区の全体に分布している。遺存状況が良好でないため畠の区画は明瞭でないが、切り合い、重なり合いながらいくつかの区画がみられる。

①調査区の北から東側に、北北東～南南西方向に平行して走る畠状遺構が3区画ほど切り合っている。

②調査区の北から西側に、南東～北西方向と東～西方向に平行して走る畠状遺構が5区画ほどみられる。

③調査区南側に、南東～北西方向に平行して走る畠状遺構がある。いくつかが重なっていると思われるが区画は明瞭でない。いずれも畠状遺構の溝の長さは15～20m、20m以上と比較的長く、溝幅は0.7～0.8mを測る。畠状遺構は等高線に直交するものがほとんどで、微地形にあわせて溝の走行方向が変化している。栽培作物は確認できなかった。

豊穴状遺構

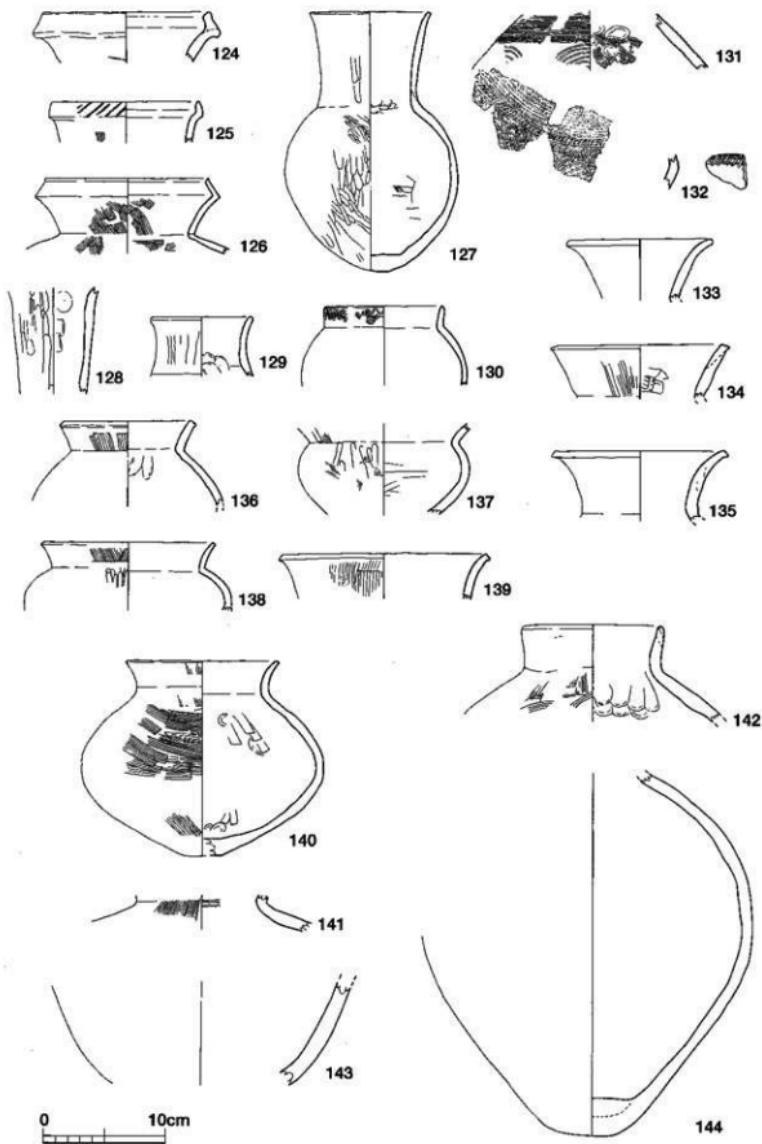
1～5号豊穴状遺構(SZ1～5)

調査区の南側に分布がみられ、畠状遺構と同じ第IV層上で検出されている。いずれも直径約6m、検出面からの深さ約0.4mの不定円形プランを呈する。埋土は黒色土と焼土で、埋土を除去すると木根状の横方向に延びる穴が無数に確認される。遺物は出土していない。ここでは3号豊穴状遺構のみ図示している(第40図)。遺構の性格については定かではないが、焼土について自然科学分析を行なった結果、クスノキと分析されていることから、立ち枯れた木の木根跡の可能性が考えられる。しかし、これらの豊穴状遺構は溝状遺構と連結した状態で確認されているため、このセットで考えると遺構の性格は不明である。時期については埋土状況からみて古代と推測する。

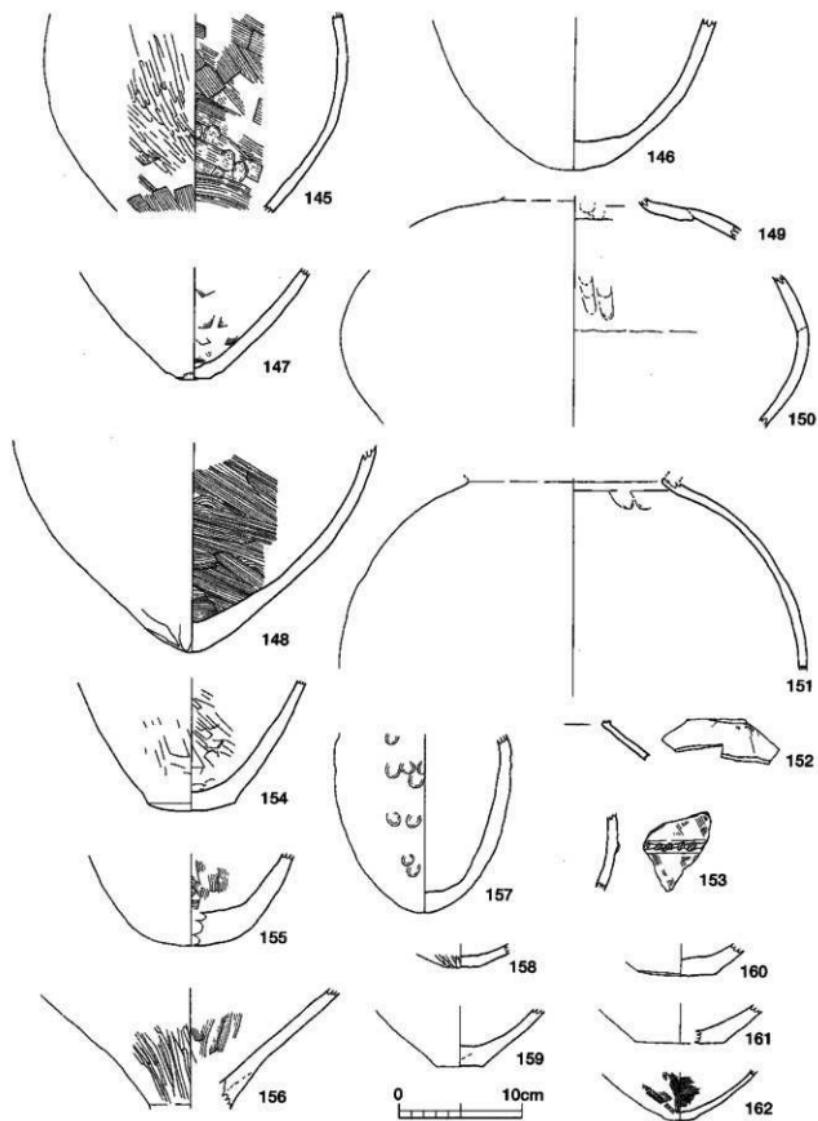
溝状遺構

1～7号溝状遺構(SE1～7)

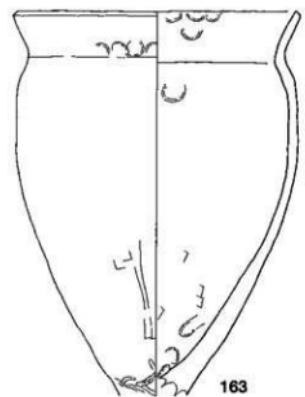
溝状遺構は第IV層上で検出している。1号溝状遺構は南西から北東に流れる長さ約16m、幅約0.8m、



第33図 B1地区出土赤生土器・土師器実測図 (S = 1/4)



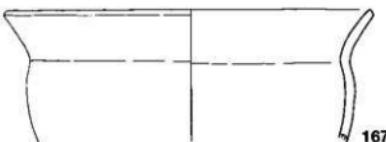
第34図 B1地区出土土器実測図 ($S = 1/4$)



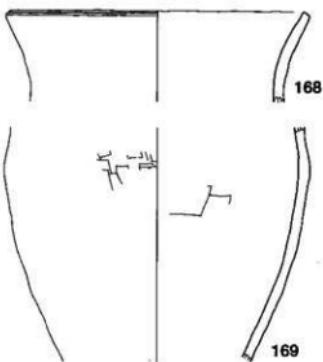
163



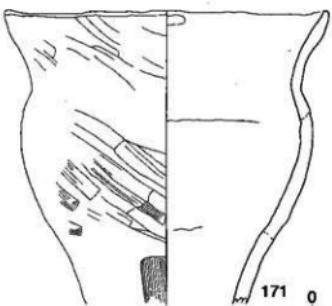
166



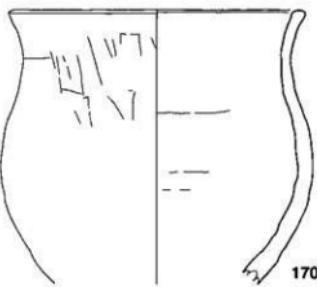
167



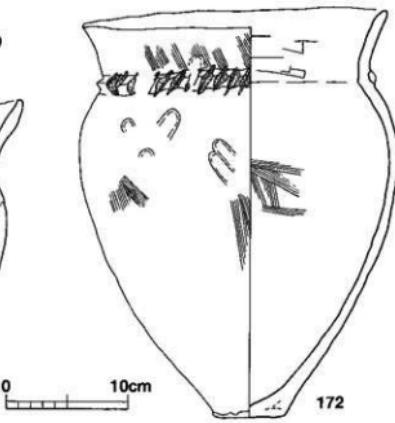
168



169



170



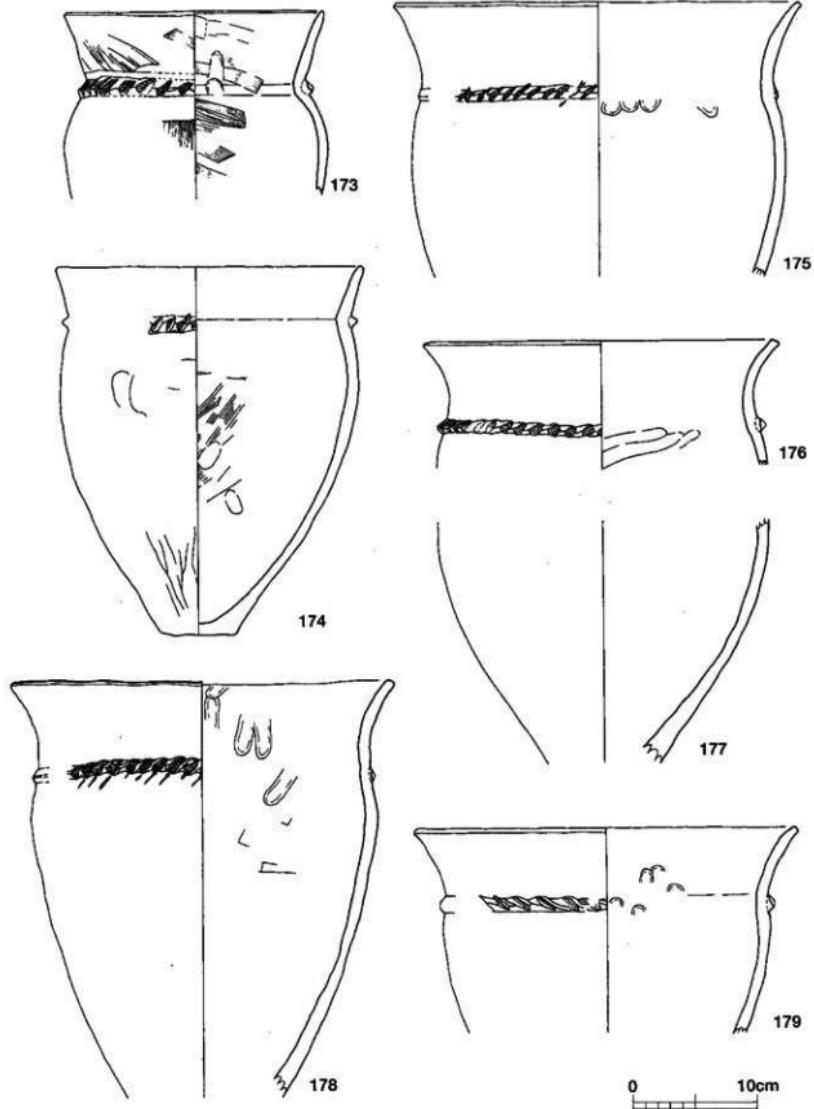
171

0

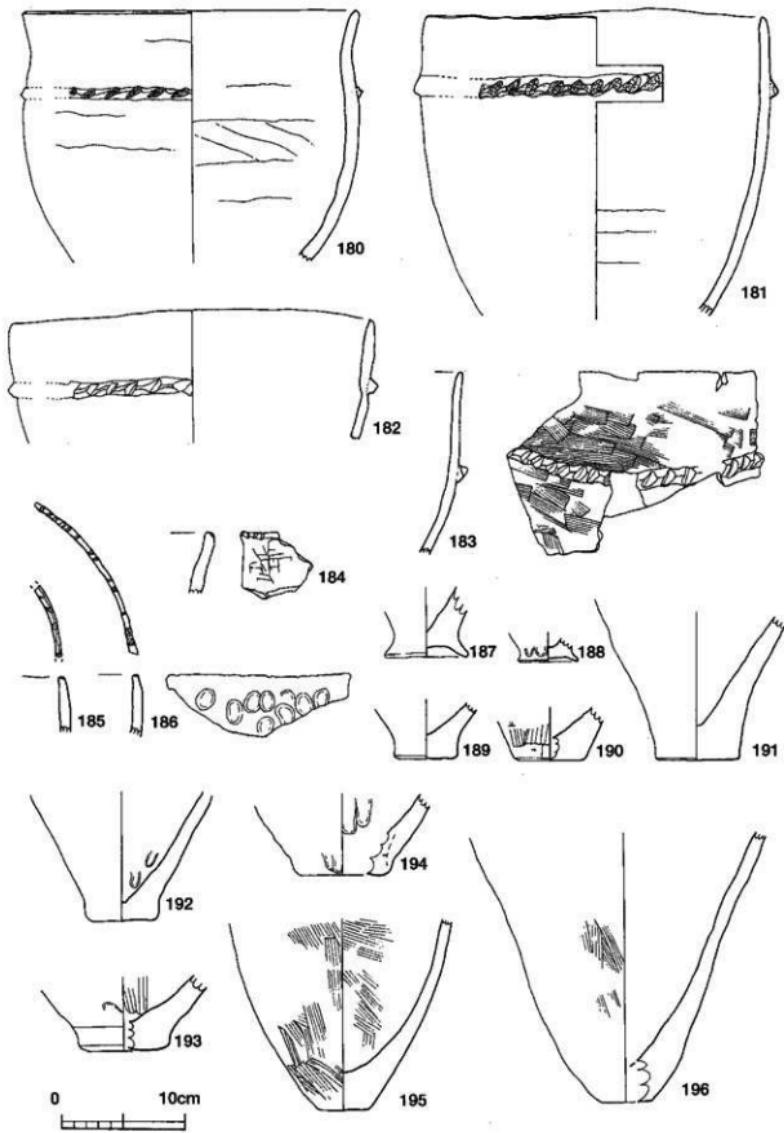
10cm

172

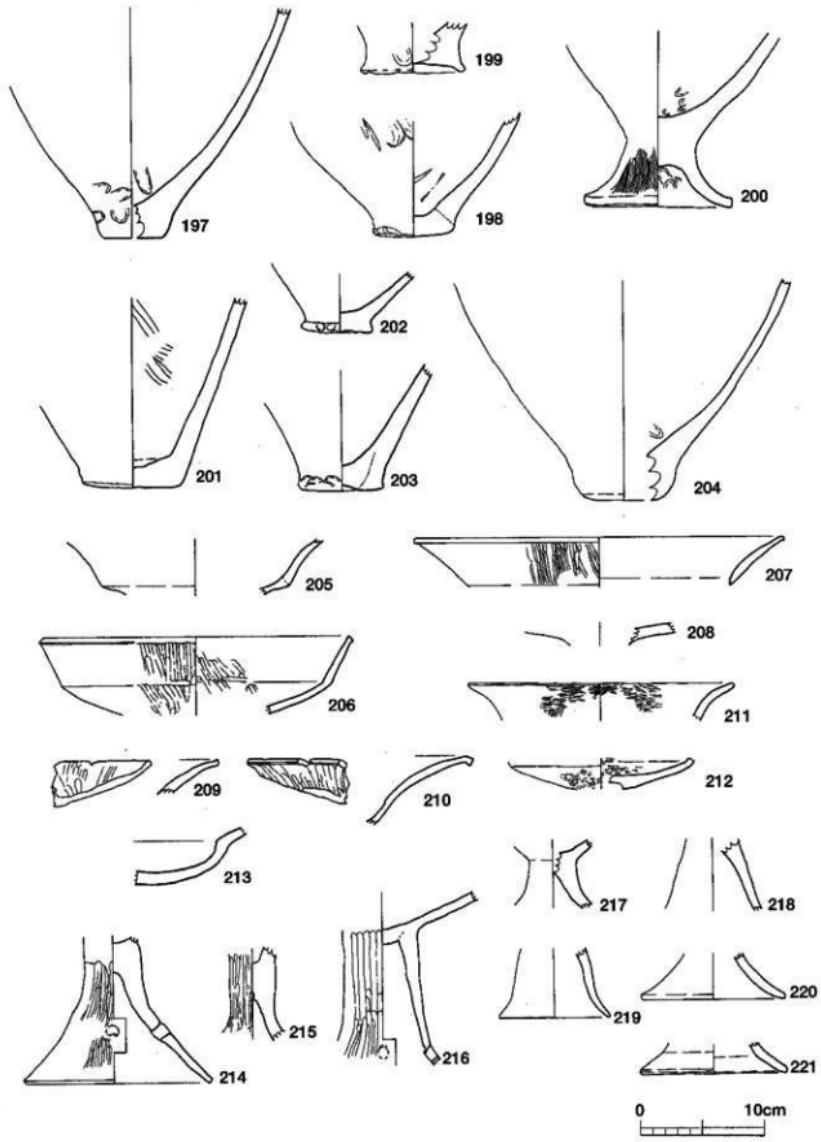
第35図 B1地区出土土師器実測図 (S = 1/4)



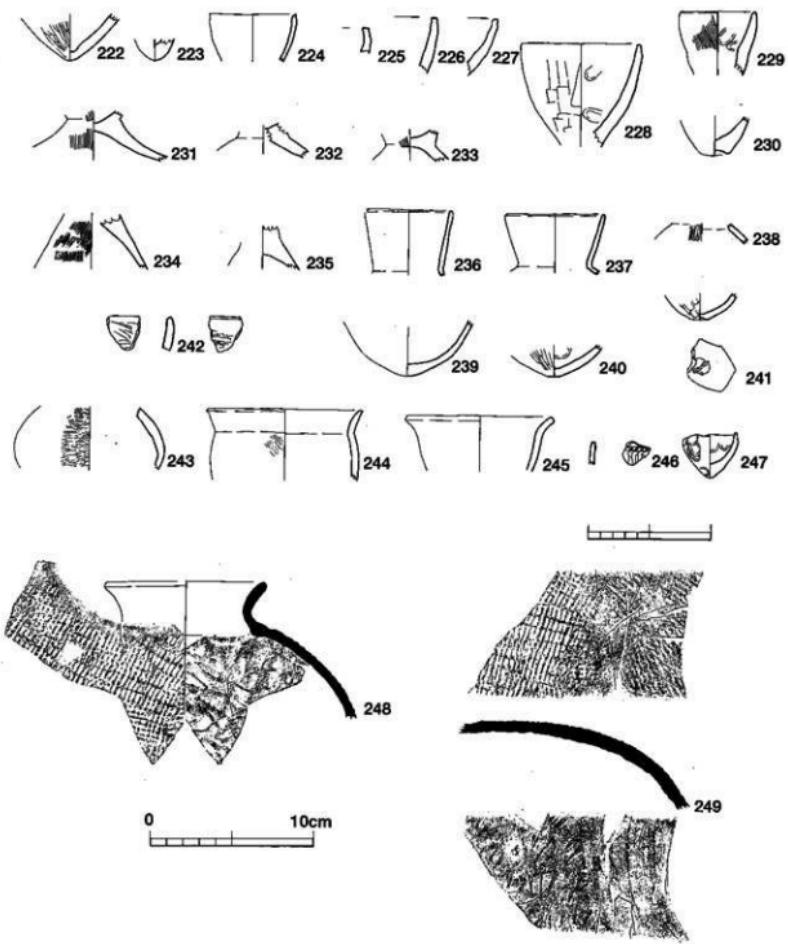
第36図 B1地区出土土器実測図 ($S = 1/4$)



第37図 B1地区出土土器実測図 ($S = 1/4$)



第38図 B1地区出土土器実測図 (S = 1 / 4)



第39図 B1地区出土土師器 ($S = 1/4$)・須恵器 ($S = 1/3$) 実測図

検出面からの深さ約0.1mを測り、2号竪穴状造構につながる。2号溝状造構(第40図)は東西に走り、長さ約19m前後、幅2m前後、検出面からの深さ約0.2~0.3mを測る。若干西側が低くなり、3号竪穴状造構につながる。出土遺物は第41図に示している。250・251は内面へラケズリの甕である。252は高台付坏、253は土師器の坏部である。3号溝状造構は東西方向に蛇行しながら走る溝で、1号・4号竪穴状造構と連結する。検出面からの深さ約0.1~0.2m程と浅い。4号溝状造構は1号竪穴状造構から流れ出す溝である。5号溝状造構は調査区の西側に位置する。等高線と平行して走り、長さ約7m、幅約

1.2m、検出面からの深さ約0.2mを測る。6号溝状遺構は調査区の東側に位置する。等高線に平行して走り、長さ約6m、幅約1.4mを測る。7号溝状遺構は5号竪穴状遺構につながる。遺物によって時期が判別できるものは2号溝状遺構のみであるが、埋土状況はすべて同じであるため、古代の遺構として捉えている。

遺構外出土の遺物

出土遺物は、甕・鉢・壺・高台付壺・黒色土器・須恵器・布痕土器などである。古代の遺物は、第IV層の遺物包含層中から多量に出土しており、特に1・2・3号炉跡周辺に集中している。

古代の遺物（甕・壺・高台付壺・黒色土器）に関しては、B1・2・4地区全体を通して形態及び調整技法から分類を行なうので、分類基準をここに示す。

第6表 古代の土器分類基準表

甕

A類 口縁端部をわずかにつまみ出し、外反するもの。

- 1 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 4 内器面ヘラケズリ、外器面タタキで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。

B類 口縁端部を大きくつまみ出し、外反するもの。

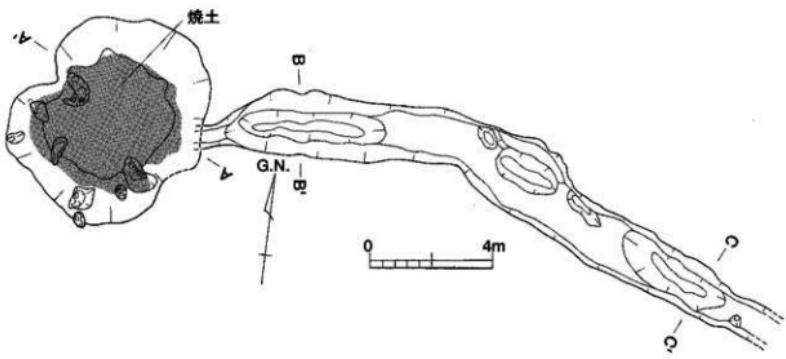
- 1 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。

C類 口縁部が直線的に延びるもの。

- 1 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 4 内器面ナデ、外器面ナデ

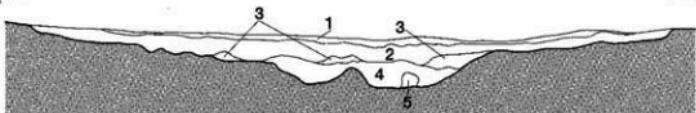
D類 口縁部が外反もしくは直線的に外方に開くもの。

- 1 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 4 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 5 内器面ヘラケズリ、外器面タタキで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 6 内器面ヘラケズリ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 7 内器面ヘラケズリ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 8 内器面ナデ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 9 内器面ナデ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。



A 210.600m

-A'



- 1 オリーブ黒色土…粒子が細かくさらさらしている。しまりがある。ガラス質粒、黄褐色粒を含む。
- 2 オリーブ黒色土…粒子が細かくさらさらしている。しまりがある。白色粒、黄褐色粒を多く含む。
- 3 暗オリーブ褐色土…やや軟質でしまりがある。黄褐色粒を多量に含み、炭化物粒、焼土粒を若干含む。
- 4 喰褐色土…やや軟質。焼土および焼土粒、炭化材を多く含む。
- 5 にぶい黄褐色土…硬質。焼土粒、炭化物粒を含む。

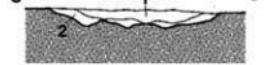
B 210.700m

-B'



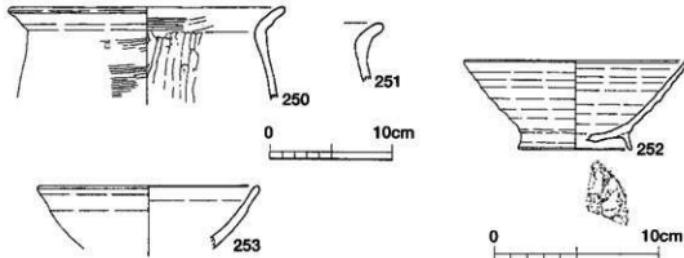
C 210.500m

-C'



- 1 黒色土…粒子が細かく、やや軟質。白色粒が含まれる。ガラス質粒を含む。
- 2 黒色土…粒子が粗く、ややしまりがある。暗オリーブ褐色土が混ざる。
- 3 暗オリーブ褐色土…粒子が細かく、軟質でしまりがない。フカフカしている。黒褐色土が若干混ざる。

第40図 B 1地区 3号竪穴状遺構(S Z 3)及び2号溝状遺構(S E 2)実測図
(S = 1 / 160、土層 S = 1 / 4)



第41図 B 1地区 2号溝状遺構(S E 2)及び4号竪穴状遺構(S Z 4)出土遺物実測図
(250・251、S = 1 / 4、252・253、S = 1 / 3)

E類 口縁部が大きく外方に開くもの。

- 1 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 2 内器面ヘラケズリ、外器面ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 3 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 4 内器面ヘラケズリ、外器面工具ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 5 内器面ヘラケズリ、外器面タキで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 6 内器面ヘラケズリ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。
- 7 内器面ナデ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持つもの。
- 8 内器面ナデとヘラケズリ、外器面回転ナデで、内面屈曲部に明瞭な稜を持たないもの。

坏

坏の底部は全てヘラ切りである。

A類 体部から口縁にかけて内湾気味に延びる。

- 1 口縁部が直行するもの。
- 2 口縁部が内湾するもの。
- 3 口縁部が外反するもの。

B類 体部から口縁にかけて直線的に延びる。

- 1 口縁が直行するもの。
- 2 口縁が外反するもの。

C類 体部から口縁にかけてやや外反気味に延びる。

高台付坏

A類 凹盤状高台

B類 高台

- 1 外方に延び、断面台形状になるもの。
- 2 外方に延び、先端が平坦気味に近いもの。
- 3 外方に延び、先端が丸味をもつもの。
- 4 外方に延び、先端が尖り気味になるもの。
- 5 外方に延び、先端が外反するもの。
- 6 外方に開き、先端が尖り気味になるもの。
- 7 外方に開き、先端が平坦気味になるもの。
- 8 外方に開き、先端が丸味をもつもの。
- 9 高台の高さが低く、断面台形状になるもの。
- 10 ほぼ直立し、断面台形状になるもの。
- 11 ほぼ直立し、先端が尖り気味になるもの。

黒色土器

坏部A類 体部から口縁にかけて内湾気味に延びる。

- 1 口縁部が直行するもの。
- 2 口縁部が内湾するもの。
- 3 口縁部が外反するもの。

坏部B類 体部から口縁にかけて直線的に延びる。

底部A類 高台なし

底部B類 高台付坏

- 高台 1 外方に延び、先端が丸味をもつもの。
2 外方に延び、先端が平坦になるもの。
3 ほぼ直立し、断面三角形状になるもの。
4 ほぼ直立し、断面方形状になるもの。
5 内湾し、先端が丸味をもつもの。

B 1 地区出土の古代の土器について分類する。

壺（第42～44図）

A類-1 : 254	D類-1 : 269～273	E類-1 : 287、288
A類-2 : 256、258、259	D類-2 : 276～280	E類-2 : 289、290
A類-4 : 255	D類-3 : 274、275	E類-4 : 291
B類-1 : 260	D類-4 : 281	E類-7 : 293、294
B類-2 : 264、265	D類-5 : 282～284	E類-8 : 295、296
B類-3 : 262、263	D類-6 : 285	
C類-1 : 266	D類-7 : 286	
C類-4 : 268	D類-8 : 286	

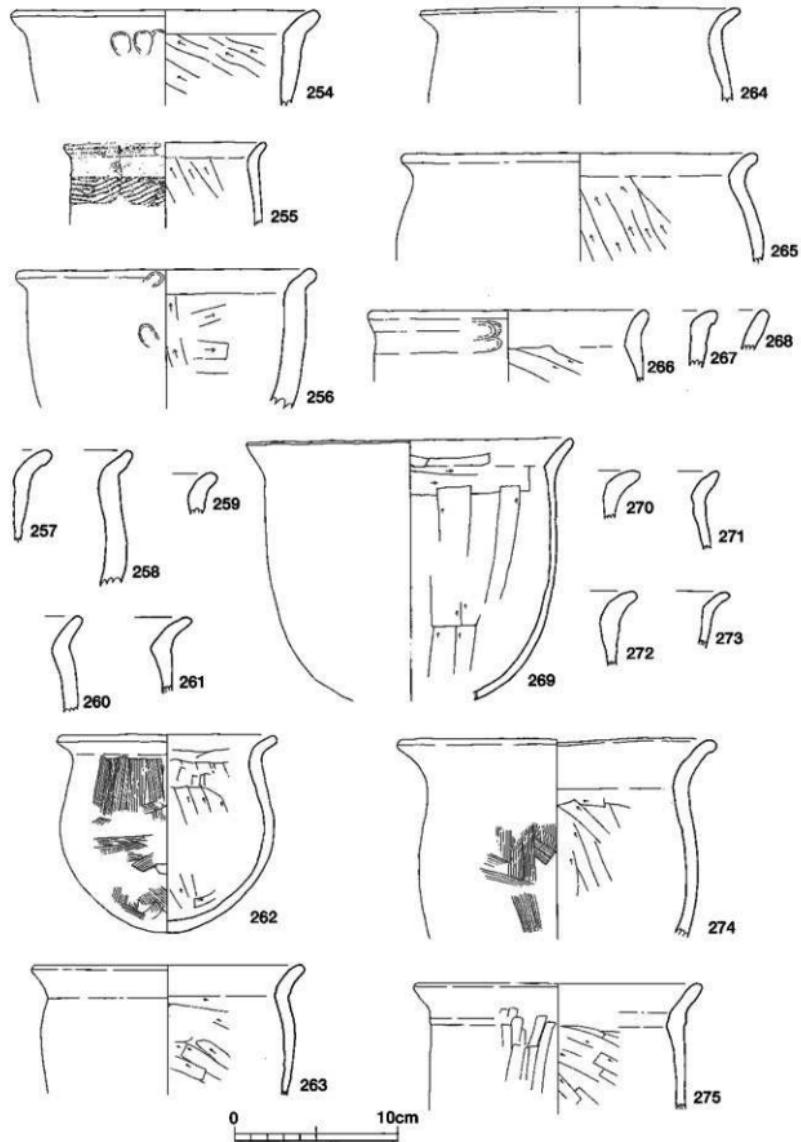
297～299は鉢である。297は口縁部が外方に開き、内外器面ともナデ調整である。298・299は口縁部をつまみ出して外反させ、内面屈曲部に明瞭な両を持つ。外器面には格子目タタキが施されている。

坏（第44～45図）

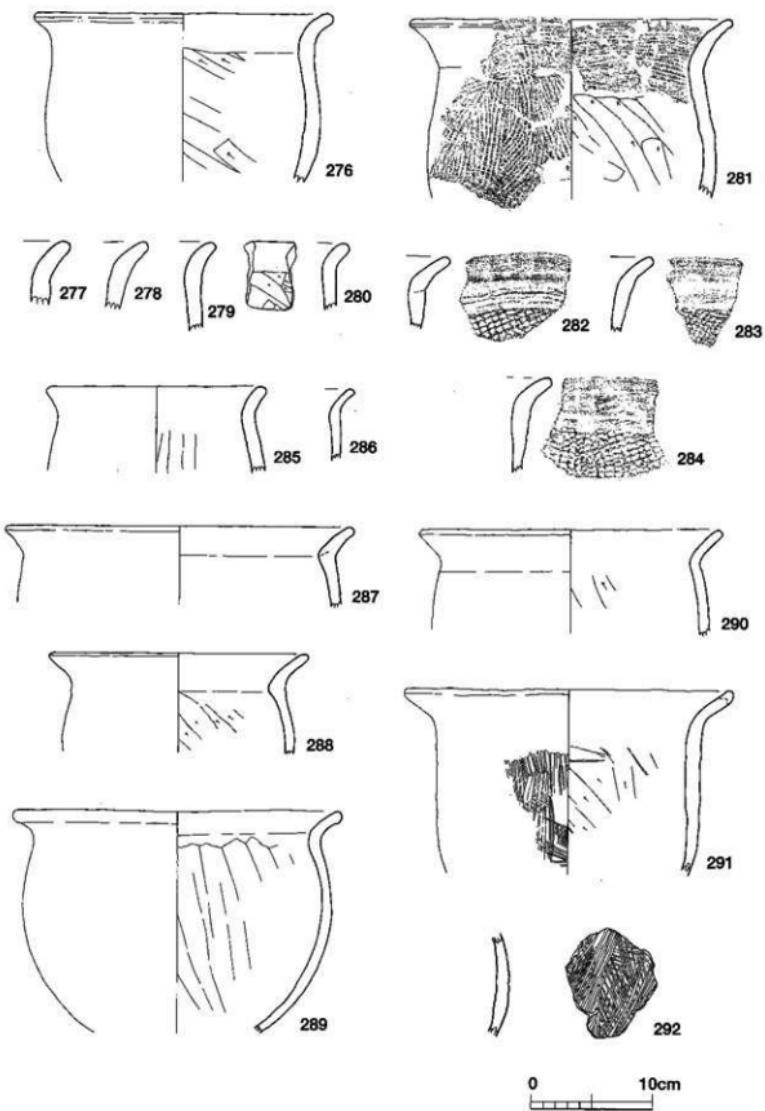
A類-1 : 300、301、304～314	B類-1 : 315
A類-2 : 302	C類 : 316
A類-3 : 303	

高台付坏（第45～46図）

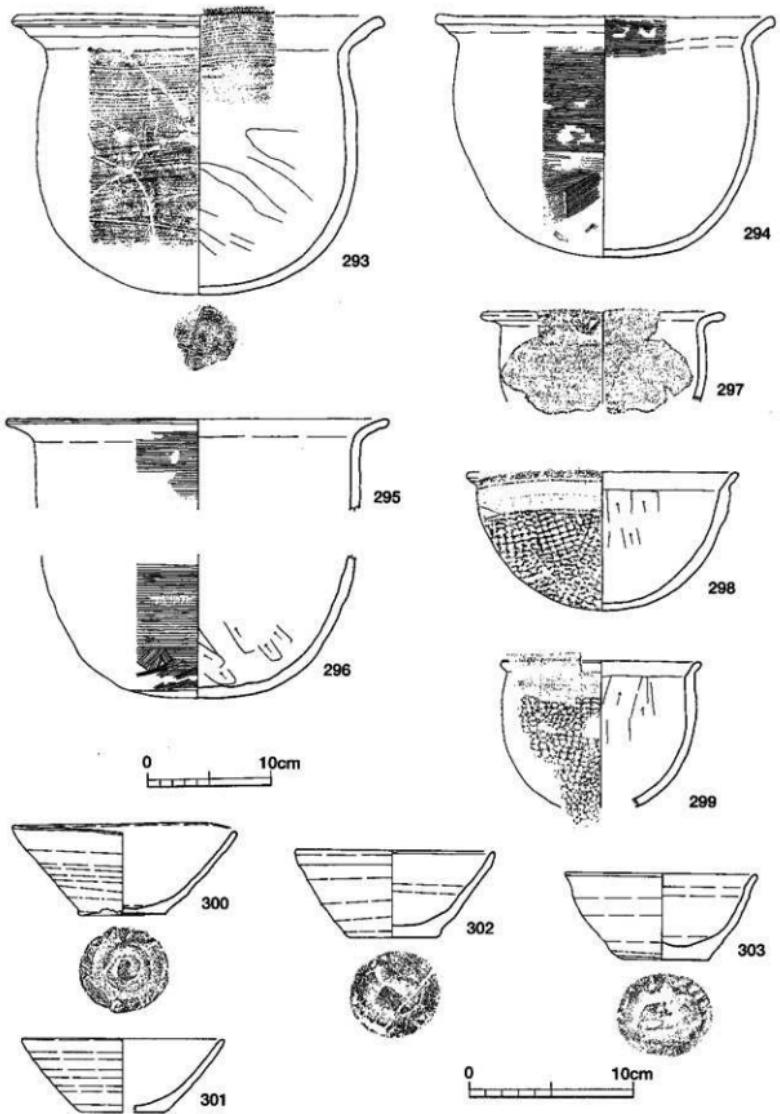
A類 : 322	B類-6 : 327、328、338
B類-1 : 323	B類-7 : 336
B類-2 : 326	B類-9 : 324、325
B類-3 : 339	B類-10 : 337



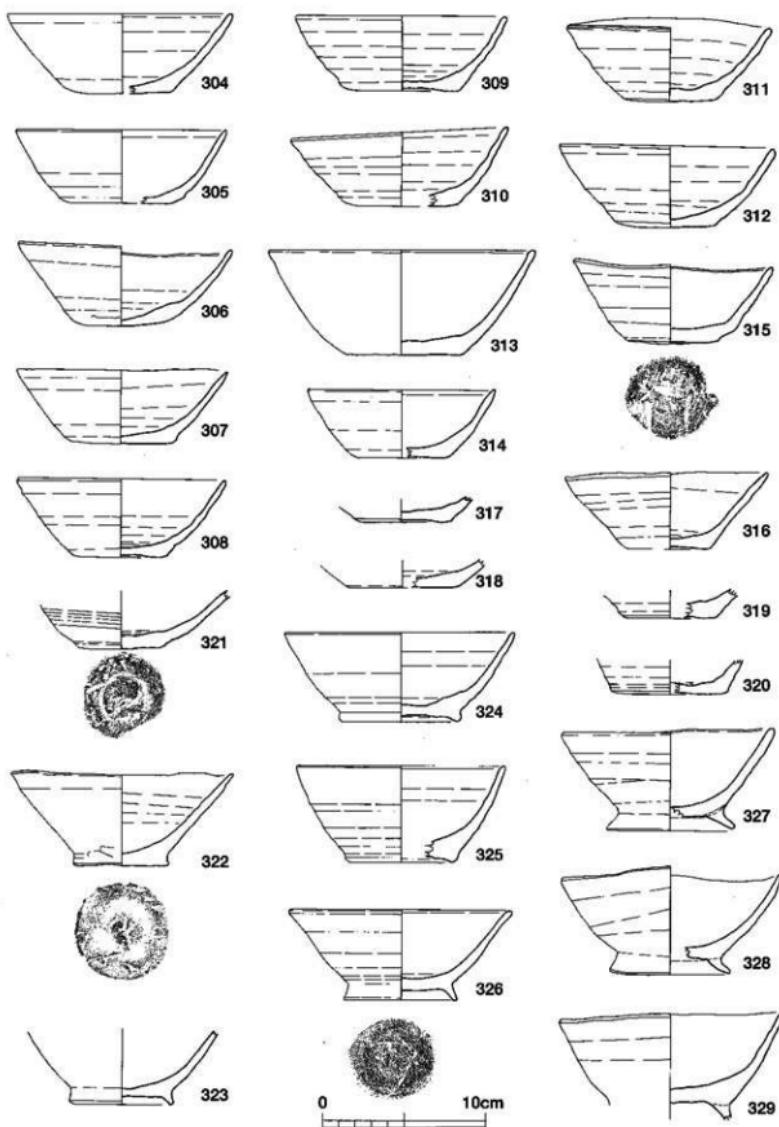
第42図 B1地区出土土師器実測図 (S = 1/4)



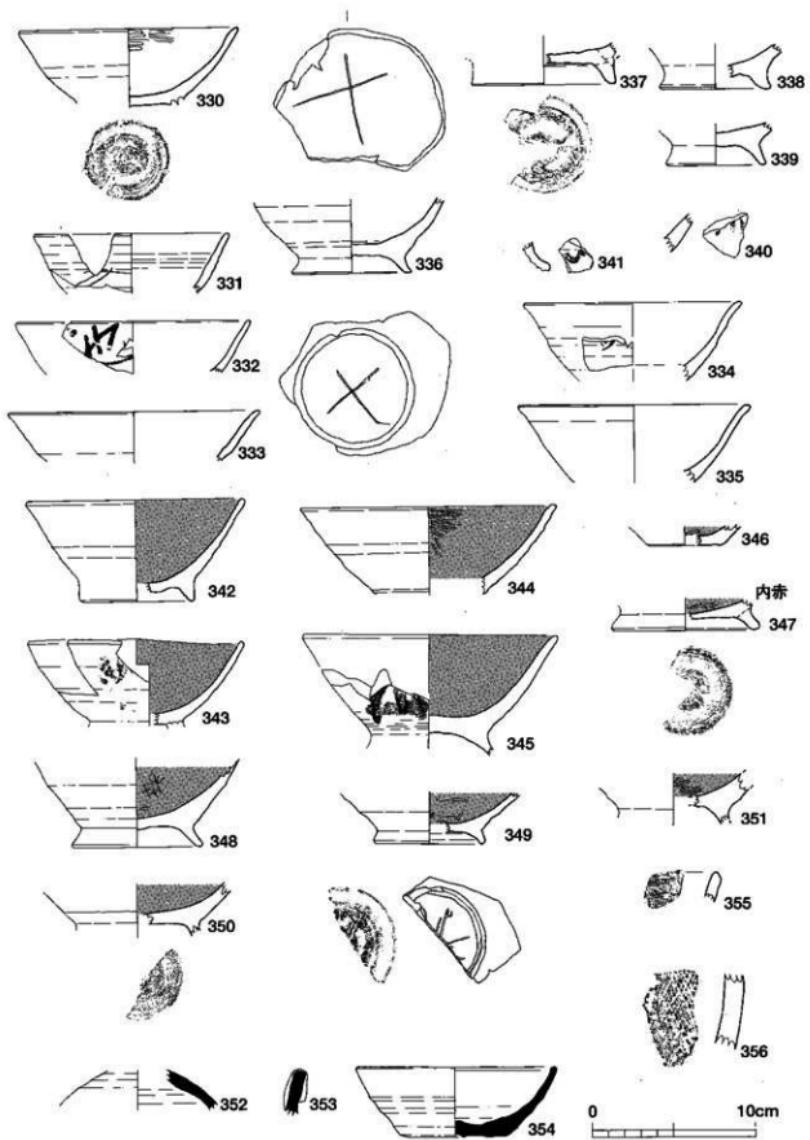
第43図 B1地区出土土師器実測図 (S = 1/4)



第44図 B1地区出土土器実測図 (293~299, S = 1/4, 300~303, S = 1/3)



第45図 B1地区出土土器実測図 (S = 1 / 3)



第46図 B1地区出土土器・須恵器実測図 (S = 1 / 3)

331は体部に線刻がみられる。332・340・341・344は墨書き土器である。332は「他」か。341は器種、部位が不明であるが、ここでは、高台として捉えている。336は内面底部と高台内にヘラ記号「+」が記されている。

黒色土器（第46図）

底部A類：346

底部B類-1：347、348

底部B類-3：342

底部B類-5：349

343・345は墨書き土器である。347は内赤土器である。349は高台内に線刻がみられる。

須恵器（第46図）

352は小型壺の頸部付近である。353は壺の口縁部である。354は壺で、底部ヘラ切りである。

布痕土器（第46図）

355と356は内面に布目圧痕を持つ壺であると思われる。

（4）その他の遺構と遺物

掘立柱建物跡（S B 1～3、第47図）

掘立柱建物跡は、3棟検出された。当遺跡では、柱穴の検出にかなり困難を要し、さらに柱穴が検出されても、建物の確認は容易でなかった。今回確認された建物は、1間×2間、2間×3間のものである。柱穴から出土した遺物は古墳時代や古代の土師器片、砥石、磨石などである。柱穴間の距離については図に示している。

・1号掘立柱建物跡（S B 1）

調査区の東側中央に検出された。主軸をN-41°-Eにとる1間×2間の建物である。梁3～3.2m、桁行4mを測る。柱穴径は20～30cmで、深さは40～80cmである。

・2号掘立柱建物跡（S B 2）

調査区の東側中央、3棟並ぶ掘立柱建物跡の一一番北側に位置する。主軸をN-85°-Wにとる2間×3間の建物である。梁5.5m、桁行5.2mを測る。柱穴径は15～40cmと格差があり、底レベルも一様ではない。

・3号掘立柱建物跡（S B 3）

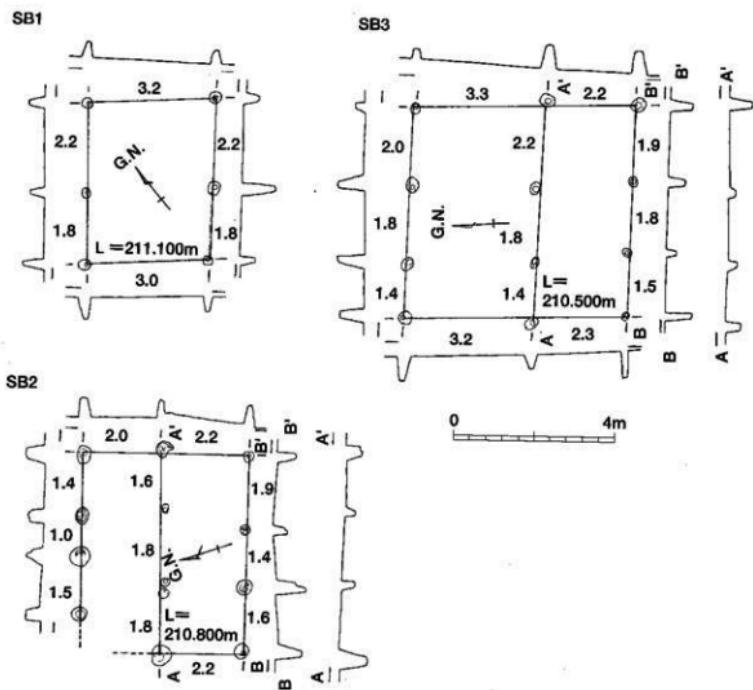
調査区の東側中央、1号と2号掘立柱建物跡の間に位置する。主軸をN-70°30'-Wにとる2間×3間の建物である。梁4.2m、桁行4.9mを測る。柱穴径は15～40cmと格差があり、底レベルも一様ではない。北西側の柱穴は確認できなかった。

土壤

検出された土壤は総数20基である。出土遺物などから時期が判別出来るものは2基（古墳時代：SC3・SC19）だけである。埋土の状況から見て、畝状造構の時期に伴うものとそれ以前の時期のものとに大きく分けることができると思われるが、ここでは時期不明の土壤として分類している。紙面の都合上造構図を示すことが出来ないので、2号土壤と12号土壤についてのみ記述し、その他については第7表土壤計測表にまとめる。

第7表 B1地区土壤計測表

土壤番号	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	備考
SC1	隅丸長方形	(5.0)	1.4	0.3	炭化材を多く含む	
SC2	隅丸長方形	2.2	1.0	0.8	炭化材：クスノキ出土	
SC3	不定楕円形	3.3	1.0	1.0		
SC4	不定円形	3.15	2.75	0.3		
SC5	不定楕円形	2.6	2.1	0.26		
SC6	不定円形	1.6	1.45	0.3		
SC7	円形	1.0	1.0	0.16		
SC8	楕円形	1.15	0.8	0.26		中央に 深さ0.74mのピット
SC9	円形	1.15	1.05	0.21		
SC10	不定形	2.35	2.1	0.38		
SC11	不定形	2.5	1.5	0.38		
SC12	不定形	4	0.5	0.25	炭化材：クスノキ出土	長軸両端に 深さ0.55mのピット
SC13	不定形	4.2	4.0	0.1		豊穴状造構(SZ) と同じ性格か
SC14	楕円形	1.4	1.0	0.19		
SC15	不定楕円形	1.55	1.08	1.33		
SC16	不定型	4.4	3.6	0.2		豊穴状造構(SZ) と同じ性格か
SC17	円形	1.1	1.0	1.4		
SC18	楕円形	2.45	1.6	1.85		
SC19	長楕円形	2.85	1.35	0.2	古墳時代：壺、甕	
SC20	長楕円形	(1.8)	0.75	0.25		



第47図 B1地区1・2・3号掘立柱建物跡 (SB1・2・3) 実測図 ($S = 1/120$)

○ 2号土壤 (SC2、第48図)

調査区の南東側、第IV層上で検出した。土壤の落ち込み本体は長軸約2.3m、短軸約0.8m、深さ約0.75mの隅丸長方形を呈する。地形が西から東に緩傾斜しているため、土壤に向かって水の流れ込みがあったのか、検出時には幅1.6m程の溝状のにじみであった。土壤埋土には、焼土や炭化材がみられ、炭化材は土壤の壁面に薄く張りついていた。炭化材について自然科学分析を行なった結果、クスノキの炭化材であることがわかった。土壤壁面は硬化しており、水の浸透によって鉄分が沈着している。性格不明の土壌である。

土層記述

- 1 黒色土……軟質でサラサラしている。ガラス質細粒子含む。(基本層序第III—b層か)
- 2 黒褐色土……第1層より粒子が粗で、しまりあり。ガラス質粒子多く含む。(基本層序第III—c層か)
- 3 黒色土……しまりあり。ガラス質粒子。御池ボラ粒含む。
- 4 にぶい黄褐色土……ややしまりあり。黒褐色土が混在する。

- 5 オリーブ黒色土……しまりあり。小石粒を若干含む。
- 6 暗赤褐色土……非常に硬く、しまりあり。細粒子土。
- 7 黒色土+褐色土（焼土）……やや軟質。
- 8 オリーブ褐色土……軟質でやや粘性あり。
- 9 黒褐色土……軟質。第7層土、御池ボラ粒を若干含む。やや粘性あり。
- 10 黒色土……第9層より粘性あり。軟質。炭化物粒含む。
- 11 灰色土……非常に硬い。壁面側には鉄分の沈着がみられる。
- 12 黑褐色土……ややしまりあり。
- 13 黑褐色土……ややしまりあり。御池ボラ粒をわずかに含む。
- 14 暗褐色土……軟質でもろい。炭化材を含む。
- 15 黒色土……第9層とほぼ同じ。若干御池ボラ粒を多く含む。
- 16 黑色土……もろく崩れやすい。炭化材が入っている。
- 17 黑色土……第10層とほぼ同じ。若干しまりあり。
- 18 黑褐色土……硬質。御池ボラ粒、炭化物粒を小量含む。
- 19 暗オリーブ褐色土……やや軟質。炭化物粒を若干含む。
- 20 暗褐色土……やや軟質。
- 21 暗オリーブ褐色土……ややしまりあり。

・12号土壤（S C12、第48図）

調査区の南西部、東から西に傾斜する斜面に位置する。長軸4m、短軸1.8m、検出面からの深さ約0.5mの不整形プランを呈する。底には2本の柱穴痕があり、その内の1本には炭化材が残っていた。自然科学分析によると炭化材はクスノキである。性格不明の遺構である。

土層註記

- 1 黒色土……軟質で粘性あり。炭化物粒を多く含む。赤褐色土（焼土か）を若干混在する。
- 2 黑褐色土……軟質で粘性あり。炭化物粒を含む。
- 3 黑褐色土……軟質。炭化物を非常に多く含む。

炉跡

B1地区では、レンズ状に堆積する焼土が第IV層上で3基検出された。平面プランで観察すると、焼土が中央にあり、その周囲には地山よりにぶい色の暗褐色土が広がっていた。上面には古代の土器片が多く集中しており、10cm～大きいもので30cm程の安山岩や軽石などの礫が配石されているものもある。3基とも建物に伴うものではなく、屋外の炉としての利用が考えられる。炉の構造については2つの考え方がある。掘り型を持つか持たないかであるが、幾つかの疑問は残るが、前者の掘り型を持つ炉として捉えたい。畝状遺構との前後関係については、畝状遺構が炉跡を切っており、畝状遺構が遺物や礫石を散乱させたものと思われる。

・1号炉（S R 1、第49図）

調査区東側中央に位置する。掘り型は、長軸1.4m、短軸1.1m、検出面からの深さ約0.3mの橢円形プランである。その中に長軸1.1m、短軸0.8m、深さ約0.1mの橢円形プランに焼土が堆積している。炉跡の南東側には、焼土と掘り型に埋められた土との境に、30cm程の大きさの輕石2つと、安山岩1つが配石されていた。礫の内側は赤変している。炉の使用面は、焼土を取り除いた部分の凹み部であると考えられるが、壁面や底が焼け付いた様子は見られない。掘り型に埋められた土が若干シルト質でしまりのある黒褐色土になっている。炉の埋土や周辺には炭化物や灰などが見られる。熱による影響の為か、炉の周辺直径約3mに暗褐色土にじみがある。遺物は焼土内を中心に掘り型の埋土からも出土している。

。2号炉（S R 2、第49図）

1号炉跡の東側に位置する。掘り型は、長軸1.3m、短軸1.04m、検出面からの深さ約0.34mの橢円形プランを呈する。中央には長軸1.06m、短軸0.82m、深さ0.22mに橢円形プランに焼土が堆積している。1号炉と同じ特徴を持つ炉であるが、配石は無い。熱の影響からか、炉の周辺は直径3m程が暗褐色土にじみが見られる。遺物は焼土内からわずかに出土している。

。3号炉（S R 3、第50図）

調査区南西側の平坦地に位置する。掘り型は、直径約1.24m、検出面からの深さ約0.3mの円形プランを呈する。中央には長軸0.9m、短軸0.75m、深さ約0.2mの隅丸長方形プランに焼土が堆積している。1m程西には焼土がわずかに堆積する凹みがあり、炉の北側の凹みからは、鉱滓（銀銅製？図版P.238②）が出土している。炉の周辺は炭化物や灰が混在する暗褐色土にじみが広がり、鉱滓出土付近には銀銅の碎片が散らばっていた。炉の形態は1・2号炉と同じである。炉の底にある柱穴は炉に伴うものでは無いと思われる。遺物は焼土上にわずかに出土している。

陥し穴状遺構

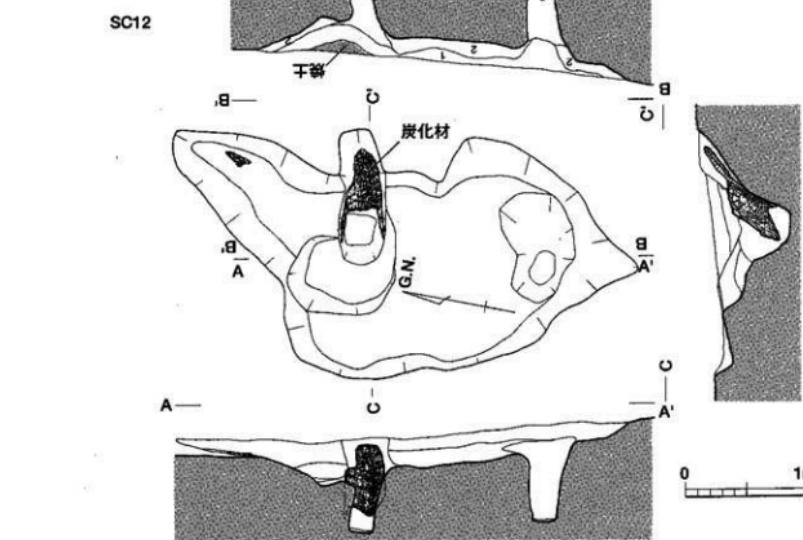
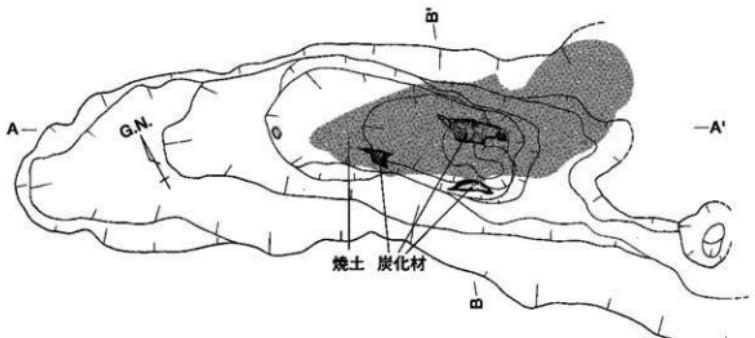
。1号陥し穴状遺構（S T 1、第51図）

調査区南側の若干東寄り、第IV層上で検出した。東に傾斜する地形の平坦面に、等高線とほぼ平行する方向（北北西—南南東）に長軸を持つように作られている。長軸2.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ1.1mの隅丸長方形プランである。底中央一列に直径8～10cm、深さ30cm程の小ピットが6本（平面では7本確認できるが1本は浅い）検出された。埋土堆積状況から見ると、高原スコリアが小ピット内に堆積していることから、中世以降に作られたものと推測される。遺物は出土していない。

。2号陥し穴状遺構（S T 2、第51図）

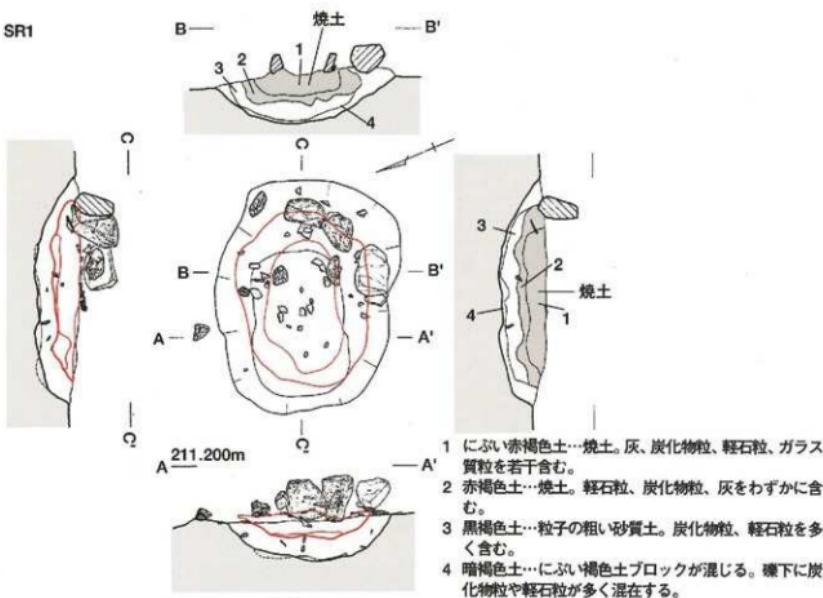
1号陥し穴状遺構の北側、第IV層上で検出した。等高線とほぼ直行する方向（東—西）に長軸を持つ。長軸2.1m、短軸0.7m、検出面からの深さ約1.06mの長方形プランを呈する。底には直径6cm、深さ24～30cm程の6本の小ピットが検出された。小ピットの配列状況は1号陥し穴状遺構と異なるが、遺構プランと埋土堆積の状況から見て、同時期に存在したものと推定される。遺物は出土していない。

SC2

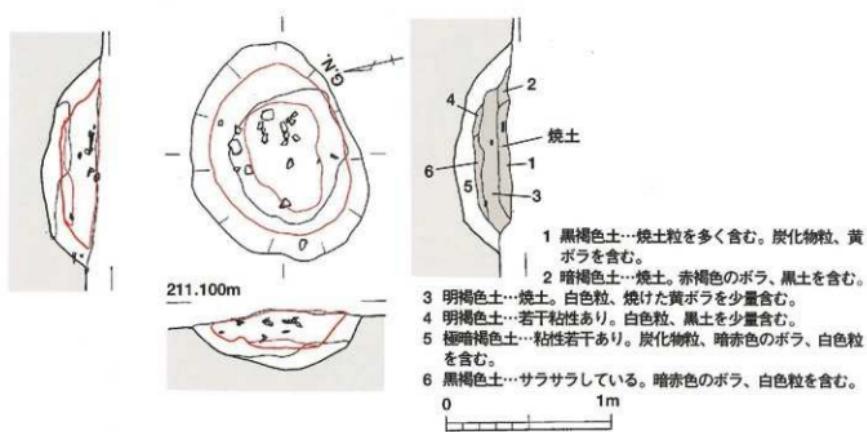


第48図 B1地区2・12号土壤(SC2・12)実測図(S=1/40)

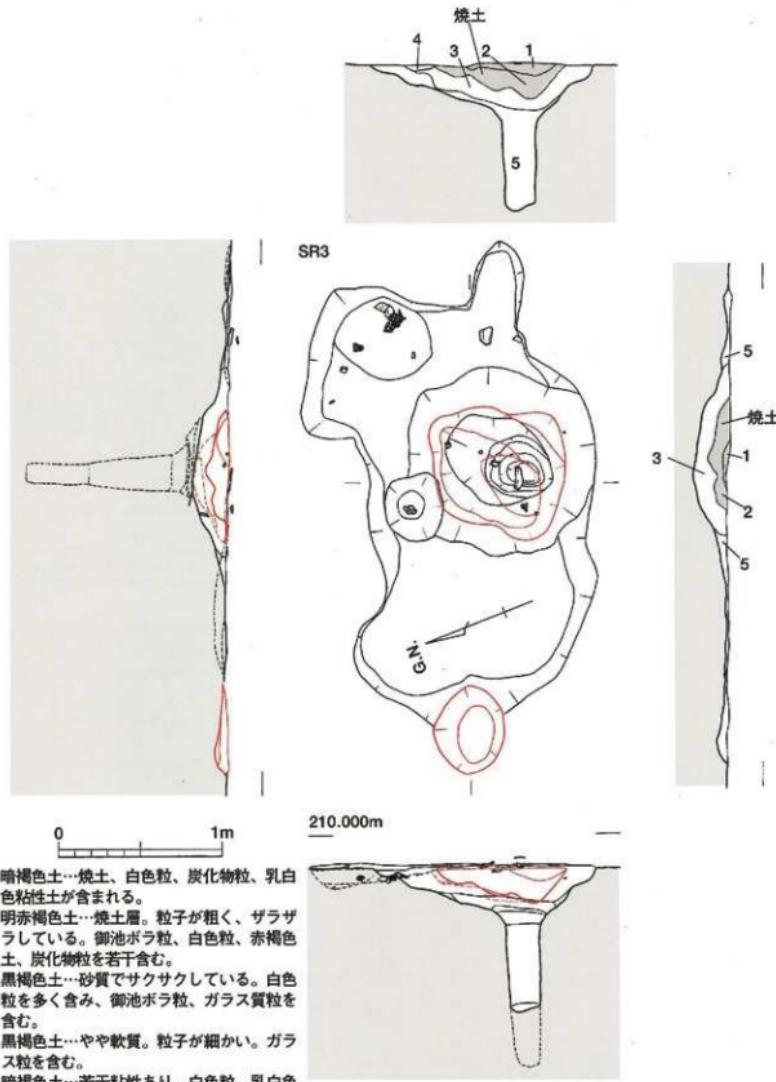
SR1



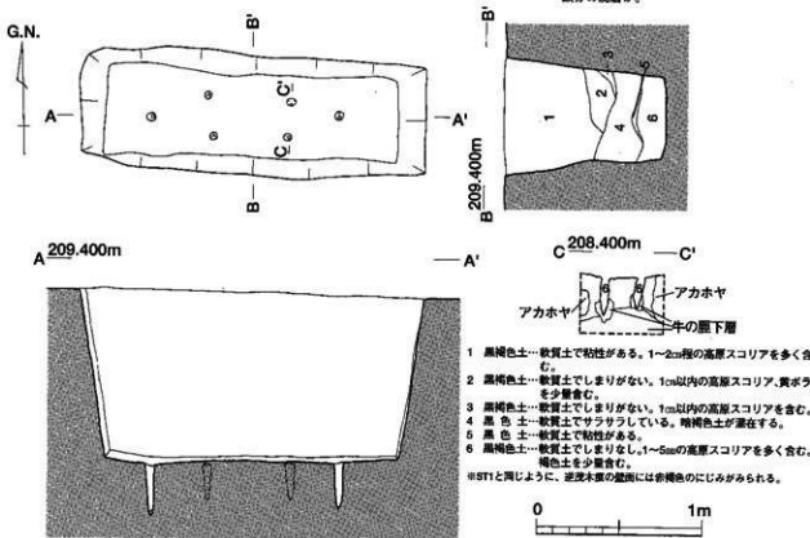
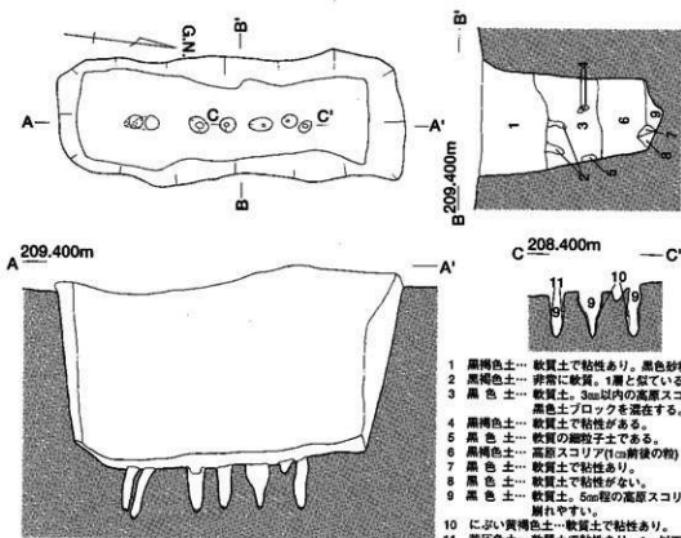
SR2



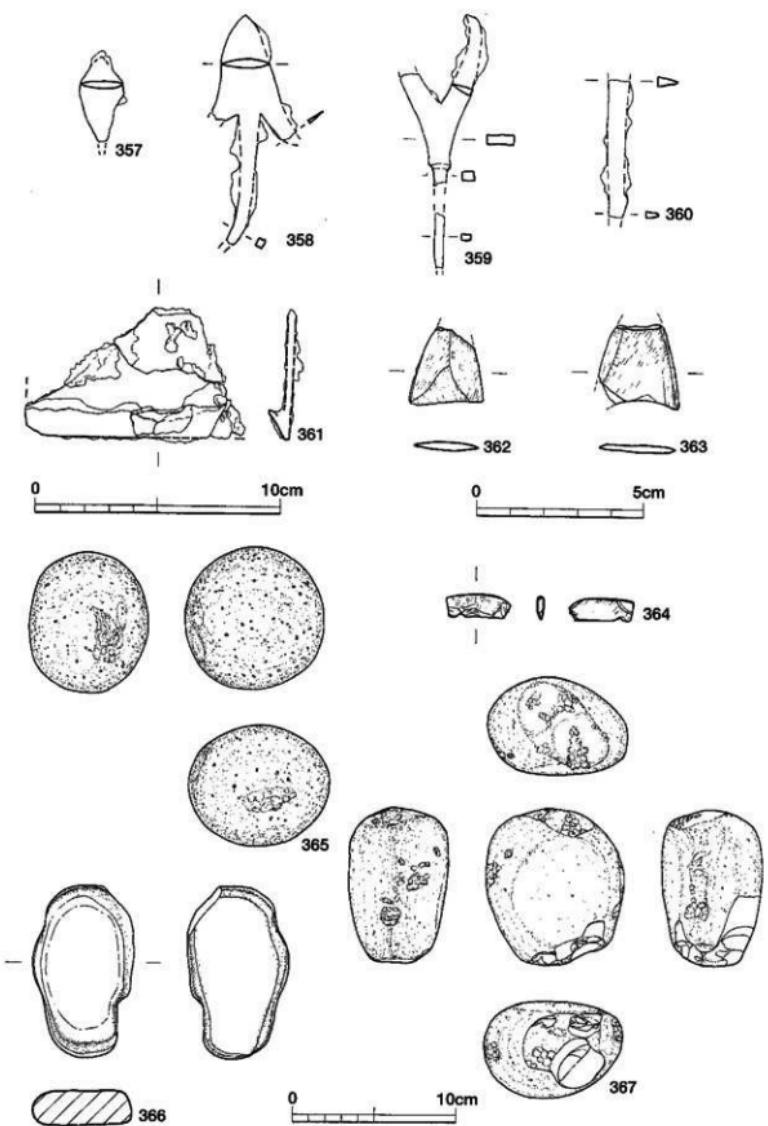
第49図 B1地区1・2号炉跡 (SR1・2) 実測図 (S=1/30)



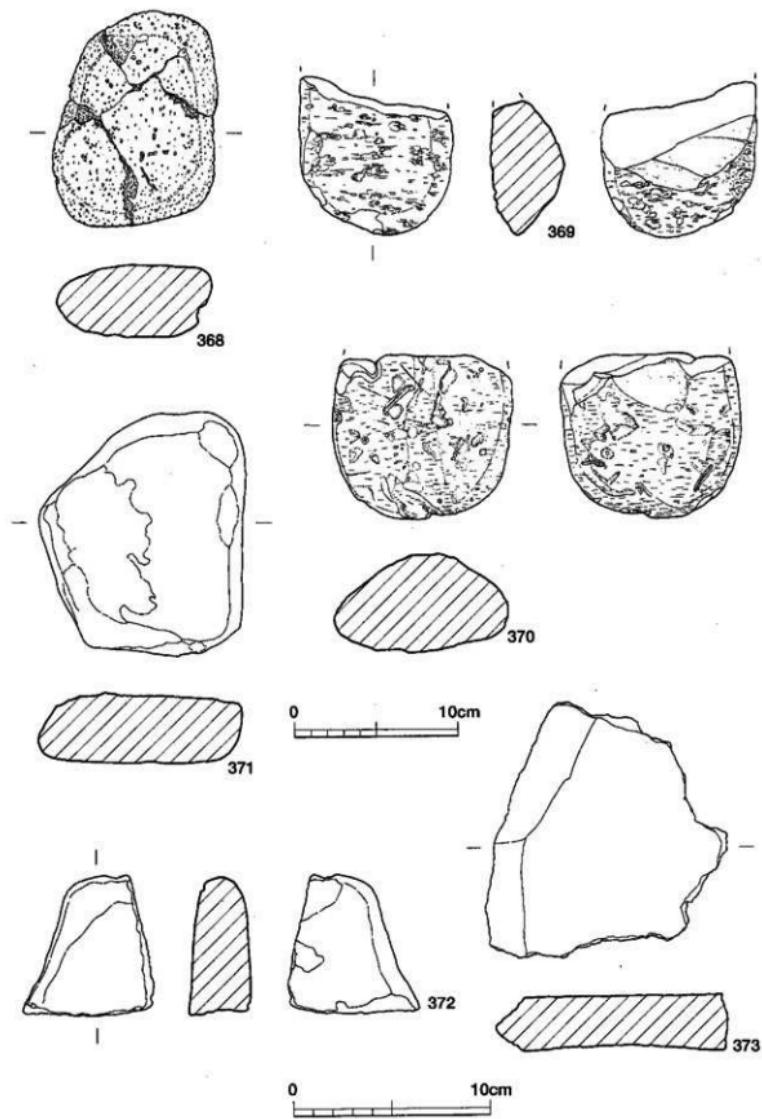
第50図 B1地区3号炉跡 (SR3) 実測図 (S=1/30)



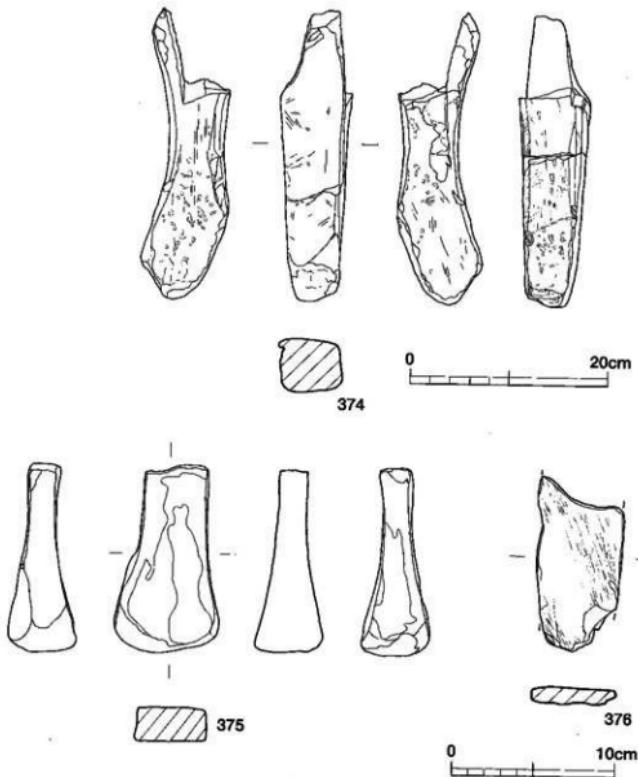
第51図 B1地区1号・2号陥し穴状遺構(ST1・2)実測図(S=1/30)



第52図 B1地区出土鐵器 ($S = 1/2$)・石器実測図 (362・363, $S = 2/3$, 364~367, $S = 1/3$)



第53図 B1地区出土石器実測図 (368~371、S = 1 / 3, 372・373、S = 2 / 5)



第54図 B 1 地区出土石器実測図 (374、S = 2 / 5, 375・376、S = 1 / 3)

包含層の遺物

357~359は鉄鎌である。357は残存長約3.2cmを測る。弥生時代のものか。358は残存長約10cm前後を測る。古墳時代のものか。359は雁股鎌である。残存長11cm前後を測る。古代のものか。360は刀子の基部か。残存長は5.8cmで、時期は不明である。361は鉄製品であるが、器種不明である。鋤先などの道具か。362・363は磨製石鎌である。362は頁岩製で、363は凝灰岩製か。364は頁岩製の石庖丁の剥片か。365は尾鈴山酸性凝灰岩製の磨石である。366は安山岩製の磨石、367は安山岩製の敲石である。368は凝灰岩製の磨石である。369・370は軽石製品である。371~373は安山岩製の台石である。374~376は安山岩製の砥石である。

(5) 小結

遺構密度に比べて、遺物の密度が高いことがいえる。古代の遺物が集中しているのは炉跡周辺であるが、炉跡以外に関連遺構が確認されていない。遺構についても、遺物を伴うものは少なく、焼土や炭化材を出土する性格不明の遺構が多くみられる。このような状況から生産遺跡と生活遺構の在り方について多くの疑問点が残されている。

第8表 B1地区出土遺物観察表(1)

遺物 番号	種別	埋 蔵 部位	出土 地點	法 量(m)	手法・測量・文様ほか				色 調	地 質 の 特 徴	備 考
					口徑 外 径	底 径 内 徑	高 さ 外 面	内 面			
76 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1	(38.6)		口縁部は麻状工具による割位の押出し 文、ヘラナメ	ナデ、ヘラナメ	暗褐、黒褐	に赤・黄褐、 赤褐色	1mm以下の乳白・白色の粒	同一個体	
77 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			口縁部は斜面削り目、 口縁部は斜面削り目による割位の押出し文	ナデ	暗褐、黒褐	に赤・黄褐、 赤褐色	1mm以下の乳白・白色の粒		
78 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			ナデ、鉛文、 スス付管	ナデ	に赤い塊	に赤い塊	2mm以下の灰白色の粒	波状口縁	
79 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			弧状に鉛文、ナ デ、横筋に貞穀 像、スス付管	ナデ、風窓	に赤い塊	に赤い塊	2mm以下の浅青・褐色の粒、4mm以下 の褐色粒、1mm以下の透明光沢粒		
80 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			ナデ、円形貼付文、 貞穀像、スス付 管	ナデ、貞穀像、 黑斑	に赤い塊	黄褐	3mm以下の統黄色の粒、7mm以下の灰 白色の粒		
81 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			鉛文、実界にそっ て刻み目、ナデ、 スス付管	ナデ、鉛文	黄褐、に赤 い塊	黒	3mm以下の褐灰色の粒、1mm以下の透 明光沢粒		
82 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			ヘラ状工具による 連続鉛文	氯化著しく調査不 明	に赤い塊	に赤い塊	1mm以下の浅青・灰白色の粒、0.5 mm以下の透明光沢粒	波状口縫	
83 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			赤褐、貼り付け突 起に指紋	ナデ	に赤い黄褐	に赤い黄褐	2mm以下の白色の粒、0.5mm以下の透 明光沢粒		
84 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			弧状の北緯文、ナ デ	粗なナデ	に赤い塊	に赤い塊	2mm以下の淡青色の粒、 1mm以下の透明光沢粒		
85 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			弧状の北緯文	氯化著しく調査不 明	に赤い塊	に赤い塊	2mm以下の淡青・灰白色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒		
86 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1			新方向に4条の北緯 が交叉してある	朱痕跡ナデ	に赤い塊	に赤い塊	2mm以下の灰白色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒		
87 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1	11.7		ナデ、粗なナデ	ナデ、指痕跡、炭 化物付管	に赤い塊	明赤褐	4mm以下の赤褐、 3mm以下の透明光沢粒		
88 瓦文 口縁	瓦 口縁	田地区 S1	(8.7)		ナデ	ナデ、指痕跡、貝 殻状	に赤い塊	に赤い塊	3mm以下の赤褐、 透明光沢粒		
100 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1	12.95		縦ハケ目、 ナデ	横ハケ目	褐	褐、に赤い 黄褐	3mm以下の茶・茶・灰・黑褐色の粒、 透明光沢粒		
101 土師器 茶 口	土 器	田地区 S1	(5.0)		工具ナデ	ナデ	褐	に赤い黄褐	5mm以下の黒・灰・褐色の粒		
102 土師器 口 底	土 器	田地区 S1			ナデ	ナデ	に赤い黄褐	褐、淡黄褐	4mm以下の黒・灰・褐色・棕・乳白色の 粒		
103 上部器 茶 口-底	土 器	田地区 S1	(38.2)		ナデ、 貼付剥り目突起	ナデ	に赤い塊、 に赤い塊	に赤い塊、 に赤い塊	1mm以下の黒・乳白色の粒、透明光 沢粒、3mmの透明光沢粒	同一個体	
104 土師器 茶 口	土 器	田地区 S1	(4.4)		ナデ、工具ナデ	ナデ	に赤い塊、 に赤い塊	褐褐、 に赤い黄褐	3mm以下の白褐・褐褐色の粒、透明・ 黑色光沢粒		
105 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1			ナデ	ナデ	に赤い塊	黄褐	2mm以下の赤褐・黑褐色の粒		
106 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1	(4.6)		ハケ目、ナデ、 スス付管、氯化鉄 気味	ナデ、ハケ目、 指痕跡、黑褐、 氯化鉄氣味	に赤い塊、 赤褐色	褐	4mm以下の茶・褐・黑色の粒		
107 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1	(2.1)		工具器、ナデ、 氯化鉄氣味	ナデ	淡黄	淡黄	2mm以下の灰白・灰褐・灰褐色の粒、 透明・黑色光沢粒		
108 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1	(27.7)		タキナ	工具ナデ、指痕跡、 ナデ	褐、淡黄褐	褐、淡黄褐	3mm以下の茶・灰・褐褐色の粒、 2mm以下の茶・茶・乳白色の粒	同一個体	
109 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1	4.7		タキナ、タキナ後 指痕跡、指痕跡	ナデ、指痕跡、黑 茶	に赤い黄褐	明赤褐	3mm以下の乳白・褐・灰色の粒		
110 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1	(23.7)	5.3	27.7	ハケ目、ナデ	粘土のつなぎ目、 指痕跡、ハケ目 の蒙ナデ	褐褐、 黄褐	2mm以下の乳白色の粒、 1mmの灰・透明光沢粒		
111 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1		5.45	工具器、氯化鉄氣味、 ナデ	ナデ、ハケ目、 黑茶	明赤褐、 暗赤褐	褐、 暗赤褐	3mm以下の茶褐色の粒、 2mm以下の透明・黑色光沢粒		
112 上部器 茶 口-底	土 器	田地区 S1	(3.75)		工具氣、氯化鉄氣味、 ナデ	ナデ、氯化鉄氣味	に赤い黄褐	に赤い黄褐	3mm以下の茶褐色の粒、 2mm以下の褐色・灰褐色、 3mm以下の茶褐色の粒、 1mm以下の黑色光沢粒		
113 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1			ナデ、指痕跡、 加羅	ナデ、風窓	に赤い塊、 褐褐	2mm以下の灰・灰褐色、 に赤い塊、 褐褐	2mm以下の茶褐色の粒、 透明・黑色光沢粒		
114 土師器 茶 口-底	土 器	田地区 S1		18.2	ナデ、指痕跡、 スス付管	ナデ、指痕跡、 基土のつなぎ目	に赤い塊、 褐褐、 に赤い塊、 褐褐	2mm以下の茶褐色の粒、 2mm以下の茶褐色、 3mm以下の茶褐色の粒、 透明・黑色光沢粒			
115 土師器 茶 口	土 器	田地区 S1		4.0	ナデ	ナデ、工具器、指 痕跡	褐	に赤い黄褐	4mm以下の茶褐色的 3mm以下の褐色の粒		
116 土師器 茶 口	土 器	田地区 S1			ナデ、スス付管	ナデ	褐赤褐	に赤い黄褐	3mm以下の茶・灰褐・黑褐・茶褐色 の粒	117と 同一個体	

第9表 B1地区出土遺物観察表(2)

遺物 番号	種別	埋 置 位 置	山 上 地 点	法 量(cm)	手・脚・頭・文様ほか		色 調		地 上 の 特 徴	考 考		
					口 括 弧	底 経 度	高 度	外 面	内 面			
117	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					ナデ、スス付着	ナデ	暗灰黄 に赤い斑点	4mm以下の黒・黒褐・黄褐・灰褐、 本體・白灰色の粒	116と 同一個体
118	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(5.4)				縦斜ハケ口、底変	斜ハケ口、工具痕、 底変	橙	橙	1mm以下の中色・透明光沢粒、 2mm以下の中色・灰・乳白色の粒
119	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					ナデ、スス付着、 斜付着ふ目突起	ナデ	に赤い斑点	に赤い斑点	
120	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(18.0)				ナデ	ナデ、底変	橙	明黄色、薄 灰	1mm以下の中色・半透明光沢粒
121	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	17.0				ナデ、縦ギザ、 斜ハケ口、底変	工具ナデ、横・斜 ギザ、指痕痕、 防生土つまみ、 スス付着	橙、に赤い 斑点	に赤い斑点、 明黄色	3mm以下の黒葉・赤褐色の粒、 透明光沢粒
122	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	27.55	(8.9)			ナデ、指痕痕、 スス付着	ナデ、指痕痕、底 付着	浅黄、に赤 い斑点	浅黄、底 付着	1~3mmの黄葉・乳白色の粒、 黑色・透明光沢粒
123	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(28.0)				ナデ、工具ナデ、 スス付着	斜ハケ口	橙、褐	褐、褐	1~2mmの中色の粒、 透明光沢粒
124	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(13.6)				ナデ、工具痕	ナデ、粘土のつな ぎ目、炭化物付着	橙	橙	0.5~3mm以下の茶・褐・灰色の粒
125	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(11.0)				口直部細長丸、 ナデ、ハケ口の後 ナデ	ナデ	に赤い斑点	2mm以下の透明光沢粒	×
126	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(18.0)				ナデ、ハケ口	ナデ、ハケ口	橙	浅黄	1mm以下の黒・灰の粒
127	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	9.5		31.4		ナデ、ナデの後 付着ギザ、炭化 物付着、スス付着	ミギザ、ナデ、工 具痕、指痕痕、 底付着	橙、に赤い 斑点	浅黄、橙	3mm以下のに赤い赤褐色の粒、2mm以下 の黑色・深灰色の粒
128	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					ナデ	焼けズり、指痕痕	浅黄	2.5mm以下の乳白色の粒	×
129	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(7.0)				ナデ	ナデ、指痕痕	に赤い斑点	2mm以下の中色の粒、1mm以下の透明光 沢粒	×
130	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(9.45)				織波状紋、ナデ、 ミギザ、乳化気味	ナデ	橙	に赤い斑点	1mm以下の中色及び透明の光沢粒、 2mm以下の茶・褐・灰の粒
131	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					偏方向の凹凸文、 ハケ口、削れ、重 乳化、深灰色	ハケ口、指痕痕、 底付着	浅黄	灰	1.5mm以下の茶・乳白色・透明光沢 粒、黑色光沢粒
132	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					ナデ、刻み	ナデ	オーリーブ灰	灰	きめ細か
133	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(11.0)				ナデ、ハケ口	ナデ	に赤い斑点	1mm以下の透明光沢粒、褐色・灰 色・2mm以下の浅黄、黑色光沢粒	
134	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(13.0)				ナデ、ハケ口の後 ナデ	ナデ、ハケ口の後ナデ	浅黄、灰	浅黄、オーリ ーブ灰	1~2mmの褐色の粒、1mmの灰白の粒
135	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(14.0)				口直部ハケ口、重 乳化質感	ナデ	灰	灰	3mm以下の褐色・灰色・黑色の粒
136	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(10.5)				縦ハケ口の後ナデ、 ナデ	ナデ、指痕痕	橙	橙	1mm以下の透明光沢粒と黒・灰・茶 の粒
137	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					ハケ口の後ナデ、 ハケ口の後ミギザ	工具ナデ	に赤い斑点、 底オーリーブ	明黄色	1mm以下の灰褐色・黑色光沢・灰白の粒
138	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(12.0)				ハケ口の後ナデ、 ミギザ、重乳化	ナデ	黄褐色、灰	灰	1mm以下の褐色・黑色光沢・灰白の粒
139	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(16.0)				ハケ口	ナデ	橙	1.5mm以下の黒・灰白色の粒、3mm以 下の褐色の粒	
140	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(11.0)				ハケ口、工具ナデ、 底変	工具ナデ、指痕痕、 ナデ	浅黄	浅黄	1mm以下の黒色光沢・透明光沢な粒、 2mm以下の黒・灰・茶の粒
141	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					ハケ口	ハケ口	に赤い斑点	2.5mm以下の淡黄・茶・灰の粒	
142	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(11.0)				ナデ、ハケ口の後 ナデ、粘土のつな ぎ目、底変	ナデ、指痕痕、粘 土しほり	灰	灰	1.5mm以下の赤褐色・灰白・灰褐色・ 黑色の粒
143	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					ナデ	ナデ	浅黄	浅黄、灰	3mm以下の褐色・灰・黑色の粒
144	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3	(5.0)				丁寧なナデ	丁寧なナデ	に赤い斑点	3mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒	
145	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					割れギザ、斜ハケ 口、スス付着	横・新ハケ口、炭 化物付着	浅黄	浅黄	1~4mm以下の茶・褐・灰色の粒
146	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3					黒化著しい	ナデ、炭化物付着、 底変	に赤い斑点	2mm以下の白色の粒、3mm以下の赤褐色、 灰褐色の粒、黑色光沢粒	
147	土師器	壺 縦・横 幅	田辺区 SC3									

第10表 B1地区出土遺物観察表(3)

遺物 番号	種別	器種・ 部位	出土 地點	法量(m)		手法・圖案・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考		
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
147	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(3.0)		工具痕、無底	継ハケ目	にない、黒、 白灰	にない、黒、 白灰	4mm以下の灰、白、黒、白灰色 の粒、透明光沢粒		
148	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				斜ミガキ、黒度	横・斜ハケ目	黒、 暗灰	黒	4mm以下の灰、白、黒、白灰色 の粒		
149	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				ナデ、風化氣味	ナデ、粘土のつな ぎ目、指痕痕	黒	にない、黒	1mm以下の灰白色光沢粒、 1.5mm以下の半透明粒、 4mm以下灰、黑色の粒		
150	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				風化により調査不 可	工具ナデ、粘土のつな ぎ目、指痕痕	黒	暗灰	2mm以下の灰、白の粒、半透明粒、 7mm以下の緑色の粒	同體	
151	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				ナデ	ナデ、指痕痕、黒 度	にない、黒、 白	にない、黒	2mm以下の乳白色の粒、 4mm以下の灰、白、黒、白灰、黃褐色、 白色の粒		
152	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				ハケ目	ナデ、ハケ目、指 痕痕	黒	にない、黒	1mm以下の乳白色の粒、 2mm以下の白、灰、褐色、白色の粒、 透明光沢粒	赤薺	
153	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				斜ハケ目、斜み目	ハケ目	明黄褐	黄褐	3mm以下の透明粒、 4mm以下の茶色の粒		
154	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(7.2)		工具ナデ、スス付 着	工具ナデ、指痕痕	淡黄褐、 黒	にない、黒	3mm以下の灰、白の粒、 5mm以下の黒、白、黒、白灰色 の粒、透明光沢粒		
155	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				ナデ、スス付着	継・斜ハケ目	淡黄	淡黄	1~2mmの灰、白の粒、 5mm以下の白、灰、黑色の粒、 透明光沢粒		
156	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				継ミガキ、黒度	ナデ、ツバ、 黒度	にない、黒、 白	にない、黄、 黑	3~4mmの乳白、褐色の粒		
157	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				ナデ、指痕痕	工具ナデ	にない、黒、 白	にない、黒	3mm以下の灰、白、黒、白灰色 の粒		
158	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(3.8)		丁寧なナデ、 継ミガキ、黒度	丁寧なナデ	淡黄、 黒	黄褐、 黄灰	1mm以下の黄褐色の粒		
159	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(3.8)		ナデ、粘土のつな ぎ目	ナデ	黒	にない、黄	2mm以下の灰、黄、白灰色の粒、 透明、黑色光沢粒		
160	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		8.1		ナデ、工具ナデ	ナデ、黒度	にない、黄	黄灰	1mm以下のない黄褐色の粒		
161	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(7.2)		ナデ	ナデ、黒度	にない、黄、 白	黄灰、 黄灰	3mm以下の黄、白、 黄褐色の粒		
162	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(2.9)		継・斜ハケ目	継・横・斜ハケ目	黒	にない、黄、 白	1mm以下の灰白色光沢粒、 2mm以下の灰、白、褐色光沢粒		
163	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(32.7)		工具ナデ、ミガキ、 スス付着	工具ナデ、指痕痕、 風化氣味付着	にない、黄、 白	黒	4.5mm以下の乳白、 5mmの透明光沢粒		
164	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				平行タタキ、スス 付着	継ケズリ	にない、黄、 白	淡黄	2mm以下の透明光沢粒		
165	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				タタキ、黒度	丁寧なナデ、 黒度	明黄褐	淡黄	3mm以下の乳白、白、 白色の粒		
166	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(34.2)		ナデ、 スス付着	工具ナデ	淡黄褐、 黒	淡黄褐	3mm以下の黒、白、 黑色の粒		
167	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(29.3)		ナデ	ナデ	にない、黄	黒	2mm以下の透明光沢粒		
168	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(34.0)		ナデ	ナデ	にない、黄	反黄褐、 黄灰	2mm以下の成度、白度、褐色の粒、 黑色光沢粒、 1mmの透明光沢粒		
169	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				丁寧なナデ、 工具痕	丁寧なナデ、 工具痕	にない、黄	反黄褐、 黄灰	2mm以下の乳白、白、 黑色光沢粒		
170	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(23.0)		ナデ、 工具痕	ナデ、 粘土のつなぎ目	にない、黄	にない、黄、 白	2mm以下の乳白、白、 黑色光沢粒		
171	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(26.0)		工具ナデ、 ハケ目、ナデ	ナデ、粘土のつな ぎ目	にない、黄、 白	明黄褐、 明赤褐	3mm以下の黒、白、 黑色の粒、 2mm以下の黒、透明光沢粒		
172	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		(24.6)	3.75	33.7	ナデ、ハケ目、 指痕痕、粘土のつな ぎ目	ナデ、ハケ目、 工具痕	にない、黄、 白	2mm以下の透明白、 1mm以下の黒、透明光沢粒		
173	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		20.75		斜・横ハケの後のナデ、 粘土のつなぎ目	ナデ、斜・横ハケ、 指痕痕	明赤褐、 黒	明赤褐、 黒	2mm以下の灰、白、 黑色の粒、 4mmの透明光沢粒		
174	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原		24.3	6.3	30.3	ナデ、粘土のつな ぎ目	ナデ、斜・横ハケ、 工具痕、スス 付着	黒	1.5mm以上の茶、黒、乳白色の粒、 透明光沢粒		
175	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				ナデ、粘土のつな ぎ目	ナデ、指痕痕、黒 度	黒	明黄褐	1mm以下の灰、白、 黑色の粒、 透明光沢粒		
176	土師器	直 筒・口縁	田原区 西原				ナデ、粘土のつな ぎ目	ナデ、指痕痕、黒 度	黒	灰オリーブ、 淡黄	1.5mm以下の黄、白、 黑色の粒、 透明、黑色光沢粒	177と 同體	

第11表 B 1地区出土遺物観察表(4)

遺物 番号	種別	器種 部位	出土 場所	出土 量(m)	手法・調査・文様ほか			色		地土の特徴	備考		
					口径	直径	器高	外面	内面	外面	内面		
177	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近					ナデ、スス付管	ナデ	に赤い黄緑	灰	3mm以下の黄白・灰白・茶・黒・褐色の粒、1mm以下の透明・黒色光沢	176と 同一軸体
178	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	30.15				ナデ、指痕跡、 貼付跡み目突起、黒度	ナデ、指痕跡、黒度	に赤い黄緑	灰	4mm以下の暗褐色・黑色の粒、 2.5mm以下の透明・黒色光沢	
179	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(30.7)				ナデ、貼付跡み目突起	ナデ、指痕跡	に赤い黄緑、 暗褐色	灰	に赤い黄緑、 暗褐色	
180	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(26.9)				ナデ、貼付跡み目突起、粘付跡み目突起、黒度	ナデ、工具痕、黒度	に赤い黄緑、 黒度	灰	1~2mmの乳白色・灰・茶・黑色の粒、 透明・半透明	
181	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(27.0)				ナデ、貼付跡み目突起	ナデ、黒度	に赤い黄緑	灰	2mm以下の黒色・透明光沢粒	
182	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(28.2)				ナデ、貼付跡み目突起	ナデ	赤褐色	灰	2mm以下の灰白色の粒	
183	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近					縦・斜ハケ目、スス付管、貼付跡み目突起	縦・斜ハケ目	に赤い黄緑、 に赤い黄緑	灰	2mm以下の灰・に赤い黄緑、 褐色の粒	
184	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近					ナデ、工具ナデ	工具ナデ、指痕跡	赤褐色	灰褐色	1mm以下の灰白・復・黑色の粒、透 明光沢粒	
185	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近					工具ナデ、口唇部 剥離目	工具ナデ	に赤い黄緑	灰	1mm以下の黄白・灰白・復・黑色の粒、透 明光沢粒	
186	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近					ナデ、貼付跡、口 唇部剥離目	ナデ、指痕跡	明赤褐色	灰	2mm以下の白色の粒、透明粒	
187	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(6.6)				ナデ、黒度	ナデ	明赤褐色、 に赤い粒	灰	2mm以下の黒・灰白色の粒、半透明 光沢粒	
188	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(4.05)				ナデ、指痕跡	ナデ	灰	灰	2mm以下の乳白・灰・茶褐色の粒	
189	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(5.2)				ナデ	ナデ	に赤い黄緑	淡黄	2mm以下の透明・乳白色の粒、黑色 光沢粒	
190	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(5.8)				縦ハケ目、工具ナ デ	ナデ、黒度	に赤い黄緑	灰	2mm以下の茶・白色の粒、黑色・透 明光沢粒	
191	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(6.75)				ナデ	ナデ	明褐色	灰	1mmの灰褐色の粒、黑色光沢粒、 1.5mm以下の無透明光沢粒	
192	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(5.0)				ナデ	ナデ、指痕跡	黒度	灰	2mm以下の黒・灰・乳白色の粒	
193	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(7.3)				ナデ	工具ナデ	灰	灰白	1mmの乳白・黑色の粒、無色透明粒	
194	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(6.5)				丁寧なナデ、指痕 跡	ナデ、指痕跡	に赤い黄緑、 に赤い粒	灰	2mm以下の乳白・灰・黑色の粒	
195	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(4.0)				縦・斜ハケ目、ナ デ、スス付管	ナデ、斜ハケ目	に赤い黄緑、 に赤い粒	灰、茶	1~3mmの黒・乳白・復・茶・茶色の粒、 黑色光沢粒	
196	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(4.1)				縦ハケ目、ナデ、 黒度	ナデ、指痕跡、黑 度	茶	灰褐色	3mm以下の透明・乳白色の粒、黑色 光沢粒、4mm以下の黒・灰・茶・黑 度・乳白色の粒	
197	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(4.9)				丁寧なナデ、指痕 跡	丁寧なナデ、指痕 跡	に赤い黄緑	灰	1mm以下の褐色の粒、黑色光沢粒、 2mm以下の透明光沢粒	
198	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	6.4				ナデ	ナデ、風度	に赤い黄緑	灰	に赤い黄緑、 灰オーバー	4mm以下の明褐色の粒、1mm以下の褐色 ・黑色の粒、透明光沢粒
199	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(8.8)				ナデ、工具痕、指 痕跡	ナデ、風度	に赤い黄緑、 に赤い粒	灰	2mm以下の灰・茶・黑色の粒、 1mm以下の半透明光沢粒	
200	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	12.05				ハケ目の後ナデ	丁寧なナデ、指痕 跡、黒度	に赤い黄緑、 灰	灰	3mm以下の乳白・茶・黑色の粒	
201	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(8.0)				ナデ	ナデ、工具痕	に赤い黄緑	灰	1mm以下の褐・浅黄・黒・乳白色的 粒、2mm以下の透明光沢粒	
202	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(5.3)				ナデ、指痕跡	工具痕、指痕跡	に赤い黄 緑	灰	1mm以下の浅黄色の粒、2mm以下の透 明光沢粒	
203	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(6.8)				ナデ、指痕跡	ナデ	に赤い黄 緑	灰	1mm以下の褐・浅黄・黒・乳黄色の粒、 透明光沢粒	
204	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(6.8)				ナデ、指痕跡、ス ス付管	ナデ、指痕跡、工 具痕、黒度	に赤い黄 緑	灰	に赤い黄・茶・茶 色の粒、1mm以下の透明・黑色光沢粒	
205	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近					丁寧なナデ	丁寧なナデ	茶	灰	1mm以下の黒・乳白・灰色の粒	
206	土師器	甕、鋤、鉢等 等	田地区 付近	(35.0)				縦ミガキ、スス付 管	縦ミガキ	茶	灰	1mm以下の黒・乳白・灰色の粒	

第12表 B1地区出土遺物観察表(5)

遺物 番号	属別 器種	器種・ 部位	出 土地 点	法 番 (cm)			手 法・調査・文様ほか			色 国		地 土 の 特 徴	備 考
				口径	底径	高さ	外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面	
207	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(29.8)			ナデ、縦ミガキ、 工具痕	ナデ	浅黄緑	黒、 赤黄	1mm以下の黄白・灰白・灰・褐色の 粒、0.5mm以下の透明光沢粒		
208	土師器	高 口 席	田地区 田原町				ナデ	丁寧なナデ	に bei 黄根	黒	1.5mm以下の黄白・灰白・褐色の粒、 1mm以下の透明光沢粒		
209	土師器	高 口 席	田地区 田原町				縦ミガキ	縦ミガキ、スヌ付 縦	浅黄緑、 灰黄	に bei 黄根	2mm以下の細鷺・紫色の粒、透明光 沢粒		
210	土師器	高 口 席	田地区 田原町				ナデ、ハケ目の後 ナデ	縦ミガキ	桃黄	桃黄	1mm以下の乳白色の粒、黑色光沢粒		
211	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(31.0)			横・斜ミガキ、丹 塗り	横・斜ミガキ	赤	明褐	1mm以下の黄青・高色の粒、透明光 沢粒	同一部位	
212	土師器	高 口 席	田地区 田原町				横・斜ミガキ、丹 塗り	横・斜ミガキ	赤	明褐	1mm以下の透明・黑色光沢粒		
213	土師器	高 口 席	田地区 田原町				ミガキ、風化気味	ナデ、縦ミガキ、 指擦痕	橙、に bei 黄 灰青	橙	2mm以下の灰白・高・乳白色の粒、 透明光沢粒		
214	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(14.85)			ナデ、縦ミガキ、 穿孔	絞り、ナデ	浅皮	浅黄緑	2mm以下の灰白・褐色の粒、1mm以下 の透明光沢粒		
215	土師器	高 口 席	田地区 田原町				縦ミガキ、スヌ付 等、風化気味	ナデ	橙	橙	1mm以下の高・灰白色の粒、黑色光 沢粒		
216	土師器	高 口 席	田地区 田原町				丁寧なナデ、ミガ キ、穿孔、風化	丁寧なナデ	に bei 橙	灰黄	1mm以下の高・乳白色の粒、透明光 沢粒		
217	土師器	高 口 席	田地区 田原町				ハケ目、ナデ	ナデ、指擦痕	に bei 黄根	に bei 黄根	2mm以下の高・深・暗黄緑の粒、 1mm以下の透明光沢粒		
218	土師器	高 口 席	田地区 田原町				粗いナデ	ナデ、工具痕	に bei 黄	浅黄	2mm以下の乳白・褐色の粒、透明光 沢粒		
219	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(8.8)			ナデ	ナデ	灰白	灰白	3.5mm以下の灰白・浅黄緑の粒、 1mm以下の透明光沢粒		
220	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(11.5)			丁寧なナデ	ナデ	に bei 黄根	に bei 黄根	2mm以下の高・褐色の粒、 1.5mm以下の透明光沢粒		
221	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(11.5)			ナデ	ナデ	黑褐、暗褐	褐	1.5mm以下の乳白・暗褐色の粒		
222	土師器	小 口 席	田地区 田原町				縦ミガキ、ナデ	ナデ、指擦痕	浅黄緑	浅黄	2mm以下の黒・赤褐・暗褐色の粒		
223	土師器	小 口 席	田地区 田原町				ナデ	ナデ	に bei 黄根	橙	3mm以下の褐色の粒、1mm以下の褐色・ 赤褐・黑色光沢粒		
224	土師器	小 口 席	田地区 田原町	(7.1)			ナデ	ナデ	橙	黄灰	1mm以下の高白色の粒		
225	土師器	高 口 席	田地区 田原町				丁寧なナデ、スヌ 付着	丁寧なナデ	に bei 黄根	に bei 黄根	2mm以下の高褐色・灰色・乳白色の 砂粒		
226	土師器	高 口 席	田地区 田原町				丁寧なナデ、 ナデ	ナデ	浅黄	に bei 黄	3mm以下の高褐色・灰色・乳白色の 粒		
227	土師器	高 口 席	田地区 田原町				丁寧なナデ	丁寧なナデ	に bei 橙	に bei 橙	3mm以下の褐色・高白色・灰色の 粒		
228	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(9.5)			工具ナデ、ナデ	ナデ	に bei 橙 根	に bei 橙	2mm以下の褐・灰色の粒		
229	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(5.9)			ハケ目の後ナデ、 ナデ	ナデ、指擦痕	に bei 赤褐	精良			
230	土師器	小 口 席	田地区 田原町	2.55			ナデ、工具痕、黑 茎	ナデ	明褐色、灰 オーリー	2mm以下の褐色・灰青緑・黄褐・黑 色光沢、灰白色の粒			
231	土師器	高 口 席	田地区 田原町				縦ハケ目	ナデ	灰褐色、 根	に bei 黄 根	2mm以下の白・灰白・褐色の粒		
232	土師器	高 口 席	田地区 田原町				風化により剥離不 定	ナデ	浅黄緑	浅黄緑	3mm以下の素・黑色の粒、3mm以下の 透明粒		
233	土師器	高 口 席	田地区 田原町				ナデ、ハケ目	ナデ、指擦痕	に bei 黄根	灰	4mmの高褐色の粒、1.5mm以下の黑褐 色・褐色・灰青緑の粒		
234	土師器	高 口 席	田地区 田原町				縦ハケ目、 ナデ	ナデ	に bei 橙	橙	1mm以下の透明・黑色光沢粒		
235	土師器	高 口 席	田地区 田原町				ナデ、粘土のつなぎ目	工具ナデ	浅黄	に bei 黄	2.5mm以下の灰白・灰褐色の粒、黑 色光沢粒		
236	土師器	高 口 席	田地区 田原町	(6.8)			ナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の乳白・淡黄色の粒		

第13表 B1地区出土遺物観察表(6)

測定番号	種別	器物・部位	出土場所	法量(cm)			手法・調査・文様等		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
237	土師器	甕	足利区 口井 万葉	(8.0)			ハケ目の後ナデ、 ナダ	ナデ、 粘土のたるみ	緑	緑、灰、 に赤い斑塊	難度	
238	土師器	壺	足利区 口井 万葉				縞々ガキ	ナデ	緑、黒	に赤い斑塊	難度	
239	土師器	壺	足利区 口井 万葉				ナデ、風化気味	ナデ、風化気味	緑、 明赤褐色	灰、明赤褐色	2mm以下の灰白・褐色・灰黃褐色・暗 赤褐色の粒	
240	土師器	小壺	足利区 口井 万葉				ナデ、縞々ガキ	ナデ、指調痕	明赤褐色、 黒	に赤い斑塊	難度	
241	土師器	小壺	足利区 口井 万葉	(1.4)			ケズリ、工具痕	ナデ、指調痕	緑	に赤い斑塊	1mm以下の透明、茶色の粒	
243	土師器	壺	足利区 口井 万葉				縞々ガキ、ナデ、 円鉢	ナデ、縞々ガキ	に赤い斑塊	に赤い斑塊	2mm以下の褐色の粒、 2mm以下の黒色・透明光沢粒	同一個体
243	土師器	壺	足利区 口井 万葉				縞々ガキ、円鉢、 スヌ付青	ナデ、粘土のつな ぎ目	に赤い斑塊	に赤い斑塊	2mm以下の灰白・褐色の粒、 2mm以下の黒色・透明光沢粒	
244	土師器	小壺	足利区 口井 万葉	(12.0)			ハケ目の後ナデ	風化により調査不明	緑	緑	4mm以下の灰・褐・赤褐色・黒褐色 の粒	
245	土師器	小壺	足利区 口井 万葉	(11.0)			ナデ	ナデ	淡黄褐色	淡黄	1.5mm以下の灰白・褐・黒褐色の粒、 透明・黑色光沢粒	
246	土師器	小壺	足利区 口井 万葉				ナデ、貼付跡も月 牙形、工具痕、粘 土目	ハケ目	に赤い斑塊	に赤い斑塊	難度	
247	土師器	小壺	足利区 口井 万葉	4.5		3.75	手づくね	手づくね	灰、 オリーブ風	灰、 オリーブ風	1mm以下の乳白色の粒	
248	土師器	壺	足利区 口井 万葉	9.5			ナデ、平行タキ ホ	丁寧なナデ、放射 状凸凹の良歯の後ナ デ	灰灰	灰黄	1mm以下の茶・黒・乳白色の粒	
249	土師器	壺	足利区 口井 万葉				粘土目タキホ、粘 土目タキホの後ナ デ	丁寧なナデ、放射 状凸凹の良歯の後ナ デ	灰白	灰白	2mm以下の乳白色・灰色の粒	
250	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(21.0)			ナデ、横ハケ目	横ハケ目、 縫合ナデの後ナデ	に赤い斑塊	に赤い斑塊	5mm以下の透明光沢粒、 2.5mm以下の灰色の粒、 5mm以下の褐色の粒	
251	土師器	壺	足利区 口井 万葉				ナデ、指調痕	斜ケズリの後ナデ	灰黄	淡黄	1mm以下の褐色の粒、 2mmの無色透明光沢粒	
252	土師器	圓筒状壺	足利区 口井 万葉	(13.5) (6.5) (5.4)	回転ナデ、粘土の つなぎ目		回転ナデ	回転ナデ	に赤い斑塊	に赤い斑塊	難度	
253	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(18.0)			回転ナデ	回転ナデ	に赤い斑塊	に赤い斑塊	難度	
254	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(24.0)			ナデ、指調痕	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑塊	に赤い斑塊	3.5mm以下の褐色の粒、 2mm以下の透明光沢粒	
255	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(16.0)			ナデ、粘土目タキ ホ、平行タキホ、 スヌ付青	ナデ、粘土のつな ぎ目、斜ケズリ、 風化	に赤い斑塊	淡黄褐色、褐 灰	2mm以下の灰白・褐色の粒、 透明・黑色光沢粒	
256	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(23.0)			ナデ、指調痕	縦・斜ケズリの後 ナデ	緑、に赤い 斑塊	明赤褐色	4mm以下の褐色・灰褐色の粒、 1.5mm以下の透明・黑色光沢粒	
257	土師器	壺	足利区 口井 万葉				ナデ	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑塊	褐灰	1mm以下の褐色・灰白・黑色の粒、 透明光沢粒	
258	土師器	壺	足利区 口井 万葉				ナデ、指調痕	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑塊	に赤い斑塊	7mm以下の灰色の粒、 3mm以下の乳白・灰色の粒	
259	土師器	壺	足利区 口井 万葉				ナデ	横ケズリの後ナデ	に赤い斑塊	に赤い斑塊	2mm以下の乳白・灰褐色の粒	
260	土師器	壺	足利区 口井 万葉				ナデ、工具痕	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑塊、 に赤い斑塊	に赤い斑塊	1mm以下の淡黄色の粒、透明・黑色 光沢粒	
261	土師器	壺	足利区 口井 万葉				ナデ、工具ナデ	ナデ	に赤い斑塊	に赤い斑塊	3.5mm以下の乳白色の粒、 3mm以下の褐色の粒、 2.5mm以下の透明・黑色光沢粒	
262	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(17.0)		16.25	ナデ、縞・縦・斜 ハケ目	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑塊	淡黄	3mm以下の灰白・褐色の粒	
263	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(21.0)			ナデ、風化気味	斜ケズリの後ナデ、 風化気味	淡黄褐色	淡黄	4.5mm以下の白色の粒、 1.5mm以下の茶・淡黄色の粒、 透明・黑色光沢粒	
264	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(26.0)			ナデ、黒皮	粘土のつなぎ目、 ナデ、黒皮	に赤い斑塊	に赤い斑塊	9mm以下の粒、 5mm以下の黒褐色の粒	
265	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(26.0)			ナデ、ハケ目、黑 皮	斜ケズリの後ナデ	緑、黒	に赤い斑塊	1mm以下の灰白色の粒、透明光沢粒	
266	土師器	壺	足利区 口井 万葉	(22.0)			ナデ	斜ケズリの後ナデ、 黒皮	灰黄、灰	灰黄、灰	2mm以下の灰白・黑色の粒	

第14表 B1地区出土遺物観察表(7)

遺物 番号	種別	器種・ 部位	出上 地點	法量(m)		手法・調査・文様ほか		色・調		胎土の特徴	備考	
				口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
267	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、工具痕、圓 錐痕、折十のつな ぎ口	斜ケズリの後ナデ	褐	に赤い斑	4.5mm以下の灰白・黒灰色の粒、 2mm以下の透明白光沢粒	
268	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、横ハケ目	ナデ、斜ハケ目	浅黄	淡黄、暗灰 青	1.5mm以下の灰黃色・黒・灰白色の 粒	
269	土師器	甕 口部	田邊区	26.3			丁寧なナデ、周面	縦・横ケズリの後 ナデ	に赤い斑	褐	5mm以下の灰黄・褐・黑灰色の粒	
270	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、黒皮	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑	褐	1.5mm以下の黒・灰・乳白色の粒、 0.5mm以下の透明白光沢粒	
271	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、黒皮	斜ケズリの後ナデ、 黒皮	褐	褐	2mm以下の乳白・褐色の粒、 1mm以下の透明白光沢粒	
272	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑	褐	1mm以下の乳白・褐色の粒、 透明光沢粒	
273	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、工具痕	ナデ	に赤い斑	赤	4.5mm以下の灰白色の粒、 2mm以下の透明白光沢粒、 透明光沢粒	
274	土師器	甕 口部	田邊区	(25.2)			ナデ、スス村晉、 横・縦・斜ハケ目	横・斜ハケ目、新 ケズリの後ナデ	に赤い斑、 縦・に赤い、 灰斑	褐	5mm以下の黒・褐・白灰・ 褐色の粒、5mm以下の褐・ 灰斑の粒、0.5mm以下の茶褐色の粒	
275	土師器	甕 口部	田邊区	(32.7)			ナデ、スス村晉	斜ケズリの後ナデ	に赤い、 黄褐色	褐	3mm以下の淡黄・灰色の粒、 透明・ 黑色光沢粒	
276	土師器	甕 口部	田邊区	(33.0)			ナデ、スス村晉	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑	褐	1~2mmの淡黄・灰色の粒、 透明光沢粒、黑色光沢粒	
277	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑	褐	3mm以下の灰白・灰・褐・ 黑色光沢の粒、1mm以下の透明白光沢粒	
278	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、斜ナデ	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑、 褐	褐	3mmの灰白粒、2mm以下の白灰・ 灰白・褐色の粒、 褐色の粒、透明光沢粒	
279	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ	斜ケズリの後ナデ	淡黄、 灰黄	灰黄	2mm以下の黒・灰黄色の粒	
280	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ	斜ケズリの後ナデ	褐灰	褐灰	に赤い、 褐色、 褐灰	1.5mm以下の黒・褐色の粒
281	土師器	甕 口部	田邊区	(25.8)			棒状工具痕、ナデ	棒状工具痕、斜ケ ズリの後ナデ	に赤い、 黄褐色	褐	に赤い、 灰白・ 褐色	1~2mmの茶・灰・褐・ 乳白色・ 米粒
282	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、格子目タ キ	縦ケズリの後ナデ	淡黄褐	淡黄褐	4mmの紫褐色・ 2mm以下の灰褐色の粒、 1mm以下の透明白光沢粒	
283	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、格子目タ キ	ケズリの後ナデ	灰白	灰白	2mm以下の茶・ 灰・ 白色の粒、 透明・ 黑色光沢粒	
284	土師器	甕 口部	田邊区				ナデ、格子目タ キ	縦ケズリの後ナデ	淡黄褐	淡黄褐	2mm以下の灰褐色の粒、 透明光沢粒	
285	土師器	甕 口部	田邊区	(17)			ナデ	縦ケズリの後ナデ	に赤い斑、 褐	褐	1.5mm以下の紫褐色・ 1mm以下の灰・ 褐色の粒	
286	土師器	甕 口部	田邊区	(20.4)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	褐、 に赤い	褐	に赤い、 褐・ 褐色の粒	2mm以下の黒・ 褐・ 灰褐色の粒
287	土師器	甕 口部	田邊区	(27.5)			ナデ、黒皮	ナデ	褐	褐	2mm以下の灰白・ 褐色の粒、 2mm以下の透明白光沢粒	
288	土師器	甕 口部	田邊区	(20.4)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	褐、 に赤い	褐	2mm以下の黒・ 褐・ 灰褐色の粒	
289	土師器	甕 口部	田邊区	(26.4)			ナデ、丁寧なナデ、 スス村晉	縦ケズリの後ナデ、 スス村晉 化粧物付着	に赤い斑、 灰褐色	褐	3mm以下の灰白・ 褐・ 灰・ 黑色光沢の粒、 透明光沢粒	
290	土師器	甕 口部	田邊区	(34.3)			ナデ	斜ケズリの後ナデ	に赤い斑	褐	2mm以下の赤褐色の粒、 1mm以下の透明白光沢粒	
291	土師器	甕 口部	田邊区	(36.7)			ナデ、塵ハケ目、 スス村晉	塵ハケ目、斜ケズリの後ナデ	赤褐色、 に赤い 褐	褐	5~8mmの赤褐色の粒、 3mm以下の灰黄・ 灰白の粒	
292	土師器	甕 口部	田邊区				斜ハケ目	ナデ	明褐色、 に赤い 褐	褐	6mm以下の赤褐色の粒、 1.5mm以下の黑色光沢の粒、 透明光沢粒、 黑色光沢の粒	
293	土師器	甕 口部	田邊区	(39.3)	23.0		タタキの後ハケ目、 ハケ目、ナデ、 ヘラ記号	ハケ目、ケズリ、 ナデ	淡黄、 に赤い 褐	褐	に赤い斑	
294	土師器	甕 口部	田邊区	26.0	20.0		ナデ、スス村晉	ナデ	褐、 に赤い 斑	褐	10mm以下の茶・ 灰褐色の粒、 4mm以下の茶・灰白・ 黑色光沢の粒、 1mm以下の透明白光沢粒	
295	土師器	甕 口部	田邊区	(30.0)			ナデ、ハケ目	ナデ	に赤い斑	褐	2mm以下の黒・ 灰白色の粒	
296	土師器	甕 口部	田邊区	(10.0)			ハケ目	ケズリの後ナデ	褐、 に赤い 斑	褐	3mm以下の黒・ 灰白色の粒、 黑色光沢粒	

同一體

第15表 B 1 地区出土遺物観察表 (8)

遺物 番号	種別	西暦 時代	出土 地點	古 墓 (m)			手法・調査・文様ほか		色 調		植 土 の 特徴	備考
				口径	底深	基高	外 面	内 面	外 面	内 面		
297	土師器	晩 古-近	田地区	(18.0)			ナデ、ハケ目	ハケ目、ナデ	に赤い斑	灰黄	5mm以下の乳白色の粒、0.5mm以下の透明光沢粒	
298	土師器	晩 古-近	田地区	21.5		11.4	ナデ、タタキ、ス ス付壁	ケズリの後ナデ、 黒度	に赤い斑、 黒度	に赤い斑、 灰白の粒、 黑色、透明光沢粒	2mm以下の黒斑・塊・灰白色の粒、 黑色、透明光沢粒	
299	土師器	晩 古-近	田地区	15.7			ナデ、タタキ、ス ス付壁	ケズリの後ナデ、 黒度	に赤い斑、 黒度	に赤い斑、 灰白の粒、 黑色、透明光沢粒	2mm以下の灰斑・塊、 黑色、透明光沢粒	
300	土師器	晩 古-近	田地区	13.55	5.5	5.6	ケズリの後ナデ、 粘土の見えり、ヘ タ切り	黒斑、ナデ	塊	塊	2mm以下の白・黄白・褐色の粒	
301	土師器	晩 古-近	田地区	(12.0)	(5.2)	4.5	ナデ、風化気味	ナデ	塊	塊	0.5mm以下の黄白・塊・黒褐色の粒	
302	土師器	晩 古-近	田地区	11.95	5.7	5.3	ナデ、ヘタ切りの 後ナデ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	5mm以下の黒・灰・赤色の粒	
303	土師器	晩 古-近	田地区	11.45	6.8	5.2	ナデ、ケズリ、ヘ タ切りの後ナデ、 黒度	ナデ、黒度	に赤い黄斑	に赤い黄斑	1mm以下の透明光沢粒、 灰・灰色の粒	
304	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(13.7)	(6.0)	4.9	ナデ、粘土のかえ り、板状压痕、ヘ タ切り	ナデ	明黄褐、塊	塊	3mm以下の灰褐色・灰色の粒、透明 光沢粒	
305	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(12.7)	(6.2)	4.6	ナデ、ヘタ切り後 ナデ	ナデ	塊	塊	褐色	
306	土師器	晩 古-近	田地区 N番	13.05	5.46	5.1	ナデ、粘土のかえ り、板状压痕	ナデ	塊	塊	2mm以下のうす茶・茶・灰色の粒	
307	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(12.9)	6.1	4.5	回転ナデ、ヘタ切 り後ナデ	回転ナデ	塊	に赤い塊	2.5mm以下の赤褐色・褐紅の粒	
308	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(12.6)	5.7	4.8	回転ナデ、ヘタ切 り後ナデ	回転ナデ、黒度	浅黄褐	に赤い斑	5mm以下の黒・灰・茶・乳白色の粒、 透明光沢粒	
309	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(12.5)	7.05	4.6	回転ナデ、ヘタ切 り後ナデ	回転ナデ	浅黄褐	塊	5mm以下の黒・灰・茶色の粒、透明 光沢粒	
310	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(12.5)	(6.8)	4.95	回転ナデ、風化氣 味、ヘタ切り後ナ デ	回転ナデ	塊	塊	1mm以下の灰白・赤褐色の粒、透明光 沢粒	
311	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(12.6)	(5.7)	4.15	回転ナデ、黒度、 ヘタ切り後ナデ	回転ナデ、黒度	に赤い斑	褐色		
312	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(13.5)	6.1	5.0	回転ナデ、ケズリ、 ヘタ切り後ナデ	回転ナデ	塊	塊	1mm以下の黒色光沢粒、 2mm以下の黒・灰・乳白・茶色の粒	
313	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(13.5)	7.0	6.45	ナデ、風化氣味	ナデ	に赤い黄斑	浅黄褐	褐色	
314	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(11.0)	(5.9)	4.3	回転ナデ	回転ナデ	塊	塊	0.5mm以下の塊・白色の粒	
315	土師器	晩 古-近	田地区 N番	12.3	5.35	5.2	回転ナデ、工具痕 跡、 ナデ、風化氣味	ナデ、黒度	に赤い斑	塊	1mm以下の灰・茶色の粒	
316	土師器	晩 古-近	田地区 N番	12.3	5.1	4.65	ナデ、ヘタ切り ナデ	ナデ	塊、浅黄褐	塊、浅黄褐	3mm以下の灰白・に赤い褐色の粒	
317	土師器	晩 古-近	田地区 N番		5.95		ナデ、ヘタ切り後 ナデ	ナデ	に赤い斑	明黄褐	3mm以下の浅黄色の粒、透明光沢粒	
318	土師器	晩 古-近	田地区		(7.0)		ナデ、ヘタ切り	回転ナデ	塊	塊	3mm以下の茶色の粒	
319	土師器	晩 古-近	田地区 N番		(5.8)		ナデ、ヘタ切り後 ナデ	ナデ	に赤い黄斑	に赤い黄斑	褐色	
320	土師器	晩 古-近	田地区 N番		(7.15)		ナデ、ヘタ切り	ナデ	に赤い黄斑	に赤い黄斑	1.5mm以下の灰・褐・赤褐色の粒、 0.5mm以下の黒色光沢粒	
321	土師器	晩 古-近	田地区		5.0		ナデ、板状直痕	ナデ	浅黄褐	に赤い黄斑	2mm程の茶褐色の粒	
322	土師器	晩 古-近	田地区 N番	13.6	5.85	5.7	ナデ、指羅痕、ヘ タ切り	回転ナデ	塊、に赤い 黄斑	塊、に赤い 黄斑	褐色	
323	土師器	晩 古-近	田地区 N番		5.9		ナデ、ヘタ切り後 ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	3mm以下の赤茶・褐色の粒、透明光 沢粒	
324	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(14.65)			回転ナデ、ヘタ切 り後ナデ	回転ナデ	塊	浅黄褐	2mm以下の茶・灰・黑・乳白色の粒、 透明光沢粒	
325	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(12.7)	6.2	5.9	回転ナデ、ヘタ切 り後ナデ、粘土の つなぎ糸	回転ナデ	に赤い斑、 塊	に赤い斑、 塊	1mm以下の塊・灰・灰褐色の粒	
326	土師器	晩 古-近	田地区 N番	(13.4)	(6.9)	5.55	回転ナデ	ナデ	に赤い黄斑、 塊	に赤い黄斑、 塊	2mm以下の茶色の粒	

第16表 B1地区出土遺物観察表(9)

遺物 番号	種別	基盤 部位	出土 場所	法 墓 (cm)			手法・調査・文様ほか		色 囲		地土の特徴	備考
				口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
327	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	12.8	(7.8)	6.5	回転ナデ	ナデ	において黄褐色 に近い黄褐色	において黄褐色	2mm以下の茶褐色、褐、黒褐色の粒	
328	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	13.8	7.4	6.6	回転ナデ 粘土のつなぎ目	ナデ	において黄褐色 に近い黄褐色	橙	2mm以下の茶褐色、褐、灰褐色、白色の粒	
329	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(13.6)			ナデ、墨化刷毛	ナデ	において黄褐色	灰白 において黄褐色	精良	
330	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(13.25)			ナデ	擦とガキ	浅黄褐色	において黄褐色 において黄褐色	精良	
331	土師器	牙 底・基盤	山陽区 新町	(12.8)			回転ナデ、刻畫	回転ナデ	において黄褐色	において黄褐色	2mm以下の赤褐色の粒	
332	土師器	牙 底・基盤	山陽区 新町	(14.2)			ナデ、擦	ナデ	擦	浅黄褐色	精良	
333	土師器	牙 底・基盤	山陽区 新町	(15.0)			ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	精良	
334	土師器	牙 底・基盤	山陽区 新町	(13.2)			回転ナデ、華奢	回転ナデ、黒斑	擦、灰黃褐色	擦、灰黃褐色	2mm以下の茶褐色の粒	
335	土師器	牙 底・基盤	山陽区 新町	(14.0)			ナデ	ナデ	において黄褐色	において黄褐色	精良	
336	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	7.4			ナデ、ヘラ記号、 黒斑	ナデ、ヘラ記号	において黄褐色 において黄褐色	黑褐色	精良	
337	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(8.6)			ナデ、粘土のつな ぎ目	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	精良	
338	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(6.7)			ナデ	ナデ	擦	において黄褐色	精良	
339	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(6.1)			ナデ	ナデ	において黄褐色	浅黄	2mm以下の灰白・赤褐色の粒	
340	土師器	牙 底	山陽区 新町				ナデ、擦	ナデ	において黄褐色 において黄褐色	擦	精良	
341	土師器	高台付 底・基盤	山陽区 新町				ナデ、擦	刻畫	において黄褐色	灰黃褐色	1mm以下の灰褐色・白色の粒	
342	黑色土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(7.0)	(13.4)	6.2	回転ナデ、黒斑	内黒、擦・擦ミガキ 外	において黄褐色、 黒褐色	黒褐色	2mm以下の黒・褐色の粒、4mmの棕色 の粒	
343	黑色土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	12.95			回転ナデ、華奢、 黒斑	内黒、擦・擦ミガキ 外	において黄褐色 において黄褐色	黑褐色	2mm以下の黒・褐色の粒、4mmの棕色 の粒	
344	黑色土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	15.5			回転ナデ	内黒、擦・擦ミガキ 外	において黄褐色 において黄褐色	黑褐色	1mm以下の黒・灰・乳白色の粒、透明 光沢粒	
345	黑色土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(15.5)			ナデ、擦、黒斑	内黒、擦・擦ミガキ 外	において黄褐色 において黄褐色	黑褐色	2mm以下の灰褐色の粒	
346	黑色土器	牙 底	山陽区 新町	(6.1)			ナデ	内黒、擦・擦ミガキ 外	浅黄、黄灰 灰褐色	灰褐色、オリーブ 灰褐色	2mm以上の黒褐色・灰褐色、茶褐色、白灰 色の粒、光沢粒	
347	内底土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(9.0)			ナデ、黒斑、粘土 のつなぎ目	内黒、擦・擦ミガキ 外	において黄褐色 において黄褐色	黑褐色	1mm以下の灰・灰・灰褐色の粒	
348	黑色土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(7.7)			回転ナデ	内黒、擦・擦ミガキ 外	浅黄褐色	暗灰	2mm以下の黒・灰・茶色の粒、透明 光沢粒	
349	黑色土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町	(6.5)			ナデ、擦	内黒、擦・擦ミガキ 外	浅黄褐色	黑褐色	精良	
350	黑色土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町				回転ナデ、工具痕	内黒、擦ミガキ 外	明黄褐色、黃 褐色	暗灰褐色	精良	
351	黑色土器	高台付 底・基盤	山陽区 新町				ナデ	内黒、擦・擦ミガキ 外	において黄褐色 において黄褐色	暗灰	1mmの灰褐色・茶色の粒、黑色光沢粒	
352	須恵器	牙 底	山陽区 新町				ナデ	ナデ	灰	灰灰	堅致	
353	須恵器	牙 底	山陽区 新町				ナデ	ナデ	灰	灰	精良	
354	須恵器	牙 底・基盤	山陽区 新町	(12.0)	(6.6)	(4.3)	ナデ	ナデ	灰	灰	精良	
355	須恵器	牙 底・基盤	山陽区 新町				擦化	布目痕	擦	擦	1mmの茶色の粒	
356	須恵器	牙 底・基盤	山陽区 新町				ナデ	布目痕	明赤褐色	明赤褐色	2~8mmの赤褐色の粒	

第17表 B1地区出土石器計測表

番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 材	備 考
89	B1地区Ⅲ層	石 砺	3.05	1.9	0.38	0.4	頁岩	
90	B1地区Ⅳ層	石 砺	2.55	1.6	3.0	1.2	頁岩	
91	B1地区Ⅳ層	石 砺	2.19	1.6	0.45	0.9	チャート	
92	B1地区Ⅳ層	石 砺	2.36	1.65	0.32	0.9	チャート	
93	B1地区	石 砺	2.46	1.64	0.34	1.0	チャート	
94	B1地区Ⅳ層	石 砺	2.73	1.75	0.45	1.7	黒曜石	
95	B1地区Ⅳ層	石 砺	1.6	1.6	0.3	0.5	チャート	
96	B1地区Ⅳ層	石 砺	1.4	1.25	0.2	0.4	チャート	
97	B1地区	石 砺	1.56	1.46	0.3	0.4	チャート	
98	B1地区Ⅳ層	石 砺	3.6	5.4	0.9	13.0	チャート	
99	B1地区Ⅳ層	剥片石器	5.4	4.55	1.1	26.5	チャート	
362	B1地区	磨製石器	2.4	2.3	0.28	1.6	頁岩	
363	B1地区Ⅳ層	磨製石器	2.7	2.5	0.2	2.1	礫灰岩	
364	B1地区Ⅳ層	石斧	1.45	3.55	0.31	2.9	頁岩	
365	B1地区	磨 石	8.7	8.5	7.26	750	尾崎酸性岩	
366	B1地区Ⅳ層	磨 石	11.05	6.1	2.15	230	安山岩	
367	B1地区Ⅳ層	敲 石	9.5	8.4	6.14	720	安山岩	
368	B1地区Ⅳ層	磨 石	13.2	10	4.35	610	礫灰岩	
369	B1地区Ⅳ層	燧石製品	9.7	9.45	4.5	90.1	燧 石	
370	B1地区Ⅳ層	燧石製品	10.95	10.15	5.1	17.5	燧 石	
371	B1地区Ⅳ層	台 石	14.95	12.6	4.4	1320	安山岩	
372	B1地区	台 石	14.3	13.4	6.4	1710	安山岩	
373	B1地区Ⅳ層	台 石	26.3	24.65	6.9	6000	安山岩	
374	B1地区Ⅳ層	砥 石	31	7.5	7.5	1950	安山岩	
375	B1地区	砥 石	11.5	6.4	4.2	330	安山岩	
376	B1地区Ⅳ層	砥 石	10.7	5.1	1.95	78.9	安山岩	

4. B 2 地区

B 2 地区は、南東側に突き出た丘陵先端部に位置する。調査面積は約4,600m²である。調査区は北西側が微高地となり、北、東、南側の谷に向かって、緩やかに傾斜している。北西側の微高地は、土の天返しの為、攪乱されていた。第IV層上を精査すると、B 1 地区同様、古代の畠跡と思われる歯状遺構が確認された。その他、溝状遺構 2 条、竪穴状遺構 1 基、土壤 1 基、時期不明の土壤 1 基、炉跡 6 基、第V層上で古墳時代の竪穴住居 1 軒、土壤 1 基、時期不明の掘立柱建物跡 7 棟、柱穴群などを検出している。遺物は、縄文時代後期・晚期の土器、石器、弥生から古墳時代の壺、甕、高环、須恵器、古代の甕、土師器环、高台付环、黑色土器、布痕土器、土製紡錘車、鐵鎌、鐵製品などが第IV層土中から出土している。

(1) 縄文時代の遺構と遺物

遺構は検出されなかったが、第IV層の遺物包含層から縄文後期の上器が出土している。出土遺物は第56図に示している。377～387は深鉢と思われる。377は平口縁で、口唇部に刻み目を施している。378は「く」の字形口縁を呈し、口唇部と内外器面に斜方向の沈線がみられる。379は外器面口縁部に貝殻刺突がみられる。380胴部で、外器面に交差する斜方向の沈線が施されている。381は胴部で、内器面は貝殻条痕、外器面はナデ調整である。382は胴部で、外器面に沈線、内器面は貝殻条痕調整である。383・384は内外器面とも貝殻条痕調整のある胴部である。385は内外器面ともナデである。386・387は底部で、386は網代底である。388～392はチャート製、393は頁岩製の打製石器である。

(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居跡

1号竪穴住居（S A 1、第57図）

調査区の中央や東寄り第V層上で検出した。住居径5.6m、検出面からの深さ約0.3mの方形プランを呈する。主柱穴は0.7～0.85mの深さを持つ2本柱である。南側中央には長軸1.7m、短軸1.5m、床面からの深さ約0.2mの隅丸方形プランの土壤を持つ。土壤内からは5世紀前半のものと思われる高环が出土している。出土遺物については第57図に示している。394は住居内の土壤から出土した高杯である。杯部下位に明瞭な稜を持ち、体部から口縁にかけてやや内湾しながら立ち上がる。脚柱部は、外方に直線的に延び、明瞭な稜を持って裾が広がる。395は刻み目のある貼り付け突帯を持つ甕である。396は平底を呈する甕の底部である。

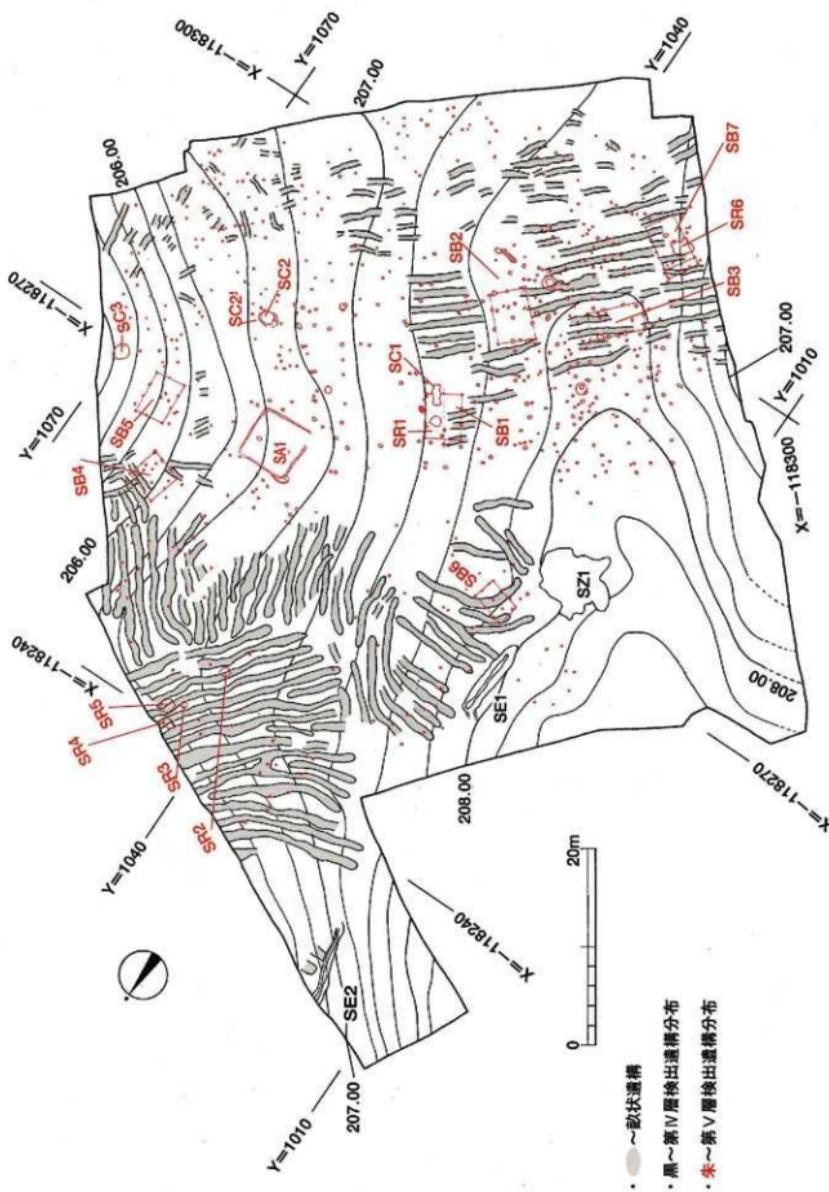
土壤

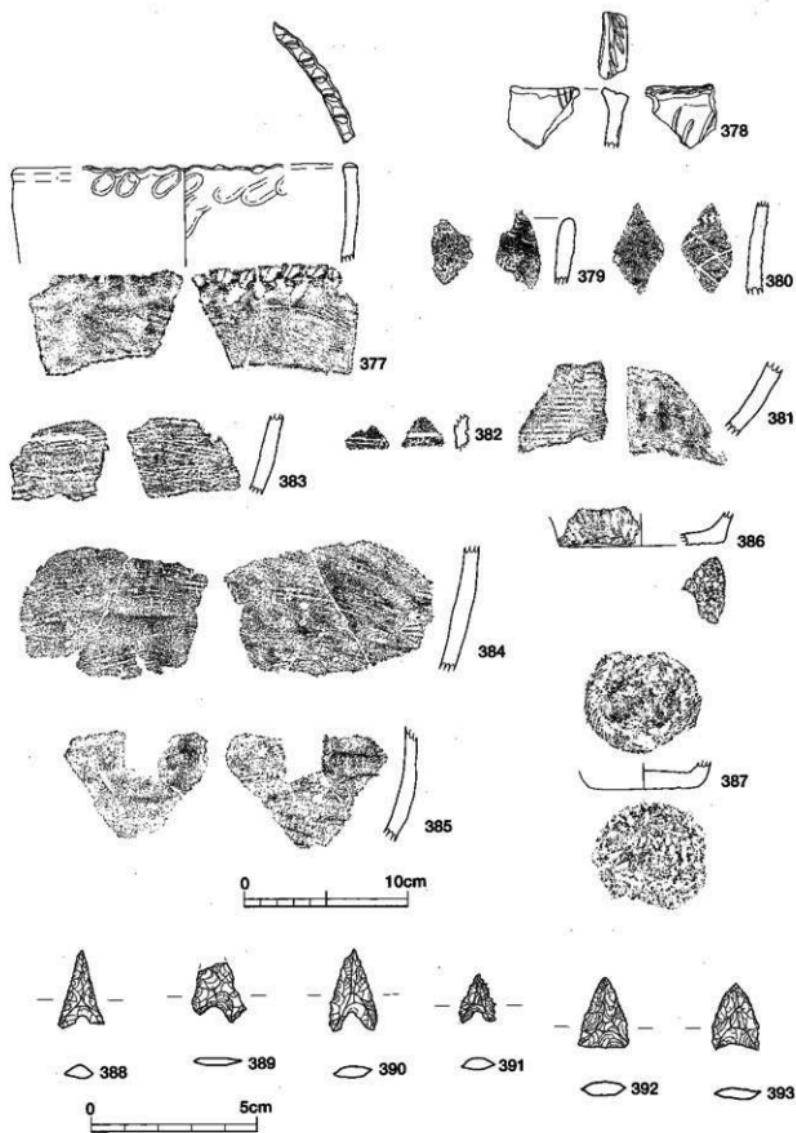
1号土壤（第58図）

調査区のほぼ中央に位置し、1号掘立柱建物跡と切り合っている。長軸約1.9m、短軸0.8m、検出面からの深さ約0.5m前後、北北西一南南東に主軸をもつ不定長楕円形を呈する。埋土は暗オリーブ土で、上層部から外器面にミガキのある広口の壺（第58図、397）が出土している。

遺構外出土の遺物（第59～64図）

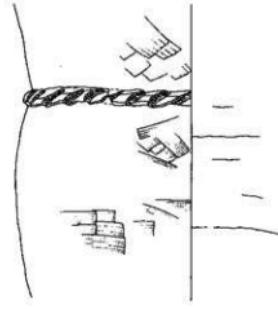
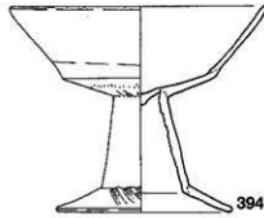
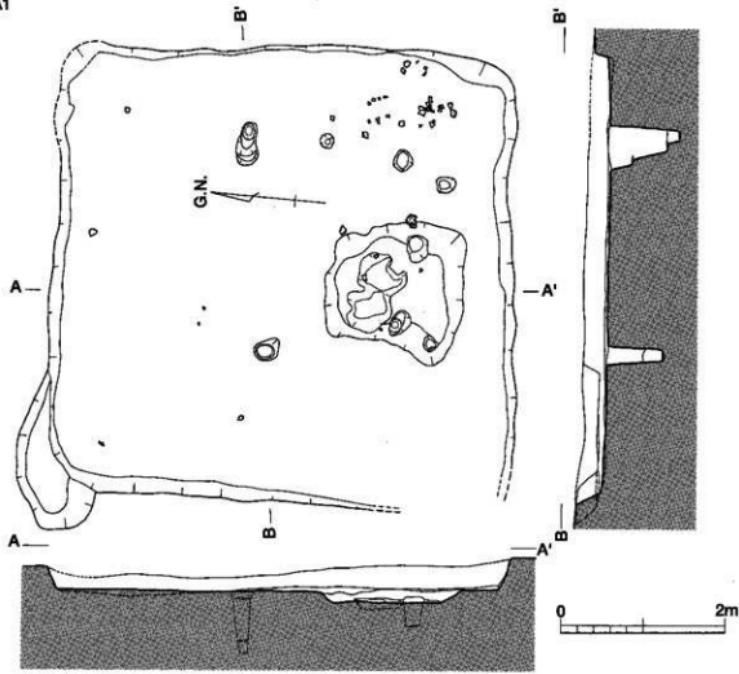
第55图 B2地区遗構分布図 (S=1/500)





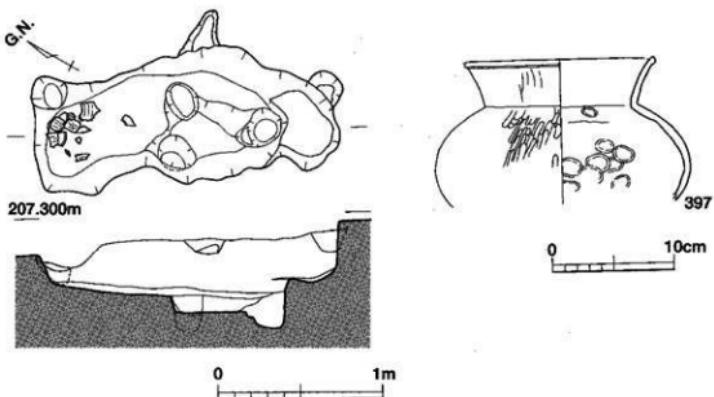
第56図 B2地区出土縄文土器 (S = 1 / 3)・石器 (S = 2 / 3) 実測図

SA1



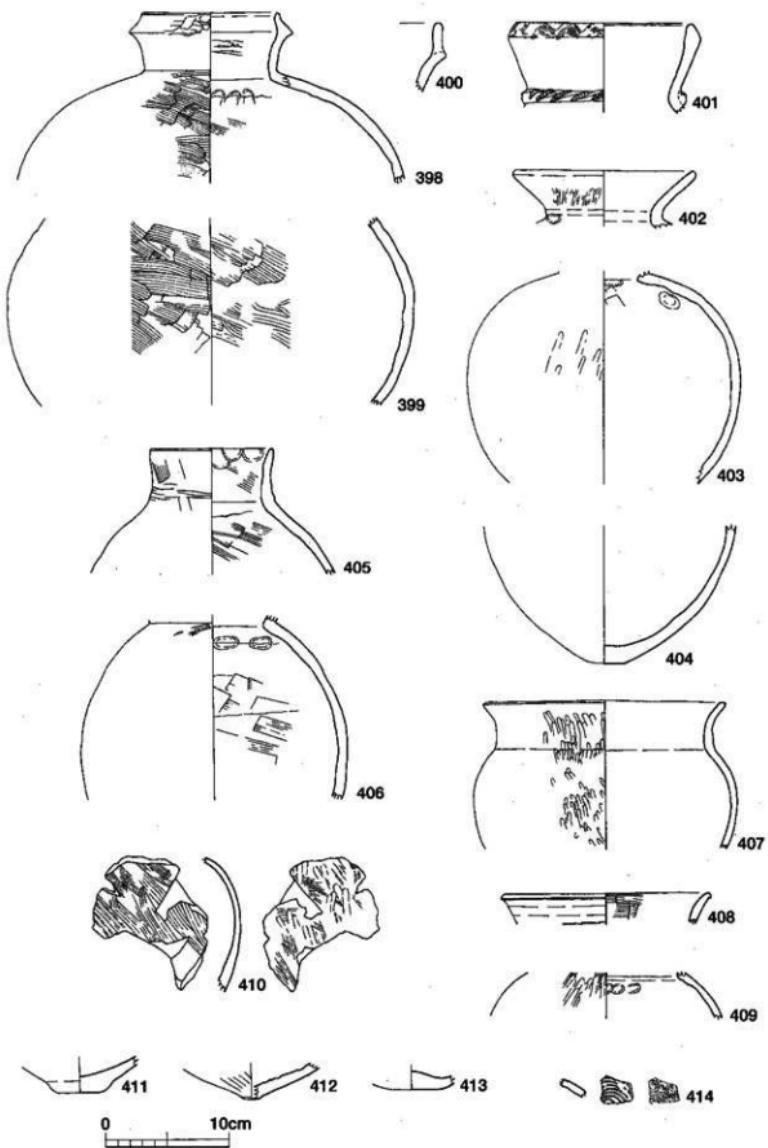
0 10cm

第67図 B2地区1号要穴住居(SA1)実測図($S=1/60$)及び出土遺物実測図($S=1/4$)

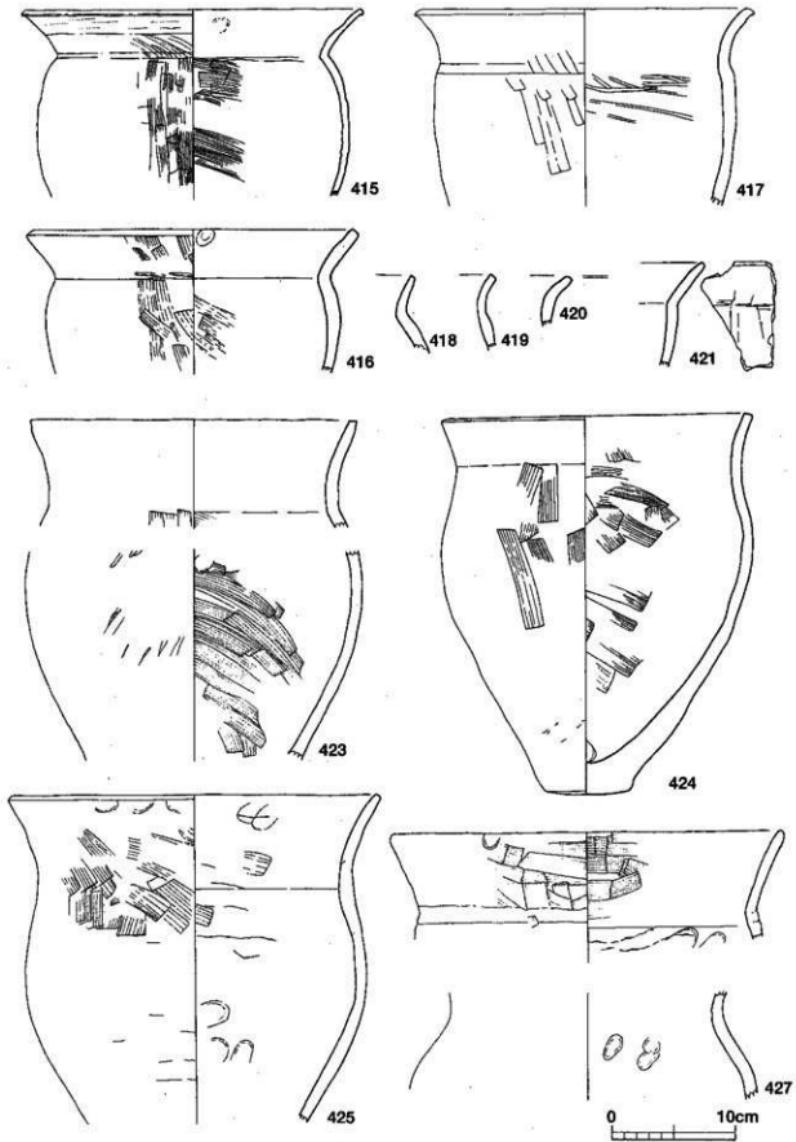


第58図 B-2地区1号土壤(SC 1)実測図(S=1/30)及び出土遺物実測図(S=1/4)

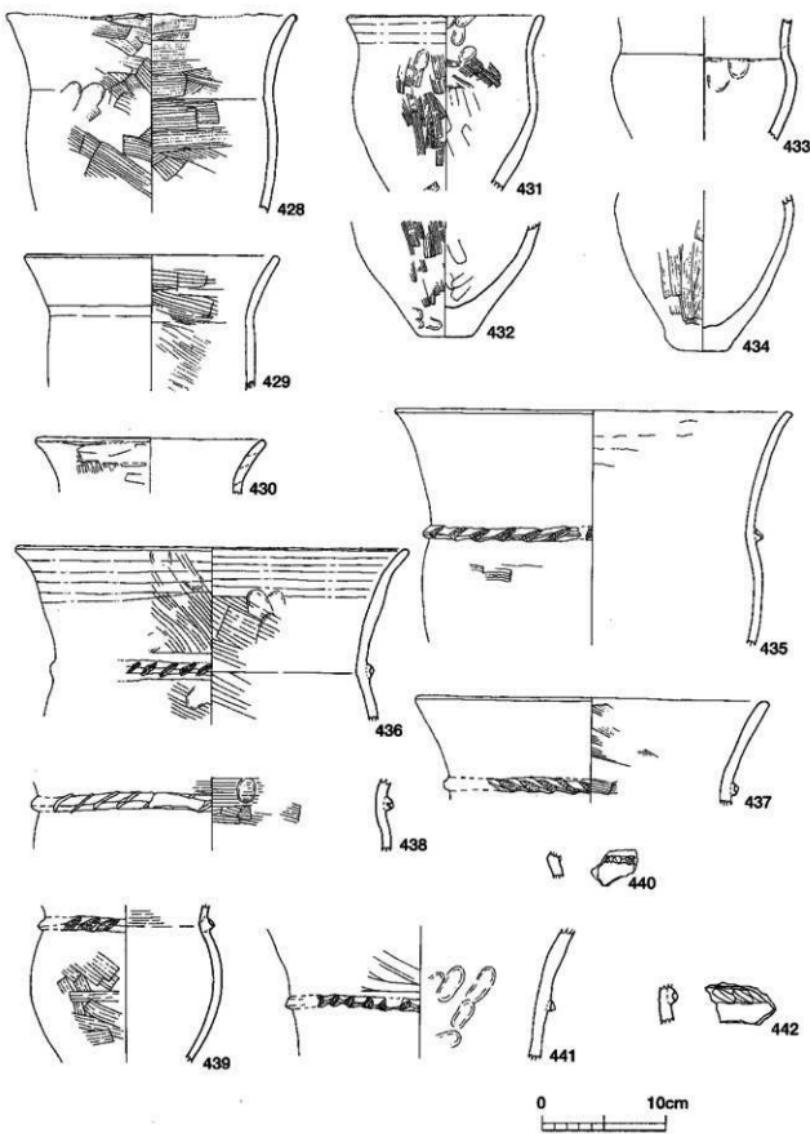
398~414は壺である。398・399は同一個体で、球形の胴部を持つ複合口縁壺である。400は複合口縁壺の口縁部である。401は複合口縁を呈し、口縁部に櫛描波状と頸部に刻み目のついた貼り付け突帯を有する。402は頸部屈曲部から口縁にかけて逆ハの字型に開く口縁を呈する。403・404は球形の胴部を持ち、404は小さい平底を呈する。405・406は長胴形になると思われる。407~409は胴部上位が比較的張る、口縁部の短い広口の壺になると思われる。411~413は底部で、411は平底、412は乳頭状底部、413は丸底的平底である。414は重弧文土器である。415~481は壺である。415は頸部が「く」の字に屈曲し、口唇部は平坦に仕上げてある。416~421は頸部が若干「く」の字に屈曲し、口唇部は平坦に仕上げてある。いずれの壺も内外器面はハケ目調整で、スヌの付着がみられる。422~425は緩やかに頸部がくびれ、口径と胴部上位最大径がほぼ同じを測る。口唇部は平坦な仕上げである。426は若干頸部が「く」の字にくびれ、外方に延びる口縁を呈する。口唇部は丸く仕上げてある。427は緩やかに頸部がくびれると思われる。428は緩やかに頸部がくびれ、外反しながら口縁が延びる。口唇部には刻み目が施されている。429は胴部が張らずに頸部くびれから外方に口縁がまっすぐ延びる。口径に最大形を持つ。430は壺の口縁部である。431~434は小型の壺である。435~440は緩やかにくびれた頸部に刻み目のある貼り付け突帯を有する壺である。口縁は外方に延びる。441は胴部から口縁にかけてくびれを持たずに外反しながら延びる壺で、刻み目のある貼り付け突帯を有するものである。443~449は胴部から口縁にかけてくびれを持たずに直行及び内湾しながら延び、刻み目のある貼り付け突帯を持つ壺である。450~453は口唇部に刻み目を持つ壺の口縁部で、刻み目貼り付け突帯のある壺に伴うものであると思われる。454~458は刻み目貼り付け突帯を持つ壺の胴部片である。459~481は壺の底部である。459は脚台を持つ壺か。460・461は上底を呈する。462・463は底部に円盤状の粘土の貼り付けがみられる。464~470は平底で、外器面でみると底部に緩やかなくびれを持ち、外反気味に立ち上がる特徴がみられる。471は平底で、底部にくびれを持たずに直線的に胴部が延びる。472~474は平底で、底部にくびれを持



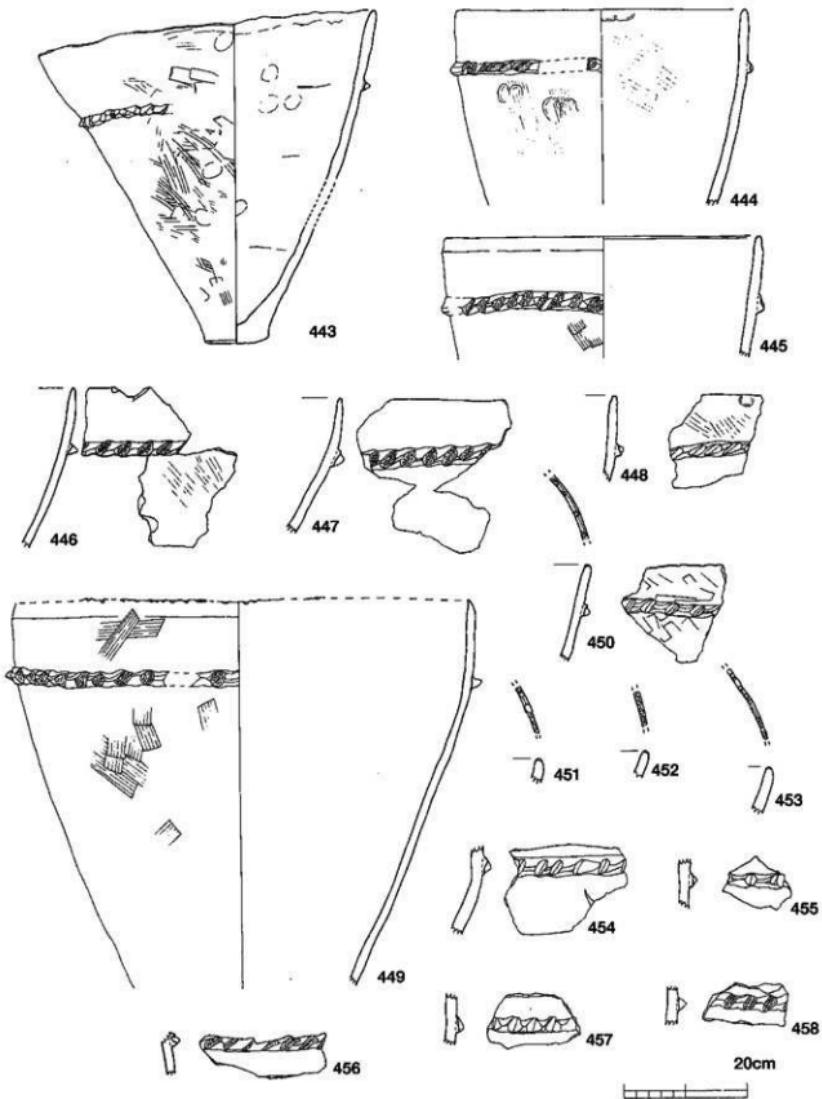
第59圖 B2 地區出土陶生土器・土師器実測図 (S = 1 / 4)



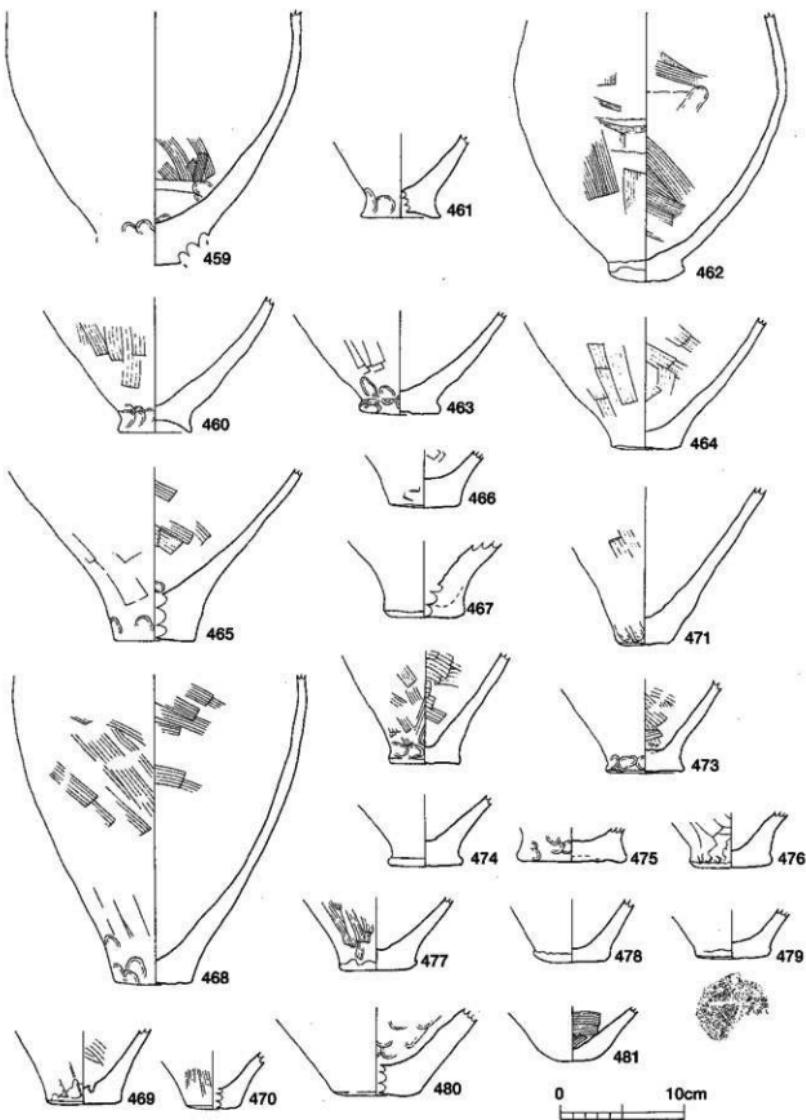
第60図 B2地区出土土師石器実測図 (S = 1 / 4)



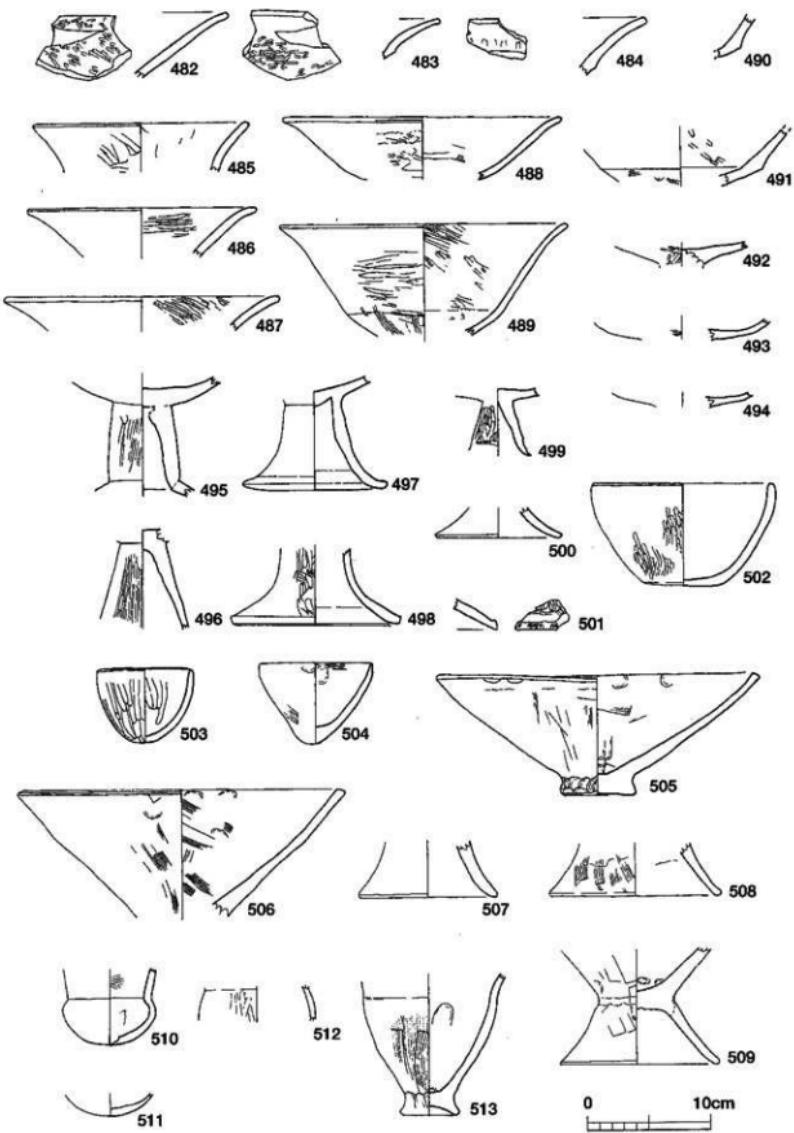
第61図 B2地区出土土器実測図 (S = 1/4)



第62図 B2地区出土土師器実測図 (S = 1/4)



第63図 B2地区出土土器実測図 ($S = 1/4$)



第64図 B2地区出土土師器実測図 ($S = 1/4$)

ち、若干底部裾が外方に開き気味になっている。475～479は平底で、底部に若干くびれを持ち、わずかに底部裾が外方に広がる。480は平底、481は丸底的平底を呈する。482～494は高杯の杯部である。483・484は、屈折する体部外面のみに明瞭な稜がみられる。488・489は屈折はみられず、緩やかに外反している。495～501は高杯の脚部である。495はやや膨らみを持ち、496は外方に直線的に延びる脚柱部を呈する。497・498は外反しながら延び、裾部が開く。499は器高が低く、脚柱部が外反すると思われる。500・501は裾部である。502は椀である。503・504は坏である。505・506は浅鉢か。506は外器面にスヌが付着している。507～509は脚台付き鉢などの脚台部か。510・511は小型丸底壺である。512は小型の壺の胴部か。513は小型の甕である。

(3) 古代の遺構と遺物

畝状遺構（第55図）

畝状遺構は第IV層上で検出した。遺構の捉え方はB1地区と同じである。畝状遺構は大きく4区画程に分けられる。①調査区北側に、北東～南西方向に平行して走る15条。②①の南側に、北西～南東方向に平行して走る20条前後。③調査区西側に、東～西方向に平行して走る12条前後。④調査区南側に、北東～南西方向に平行して走る15条前後。

畝状遺構の溝の長さは約15m、20～30m、溝幅0.8～1m前後を測る。等高線に直交して走行するものがほとんどであるが、斜方向に交わるものもみられる。溝の埋土を除去すると、古代の甕、土師器坏、土製紡錘車などが多く出土した。栽培作物は不明である。

土壤

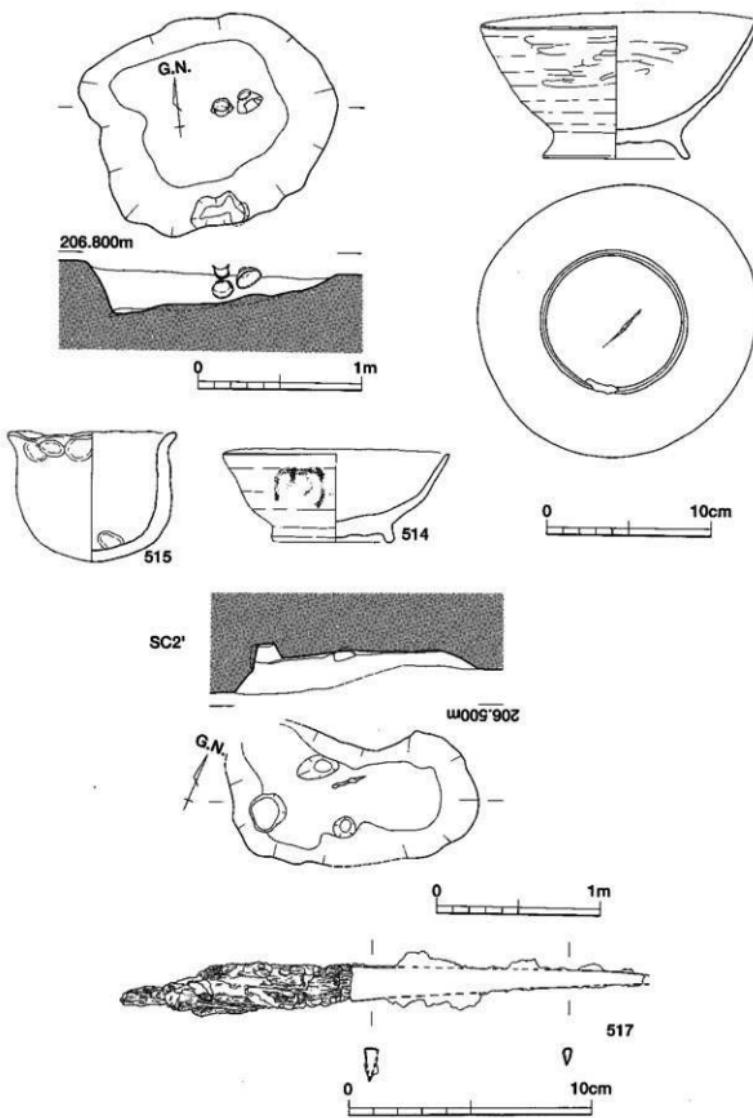
2号・2'号土壤（S C 2・2'、第65図）

調査区の東側中央に位置する。2号土壤と2'号土壤は重なる遺構である。遺構検出が困難であったこともあるが、第IV層上で2号土壤を検出し、調査終了後、包含層掘り下げ中に小刀が出土し、第V層上で2'号土壤の落ち込みを確認することになった。2号土壤は長軸約1.6m、短軸約1.3m、検出面からの深さ約0.3mの不定円形プランを呈する。2'号土壤は長軸約1.5m、短軸約0.8m、検出面からの深さ約0.2mの長楕円形プランを呈する。ここでは別遺構として図面を作成しているが、同一遺構であると思われる。また、2号土壤から完形で出土した土師器3つと2'号土壤から出土した小刀1本のセットからみると、土壤墓の可能性が考えられる。埋土は暗オリーブ色土である。

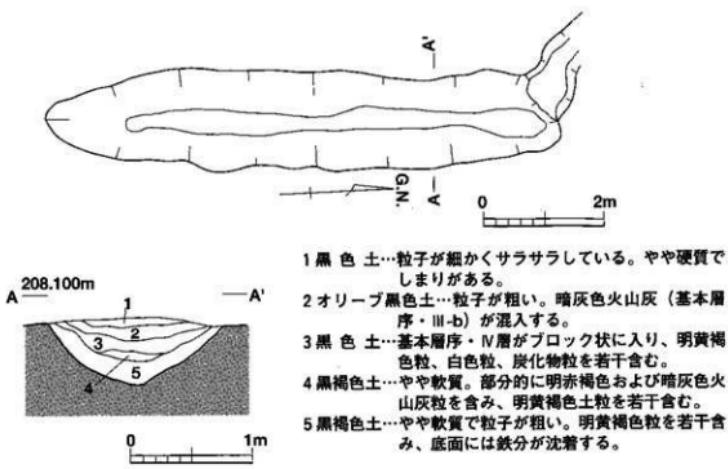
出土遺物は第65図に示してある。514は高台付椀である。体部は内湾して口縁は直立する。高台は使用による摩擦がみられ、断面方形を呈する。体部の正位方向に墨書が記されている。文字は「門」か。515は土師器の坩である。底部は丸底で、内外器面に指頭痕が多くみられる手づくね的な作りである。516は高台付椀である。体部は内湾し、口縁は直立する。高台は外方に開き、高台端部は丸く仕上げてある。高台内にヘラ記号「一」か。517は小刀か。茎端部をわずかに欠き、刃部には鞘の木織維が残る。現存長22cm、断面計測の刃の身幅1.4cm、棟厚6mm、莖部の身幅7mm、棟厚3mmを測る。

溝状遺構

1号溝状遺構（S E 1、第66図）



第65図 B2地区2・2'号土壤(SC2・2')実測図(S=1/30)
及び出土遺物(514~516, S=1/3, 517, S=1/2)実測図



第66図 B2地区1号溝状遺構（SE1）・土層実測図（S=1/80、土層S=1/40）

調査区の西側、第IV層上で検出した。溝の長さ約8.45m、溝幅約1.63m、検出面からの深さ約0.58mを測る。出土遺物は無いが、埋土状況からみて畠状遺構と同時期に存在した溝と思われる。溝の使用目的、性格については不明である。

調査区の北西側に2号溝状遺構（SE2）が確認されている。浅い溝で、畠状遺構と直行していることから、畠的な溝としての機能が考えられる。

遺構外出土の遺物

出土遺物は甕、鉢、壺、高台付壺、黑色土器、墨書き土器、布痕土器、須恵器、土製防錆車などがある。第IV層の遺物包含層と炉跡（SR1～7）周辺、畠状遺構の溝底部などから出土している。第6表の古代の土器分類基準表に従って分類を行なう。

甕（第67・68図）

A類-1 : 518、519	D類-1 : 526～530	E類-1 : 534
A類-2 : 520	D類-3 : 531	E類-2 : 536
B類-1 : 521、522	D類-4 : 532	E類-5 : 535
B類-2 : 523	D類-7 : 533	E類-6 : 537、538
C類-1 : 524		
C類-3 : 525		

541は鉢である。内外器面ともナデで、外器面にはススが付着している。

須恵器（第68図）

541は壺の口縁部である。542は壺の胴部で、外器面に格子目タタキ、内器面に平行當て具旗がみられる。

壺（第69図）

A類－1 : 544

B類－1 : 545

A類－3 : 547、548、550、552

B類－2 : 546、551

高台付壺（第69図）

A類 : 556、557

557は体部外面に縦3条の線刻と底部外面にヘラ記号「-」及び線刻「×」がある。

B類－1 : 562

B類－6 : 565

B類－2 : 559

B類－9 : 563

B類－3 : 560

B類－11 : 564

B類－4 : 558

563の高台部は、使用による摩擦で高さが低くなっている。

黒色土器（第70図）

底部B類－1 : 566、568、570

底部B類－3 : 559

底部B類－4 : 567

いずれの環部も、体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がり、口縁が直線的及び若干外反気味に延びるものである。

布痕土器（第70図：576・577）

土製紡錘車（第70図：578、579）

（4）その他の遺構と遺物

掘立柱建物跡（S B 1～7、第71図）

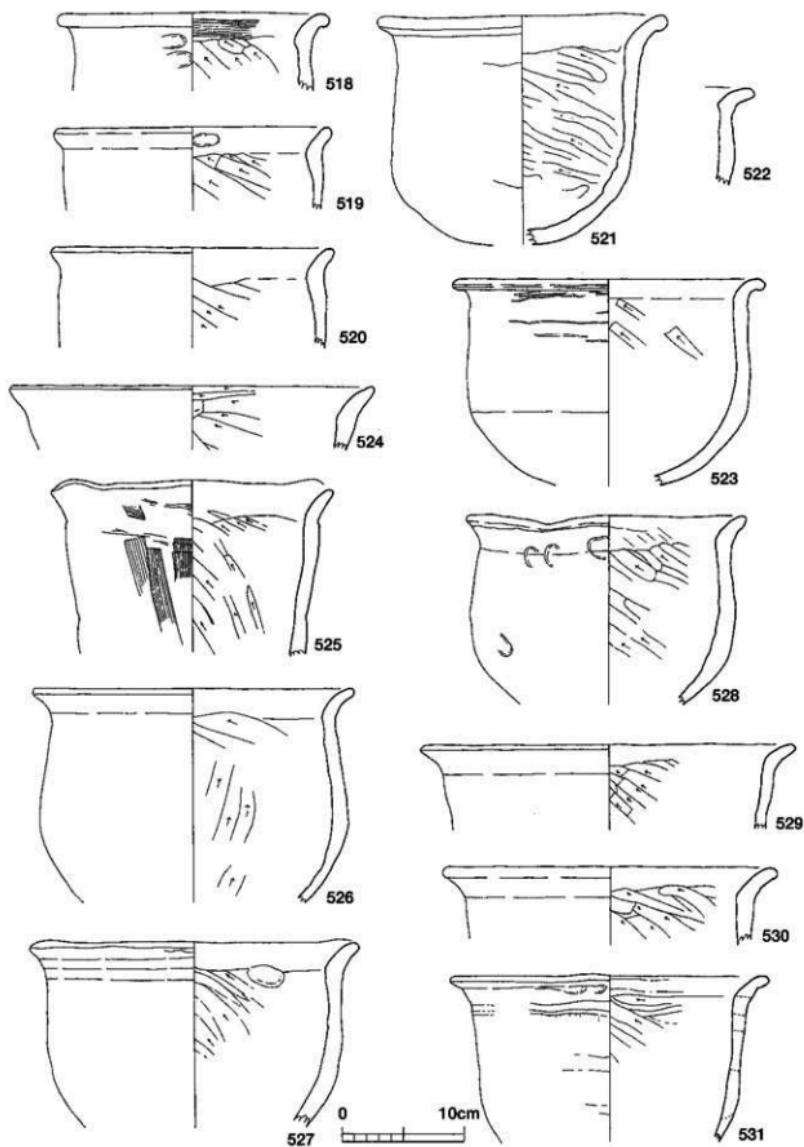
検出された建物は7棟である。今回確認された建物は、1間×3間、2間×3間、1間×2間のものがあり、廂を有するものもある。柱穴の埋土は暗オリーブ土で、竪状造構が作られる以前の遺構と推測するが、はっきりとした時期決定はできない。柱穴間の距離については図に示した。

①号掘立柱建物跡（S B 1）

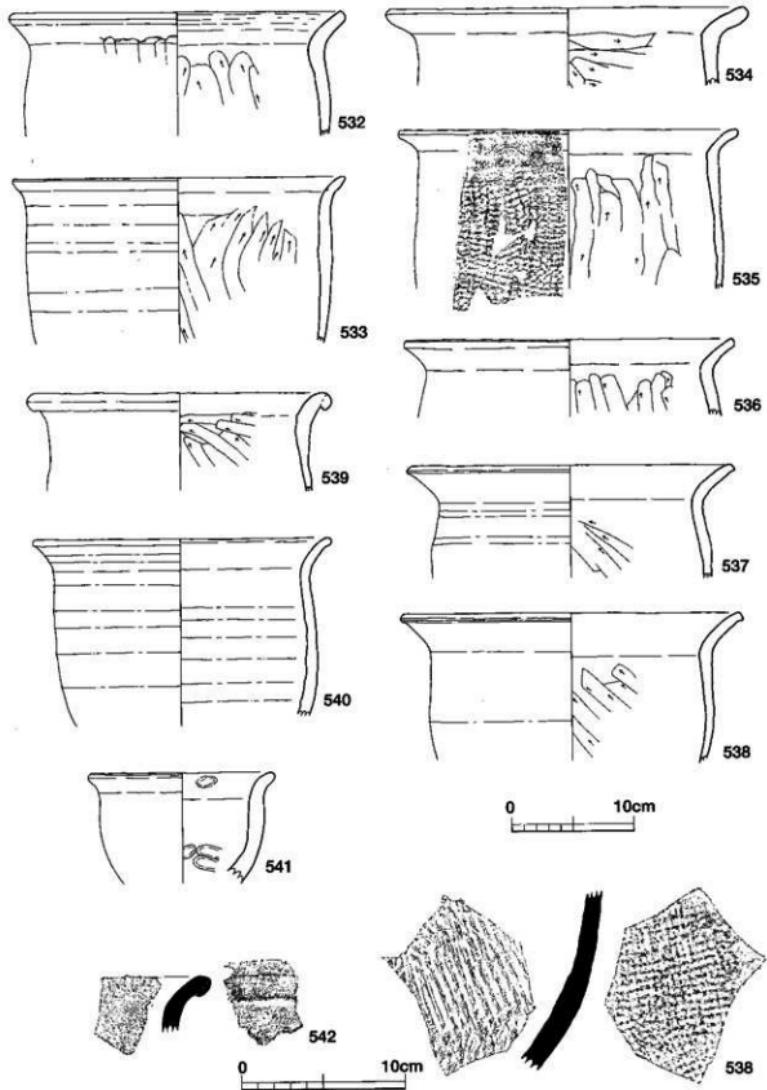
調査区の中央に検出された。主軸をN-34°-Wにとる2間×3間の建物で、建物の北西側壁際のはば中央に炉（1号炉）をもつものである。梁3.6～3.7m、桁行4.6～4.7mを測る。柱穴径は30cm前後で、深さは40～70cmである。古墳時代の土師器を出土するS C 1と切り合っている。

②号掘立柱建物跡（S B 2）

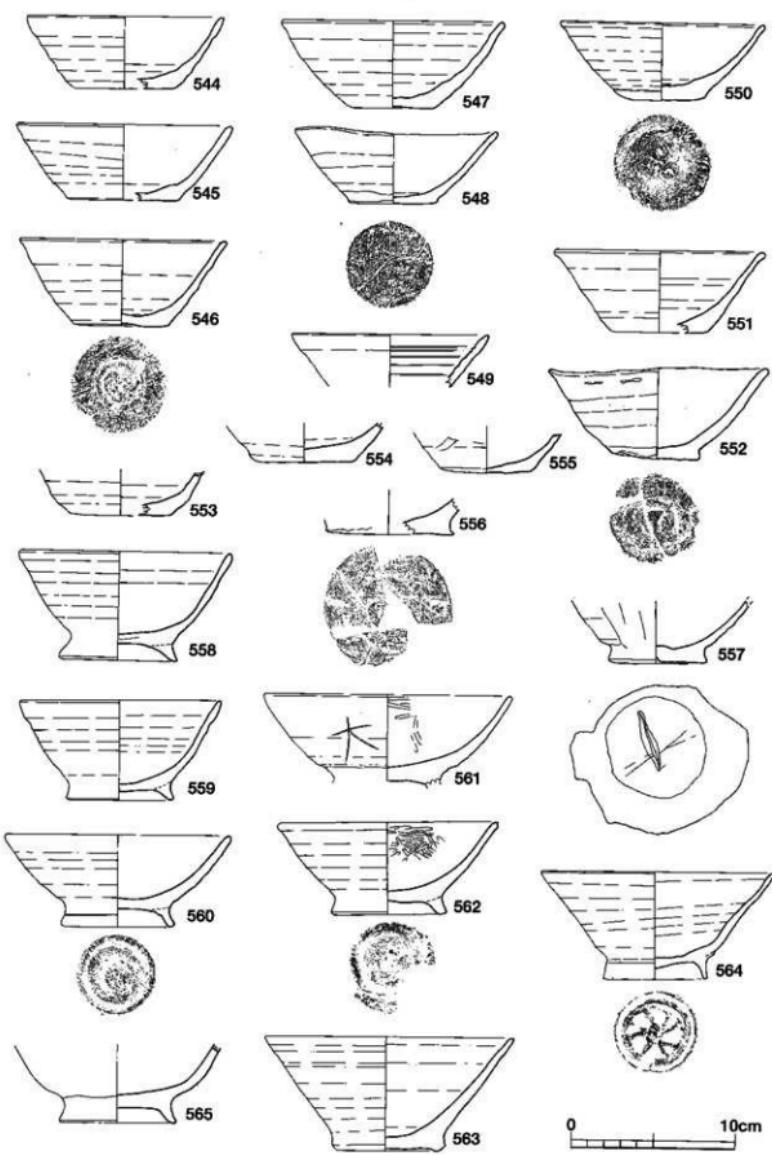
調査区の中央や南寄りに位置する。主軸をN-44°30'-Wにとる2間×3間の建物である。梁3.8m、桁行4.9～5.4mを測る。北西側の梁は中央に2本の柱が並び、門状になっている。柱穴径は20～40cmで、底レベルも一様ではない。



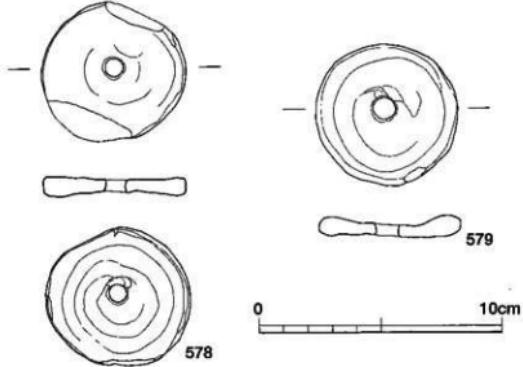
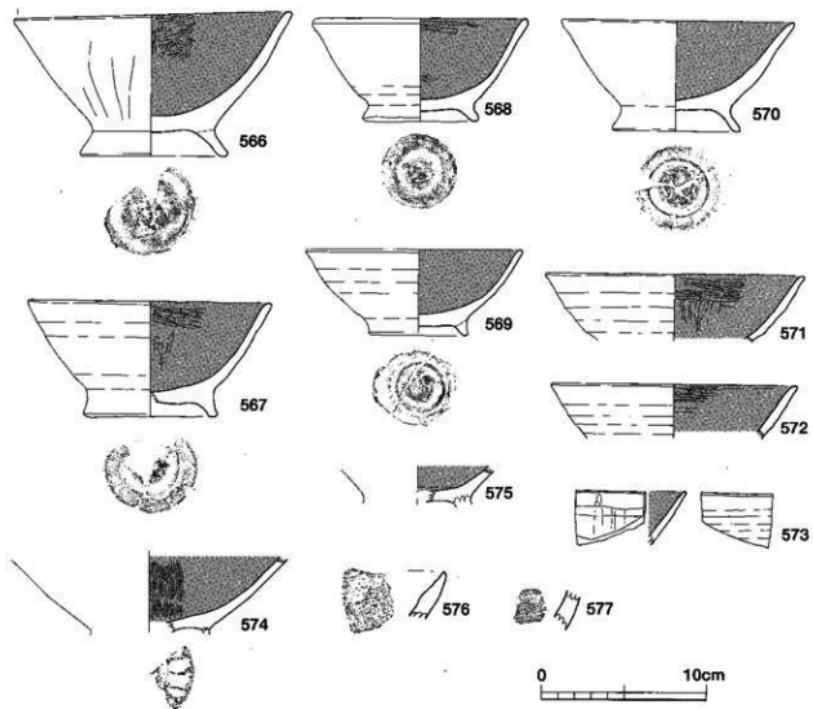
第67図 B2地区出土土師器実測図 ($S = 1/4$)



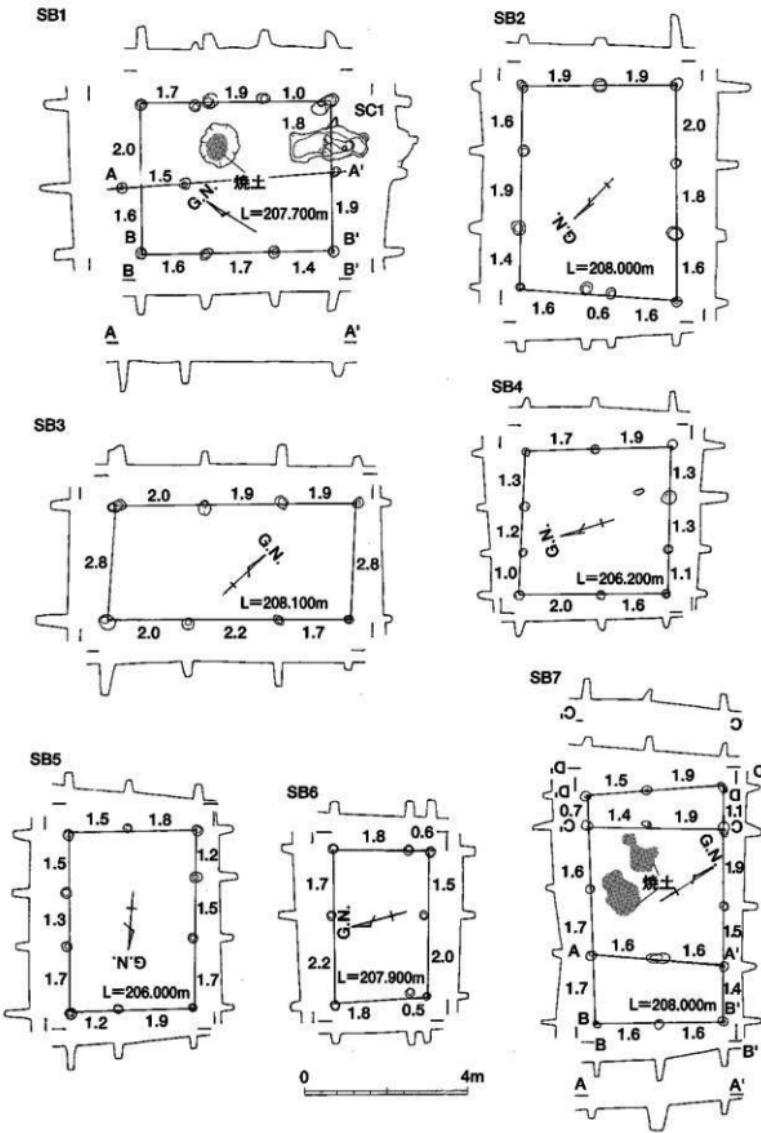
第68図 B2地区土出土師器 ($S = 1/4$)・須恵器 ($S = 1/3$) 実測図



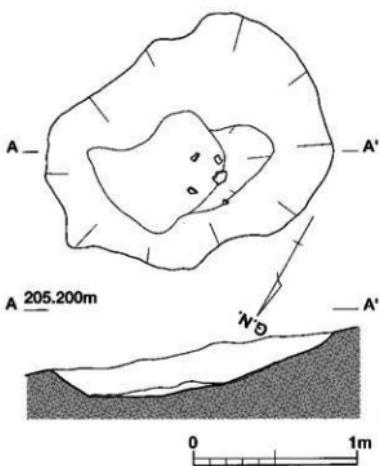
第69図 B2地区出土土師器実測図 (S = 1/3)



第70図 B2地区出土土器 (S = 1/3)・土製紡錘車 (S = 1/2) 実測図



第71図 B2地区1~7号掘立柱建物跡(SB1~7)実測図(S=1/120)



第72図 B 2 地区 3号土壙 (SC 3) 実測図 ($S = 1/30$) 穴径は20~30cmで、深さは30~50cmである。

・ 6号掘立柱建物跡 (SB 6)

調査区の西側に位置する。主軸をN-75°-Wにとる1間×2間の建物である。梁3.5~3.9mを測る。梁南側には、1.8mのところに柱穴が見られる。柱穴径は15~30cmで、深さは40cm前後と一定している。

7号掘立柱建物跡 (SB 7)

調査区の南側に位置する。主軸をN-60°-Wにとる2間×3間、西側に廂を持つ建物である。梁3.2~3.3m、桁行4.8~5mを測る。南壁際に炉(6号炉)を持つ。柱穴径は15~30cmで、深さは20~50cmと一様でない。廂の柱穴径は15cm、深さ20~40cmである。

土壤

3号土壙 (SC 3、第72図)

調査区の東側壁際、第IV層上で検出した。長軸1.85m、短軸1.28m、検出面からの深さ約0.24mの不定円形プランを呈する。埋土は黒褐色土である。古墳時代や古代の土師器が数点出土しているが、流れ込みと思われる。時期は不明である。

豎穴状遺構

1号豎穴状遺構 (SZ 1)

直径約4m程の不定プランを呈する。この遺構は他の地区で確認されている豎穴状遺構と同じで、黒色土と焼土が覆土である。溝状遺構とのつながりは確認されていない。埋土状況から畝状遺構と同時期に存在したと推測するが、性格不明の遺構である。

・ 3号掘立柱建物跡 (SB 3)

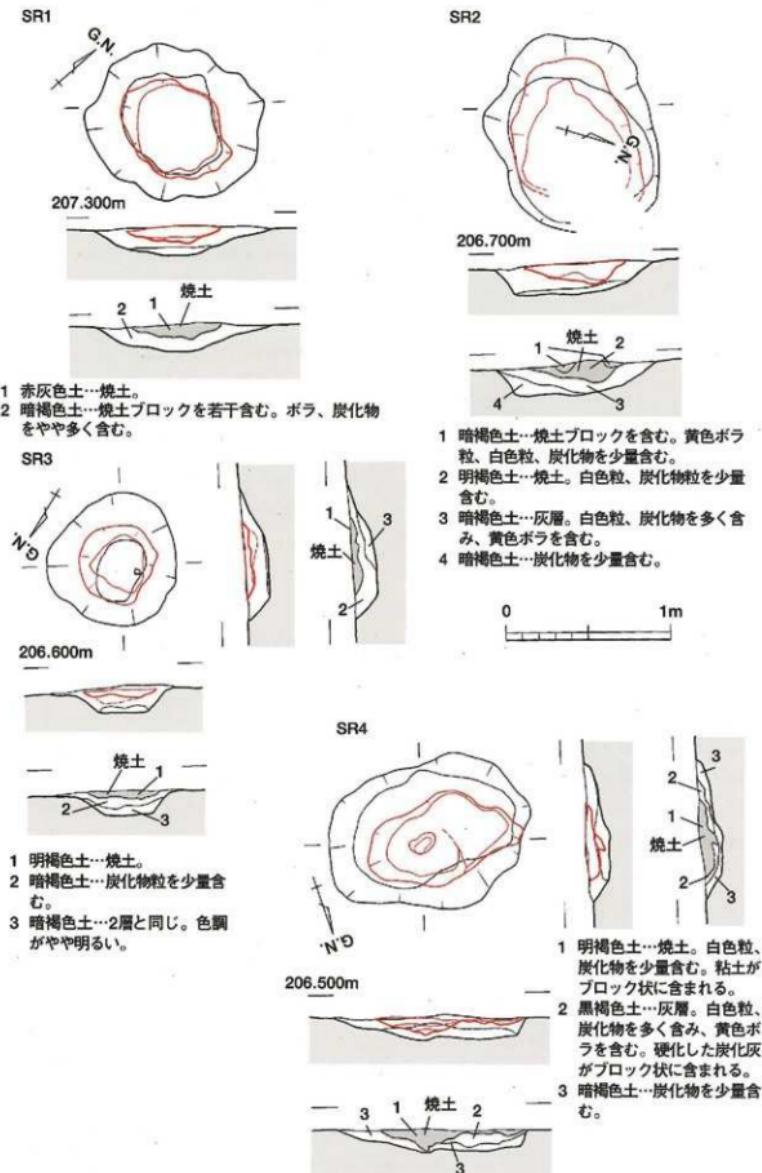
2号掘立柱建物跡の南南西に位置する。主軸をN-45°-Eにとる1間×3間の建物である。梁2.8m、桁行5.8~5.9mを測る。柱穴径は20~40cmで、底レベルは一様でない。

・ 4号掘立柱建物跡 (SB 4)

調査区の北東側に位置する。主軸をN-70°-Wにとる2間×3間の建物である。梁3.6m、桁行3.5~3.7mを測る。柱穴径は15~30cmで、深さは30~70cmである。

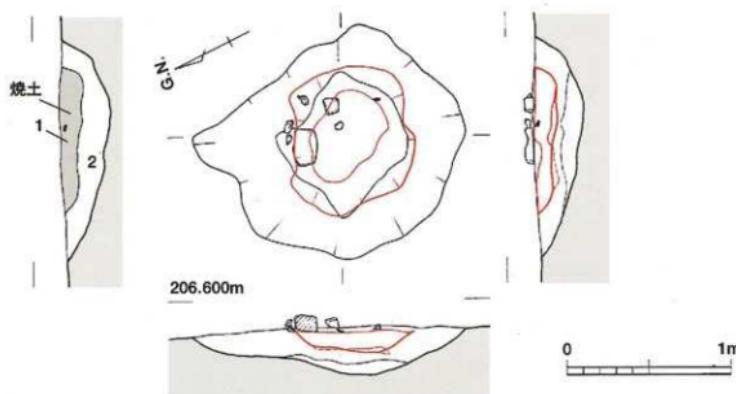
・ 5号掘立柱建物跡 (SB 5)

4号掘立柱建物跡の南隣に位置する。主軸をN-5°30'-Wにとる2間×3間の建物である。梁3.1~3.3m、桁行4.4~4.5mを測る。柱穴径は20~30cmで、深さは30~50cmである。



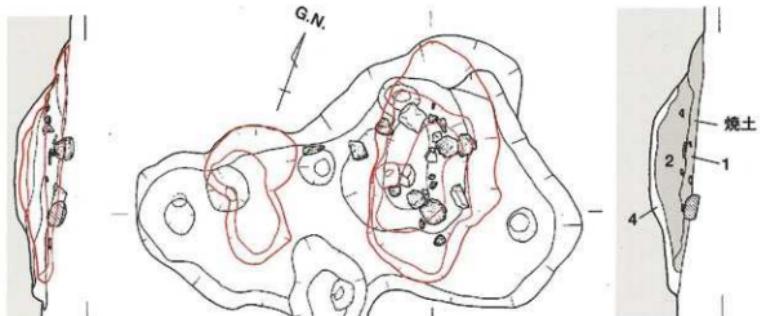
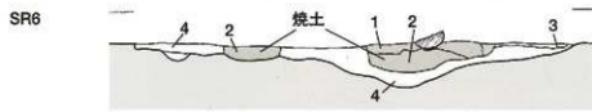
第73図 B2地区1・2・3・4号炉跡 (SR1・2・3・4) 実測図 (S=1/30)

SR5



- 1 明赤褐色土…軟質でしまりがある。サラサラしている。炭化物、小石等を含む。
2 暗赤褐色土…粒子は非常に細かく、硬質でしまりがある。炭化物、砂粒を若干含む。

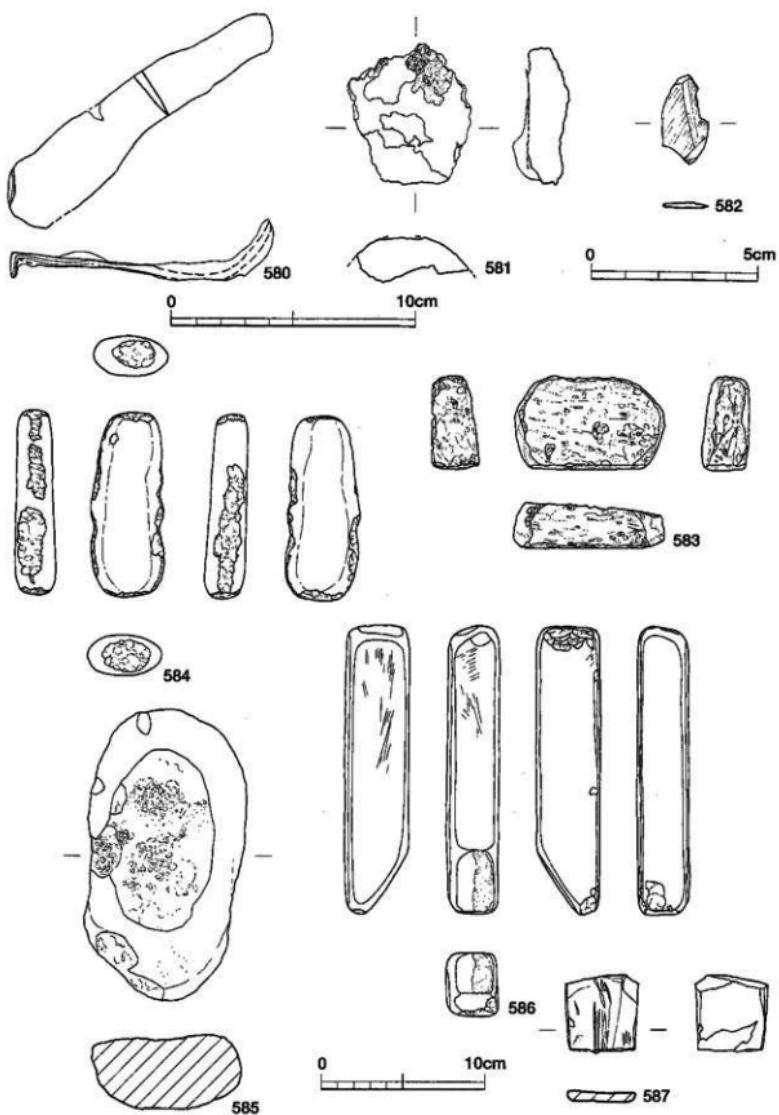
SR6



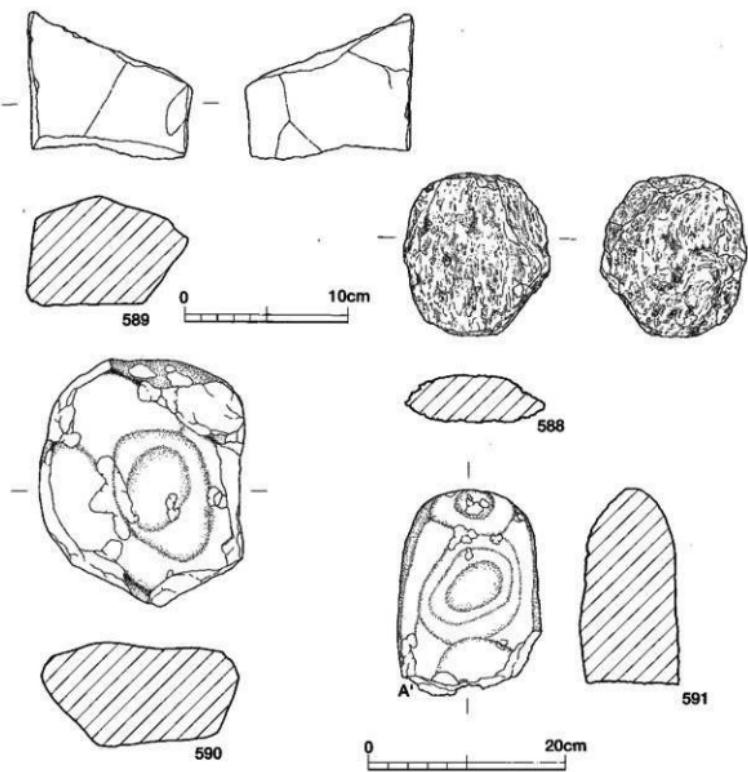
- 1 黒色土…粒子が細かく、やや軟質。焼土が混じる。
白色粒、ガラス質粒、炭化物粒を含む。
2 赤褐色土…焼土。硬質でザラザラしている。御池ボラ粒、ガラス質粒、炭化物を含む。

- 3 黒色土…やや軟質。
白色粒、ガラス質粒、炭化物粒を含む。
4 黑褐色土…やや軟質。
白色粒、ガラス質粒を含み、炭化物粒を若干含む。

第74図 B2地区5・6号炉跡 (SR5・6) 実測図 (S=1/30)



第75図 B2地区出土鐵器・櫛の羽口 ($S = 1/2$)・石器 (582, $S = 2/3$, 583~587, $S = 1/3$)



第76図 B2地区出土石器実測図 (589、S = 1/3, 588・590・591、S = 2/5)

炉跡

検出された炉跡は6基である。B-I地区で確認された炉跡と構造は同じであるが、単体で建物に伴うものと、屋外炉的なものが一所に複数で作られていることが確認される。

①号炉跡 (SR1、第73図)

1号掘立柱建物跡に伴うものである。掘り型は、長軸1.1m、短軸1m、検出面からの深さ約0.2mの不定楕円形プランを呈する。中央には長軸0.75m、短軸0.55m、深さ約0.1mの楕円形プランに焼土が堆積している。上面では赤変した安山岩や軽石が土器などと共に散乱した状態で確認された。

②号炉跡 (SR2、第73図)

調査区の中央北側に検出された。東側は攪乱で壊されているが、掘り型は、長軸約1.2m、短軸約0.9m、検出面からの深さ約0.2mの楕円形プランを呈する。中央には、焼土が径0.7m、深さ0.15mの範囲

に堆積している。

◦ 3号炉跡～5号炉跡 (SR 3・4、第73図 SR 5、第74図)

2号炉の北側に3基が集中して検出された。3号炉は掘り型径が0.8m、深さ0.18mの円形プランを呈し、中央には径が0.5m、深さ0.1mの焼土が堆積し、他と比べて小型のものである。4号炉は掘り型は長軸1.28m、短軸0.9m、深さ0.16mの楕円形プランを呈する。中央の焼土も、長軸1m、短軸0.5mの楕円形プランを呈している。4号炉は、焼土と掘り型に埋めた土との間に火を受けて硬化したような層が底付近に一部に見られた。5号炉は掘り型の長軸が1.68m、短軸1.4m、検出面からの深さ約0.3mの不定円形プランを呈する。中央の焼土は径が0.9m、深さ約0.14mの範囲に堆積し、上面には赤変した軽石や土師器片などが散乱している。

◦ 6号炉跡 (SR 6、第74図)

7号掘立柱建物跡に伴う炉跡である。長軸2.8m、短軸1.5mの不定型なにじみに2箇所焼上が堆積している。小さい方は0.1m程の焼上の堆積で、大きい方は長軸1.5m、短軸0.8m、深さ約0.25mの焼上が堆積している。上面には赤変した軽石や安山岩が散乱している。

包含層の遺物 (第75・76図)

580は先端部が曲がり、僅かに欠けた鎌である。現存長13cm前後、刃元幅2.9cm、棟厚4cmを測る。基部には着柄のための折り返しを持つ。581は鍔の羽口である。端部にガラス質の付着がみられる。582は頁岩製の磨製石鎌である。583は面取りされた軽石製品である。584は安山岩製の敲石である。585は凝灰岩製の石皿である。586は砂岩製、587は頁岩製の砥石である。588は軽石製品。589凝灰岩製の砥石か。590は安山岩、591は凝灰岩製の台石である。

(5) 小結

遺構、遺物の内容については他の地区と同じである。特記されることは、時期が比較的確定できる堅穴住居と土壤墓と思われる遺構が確認されていることである。遺物については、地形的にも、距離的にも自然作用による遺物の移動は考えにくいか、B1・4地区出土の須恵器との接合が確認されている。

第18表 B2地区出土遺物観察表(1)

遺物 番号	種別 部品	出土地点 地名	法量(m) 口径 直經 器高	手法・調査・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				外 面	内 面	外 面	内 面		
377	陶文 耳 置	田地区 新里	(20.2)		口縁部キザミ、ナ ダ、指痕模、ス ス付着	ナダ、指痕模、具 致模	灰黄褐 緑	1.5mm以下の灰黄・暗褐・黑色光沢粒	
378	陶文 耳 置	田地区 新里			ナダ、口縁部斜方 向の沈紋	ナダ、具致模、黒 土のかえり	において褐色 において褐色	きめ細か	
379	陶文 耳 置	田地区 新里			長縫刻文、ナダ	ナダ	明赤褐 灰黄褐	きめ細か	
380	陶文 耳 置	田地区 新里			長縫刻文、ナダ、 斜方向の沈紋	ナダ	緑	において青褐 光沢粒	1mm以下の褐色・灰白光沢粒、黑色
381	陶文 洗 漏斗形	田地区 新里			ナダ	ナダ、具致模	において青褐	1mm以下の光沢粒	
382	陶文 洗 漏斗形	田地区 新里			ナダ、側方向の沈 紋	ナダ、側方向の沈 紋	明褐 明褐	2mm以下の赤褐・灰白・黑色光沢粒	
383	陶文 漏斗形	田地区 新里			横方向の沈紋、具 致模	具致模	において褐色 褐色	2mm以下の明褐・乳白色・透明光沢 粒	
384	陶文 漏斗形	田地区 新里			ナダ、具致模	ナダ、具致模、黑 斑	褐 黒褐	1.5mm以下の半透明光沢粒	
385	陶文 漏斗形	田地区 新里			工具ナデ	ナダ	において青褐 褐色	5.5mm以下の褐色、 3.0mm以下の半透明光沢粒、 1.0mm以下の黑色光沢粒	
386	陶文 漏斗形	田地区 新里	(10)		ナダ、網底版	ナダ	において青褐 灰黄	1.0mm以下の褐色光沢粒、 2.0mm以下の黑色光沢粒	
387	陶文 漏斗形	田地区 新里	(8.0)		ナダ	ナダ、具致模	において青褐 明赤褐	2.0mm以下の黑色光沢粒、透明光沢 粒	
388	土師器 直口形	田地区 SAI	(30.6)	16.8	ナダ、斜ハケメ、 風化気味	ナダ、指痕模、黑 斑、において 青褐	において青褐、 灰黄	1.5mm以下の褐色・灰白・乳白色の粒、 黑色・透明光沢粒	
389	土師器 直口形	田地区 SAI			點付斜み目突帯、 ナダ、斜・横ハケ メ、風化	丁寧なナタ、粘土 の継ぎ目、風化	において褐色、 灰黄	2mm以下の褐色の粒、 2mm以下の乳白色の粒、 黑色光沢粒	
390	土師器 直口形	田地区 SAI	(5.6)		斜・斜ハケメ、工 具痕、ナダ、風化	斜ハケメ	淡黄、暗灰 斑	において青褐、 灰オーライ	5mm以下の褐色・ 1mm以下の黑色光沢粒
391	土師器 直口形	田地区 SAI	(15)		縫ミガキ、ナダ、 風化	ナダ、指痕模、粘 土のつなぎ目、ス ス付着、風化	緑	において青褐 褐色	2mm以下の白・透明光沢粒、黑色光 沢粒
392	土師器 直口形	田地区 SAI	(10.0)		ナダ、斜ハケメ、 粘土の継ぎ目、風 化気味	ナダ、斜ハケメ、 粘土の継ぎ目、風 化気味	緑	において青 褐色	2.5mm以下の白・褐色の粒、 1mm以下の黑色・透明光沢粒
393	土師器 直口形	田地区 新里			斜ハケメ、スス付 着	斜ハケメ、風化氣 味	において褐色、 灰褐	2.5mm以下の褐色の粒、1mm以下の黑 色・透明光沢粒	
394	土師器 直口形	田地区 新里			ナダ	ナダ	において青褐 褐色	2mm以下の褐色の粒、 黑色光沢粒	
395	土師器 直口形	田地区 新里			斜付斜み目突帯、 ナダ、斜・横ハケ メ、風化	丁寧なナタ、粘土 の継ぎ目、風化	において褐色、 灰黄	2mm以下の褐色の粒、 2mm以下の乳白色の粒、 黑色光沢粒	
396	土師器 直口形	田地区 新里			斜・斜ハケメ、工 具痕、ナダ、風化	斜ハケメ	淡黄、暗灰 斑	において青褐、 灰オーライ	5mm以下の褐色・ 1mm以下の黑色光沢粒
397	土師器 直口形	田地区 新里	(15)		縫ミガキ、ナダ、 風化	ナダ、指痕模、粘 土のつなぎ目、ス ス付着、風化	緑	において青褐 褐色	2mm以下の白・透明光沢粒、黑色光 沢粒
398	土師器 直口形	田地区 新里	(10.0)		ナダ、斜ハケメ、 粘土の継ぎ目、風 化気味	ナダ、斜ハケメ、 粘土の継ぎ目、風 化気味	緑	において青 褐色	2.5mm以下の白・褐色の粒、 1mm以下の黑色・透明光沢粒
399	土師器 直口形	田地区 新里			斜ハケメ、スス付 着	斜ハケメ、風化氣 味	において褐色、 灰褐	2.5mm以下の褐色の粒、1mm以下の黑 色・透明光沢粒	
400	土師器 直口形	田地区 新里			ナダ	ナダ	緑	において青褐 褐色	2mm以下の透明粒
401	土師器 直口形	田地区 新里	(14.0)		ナダ、風化、風化 気味、堅膜皮状文、 斜付み目突帯	ナダ、指痕模	淡黄褐 淡黄褐	3mm以下の褐色の粒、 黑色光沢粒	3mm以下の褐色の粒、 黑色光沢粒
402	土師器 直口形	田地区 新里	(14.0)		斜・斜ハケメ、 指痕模	ナダ	淡黄褐 淡黄褐	2mm以下の透明粒、黑色光沢粒	
403	土師器 直口形	田地区 新里			ナダ、ミガキ、風 化気味、スス付着	ナダ、指痕模、風 化気味	明赤褐、灰 褐	5mm以下の褐色・ 1mm以下の黑色光沢粒	
404	土師器 直口形	田地区 新里	(3.1)		ナダ、風化気味、 スス付着	ナダ、風化氣味	緑	9mm以下の乳白色の粒、2mm以下の透 明粒、黑色光沢粒	
405	土師器 直口形	田地区 新里	(9.7)		斜・斜ハケメ、ナ ダ、ミガキ	斜・斜ハケメ、指痕模、 粘土の継ぎ目	灰褐	2mm以下の透明粒、淡黄、灰色の粒	
406	土師器 直口形	田地区 新里			ナダ、工具痕	丁寧なナタ、斜・ 横ハケメ、粘土の 継ぎ目、指痕模	緑	精良	
407	土師器 直口形	田地区 新里	(18.7)		縫・斜ミガキ、 スス付着	ナダ、淡黄褐色付 着	淡黄褐、浅 黄	2mm以下の褐色・灰 褐色	
408	土師器 直口形	田地区 新里	(16.0)		ナダ、工具痕	横ハケメ	緑	0.5mm以下の透明光沢粒	
409	土師器 直口形	田地区 新里			縫・斜ハケメ、縫 ・横ミガキ	ナダ、指痕模、黑 斑	において青褐、 暗灰褐色	オーラー褐色、 0.5mm以下の 灰白光沢粒	
410	土師器 直口形	田地区 新里	(3.0)		縫・斜ミガキ、 スス付着	横・斜ハケメ	緑、オリ ーー黒	2mm以下の褐色の粒	
411	土師器 直口形	田地区 新里	(1.5)		ナダ・スス付着	ナダ	において青 褐色	2mm以下の褐色の粒、 黑色光沢粒	
412	土師器 直口形	田地区 新里			縫ミガキ、ナダ	風化著しく調査不 明	灰	2.5mm以下の褐色の粒、黑色光沢粒、 1.5mm以下の透明・半透明光沢粒	

第19表 B2地区出土遺物観察表(2)

番号	種別	樹齢・部位	出土場所	法量(cm)	手法・調節・文様ほか		色調		土の特徴	備考		
					口径	底径	高さ	外面	内面			
413	土器部	直 筒 形	治田村 治田地区	(4.4)	ナデ、工具痕	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	2mm以下の乳白・褐色の粒、0.5mm以下の透明光沢粒			
414	土器部	直 筒 形	治田地区		素面	ナデ	橙	において黄	1mm以下の乳白色の粒			
415	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(27.2)	ナデ、縫ハケ日、 スス付着	ナデ、横ハケ日、 指痕	橙、ににおいて 黄褐色	5mm以下の赤褐色の粒、5mm以下の橙 色の粒、2mm以下の灰白色の粒、無 規則な透明粒				
416	土器部	直 筒 形	治田地区	(27)	縫ハケ日、スス付 着	横・斜ハケ日、 指痕	明赤褐色	灰黃	3mm以下のにおいて 灰褐色の粒			
417	土器部	直 筒 形	治田地区	(27.0)	工具ナデ	ナデ、工具痕、炭 化物付着	灰黃褐色	において黄	3mmの暗褐色、灰褐色の粒			
418	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村		ナデ、工具痕、黑 皮	ナデ、縫ハケ日	浅赤褐色、暗 灰黃	浅赤褐色	1~4mmの褐灰色の粒			
419	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村		斜ハケ日、工具痕、 黑皮	ナデ、指痕	において黄褐色 ににおいて黄褐色	において黄褐色 ににおいて黄褐色	2mm以下の赤灰・灰褐色の粒、2mmの 灰白色光沢粒			
420	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村		ナデ、スス付着	ナデ	において黄褐色 ににおいて黄褐色	橙、ににおいて 黄褐色	0.5mm以下の褐色の粒			
421	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村		ナデ、工具ナデ	ナデ	浅赤褐色	4mm以下の茶色の粒、2.5mm以下の黑 色光沢・透明粒				
422	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(26.0)	ナデ、斜ハケ日	ナデ、縫ハケ日、 黑皮	において黄褐色 ににおいて黄褐色	において黄褐色 オリーブグリーン	1mm以下の灰褐色・灰白色の粒、1mm以 下の透明光沢粒			
423	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村		ナデ、工具痕	斜ハケ日、指痕	において黄褐色 ににおいて黄褐色	において黄褐色 ににおいて黄褐色	1mm以下の灰褐色・灰白・黒色の粒、 1mm以下の透明光沢粒			
424	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	23.8	6.7	31.2	縫ハケ日、ナデ、 スス付着、灰褐色、 黑皮	斜ハケ日、工具痕、 指痕	において黄褐色 ににおいて黄褐色	4mm以下の赤褐色・黑皮、5mm以下の 黑色光沢・透明粒		
425	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(29.0)	ナデ、斜ハケ日、 スス付着、灰褐色、 黑皮	ナデ、横・斜ハケ 日、指痕、粘土のつ つなび目	灰褐色	において黄褐色 ににおいて黄褐色	3mm以下の灰褐色・灰白色の粒、2mm以 下の灰色透明光沢粒			
426	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(21.5)	ナデ、横・斜ハケ 日、指痕、粘土のつ つなび目	ナデ、横・斜ハケ 日、指痕、粘土だ まり	黑褐色	において黄褐色	3mm以下の灰褐色・灰・黒色の粒、3mm 以下の透明光沢粒			
427	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村		ナデ	指痕、ス ス付着	において黄褐色	において黄褐色	2.5mmの乳白・茶色の粒、2.5mmの透 明・黒色光沢粒			
428	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(23.3)	口唇部削り目、斜 ハケ日、黑皮、指 痕	横ハケ日	において黒	赤褐色	2mm以下の灰・褐色の粒			
429	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(20.1)	ナデ、丁寧なナデ、 スス付着	斜ハケ日、黑皮	において黒	2mm以下の白・黒・透明光沢粒				
430	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(18.0)	工具ナデ、工具痕	ナデ	橙	2mm以下の透明光沢粒				
431	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(15.5)	縫ハケ日、ナデ、 スス付着	斜ハケ日、ナデ、 指痕	黄褐色	において黄褐色	3mm以下の灰・黒色光沢粒、透明光 沢粒	同一個体		
432	土器部	小 型 直 筒 形	治田地区 治田村	(4.1)	縫ハケ日、スス付 着、指痕	ナデ	において黄褐色	灰黃	1~3mmの灰・透明光沢粒、黒色光 沢粒			
433	土器部	小 型 直 筒 形	治田地区 治田村		丁寧なナデ、黑皮、 スス付着	丁寧なナデ、指 痕、粘土のかいり 目	において黒、 灰褐色	において赤褐色	2.5mm以下の灰褐色・透明光沢粒			
434	土器部	小 型 直 筒 形	治田地区 治田村	(4.2)	工具ナデ、スス付 着	ナデ、工具痕	において黒、 灰褐色	赤褐色、灰褐色	2mm以下の半透明光沢粒			
435	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(31.3)	ナデ、貼付跡み目 等	ナデ、粘土のつな び目	において赤褐色 ににおいて赤褐色	赤褐色	2mm以下の半透明光沢粒			
436	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(31.3)	斜ハケ日、ナデ、 貼付跡み目、黑皮、 スス付着、指痕	斜ハケ日、ナデ、 指痕	黑褐色	明褐色	2mm以下の乳白・褐色の粒			
437	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村	(27.0)	ナデ、貼付跡み目 突起、スス付着	ナデ、貼付跡み目 突起	において黄褐色	において黄褐色	3mm以下の褐色の粒、透明・黒色光 沢粒			
438	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村		ハケ日、工具ナデ、 貼付跡み目、黑皮、 スス付着	横ハケ日、ナデ、 粘土のつなび目	において黒、 灰褐色	黒、褐、明 褐色	3mm以下の褐色の粒			
439	土器部	小 型 直 筒 形	治田地区 治田村		ハケ日、貼付跡み 目、黑皮	ナデ	において赤褐色 ににおいて赤褐色	1.5mm以下の灰白・透明粒				
440	土器部	小 型 直 筒 形	治田地区 治田村		ナデ、貼付跡み目 突起、スス付着	粗なナデ	において黄褐色	浅黃	1.5mm以下の黒・褐・灰色粒			
441	土器部	直 筒 形	治田地区		工具ナデ、穂立ナ デ、スス付着	ナデ、指痕	明赤褐色	浅黃	2.5mm以下の乳白・暗褐色・透明光 沢粒			
442	土器部	直 筒 形	治田地区 治田村		ナデ、貼付跡み目 突起	ナデ	において黄	暗灰黃	1.5mm以下の赤褐色・黒・透明粒			

第20表 B2 地区出土遺物観察表 (3)

遺物 番号	属 別	器 部位	出 土 地 点	法量 (m)			手法・調査・文様ほか				地 下 の 特 徴	備 考	
				口 径	底 径	高 度	外 面	内 面	外 面	内 面			
443	土師器	壺 口付-鉢	田地区 西側	27.1	5.2	(27.1)	刷毛目、工具ナデ、 貼付跡み日安付	ナデ、指頭痕	櫛	にぶい黄褐色	2mm以下の透明及び黒色光沢粒、 3mm以下の白色光沢粒		
444	土師器	壺 口付-鉢	田地区 西側			(31.75)		横ナデ、ナデ、刷毛目付の後丁寧な ナデ	にぶい赤褐色、 黒褐色	3mm程の浅黃、灰褐色の粒、2mm以下 の灰白色の粒、1mm以下の透明の光沢粒			
445	土師器	壺 口付-鉢	田地区 西側			(26.6)	ナデ、貼付跡み日 安付	ナデ、裏面	赤褐色、にぶい 黄褐色	5mm以下の赤褐色粒、微細な光沢粒			
446	土師器	壺 口付-鉢	田地区 西側				ナデ、スス付着、 貼付跡み日安付	工具ナデ	櫛	にぶい黄褐色	2mm以下の白色及び透明粒		
447	土師器	壺 口付-鉢	田地区 西側				ナデ、貼付跡み日 安付	工具ナデ(?)	黄褐色	黄褐色	3.5mm以下の白色・黒色の粒		
448	土師器	壺 口付-鉢	田地区 西側				刷毛目の後ナデ、 ナデ、指頭痕、貼 付跡み日安付	刷毛目の後ナデ、 ナデ、指頭痕	灰褐色	2mm以下の浅黄色、灰白色の粒、 1mm以下の透明の光沢粒			
449	土師器	壺 口付-鉢	田地区 西側	36.8			口部に刷毛目、 丁寧な工具によるナデ、 貼付跡み日安付	ナデ、黒皮	明赤褐色	櫛	6mmから2mmの黄褐色の粒、2mm以下 の灰・灰・灰褐色の粒		
450	上新器	壺 口 蓋	田地区 西側				口部に刷毛目、 ナデ、貼付跡み日安付	工具ナデ、黒皮	にぶい赤褐色、 にぶい黄褐色	櫛	1.5mmの淡黄・茶・黑色光沢粒、 半透明光沢粒		
451	上新器	壺 口 蓋	田地区 西側				口部に刷毛目、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	0.6~1.5mm以下の褐色の粒		
452	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側				口部に刷毛目、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	0.5~1.0mmの褐色・黑色・乳白色の 粒		
453	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側				口部に刷毛目、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	0.6~1.0mmの褐色・乳白色の粒、 0.5mm以下の黑色光沢粒		
454	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側				ナデ、黒皮、 貼付跡み日安付	ナデ、指頭痕	にぶい褐色	櫛	5mm以下の白色の粒、2mm以下の透明・ 乳白色・黑色光沢粒		
455	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側				ナデ、貼付跡み日 安付	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2.0mm以下の半透明光沢粒、1.0mm以 下の黑色光沢粒		
456	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側				ナデ、貼付跡み日 安付	丁寧なナデ	にぶい褐色、 海灰色	にぶい赤褐色、 海灰色	1.0mm以下の褐色・灰・にぶい赤褐色の 粒		
457	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側				ナデ、貼付跡み日 安付	ナデ	にぶい黄褐色	暗灰褐色	2.0mm以下の半透明光沢粒、1.0mm以 下の黑色光沢粒		
458	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側				丁寧なナデ、貼 付跡み日安付	丁寧なナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	1.0mm以下のにぶい黄褐色・灰褐色の粒		
459	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側				ナデ、指頭痕	鈎ハケ目、指頭痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mmの透明光沢粒、1mmの茶褐色・灰 褐色の粒		
460	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			5.85	鈎ハケ目、指 頭痕	ナデ、沈化物付着	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	6mm以下の黒・灰・茶褐色の粒		
461	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			(6.4)	ナデ、ハケ目、 指頭痕	ナデ	灰褐色	にぶい黄褐色	4.5mmの褐色の粒、3mm以下の灰・黑 色の粒		
462	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			6.0	ナデ、棒・横・横・ ハケ目、粘土のつ なぎ跡、スス付着	ナデ、指頭痕、炭 化物付着	明赤褐色、 明赤褐色	0.5~2mm以下の乳白・灰褐色の粒、 0.5mmの透明光沢粒			
463	上新器	壺 口 蓋	田地区 西側			(6.5)	ハケ目、ナデ、指 頭痕	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	3mm以下の浅黄色の粒、1mmの灰白色 の粒、1mm以下の無色透明光沢粒		
464	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			5.65	鈎ハケ目	鈎・斜ハケ目	にぶい黄褐色	櫛	2mm以下の灰褐色・乳白・灰褐色の粒		
465	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			(6.4)	工具ナデ、指頭痕	鈎ハケ目、指頭痕	にぶい褐色	にぶい赤褐色、 海灰色	2mm以下の浅褐色・淡褐色・灰褐色の粒、 1mm以下の無色透明光沢粒		
466	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			5.8	ナデ、工具痕	ナデ、工具痕	明赤褐色	0.5~2mm以下の乳白・灰褐色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒			
467	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			6.5	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰褐色	3mm以下の黒・灰・褐色の粒		
468	土加器	壺 口 蓋	田地区 西側			6.1	鈎ハケ目、工具ナ デ、指頭痕	鈎ハケ目、ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	1mm以下の浅褐色・淡褐色・灰褐色の粒、 1mm以下の無色透明光沢粒		
469	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			6.1	ハケ目、スス付着	鈎ハケ目、炭 化物付着	明赤褐色	明赤褐色	2mm以下の灰褐色の粒、 1mm以下の無色透明光沢粒		
470	土師器	壺 口 蓋	田地区 西側			(6.2)	鈎ハケ目、ナデ、 黒褐色	ナデ、黒褐色	黄褐色	黄褐色	4mmの灰褐色の粒、3mm以下の灰白色 の粒、3mm以下の灰白色光沢粒		
471	上新器	壺 口 蓋	田地区 西側			4.1	工具ナデ、スス付 着	ナデ	櫛、海灰色	櫛、海灰色、赤褐色	3mm以下の黒褐色光沢粒、2mm以下の半 透明光沢粒		
472	上新器	壺 口 蓋	田地区 西側			(6.4)	鈎ハケ目、指頭痕、 周縁	鈎ハケ目、炭化物 付着	にぶい赤褐色	明赤褐色	1~2mmの茶・乳白色の粒、1~2mmの 黑色・透明光沢粒		

第21表 B2 地区出土遺物観察表(4)

遺物 番号	種別	器形 部位	出土 地點	法 量 (m)			手 法・脚 様・文様 は か		色 調		地 士 の 特徴	備 考
				口 深	底 深	最 高	外 面	内 面	外 面	内 面		
473	土師器	壺 底 部	田地区 河原		(5.5)		ナデ、指觸痕、粘 土のかえり	鉛ハケ目	に bei 黄褐色	に bei 赤褐色	1.5mmの黒色・半透明光沢粒	
474	土師器	壺 底 部	田地区 河原		(5.5)		ナデ	ナデ、工具痕	に bei 黄褐色	に bei 赤褐色	1.5mmの淡黄・乳白色の粒、 1.5mmの透明光沢粒	
475	土師器	壺 底 部	田地区 河原		8.0		ナデ、指觸痕	ナデ	に bei 橙	に bei 黄褐色	4mmの乳白・灰色の粒、1.5mmの透明 光沢粒、乳白色の粒、1.5mmの黒色光 沢粒	
476	土師器	壺 底 部	田地区 河原		8.7		ナデ、工具痕	ナデ、工具痕、黑 色	明褐色、黄褐色	に bei 黄褐色、 黄褐色オーリーブ	1mm以下の暗灰色の粒、2mm以下の灰 白色の粒、2mm以下の灰白色光沢粒	
477	土師器	壺 底 部	田地区 河原		8.7		工具ナデ、黑色、 粘土のかえり	ナデ、指觸痕	に bei 黄褐色、 黑色	に bei 黄褐色、 オーリーブ	2mmの灰白色の粒	
478	土師器	壺 底 部	田地区 河原		6.2		ナデ、指觸痕、粘 土のかえり	ナデ	に bei 橙	暗赤褐色	1~2mmの淡黄・暗褐色の粒、1~2mm の透明光沢粒	
479	土師器	壺 底 部	田地区 河原		5.8		ナデ、粘土のかえ り、本の斑度	ナデ	穂	に bei 黄褐色	1.5mm以下の透明光沢粒	
480	土師器	壺 底 部	田地区 河原		(7.0)		ナデ、工具痕	ナデ、指觸痕	に bei 黄褐色	灰褐色、暗灰 色	1mmの白・灰白・黑色の粒、1mmの黑 色・透明光沢粒	
481	土師器	壺 底 部	田地区 河原		2.7		ナデ	機・鉛ハケ目	明赤褐色	明赤褐色	0.5~3mm以下の灰白・黑色の粒、 0.5mm以下の黑色・透明光沢粒	
482	土師器	高 脚	田地区 河原				ナデ、機・新ミガ キ	黑色、新ミガキ	穂	暗赤褐色	0.5mm以下の黑色粒	
483	土師器	高 脚	田地区 河原				ナデ、ミガキ	黑色、ミガキ	穂	明褐色	0.5mm位の褐色粒	
484	土師器	高 脚	田地区 河原				ナデ、風化してい る	ナデ、スス付着	黃褐色	穂	2mm以下の中白色・黑色の粒	
485	土師器	高 脚	田地区 河原		(17.0)		ナデ、工具痕	ナデ、工具痕	に bei 穗	に bei 穗	透明光沢粒	
486	土師器	高 脚	田地区 河原		(18.0)		ナデ	ミガキ、風化氣味	に bei 穗	に bei 黄褐色	0.1mm乳白色・透明の粒	
487	土師器	高 脚	田地区 河原		(21.0)		ナデ	ミガキ	に bei 穗	に bei 黄褐色	0.1mm以下乳白色・透明の粒	
488	土師器	高 脚	田地区 河原		(22.0)		ナデ、粘土のつな ぎ目、鉛ハケ目	ナデ、ハケ目	明褐色	明褐色	2mm以下の灰白・明褐色・灰白色光 沢粒の粒	
489	土師器	高 脚	田地区 河原		(23.0)		ナデ、機・新ミガ キ	ミガキ	穂	赤褐色	無	
490	土師器	高 脚	田地区 河原				ナデ、粘土のつな ぎ目、粘土のかえ り	ナデ	に bei 黄褐色	に bei 黄褐色	2mm以下の浅黄・黑・灰の粒	
491	土師器	高 脚	田地区 河原				ナデ、ミガキ、風 化氣味	ミガキ、風化氣味、 風化	明赤褐色	に bei 黄褐色	2mm以下の透明に光る粒、黑・灰・ 乳白色的粒	
492	土師器	高 脚	田地区 河原				機ミガキ、風化氣 味、丹織り	ミガキ、風化氣味、 風化	赤	穂	1.5mm以下の透明光沢・黒光沢の粒	
493	土師器	高 脚	田地区 河原					ナデ	に bei 黄褐色	黄褐色	1mm以下の浅黄・無色透明の粒	
494	土師器	高 脚	田地区 河原				ミガキ	ナデ	に bei 黄褐色	明褐色	1mm以下の無色透明・灰白の粒	
495	土師器	高 脚 新木綿	田地区 河原				ナデ、ハケ目、ス ス付着	ナデ	穂	穂	2mm以下の黒・透明光沢の粒	
496	土師器	高 脚	田地区 河原				ナデ、ミガキ	ナデ	明赤褐色	明褐色	光沢粒	
497	土師器	高 脚 新木綿	田地区 河原		11.4		ナデ	工具ナデ、機ケズ り	穂	穂	2mm以下の乳白・灰・黑の粒	
498	土師器	高 脚 新木綿	田地区 河原		13.5		ミガキ	ナデ	明赤褐色	赤褐色	2mm以下の黒・灰・灰・乳白色的粒	
499	土師器	高 脚 新木綿	田地区 河原				ナデ、機・新ミガ キ、黒色	ミガキ、黒色	に bei 黄褐色	に bei 黄褐色	2mm以下の黒・灰・灰・乳白色的粒	
500	土師器	高 脚 新木綿	田地区 河原		(10.0)		ナデ、黒色	ナデ	黄褐色、穂	に bei 黄褐色	7mmのない黄褐色、1mm以下の黒・ 灰・褐色の粒	
501	土師器	高 脚 新木綿	田地区 河原				ミガキ、ナデ	ナデ	穂	穂	無	
502	土師器	高 脚 新木綿	田地区 河原		(8.0)		穂ミガキ、ナデ、 スス付着	ナデ、風化	穂	穂	2mm以下の透明粒	

第22表 B2 地区出土遺物観察表(5)

遺物 番号	標 識 部位	出 土 地 点	法 皇 (cm)			手 法 ・調 査 ・文 様 は か			色 調		地 土 の 特 徴	備 考
			口 径	底 經	高 度	外 面	内 面	外 面	内 面			
503	土師器	瓦 片 形	田中町	29	1.05	6.15	ナデ、ハケ目後 ガタ、黒斑	ナデ、ナテ後ミガ キ、指痕	に赤い黄緑	に赤い黄緑	粘土	
504	土師器	瓦 片 形	田中町	(3)		6.7	ナデ、黒斑、指痕	ナデ	灰青、黄灰	灰灰	1.5cmの風光沢・浅黄の粒、3mmの灰 色粒	
505	土師器	瓦 片 形	田中町	(25.0)	5.6	(10.1)	ナデ、網ハケ目、 指痕、黒斑	ナデ、前ハケ目、 指痕、黒斑	暗	暗、黒	2~3mmの赤褐色・深黄・透明光沢の粒	
506	土師器	瓦 片 形	田中町	(26.0)			ナデ、工具ナデ、 指痕、スス付着	ナデ、指痕、斜 張ハケ目、黒斑	に赤い黄緑	に赤い黄緑	0.5~2mmの細・乳白・黑色の粒	
507	土師器	瓦 片 形	田中町			(11.0)	ナデ	ナデ、黒化著しい	に赤い黄	に赤い黄	1mm以下の赤褐色・透明・黑色光沢の 粒	
508	土師器	瓦 片 形	田中町			(18.4)	網ハケ目、ナデ、 粘土のつなぎ目	ナデ、粉土のつな ぎ目	浅黄	に赤い黄	3mm以下の白・透明光沢粒・黑色光 沢粒	
509	土師器	附 屬 部 品	田中町			12.8	工具ナデ、ナデ、 指痕	ナデ、指痕	暗	暗、に赤い 黄緑	2mm以下の褐色白の粒	
510	土師器	小 型 附 屬 部 品	田中町				ナデ、黒斑	ナデ、ハケ目、上 昇ナデ	暗	明赤褐	1mm以下の透明粒	
511	土師器	小 型 附 屬 部 品	田中町				ナデ	ナデ	明赤褐	暗	1mm以下の灰・灰・透明光沢粒	
512	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ、ミガキ、黑 化跡、黒斑	ナデ	灰青、暗赤 斑	浅黄	0.5mm以下の灰褐色・光沢灰白粒	
513	土師器	小 型 附 屬 部 品	田中町			(4.7)	網ハケ目、指痕、 黒斑	ナデ、指痕	に赤い黄緑、 黒	に赤い黄	3mm以下の浅黄粒・1.5mm以下の黒光 沢粒・1mm以下の灰色透光粒	
514	土師器	瓦 片 形	田中町	13.75	(7.1)	5.7	ナデ、粘土のつな ぎ目	ナデ	浅黄斑、淡 黄斑	浅黄	1~2mmの灰色の粒、1mm以下の白・ 透明光沢粒	
515	土師器	瓦 片 形	田中町				斜ケツリの後ナ デ	指痕、黒化跡	に赤い黄	暗	4mm以下の白・透明光沢粒・黑色光 沢粒	
516	土師器	瓦 片 形	田中町	16.85	8.7	9	斜ケツリの後ナ デ、ナデ、ヘア切 り、ヘラ記号	ミガキの後ナデ、 粘土のつなぎ目	暗	暗	4mm以下の灰・白・黑色の粒	
517	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ、スス付着	斜ケツリの後ナ デ	に赤い黄	に赤い黄	1.5mm以下の褐色の粒	
518	土師器	瓦 片 形	田中町	9.9	8		ナデ、スス付着	斜ケツリの後ナ デ	に赤い黄	暗	3mm以下の白・透明光沢粒	
519	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ	斜ケツリの後ナ デ	暗、に赤い 黄緑	暗	2mm以下の褐色の粒	
520	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ	斜ケツリの後ナ デ	暗、に赤い 黄	暗	6mmの褐色の粒、2.5mm以下の黒・褐 色の粒	
521	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ、粘土のつな ぎ目	斜ケツリの後ナ デ	明赤褐	暗	0.5~2mmの細・乳白色の粒	
522	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ	斜ケツリ、横ハケ 目	暗	暗	2mm以下の灰・灰・透明光沢粒	
523	土師器	瓦 片 形	田中町				工具ナデ、スス付 着	斜ケツリの後ナ デ	に赤い黄 斑、明赤褐	暗	1.5mm以下の素・灰・灰斑・透明光 沢粒・黑色光沢粒	
524	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ、黒斑	斜ケツリの後ナ デ	暗	暗	2mm以下の灰・灰化色の粒、1mm以下の 黑色光沢粒	
525	土師器	瓦 片 形	田中町				工具ナデ	斜ケツリの後ナ デ	明褐	暗	3mm以下の素・灰・灰白・黑色光沢 粒	
526	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ、スス付着	斜ケツリの後ナ デ	に赤い黄 斑	暗	6mmの褐色の粒、0.5~3mm以下の 素・暗・乳白色の粒	
527	土師器	瓦 片 形	田中町				工具ナデ、黒斑	斜ケツリの後ナ デ	暗	暗	5mmの褐色の粒、2mm以上の灰白・ 黄灰の粒、1mm以下の黑色光沢粒	
528	土師器	瓦 片 形	田中町	22.3			丁寧なナデ、指痕 斑	斜ケツリの後ナ デ、粘土のつな ぎ目	暗	暗	4mmの白・乳白色の粒、2mm以下の黒 色・透明光沢粒	
529	土師器	瓦 片 形	田中町				工具ナデ、ナデ、 黒斑	斜ケツリの後ナ デ	暗	暗	2mm以下の灰・灰褐色の粒	
530	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ	斜ケツリの後ナ デ、黒斑	暗	暗	2mmの黒色の粒、1mm以下の乳白色、 透明光沢粒	
531	土師器	瓦 片 形	田中町				工具ナデ、ナデ、 指痕、黒斑	斜ケツリの後ナ デ	暗	暗	1mm以下の光沢粒	
532	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ、粘土のたま り	斜ケツリの後ナ デ	に赤い黄 斑、浅黄	暗	3mm以下の灰・灰白・暗褐色・透明光沢 粒	
533	土師器	瓦 片 形	田中町				ナデ、黒斑	斜ケツリの後ナ デ	に赤い黄 斑、明赤褐	暗	1mmの素・灰白・暗褐色・透明光沢 粒	

第23表 B 2 地区出土遺物観察表 (6)

遺物 番号	種別	基盤 部位	山土 層	法 量 (cm)	手すり・調査・文様ほか		色 調		給土の特徴	備考		
					上 段	底 部	外 面	内 面	外 面	内 面		
534	土師器	壺 口 直	田地区	(28.6)			ナデ	横ケズリの後ナデ	において黄褐色	において褐色	7mm以下の茶色の粒、2mm以下の透明光沢粒、黑色光沢粒	
535	土師器	壺 口 直	田地区	(27.3)			格子目タキの後 ナデ	横ケズリの後ナデ	浅黄	浅黄	3mm以下の茶褐色・灰褐色・灰白・透明光沢粒	
536	土師器	壺 口 直	田地区	(36.3)			ナデ	横ケズリの後ナデ	浅黄褐色	において黄褐色	4mm以下の茶色の粒、2mm以下の黒褐色・透明光沢粒	
537	土師器	壺 口 直	田地区	(25.8)			ナデ	横ケズリの後ナデ	灰黄褐色	浅黄褐色	1.5~2.5mmの高・低窪・灰・乳白色・透明光沢粒、黑色光沢粒	
538	土師器	壺 口 直	田地区	(27.2)			ナデ	横ケズリの後ナデ	において黄褐色	浅黄褐色	1.5~2.5mmの高・低窪・灰・乳白色・透明光沢粒、黑色光沢粒	
539	土師器	壺 口 直	田地区	(33.6)			ナデ	斜・横ケズリの後 ナデ	褐色、において黄褐色	において黄褐色	1~2mmの高・低窪・乳白色・透明光沢粒、黑色光沢粒	
540	土師器	壺 口 直	田地区	(23.6)			回転ナデ	ナデ	赤褐色・灰褐色	赤褐色	2.5mm以下の黑色光沢粒、2mm以下の淡黄・黑色光沢粒	
541	土師器	壺 口 直	田地区	(14.6)			ナデ、スス付背	ナデ、指痕	において赤褐色	において黄褐色	1~2mmの灰・灰黄・黑色光沢粒、透明光沢粒	
542	須恵器	食 器	田地区				ナデ	ナデ	灰黄	灰黄	2mm以下の乳白色の粒	
543	須恵器	壺 口 直	田地区				格子目タキ・黒 帯	平行當て呂麻・黒 帯	灰黄	灰黄	2mm以下の乳白色の粒	
544	土師器	耳 口 直	田地区	(11.6) (6)	4.45	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ	回転ナデ	穀	穀	穀	3mm以下の白色の粒、2mm以下の高・ 黑色光沢粒	
545	土師器	耳 口 直	田地区	(12.7) (6.4)	4.85	回転ナデ、ヘラ切 り	回転ナデ	において黄褐色	において黄褐色	穀		
546	土師器	耳 口 直	田地区	(14.6)	5.6	5.25	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ、收口有 り	回転ナデ、黑褐色	浅黄	浅黄	1mm以下の黒・灰・高・黄褐色・透明 光沢粒・黑色光沢粒	
547	土師器	耳 口 直	田地区	(13.0) (4.9)	5.4	回転ナデ、ヘラ切 り	回転ナデ、指痕、 黒褐色	穀	穀、において 黄	穀	2mm以下の灰・灰黄褐色・深褐色の 粒、1mm以下の黑色光沢粒	
548	土師器	耳 口 直	田地区	12.1	5.4	4.7	回転ナデ、ヘラ切 り、黒 ナデ、斜口有 り	回転ナデ	穀	穀	2mm以下の茶色の粒	
549	土師器	耳 口 直	田地区	(11.9)			回転ナデ	回転ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	精良	
550	土師器	耳 口 直	田地区	(13.0)	5.35	4.8	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ、黒度・ 高輪小口	回転ナデ	明黄褐色	穀	4mmの黄褐色の粒、2mm以下の灰・基 本色の粒	
551	土師器	耳 口 直	田地区	(12.7) (5.9)	5	5.0	回転ナデ、ヘラ切 り後ナデ	回転ナデ	浅黄	浅黄	1mm以下の黒褐色・褐褐色・灰褐色・ 黑色光沢粒	
552	土師器	耳 口 直	田地区	13.2	5.3	5.65	回転ナデ、ヘラ切 り	回転ナデ	明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の茶色の粒、2mm以下の黒色 光沢粒	
553	土師器	耳 口 直	田地区		(6.2)		ナデ、ヘラ切り	ナデ	穀、において 黄褐色	穀	3mm以下の灰・褐色光沢粒、2mm以 下の黑色光沢粒	
554	土師器	耳 口 直	田地区		5.9		ナデ	ナデ	において黄褐色	穀	1~1.5mmの茶・黑色光沢粒	
555	土師器	耳 口 直	田地区		5.5		ナデ	ナデ	において黄褐色	穀	2mm以下の灰白色の粒	
556	土師器	耳 口 直	田地区		8.8		ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	2mm以下の灰白・淡黄色の粒	
557	土師器	耳 口 直	田地区		6		ナデ、ヘラ切り後 ナデ、工具刷・織 縫、内壁状凸台	ナデ、粘土のつな ぎ目	浅黄	灰白	精良	
558	土師器	耳 口 直	田地区	(12.6)	7	6.65	回転ナデ	回転ナデ、風化氣 味	穀	穀	0.5mm以下の褐色の粒	
559	土師器	耳 口 直	田地区	(12.1)	(6)		回転ナデ	回転ナデ	穀	穀	精良	
560	土師器	耳 口 直	田地区	(13.5)	6.4	5.65	回転ナデ、ヘラ切 り	御ミガキ、スス付 背	穀、明黄褐色	穀	0.5mm以下の褐色の粒	
561	土師器	耳 口 直	田地区	(14.0)			回転ナデ、ヘラ切 り、「大」の刻痕	ミガキ	穀	穀	0.5mm以下の褐色の粒	
562	土師器	耳 口 直	田地区	(13.0)	6.6	5.65	回転ナデ、ヘラ切 り	丁寧なナデ、ミガ キ	穀	穀	0.5mm以下の褐色の粒	
563	土師器	耳 口 直	田地区	(14.0)	6.1	6.95	回転ナデ	回転ナデ	穀	穀	精良	

第24表 B2地区出土遺物観察表(7)

遺物 番号	層別 部位	出 土 地 点	法 量(m)	手 法・圖 案・文 様等か		色 調		地 土 の 特 徴	備 考
				口徑 底經	器高	外 面	内 面		
564	土師器	高台付 近形	II地区IV層 河原	13.9	6.06	6.6 回転ナデ、ナデ、 粘土のかえり、青 色	回転ナデ	淡黄橙 にぶい碧、 にぶい青綠	精良
565	土師器	高台付 近形	II地区IV層 河原	(8.8)		回転ナデ、ナデ、ス トック、粘土のか えり、青色	ナデ	淡黃、 淡黃綠	精良
566	黑色土器	高台付 近形	II地区IV層 河原	16.5	(8.7)	工具による回転ナ デ、ナデ、切 り目ナデ、底面	内黒、ミガキ	淡黃、 灰	1mm以下底 の褐色の粒
567	黑色土器	高台付 近形	II地区IV層 河原	14.9	7.7	回転ナデ、ヘラ切 り目	内黒、後・底ミガ キ	灰	精良
568	黑色土器	高台付 近形	II地区IV層 河原	(12.0)	6.6	6.5 ナデ、粘土のつな ぎ目、底面	内黒、ミガキ、風 化気味	黑	精良
569	黑色土器	高台付 近形	II地区IV層 河原	12.95	(5.8)	5.3 ナデ、粘土のつな ぎ目	内黒、丁寧なナデ	にぶい紫藍、 褐灰	1mm以下透明光沢
570	黑色土器	高台付 近形	II地区IV層 河原	(14)	(7.50)	6.75 ナデ、風化気味	内黒、機ミガキ、 粘土のつなぎ目	黒、褐灰 にぶい橙、 黒	3.5mm以下の褐色の粒
571	黑色土器	草 山形	II地区IV層 河原	15.6		ナデ、黒皮	内黒、機・機ミガ キ	にぶい黃藍、 黒	精良
572	黑色土器	草 山形	II地区IV層 河原	(14.7)		ナデ、黒皮	内黒、機ミガキ	にぶい黃藍、 黒	精良
573	黑色土器	草 山形	II地区IV層 SA1			回転ナデ	内黒、丁寧なナデ	にぶい青、 オーライプ黒	1mm以下の灰色の粒
574	黑色土器	高台付 近形	II地区IV層 河原			ナデ、指圧痕	内黒、機ミガキ	にぶい橙	精良
575	土師器	高台付 近形	II地区IV層 河原			ナデ	ミガキ	灰	2mm以下の透明光沢、 黑色光沢
576	各色土器 口 磨	加地区				ナデ	赤痕	紅	精良
577	布質土器 輪 席	II地区				ナデ	赤痕	にぶい橙	精良
578	土 面	砂紙	II地区IV層 河原	重 量 5.96	0.8 0.85	ナデ	ナデ	淡 貫 墓 にぶい橙	精良
579	土 面	砂紙	II地区IV層 河原	重 量 5.8	0.9 0.9	ナデ	ナデ	にぶい青 にぶい青綠	1mm以下の淡黃、 茶の粒

第25表 B2地区出土石器計測表

レイアウト 番号	出 土 地 点	器 形	最 大 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
348	B2地区IV層	石 砕	2.4	1.4	0.4	0.7	チャート	
349	B2地区IV層	石 砕	1.8	1.8	0.2	0.7	チャート	
350	B2地区IV層	石 砕	3.5	1.45	0.35	0.9	チャート	
351	B2地区IV層	石 砕	1.45	1.15	0.35	0.3	チャート	
352	B2地区IV層	石 砕	2.16	1.55	0.5	1.4	チャート	
353	B2地区IV層	石 砕	2.0	1.45	0.3	0.9	頁岩	
354	B2地区IV層	磨製石礫	2.75	1.5	0.18	1.2	頁岩	
355	B2地区IV層	板石器品	9.1	5.75	2.8	65.4	新石	
356	B2地区IV層	敲 石	11.3	4.45	2.45	195.8	安山岩	
357	B2地区IV層	石 盆	17.9	9.8	4.5	1170	礫灰岩	
358	B2地区IV層	砾 石	17.7	3.2	3.9	454.2	砂岩	
359	B2地区IV層	砾 石	4.65	4.4	0.77	23.5	頁岩	
360	B2地区	粗 石	16.6	14.7	4.9	460	粗石	
361	B2地区	砾 石	9	10.15	6.75	760	礫灰岩	
362	B2地区	台 石	25.45	20.6	9.95	9050	安山岩	
363	B2地区	台 石	21.3	14.8	10.2	3600	礫灰岩	

5. B3地区

B3地区は、B1地区の北側、南から北に向かって傾斜する斜面地に位置する。調査面積約5,270m²である。B3地区は第IV層が薄くなっていたため、これまでB1・2地区で第V層上で検出されていた柱穴などが第IV層上で確認できた。検出された遺構は、古代の畠跡と思われる畝状遺構、竪穴状遺構4基、溝状遺構4条、古墳時代と思われる土壙1基、時期不明の土壙1基、掘立柱建物跡5棟、柱穴群である。遺物は古墳時代の土師器を中心に出土している。縄文時代の石器や古代の土器はわずかの出土である。

(1) 縄文時代の遺構と遺物

遺構は確認されなかった。遺物も他の地区より出土数が少なく、石器が2点確認されただけである。出土遺物は第78図に示している。592はチャート製の打製石器である。593はチャート製の石匙か。

(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

土壙

1号土壙（SC1、第79図）

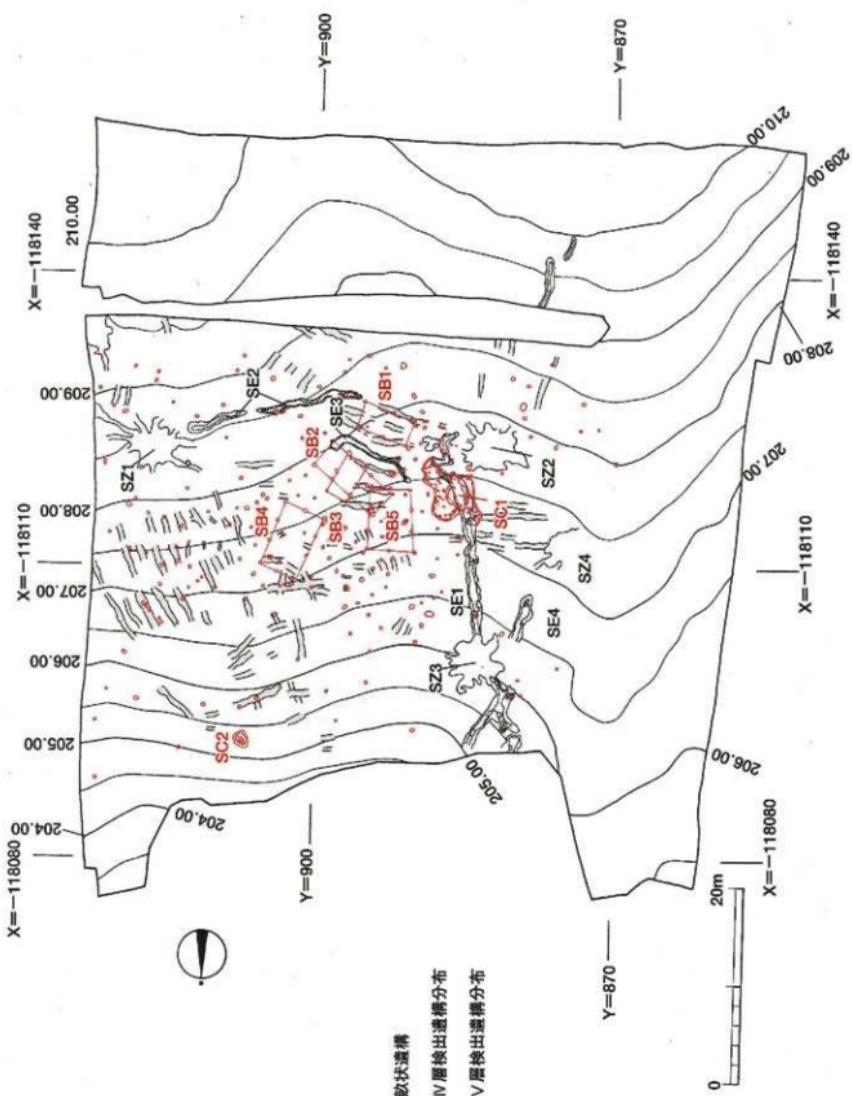
調査区の中央、やや東寄りの第IV層上で検出された。長軸約4.25m、短軸約2.4m、検出面からの深さ約0.65mの長楕円形を基本とした不定型プランを呈する。畝状遺構と同じ埋土の1号溝状遺構が土壙上部を通っていたため、土層断面トレンチから遺構が確認された。性格不明の遺構であるが、特徴を記述する。土壙は、中央の長楕円形部とその両側の一端高いテラス部で構成される。中央部の長楕円形落ち込み部の埋土中には焼土と炭化材が多く含まれ、そこから古墳時代の土師器が多く出土している。埋土を除去すると、東側の壁面が熱を受けたように赤化して、かなり硬化していた。また、両側のテラス部からも土器片が出土しているが、特に東側に集中している。出土遺物は第80図に示している。

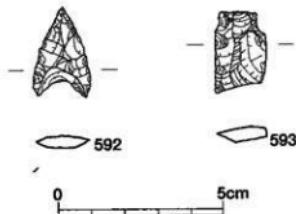
594～597は小型丸底壺である。外器面に丹塗りが施され、いずれの底部にも黒変もしくは黒斑がみられる。598・599は壺の底部である。598は平底で、球形の胴部を呈する。内外器面底部、底部付近に黒斑がある。599は丸底になると思われる。600～603は刻み目を持つ貼り付け突帯を有する壺である。600は頸部のくびれ部に刻み目突帯を有する。601～603は胴部から口縁にかけてくびれを持たずに内湾しながら延びる器形を呈し、口縁部に刻み目突帯を有する。601は口唇部に刻み目を持つ。604は貼り付け刻み目突帯を持たない壺の口縁部と思われる。605～608は壺の底部である。609は外器面に丹塗りが施された壺と思われる。

遺構外出土の遺物（第81・82図）

610は長胴形の胴部を持つ壺と思われる。611は丸底で、長胴形の胴部を呈する壺になると思われる。612は平底の壺の底部である。613～626は刻み目を持つ貼り付け突帯を有する壺である。613～617はくびれのある頸部に刻み目突帯を持つ。618・619は体部から口縁にかけて外反、もしくはわずかにくびれを持って口縁が外反する器形の壺で、刻み目突帯を有する。620～624はくびれを持たずに、体部から口縁に内湾しながら延びる器形の壺で、口縁に刻み目突帯を有する。623は胴部下位から底部にかけての内外器面に縦方向に粘土の貼り付けが施されている。粘土貼り付けの上限がどこまでかは胴部欠損のた

第77圖 B3地區遺構分布圖 (S=1/500)





第78図 B3地区出土石器実測図
(S = 2 / 3)

め不明である。627~631は甕の底部である。629は外器面に平行タタキがみられる。632・633は外器面に丹塗りが施された椀か。634は安山岩製の砥石か。

(3) 古代の遺構と遺物

畝状遺構 (第77図)

第IV層土が薄くなっていたため、畝状遺構はほとんど残存していないかった。確認できたものは次の通りである。①調査区の東側中央に、北北西-南南東方向に平行して走る9条前後。②調査区中央部に、東-西方向に平行して走る7条前後。

畝状遺構の溝の長さは約7~12m前後、溝幅0.6m前後を測る。①の畝状遺構は等高線に直交しているが、②の畝状遺構は斜方向に交わっている。栽培作物は不明である。

豊穴状遺構

1~4号豊穴状遺構 (S Z 1~4)

ここで確認された豊穴状遺構も他の地区のものと同じ特徴を持つ。黒色土と焼土を覆土とし、覆土を除去すると木根状に外方に穴が広がる。また、それぞれ溝状遺構と連結している。出土遺物は無く、性格不明の遺構である。埋土からみると、畝状遺構と同時期に存在したと思われる。

溝状遺構

1~4号溝状遺構 (S E 1~4)

第IV層上で検出しているが、遺存状況が悪く、検出面からの深さ約5~20cm程の浅い溝である。2号溝状遺構は、等高線と平行して東西方向に流れている。1号溝状遺構は南北方向に等高線と直行して流れている。3号と4号溝状遺構は異なるが、1号、2号は豊穴状遺構と連結する特徴を持つ。埋土から畝状遺構と同時期の遺構と考えられるが、畝状遺構の区画としての人为的な溝か、もしくは自然流路なのか、性格は不明である。

遺構外出土の遺物

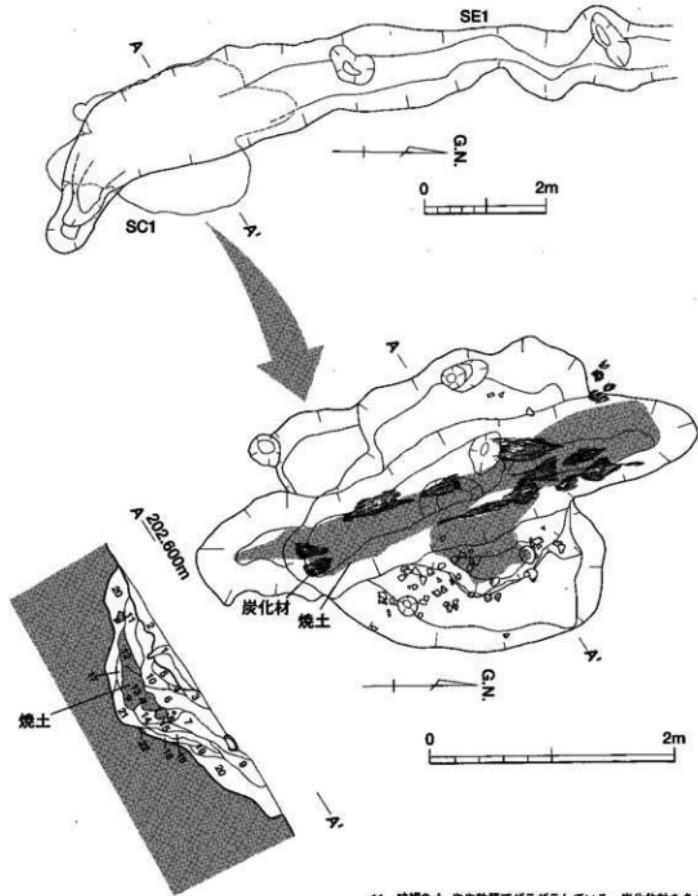
遺物については図示していないが、内器面にヘラケズリを持つ甕や、高台付坏などがわずかに出土している。

(4) その他の遺構と遺物

掘立柱建物跡 (S B 1~5、第83図)

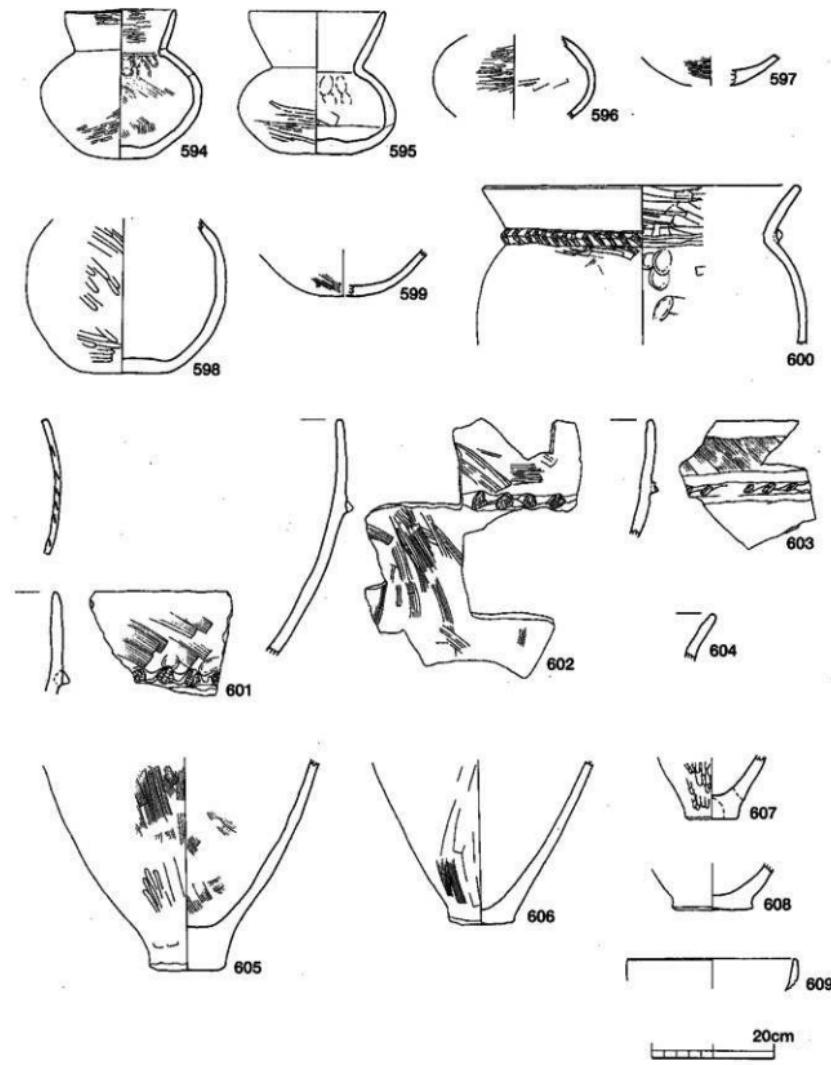
検出された建物は5棟である。確認された建物は、調査区の中央に位置し、1間×2間、1間×3間、2間×3間がある。主軸と切り合いから見て、1・2号と3~5号の二時期に分かれるとと思われる。柱穴間の距離については図に示した。

・1号掘立柱建物跡 (S B 1)

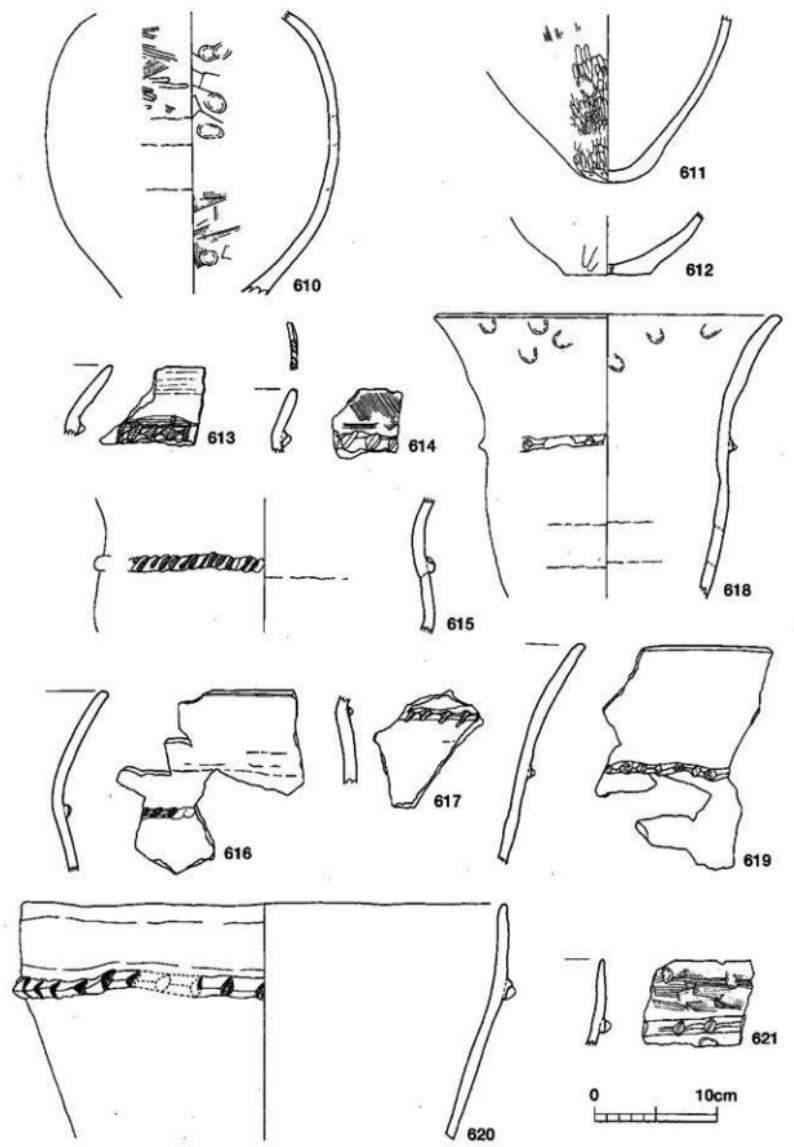


- 1 黒色土 細粒子でサラサラしている。しまりがある。暗褐色を含む。
御池ボラを若干含む。SE1の壌土。
- 2 黒色土 やや硬質。白色砂粒、黄褐色を多く含み、炭化物を若干含む。SE1の壌土。
- 3 黒色土 細粒子で、ややしまりがある。御池ボラ、白色砂粒、炭化物を若干含む。
- 4 暗褐色土 ややしまりがある。若干粘性がある。炭化物を若干含む。
- 5 黒褐色土 やや軟質。黄褐色土粒、白色砂粒、炭化物を含む。土器片を若干含む。
- 6 黒褐色土 やや軟質。サラサラしている。白色砂粒、炭化物を多量に含み、燒土粒を含む。御池ボラ粒を若干含む。
- 7 黑褐色土 硬質。御池ボラ粒、白色砂粒、ガラス質粒を含み、炭化物粒を若干含む。
- 8 黑褐色土 ややしまりがある。御池ボラ、白色砂粒を若干多く含む。
- 9 單褐色土 破質。粒子が細かく、サラサラしている。御池ボラ粒、白色砂粒、ガラス質粒、土器片を含み、炭化物粒を若干含む。
- 10 黑褐色土 ややしまりがある。粘性あり。炭化物粒、黄褐色土粒を多量に含む。御池ボラ粒、白色砂粒を少し含む。
- 11 單褐色土 やや軟質でザラザラしている。炭化物粒を多く含む。御池ボラ粒、白色砂粒を若干含む。
- 12 單褐色土 燃土層。やや軟質。御池ボラ、白色砂粒、炭化物粒を若干含む。
- 13 單褐色土 燃土層。若干しまりがある。御池ボラ、小石、白色砂粒、炭化物および炭化物粒を含む。
- 14 黑色土 粘質でしまりがある。白色砂粒、炭化物および炭化物粒、燒土を含む。
- 15 單褐色土 やや硬質で粘性がある。炭化物粒を多量に含み、御池ボラ、白色砂粒を含む。
- 16 黑褐色土 やや軟質。御池ボラ粒、白色砂粒、炭化物粒を若干含む。
- 17 黑褐色土 しまりがある。御池ボラ粒、白色砂粒、炭化物粒を若干含む。
- 18 黑色土 燃て黒変している。御池ボラ粒、白色砂粒、炭化物粒を若干含む。
- 19 單褐色土 10層と同じ。色調はやや暗い。
- 20 單褐色土 しまりがある。御池ボラ、白色砂粒を若干含む。
- 21 灰褐色土 硬質。若干粘性あり。御池ボラを若干多く含み、白色砂粒、炭化物粒を若干含む。
- 22 單褐色土 硬質でサラサラしている。御池ボラ粒、白色砂粒、ガラス質粒を含み、炭化物粒を若干含む。土器片を含む。

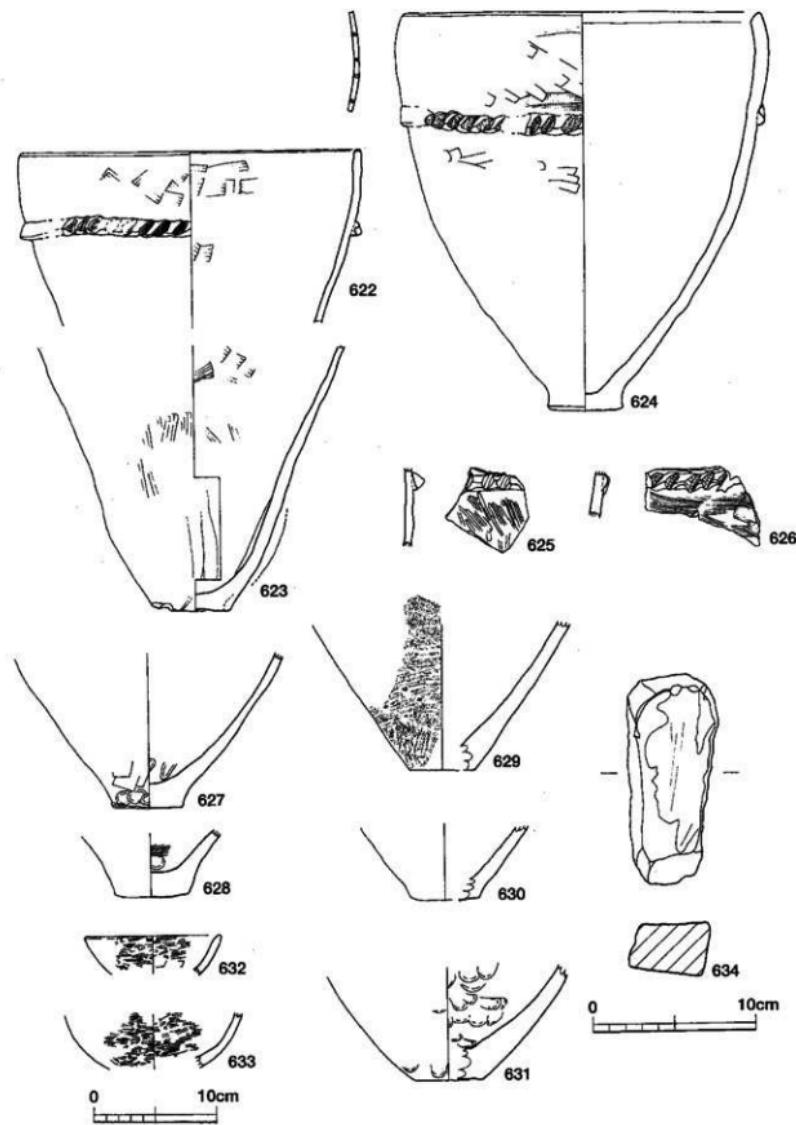
第79図 B 3 地区 1号土壤 (SC 1)・土層実測図 (上 : S = 1/80、下 : S = 1/40)



第80図 B3地区1号土壤出土遺物土師器実測図 (S = 1/4)

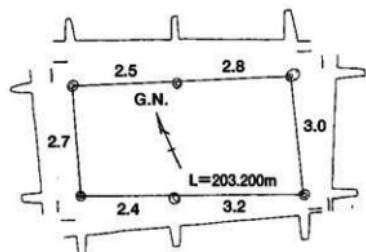


第81図 B3地区出土土器実測図 (S = 1/4)

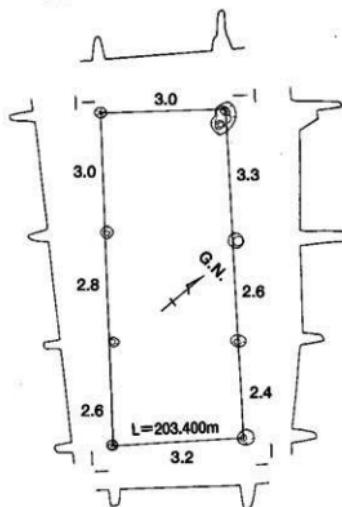


第82図 B3地区出土土器器 (S = 1/4)・石器 (S = 1/3) 実測図

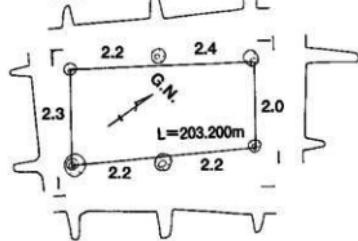
SB1



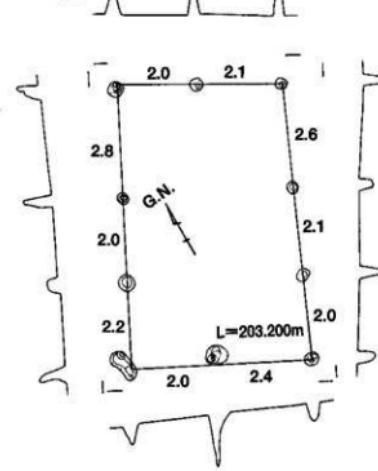
SB2



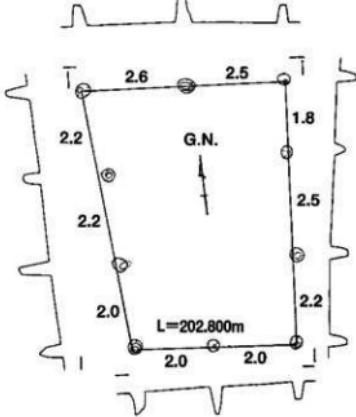
SB3



SB4



SB5



0 4m

第83図 B3地区1・2・3・5号据立柱建物跡(SB1・2・3・4・5)実測図(S=1/120)

主軸をN-69°30' -Wにとる1間×2間の建物である。梁2.7~3m、桁行5.3~5.6mを測る。柱穴径は20~30cm、深さは60cm前後と一定である。

• 2号掘立柱建物跡（S B 2）

主軸をN-51°30' -Wにとる1間×3間の建物である。梁3~3.2m、桁行8.3~8.4mを測る。柱穴径は20~40cm、深さは40~120cmと一様でない。3号・5号と切り合っている。

• 3号掘立柱建物跡（S B 3）

主軸をN-25° -Eにとる1間×2間の建物である。梁2~2.3m、桁行4.4~4.6mを測る。柱穴径は30~40cm、深さは50~120cmと一様でない。

• 4号掘立柱建物跡（S B 4）

主軸をN-28° -Eにとる2間×3間の建物である。梁4.1~4.4m、桁行6.7~7mを測る。柱穴径は30~40cm、深さは50cm前後である。

• 5号掘立柱建物跡（S B 5）

主軸をN-9°30' -Wにとる2間×3間の建物である。梁4~5.1m、桁行6.4~6.5mを測る。柱穴径は30cm前後、深さは一様でない。

土壤

2号土壤（S C 2）

調査区北側の西寄り、第IV層上で検出された。長軸1.6m、短軸1.2m、検出面からの深さ約0.97mの不定円形プランを呈する。埋土は暗褐色土で、遺物は出土していない。

(5) 小結

斜面地であるためB 1地区からの流れ込みの遺物が多くみられる。出土遺物は弥生から古墳時代のものがほとんどで、古代の遺物はわずかである。確認された掘立柱建物跡はその立地からみて、住居的なものではなく、簡易小屋的なものと思われる。特記すべきことは1号土壤であるが、古墳時代の土器焼成構の可能性が考えられる。

第26表 B3 地区出土遺物観察表(1)

遺物 番号	種別	基準・ 部位	出土 地點	法量(cm)			手・脚・骨盤・文様ほか		色		地の特徴	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
594	土師器	直 充 形	田辺区 SC1	8.8		12.35	丹焼り、ミガキ、風化 風化、ナデ、風化 風化	ミガキ、粘土のか け目、ナデ	赤	明赤褐色、 にぶい褐色	2mm以下の赤白・黒白・褐色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
595	土師器	直 充 形	田辺区 SC1	10.4	8.0	11.55	丹焼り、ミガキ、 風化	丁寧なナデ、指痕 工具痕、風化 風化	にぶい赤	褐色	5mm以下の白赤・ 2mm以下の白赤・灰白・灰褐色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
596	土師器	直 充 形	田辺区 SC1				風化、ミガキ、丹 焼り	ナデ、工具ナデ、 工具痕	赤、にぶい 赤褐色	褐色、深褐色、 黒褐色	4.5mm以下 2mm以下の褐色	
597	土師器	直 充 形	田辺区 SC1				ミガキ、丹焼り、 ナデ	丁寧なナデ	赤褐色	にぶい褐色、 灰褐色	2mm以下の淡褐色、 乳白、白乳、灰褐色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
598	土師器	直 充 形	田辺区 SC1			7.8	ミガキ、ナデ	工具痕、工具ナデ、 ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	2.5mm以下の白赤・ 0.5mm以下の透明光沢粒	
599	土師器	直 充 形	田辺区 SC1			(2.9)	ハケ目、ナデ	ナデ、風化気味	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の透明・ 黑色光沢粒、白色 の粒	
600	土師器	直 充 形	田辺区 SC1	(35.0)			ナデ、貼付剥み日 突き、トケ目後の 突き、スリット痕	ハケ目、指痕、 風化	褐色、 にぶい 赤褐色	にぶい褐色、 灰褐色	2mm以下の白・灰褐色の粒、透明光 沢粒	
601	土師器	直 充 形	田辺区 SC1				口縁部に剥み日 突き、トケ目、 陶器粉、ナデ 剥み日突き、ナデ	指痕、ハケ目の 後ナデ	にぶい褐色、 黒褐色	黒褐色	3mm以下の乳白・ 灰色の粒、 1mm以下の透明光沢粒	
602	土師器	直 充 形	田辺区 SC1				ナデ、ハケ目、貼付剥 み日突き、工具痕、黏 土のつなぎ目	ナデ	赤褐色、 にぶい赤褐色	黑褐色、 灰褐色	4mm以下の灰褐色の粒	
603	土師器	直 充 形	田辺区 SC1				ナデ、ハケ目、塵土のかえ り、剥み日突き、ナデ 剥み日突き、黒褐色	ナデ	にぶい黒褐色、 灰褐色	灰褐色	1.5mm以下の灰黒・ 黒透明光沢粒	
604	土師器	直 充 形	田辺区 SC1				丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の黒・灰・乳白色の粒	
605	土師器	直 充 形	田辺区 SC1			6.3	ハケ目、ハケ目の 後ナデ、ミガキ、 工具痕、風化 風化	ナデ、ハケ目、風 化気味	赤褐色	褐色	3mm以下の白・ 黑色の粒、透明光沢 粒	
606	土師器	直 充 形	田辺区 SC1			5.2	ハケ目ナデ、 粘土つなぎ目	ナデ、工具痕	にぶい黒褐色、 にぶい赤褐色	灰褐色	3mm以下の白・灰・ 灰褐色の粒	
607	土師器	直 充 形	田辺区 SC1			4.3	ミガキ、接合痕、 丁寧なナデ	指痕、ナデ	褐色	褐色	5mm以下の茶褐色の粒、 3mm以下の乳白・ 白色の粒、透明光沢 粒	
608	土師器	直 充 形	田辺区 SC1			(6.6)	工具ナデ、ナデ	ナデ、風化気味	灰褐色、 にぶい黒褐色	にぶい黒褐色、 にぶい赤褐色	3mm以下の赤褐色の粒、 0.5mm以下の透明光沢粒	
609	土師器	直 充 形	田辺区 SC1			(13.5)	円錐、丁寧なナデ	ミガキ	赤褐色	にぶい黄褐色	1mm以下の黒色の粒、透明光沢粒	
610	土師器	直 充 形	田辺区				ハケ目とナデ、 ミガキ、 ナデ	ナデ、指痕、ハ ケ目	褐色	暗褐色	3mm以下の白色の粒、 3mm以下の茶色 の粒、2mm以下の透明光沢粒	
611	土師器	直 充 形	田辺区				ハケ目、ミガキ、 指痕、ヘラ削り	ナデ、黒褐色	にぶい褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の乳白・ 茶色の粒、透明 光沢粒	
612	土師器	直 充 形	田辺区				ナデ、指痕	ナデ	褐色	灰褐色	6mm以下の茶褐色の粒、 3mm以下の灰 白色的粒	
613	土師器	直 充 形	田辺区				ナデ、貼付剥み日 突き	ナデ、黒褐色	にぶい黒褐色、 灰褐色	暗褐色	2mm以下の灰褐色の粒、 0.5mm 以下の灰白色の粒、 黑色光沢粒	
614	土師器	直 充 形	田辺区				ハケ目、貼付剥 み日突き、口唇部に 剥み日突き	ナデ	にぶい褐色	褐色	2mm以下の白・ 灰・褐・黒褐色の粒、 透明光沢粒	
615	土師器	直 充 形	田辺区				ナデ、貼付剥み日 突き	ナデ、工具痕	にぶい黄褐色	暗褐色	2mm以下の茶褐色の粒、 褐色の粒	
616	土師器	直 充 形	田辺区 SC1				ナデ、陶文、貼付 剥み日突き	ナデ、黒褐色	にぶい黄褐色	灰褐色、 灰褐色	2mm以下の灰褐色の粒、 透明光沢 粒	
617	土師器	直 充 形	田辺区				ナデ、貼付剥み日 突き、スリット痕	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の灰・ 黑色の粒、透明光 沢粒	
618	土師器	直 充 形	田辺区			27.4	ナデ、指痕、 貼付剥み日突 き	指痕、ナデ	にぶい黄褐色	灰褐色、 にぶい 褐色	3mm以下の白・灰・ 黑色の粒、 2mm以下の茶褐色の粒、 透明光沢粒	
619	土師器	直 充 形	田辺区				ナデ、貼付剥み日 突き	ナデ、指痕	にぶい黄褐色	暗褐色、 にぶい 褐色	3mm以下の灰褐色の粒、 0.5mmの粒、 透明光沢粒	
620	土師器	直 充 形	田辺区				ナデ、貼付剥み日 突き	ナデ、工具痕	褐色、オリー ーク	赤褐色、 黄褐色	2mm以下の灰白・ 灰褐色・白色の粒、 透明光沢粒	
621	土師器	直 充 形	田辺区				ナデ、ハケ目、 貼付剥み日突 き	ナデ、黒褐色	褐色、 にぶい 黄褐色	にぶい黄褐色、 灰褐色	1.5mm以下の灰白・ 褐色の粒、 1mm以下の透明光 沢粒	
622	土師器	直 充 形	田辺区			27.2	ナデ、ハケ目と ナデの後、 貼付剥み日突 き	ナデの後ハケ目、 黒褐色	にぶい褐色	明褐色	3mm以下の灰白・ 灰褐色・乳白色の粒、 1mm以下の透明光 沢粒	
623	土師器	直 充 形	田辺区			6.2	緑、ハケ目の後ナ デ、土の緑、一部 黒褐色	ハケ目の後ナデ、 黒褐色	にぶい赤褐色	褐色	5mm以下の褐色、 灰・乳白色の粒	

第27表 B3地区出土遺物観察表(2)

遺物 番号	種別 ・ 部位	出士 地點	法量(m)			手法・調査・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
			口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面			
624	土師器	■ 口	BB地区	(28.7)	(6.1)	32.6	工具ナデ、貼付剤 み目突起	刷毛目、ナデ	赤褐色、黒	赤褐色、黒	1mm以下の灰白・乳白色の粒	
625	土師器	■ 口	BB地区				工具ナデ、貼付剤 み目突起	ナデ	明赤褐色	褐	3mm以下の淡黄色の粒、透明光沢粒	
626	土師器	■ 口	BB地区				ハケ目、貼付剤 み目突起	ハケ目、黒皮	黄褐色、マリーブ黒	褐、明赤褐色	3mm以下の黄灰・灰白・黒色の粒	
627	土師器	■ 口	BB地区			5.68	ナデ、指觸痕	丁寧なナデ、周底	褐	褐、明赤褐色	4mm以下のにおいて褐色の粒、 2mm以下の灰白、にぼい黄褐色・褐色 の粒、透明光沢粒	
628	土師器	■ 口	BB地区		6.0		ナデ	ハケ目、指押え	において	赤褐色、灰褐色	3mm以下の灰白・黒褐色の粒	
629	土師器	■ 口	BB地区		(5.3)		平行タキ	ナデ	において	赤褐色、暗赤褐色	3mmの赤系・灰・淡黄色の粒、 1mm以下の茶・乳白色の粒、透明光沢粒	
630	土師器	■ 口	BB地区		(5.7)		ナデ	ナデ	において	において	1.5mm以下の灰白色の粒	
631	土師器	■ 口	BB地区		(5.5)		斜ナデ、指觸痕	斜ナデ、指觸痕、 周底	において	灰褐色	3mm以下の黒・白・茶褐色・乳白色の 粒、黒色・透明光沢粒	
632	土師器	■ 口	BB地区	(10.0)			ミガキ、丹磨り	ミガキ	明赤褐色	明赤褐色	0.5mm以下の黒色・透明光沢粒	
633	土師器	■ 口	BB地区				ミガキ、丹磨り	ミガキ、丹磨り	明赤褐色	において	1.5mm以下の透明光沢粒	

第28表 B3地区出土石器計測表

レバ(ク) 番号	出士地點	器種	最大長(m)	最大幅(m)	最大厚(m)	重量(g)	石材	備考
592	BB地区IV層	石 砧	2.75	1.6	0.55	1.5	チャート	
593	BB地区	石 砧	2.5	1.65	0.6	2.6	チャート	
624	BB地区	砾 石	22.5	5.5	3.3	966	安山岩	

6. B 4 地区

B 4 地区は B 1 地区の南西側に位置する。調査面積約3,000m²である。東西方向に長い調査区で、北側中央が微高地となり、西と南は谷に向かって緩傾斜している。遺構は、第IV層上で、古代の壙と思われる畝状遺構、竪穴状遺構1基、溝状遺構1条、時期不明の炉跡2基、土壙3基、第V層上で掘立柱建物跡3棟が確認されている。遺物は、縄文時代後期の土器數点、弥生から古墳時代の壺、甕、高杯、須恵器、古代の甕、土師器坏、高台付坏、黒色土器、須恵器、布痕土器、石器、鉄鏃などが出土している。

(1) 縄文時代の遺構と遺物

遺構は確認されていない。遺物もわずかに出土しているだけである。出土遺物は第85図に示している。635～637は鉢か。635は外器面口縁部に縦方向と横方向の沈線、636・637は横方向の沈線が施されている。638～640はチャート製の打製石鏃である。

(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

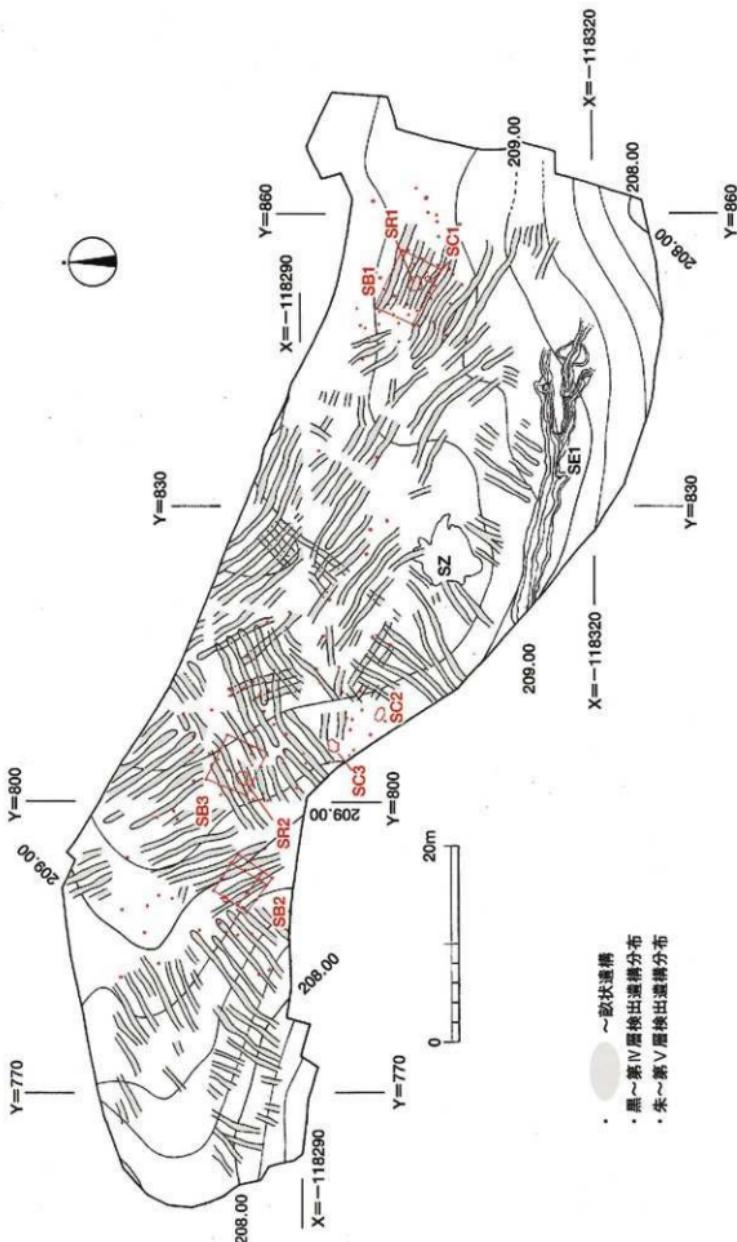
遺構は確認されていない。出土遺物は第86・87図に示している。641・642は複合口縁壺である。643は胴部下位に膨らみを持つ長胴の壺と思われる。644は丸底を呈する壺の底部か。645・646は壺の底部である。647～649は口縁が「く」の字状に屈曲する甕である。650は口縁部に最大径を持ち、頸部から口縁部にかけて外反する甕である。651～653は口唇部に刻み目を持つ甕の口縁部で、刻み目突帯を持つ甕の口縁になると思われる。654・655は体部から口縁にかけてくびれを持たずに内湾しながら延びる甕で、口縁部に刻み目を持つ貼り付け突帯を有する。657～659は高杯である。659は高坏の脚部で、外方に延びて裾が広がる。裾の端部には沈線がみられる。660・661は脚台付きの甕や鉢などの脚台部と思われる。661は穿孔を持つ。662～670は須恵器である。662～665は横瓶か。662と663は同一個体を実測したもので、662は肩の張った側面部である。664はその側面に続く部位にあたると思われる。665は底部付近である。662・663は外器面に平行タキ、内器面に同心円の当て具痕、664・665は内器面に当て具痕がみられる。666・667は同一個体で甕か。外器面に格子目タキ、内器面に平行當て具痕がみられる。668～670は甕の胴部である。668・669は外器面に格子目タキ、内器面に同心円當て具痕、670外器面に格子目タキ、内器面に放射状の當て具痕がみられる。

(3) 古代の遺構と遺物

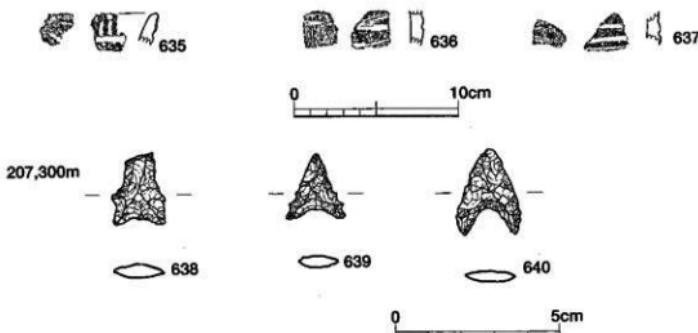
畝状遺構（第84図）

畝状遺構は第IV層上で検出し、調査区の全体に分布している。他の地区同様、平面的に平行して走る溝として捉えている。区画は5つ程に分けられる。①調査区西側に、北東～南西方向に平行して走る16条前後。②①の区画の東側に、北北西～南南東方向に平行して走る13条前後。③②の区画の南東側に、北東～南西方向に平行して走る10条前後。④調査区の北東側に、北西～南東方向に平行して走る13条前後。⑤④の区画の南側に北東～南西方向に平行して走る20条前後。

畝状遺構の溝は、基本的に等高線に直交しているが、一部斜方向に交わるものもある。曲線を描く溝もあり、地形の変化に伴って、溝の走行方向が変化している。溝の長さは15m前後、溝幅は0.5～0.6mを測る。この区では畝状遺構の重なりが多くみられる。栽培作物は不明である。



第84図 B4地区遺溝分布図 (S=1/500)



第85図 B4地区出土縄文土器(S=1/3)・石器(S=2/3)実測図

溝状造構

1号溝状造構(SE1、第88図)

調査区の南側第IV層上で、東西方向に流れる約30mの溝を検出した。地形からみると、東側から西に向かって流れていたと思われる。上層部に高原スコリアが自然堆積することから、古代の遺構と推測される。西側の最大溝幅は約2.4m、検出面からの深さ約0.52mを測る。東側は2条に分かれしており、南側の最大溝幅約1.24m、検出面からの深さ約0.44m、北側の最大溝幅約1.26m、検出面からの深さ約0.35mである。遺物は出土していない。

遺構外出土の遺物

出土遺物は、壺、鉢、坏、高台付坏、黒色土器、墨書き器、布痕土器、土製紡錘車などである。1・2号炉跡周辺の第IV層土中から多く出土している。第6表の古代の土器分類基準表に従って分類する。

壺(第89図)

A類-1 : 671~673	D類-1 : 677、678	E類-1 : 690
A類-2 : 675、676	D類-2 : 683	E類-2 : 687、691
A類-3 : 674	D類-3 : 679、680	E類-3 : 686
C類-2 : 689	D類-6 : 681	E類-4 : 685
C類-3 : 688		E類-6 : 684

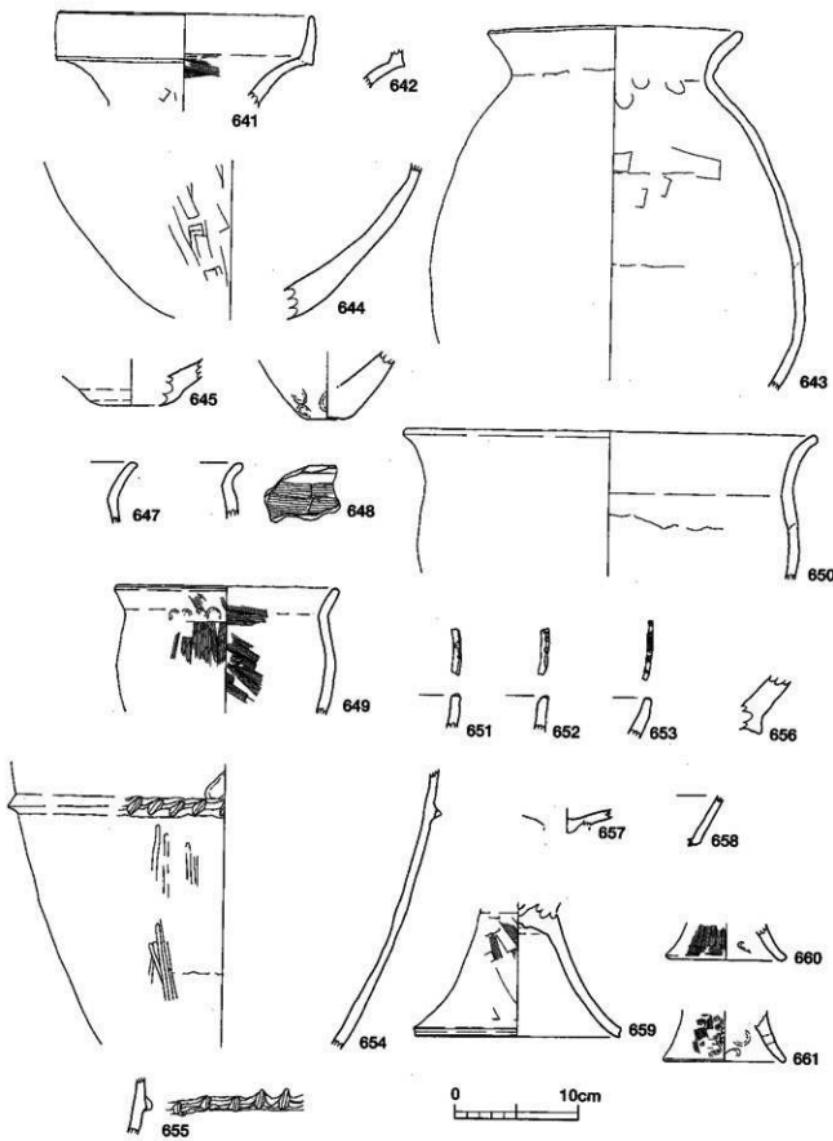
692は内器面ナデ、外器面格子目タタキのある壺の胴部である。693・694は鉢である。

坏(第90図)

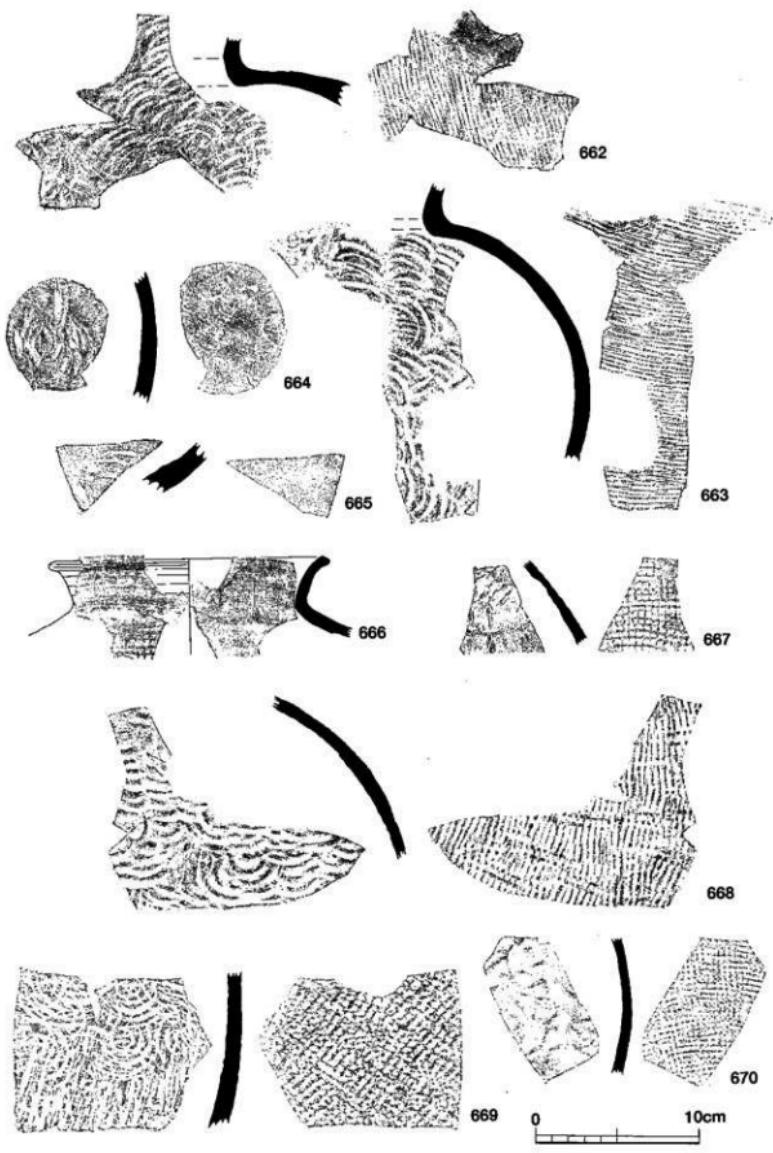
A類-1 : 695	B類-1 : 699、704、706
A類-2 : 696	C類 : 702、708、709

A類-3 : 697、698、700、703、705、707

705は体部外面の正位方向に墨書きが記されている。文字については不明である。



第86図 B4地区出土土器実測図 (S = 1/4)



第87図 B4地区出土須恵器実測図 (S = 1/3)

高台付坏（第90図）

- | | |
|----------------|----------------|
| B類-1 : 721 | B類-5 : 719、720 |
| B類-4 : 722、723 | B類-8 : 724 |

725は高台内と坏底部にヘラ記号がみられる。「+」か。

黒色土器（第91図）

- | | |
|------------------|------------------|
| 坏部A類-1 : 728～732 | 底部A類 : 724 |
| 坏部A類-2 : 726、727 | 底部B類-1 : 743、744 |
| 坏部A類-3 : 735～739 | 底部B類-2 : 745 |
| 坏部B類 : 733、734 | |

730・733・734・738・739・741は墨書き土器である。730は坏外面正位方向に「大人」か。他の文字については判読できない。740は朱書きである。

その他の遺物（第91図）

746は黒色土器の鉢か。747は布痕土器である。748～750は土製紡錘車である。

（4）その他の遺構と遺物

掘立柱建物跡（SB 1～3、第92図）

検出された建物は3棟である。2間×3間、3間×3間、2間×2間に廻を持つものがある。3棟の内2棟は炉を伴うものである。柱穴間の距離については図に示した。

1号掘立柱建物跡（SB 1）

調査区の東側に検出された。主軸をN-63°-Wにとる2間×3間の建物である。梁4.2～4.5m、桁行6.3m、柱穴径15～30cm、深さ15～60cmを測る。南側中央に炉を持つ。SC 1と切り合っている。

2号掘立柱建物跡（SB 2）

3棟並ぶ建物の、一番西に位置する。主軸をN-53°30'-Wにとる2間×2間の建物に、南側と東側の2面に廻を持つ。梁2.9～3.2m、桁行3.4～3.5m、柱穴径15～30cm、深さ30～70cmを測る。廻の柱穴径は20～30cm、深さ30cm前後と比較的しっかりとした柱穴である。

3号掘立柱建物跡（SB 3）

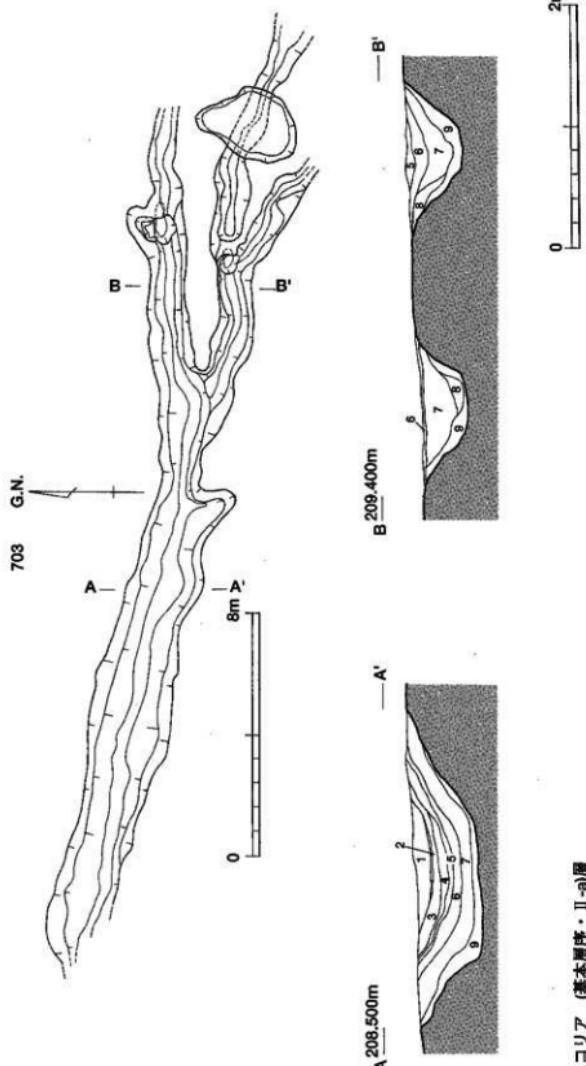
2号掘立柱建物跡の東側に位置する。主軸をN-65°30'-Wにとる3間×3間の建物である。梁4.5m、桁行5.1～5.3mを測る。柱穴径20cm前後、深さも30cm前後と揃っている。建物の南西側にはろを持つ。

土壤（SC 1～3、第94図）

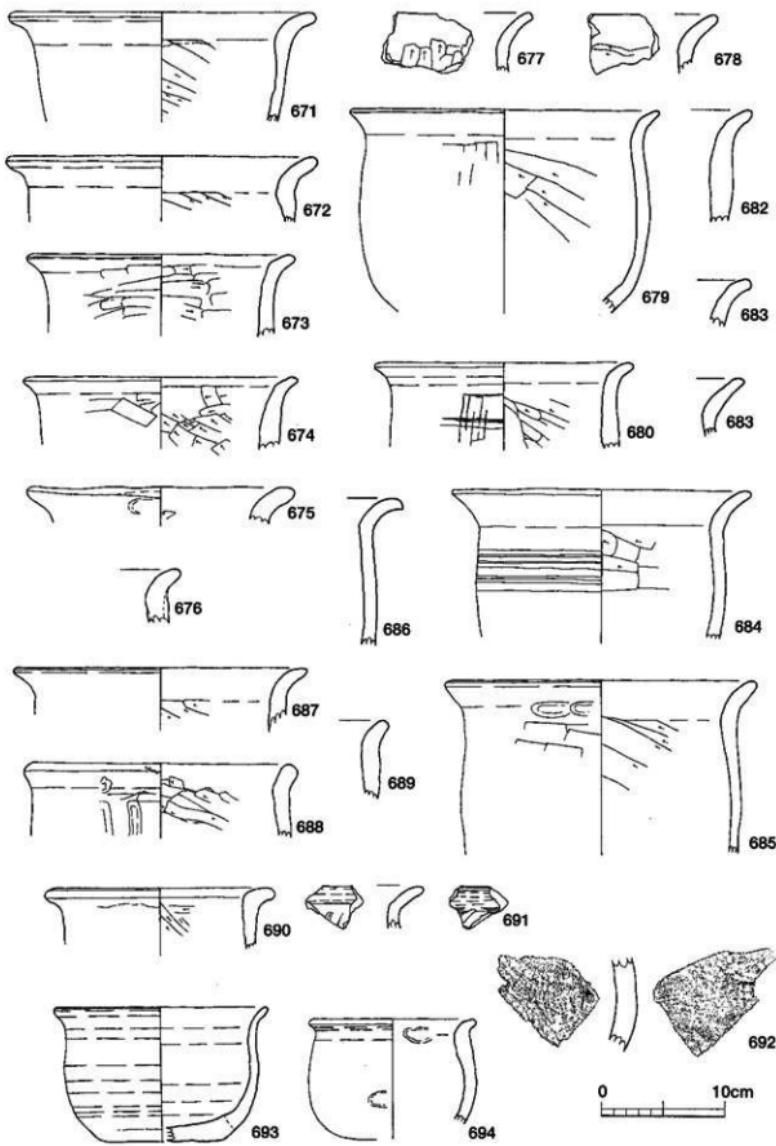
第IV層上で3基の土壤が確認されている。埋土は黒褐色土で炭化物を若干多く含む。時期は不明である。

1号土壤（SC 1）

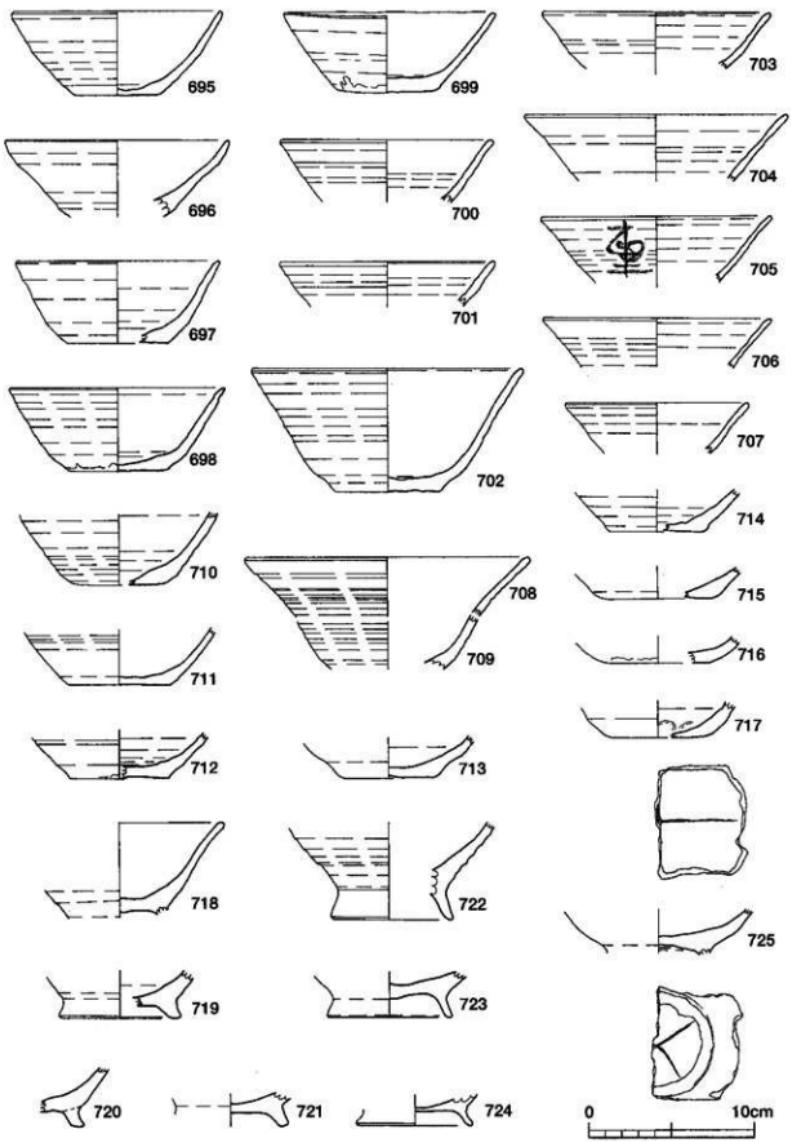
調査区東側の1号炉跡の南側に隣接する。長軸0.73m、短軸0.58m、検出面からの深さ約0.16mの不



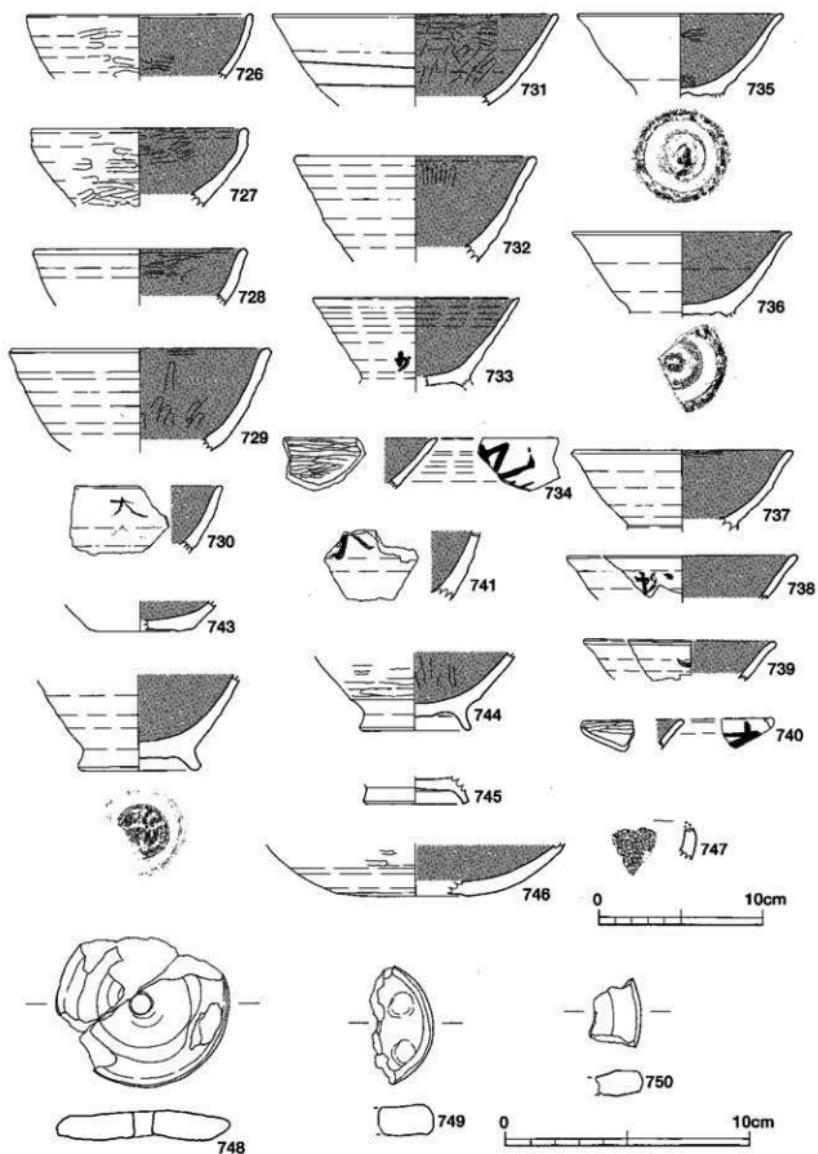
第88図 B4地区1号線状線(S-E)・土壤実測図 (S = 1/160、土層: S = 1/40)



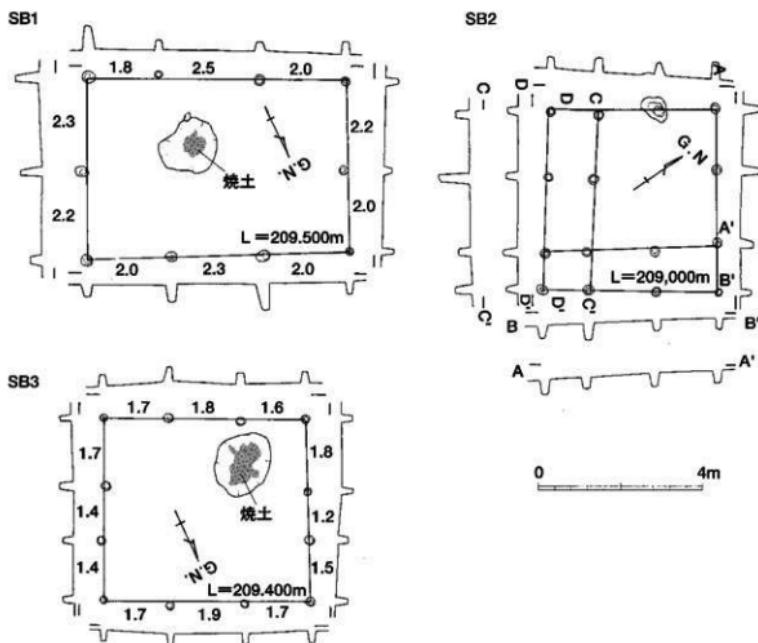
第89図 B4地区出土土師器実測図 (S = 1/4)



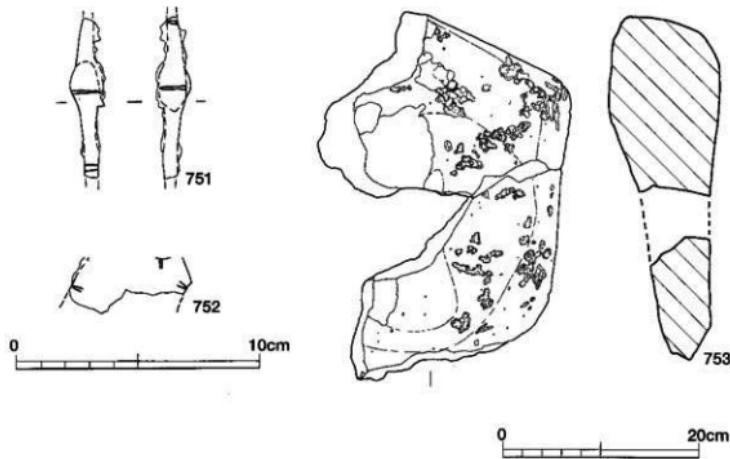
第90図 B4地区出土土師器実測図 (S = 1 / 3)



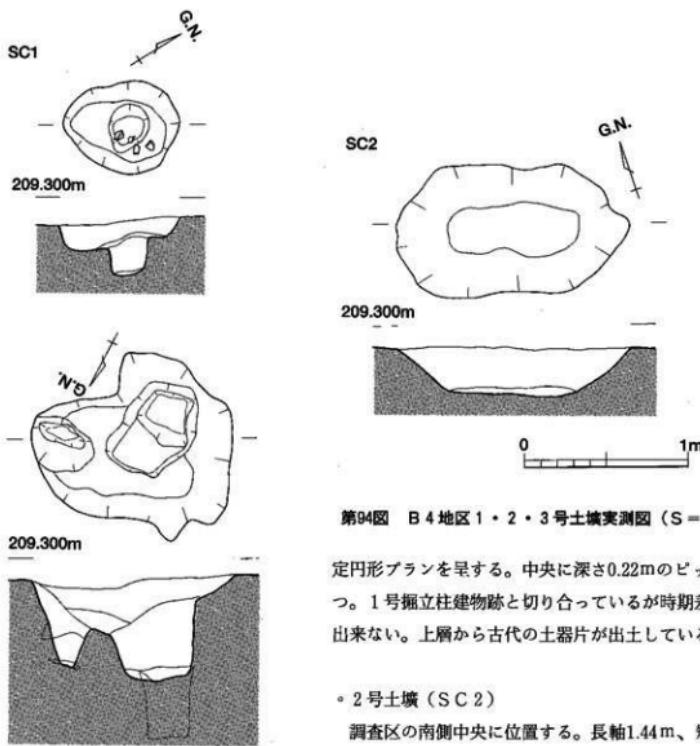
第91図 B4地区出土土師器 (S=1/3)・土製紡錘車実測図 (S=1/2)



第92図 B4地区1・2・3号掘立柱建物跡(SB1・2・3)実測図(S=1/120)



第93図 B4地区出土鐵器(S=1/2)・石器(S=2/5)実測図



第94図 B4地区1・2・3号土壤実測図 ($S = 1/30$)

定円形プランを呈する。中央に深さ0.22mのピットを持つ。1号掘立柱建物跡と切り合っているが時期差は確認出来ない。上層から古代の土器片が出土している。

②号土壤 (SC2)

調査区の南側中央に位置する。長軸1.44m、短軸0.78m、検出面からの深さ0.29mの楕円形プランを呈する。

③号土壤 (SC3)

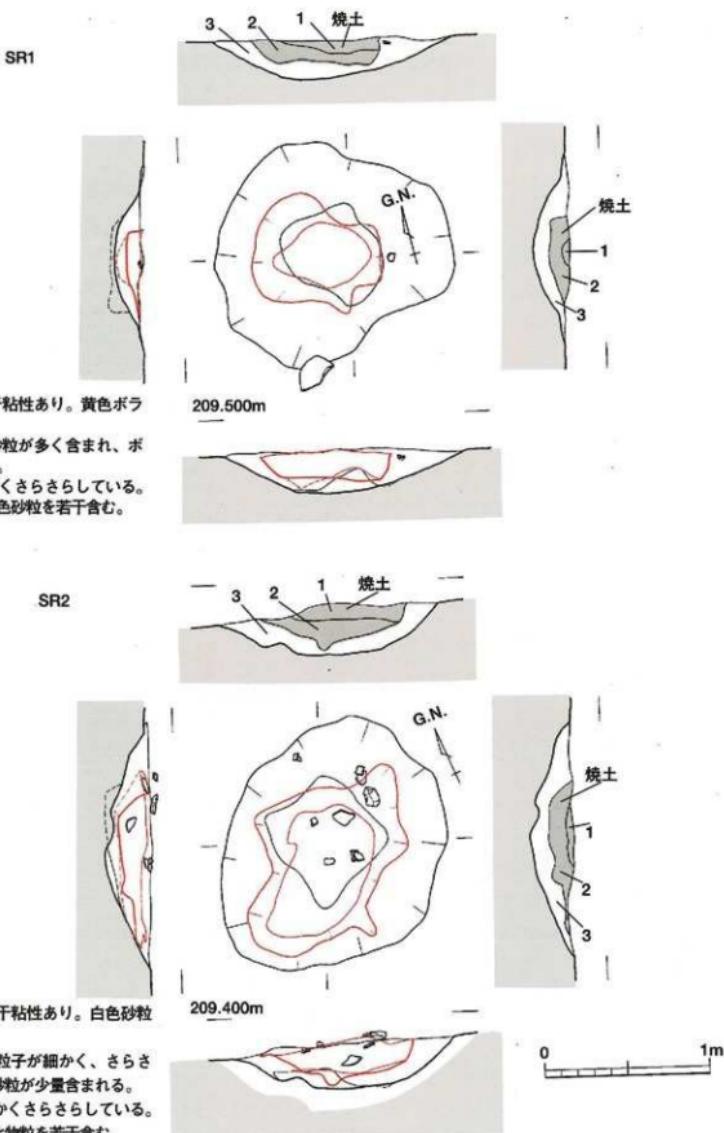
2号土壤の北西側に位置する。長軸1.24m、短軸1.05m、検出面からの深さ0.26mの不定形プランを呈する。長軸両端に約0.25mと約0.6mのピットを持つ。

炉跡

検出された炉跡は2基である。炉跡の形態は他の地区的ものと同じである。2基とも建物に伴うものである。

①・②号炉跡 (SR1・2、第95図)

1号炉跡は、掘り型の径が1.5m、検出面からの深さ約0.3mの不定円形を呈する。中央部の焼土は、径が0.8m、深さ0.22mの範囲に堆積している。焼土の周辺には赤変した礫（安山岩）が散乱していた。その礫付近に器種不明の鉄製品（銀銅製？図版P238①）が出土している。2号炉跡は掘り型の長軸1.7m、短軸1.3m、検出面からの深さ0.3mの楕円形プランを呈する。中央部の焼土は、長軸1.25m、短軸0.85m、深さ0.25mの不定楕円形の範囲に堆積している。焼土上部には礫片や土器片が散乱している。



第95図 B4地区1・2号炉跡 (SR1・2) 実測図 (S=1/30)

包含層の遺物（第93図）

751・752は鉄器である。751は鉄鎌の基部で、現存長6.6cmを測る。752は小札か。753は安山岩製の石皿である。

（5）小結

B 4 地区では、弥生、古墳時代の遺物の出土が少なく、古代の遺物を中心に出土している。畝状遺構については、畠の畝としての盛土は確認できないが、畝状遺構の切り合いや重なり合いが確認でき、畠のつくりかえが行なわれたことが推測できる。炉を伴う掘立柱建物跡も確認されていることから、畝状遺構が作られる前の生活区であったことも考えられる。遺物についての詳細は第Ⅲ章に記述する。

第29表 B4 地区出土遺物観察表(1)

遺物 番号	種別 部品	出土 地點	法量(m)		手法・圖案・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考		
			口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
635	圓文 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層				口縁部、綫方與沈 縫、横方向沈縫	ナデ	に赤い青	に赤い青	1mm以下の透明光沢		
636	圓文 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層				横方向沈縫	ナデ	に赤い青	に赤い青	1.5mm以下の乳白・暗褐色		
637	圓文 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層				横方向沈縫	ナデ	青	に赤い青	1.5mm以下の乳白・暗褐色 3mm以下の茶色		
641	土師器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層	(30.0)			ナデ	ナデ、縫、斜ハケ 目、粘土のつなぎ	淡青緑	淡黄	0.5~3mm以下の灰・黒色の粒、 0.5~1mmの透明光沢		
642	土師器 口盤	尾 山側付近 B4地区				ナデ	ナデ	灰青	灰青	0.8mm以下の黑色光沢、白色光沢		
643	土師器 口盤	尾 B4地区	19.0			ナデ	工具ナデ、指痕、 粘土のつなぎ	明赤緑	に赤い青、 オリーブ青	1mm以下の灰白・灰青・黒・乳白色の粒		
644	土師器 口盤	尾 山側付近 B4地区				斜ハケ目	丁寧なナデ	淡青、青	青	2mm以下の灰・に赤い青・黒・青 色の粒		
645	土師器 口盤	尾 B4地区		(?)		ナデ	ハケ目	淡青緑	淡青	2.5mmの暗青・灰・乳白色の粒、透 明光沢		
646	土師器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層		3.1		ナデ	ナデ、黒皮	に赤い青	に赤い青	2mmの淡黄・灰色の粒、黑色光沢		
647	土師器 口盤	尾 B4地区				ナデ	ナデ、黒皮	淡青	淡青	2mmの青・暗青色の粒、透明光沢		
648	土師器 口盤	尾 B4地区				工具ナデ、 スス付着	工具ナデ	に赤い青、 灰青	2mm以下の赤い青褐色の粒			
649	土師器 口盤	尾 B4地区	(17.6)			綫ハケ目、ハケ目 後ナデ、スス付着、 指痕	ナデ、斜ハケ目	灰青、黒	灰青	1mm以下の黒・淡青色の粒、透明光 沢		
650	土師器 口盤	尾 B4地区	(33.1)			ナデ、スス付着	ナデ、粘土のかえ り	黒青、明周 灰青	灰青、灰青	3mmの青・淡青・黑色光沢、透明 光沢		
651	土師器 口盤	尾 B4地区				ナデ、 口唇部剥み目	ナデ	に赤い青	青	1mm以下の灰・黄褐色の粒		
652	土師器 口盤	尾 B4地区				工具ナデ	横・斜ナデ	に赤い青	黑青	1mm以下の青・灰色の粒		
653	土師器 口盤	尾 B4地区				丁寧なナデ、 口唇部剥み目	ナデ、指痕	に赤い青	に赤い青	1mm以下の赤い青、灰色・黒い 光沢		
654	土師器 口盤	尾 B4地区				ミガキ、ナデ、粘 土のつなぎ	ナデ、スス付着	青	青	2mm以下の灰青・黒・灰色、透 明光沢		
655	土師器 口盤	尾 B4地区				ナデ、點付剥み目 突起	新ナデ、黒青	に赤い青	黒青	3mm以下の淡青、透 明光沢		
656	土師器 口盤	尾 B4地区				ナデ	ナデ	淡青	暗灰	1.5~3mmの乳白色・暗青・淡青 ・透 明光沢		
657	土師器 口盤	尾 B4地区				ナデ	丁寧なナデ	に赤い青	に赤い青	2mm以下の灰白・灰青・黒・透 明光沢		
658	土師器 口盤	尾 B4地区				ナデ	ナデ	に赤い青	に赤い青	2mm以下の灰白・灰青・黒透 明光沢		
659	土師器 口盤	尾 B4地区	(16.6)			斜ハケ目、ナデ	ナデ	に赤い青、 明周青	明周青	2mm以下の灰白・灰青・黑色光沢		
660	土師器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層	9.2			ナデ、横ハケ目	ナデ、指痕	明周青	明周青	3mm以下の灰白・灰青・黑色光沢		
661	土師器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層	(9.6)			斜ハケ目	ナデ、指痕	青	明周青	3mm以下の灰白・灰青の粒		
662	須恵器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層				ナデ、平行印目、 自然釉	ナデ、同心円当て 真	灰	暗灰			
663	須恵器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層				ナデ	ナデ、同心円当て 真	灰	灰			
664	須恵器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層				ナデ	ナデ、同心円当て 真	灰白	青灰	灰		
665	須恵器 口盤	尾 山側付近 B4地区				ナデ	ナデ、工具痕	灰	灰			
666	須恵器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層	(16.3)			格子目印き	平行當て具	灰	灰白	灰		
667	須恵器 口盤	尾 B4地区 Ⅲ層				格子目印き	平行當て具	灰	灰	灰		

第30表 B 4 地区出土遺物観察表 (2)

遺物 番号	種別	埋 蔵 部位	出 土 地 点	法 面 (cm) 口徑 底經 都高	手法・調査・文様ほか		色 調		地 土 の 特 徴	備 考	
					外 面	内 面	外 面	内 面			
668	圓筒器	直 筒 器	B4地区 N7層		圓状タキ	同心円当て具	において黄 褐色、灰褐色	暗灰黃	細良		
669	張 意 器	直 筒 器	B4地区 N7層		格子目印き	同心円当て具、字 行当て具	灰	灰	細良		
670	網 織 器	直 筒 器	B4地区 N7層		格子目印き	放射状当て具	灰白	灰白	細良		
671	土削器	直 筒 器	B4地区 (24.0)		ナデ	斜ヶズリの後ナデ	明褐、にほ い黄褐色	1m以下の灰白、褐灰色の粒、0.5mm 以下の黑色光沢粒			
672	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(24.0)	格子目印き	斜ヶズリの後ナデ	において黄褐色	灰黃、 にほい黄褐色	5mm以下の灰褐色の粒		
673	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(20.0)	ナデ、スス付着	斜ヶズリの後ナデ	において黄褐色	灰黃褐色	1.5mm以下の淡黄、乳白、黃灰色 の粒、透明光沢粒		
674	土削器	直 筒 器	B4地区 (21.0)		工具ナデ、スス付 着	斜ヶズリの後ナデ	僅	にほい黄褐色	5mm以下の黒褐、黑・乳白、黃灰色 の粒、2mm以下の透明光沢粒、黑色 光沢粒		
675	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(20.0)	ナデ	斜ヶズリ、指痕底	明赤褐	明赤褐	2mm以下の透明光沢粒		
676	土削器	直 筒 器	B4地区 S21		ナデ、黒変、粘土 付着	斜ヶズリの後ナデ、 黒度、粘土の付着	にほい黄褐色	にほい黄褐色	1.5mm以下の灰白、褐灰色の粒、 1mm以下の黑色光沢粒		
677	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層		ナデ	斜ヶズリの後ナデ	僅	僅	2.5mm、6.5mmの黄、高・乳白色の粒、 2mmの黒・茶色、透明光沢粒		
678	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層		ナデ	斜ヶズリの後ナデ	灰黃	にほい黄褐色	0.5~3mm以下の褐・黑色の粒		
679	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(24.0)	工具ナデ、黒皮	斜ヶズリの後ナデ	にほい黄褐色	明赤褐	5mm以下の灰・黑・黑色の粒		
680	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(20.0)	工具ナデ、スス付 着	斜ヶズリの後ナデ	にほい黄褐色	にほい黄褐色	3~4mmの黑色の粒、1~2mmの透明光 沢粒、黑色光沢粒		
681	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層		工具ナデ、格子目 タキ	斜ヶズリの後ナデ	明赤褐	僅	2mm以下の灰・黑・乳白色の粒		
682	土削器	直 筒 器	B4地区 S21		ナデ	斜ヶズリの後ナデ	にほい黄褐色	にほい黄褐色	1mm以下の褐色の粒		
683	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層		ナデ	斜ヶズリの後ナデ	にほい黄褐色	にほい黄褐色	1mm以下の高褐色・灰褐色の粒		
684	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(24)	工具ナデ、ナデ	斜ヶズリの後ナデ	浅黄、灰黃	灰黃	1mmの透明光沢粒、3mm以下の赤褐、 灰褐色の粒		
685	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(24.0)	工具ナデ、ナデ	斜ヶズリの後ナデ、 炭化物付着	灰黃、 暗灰黃	暗灰黃	2mm以下の灰・褐色の粒		
686	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層		板状工具ナデ、ナ デ	斜ヶズリの後ナデ	にほい黄褐色	僅	1mm以下の褐色の粒、透明光沢粒		
687	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(22)	ナデ、風化気孔	斜ヶズリの後ナデ、 風化気孔	にほい黄褐色	にほい黄褐色	5mm以下の灰・褐・黑色の粒、0.5mm 以下の透明光沢粒、黑色光沢粒		
688	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(21)	ナデ、粘土のかえ り、工具のたまり、 スス付着	板・斜ヶズリの後 ナデ	にほい黄褐色	にほい黄褐色	2mm以下の暗褐色・透明光沢粒、黑 色光沢粒		
689	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層		ナデ、工具痕	板・斜ヶズリの後 ナデ	にほい僅	にほい黄褐色	2mm以下の高・褐・灰・乳白色の粒		
690	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(17.0)	ナデ、粘土のつな ぎ	板・斜ヶズリの後 ナデ	にほい黄褐色	にほい黄褐色	2mm以下の僅・黑・乳白色の粒、0.5mm ~1mmの黑色光沢粒、5mmの灰色の粒		
691	土削器	直 筒 器	B4地区 S21		ナデ、工具痕、高 度	斜ヶズリの後ナデ、 高度	にほい僅、 暗灰黃	僅、にほい 黄褐色	1mm以下の灰白、褐灰色の粒、1mm以 下の灰白色の粒、黑色光沢粒		
692	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層		格子目タキの後 ナデ、スス付着	ナデ	僅	にほい黄褐色	3mm以下の灰・黑・褐色の粒、7mmの 黑色の粒		
693	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(17.0) (10.0)	10.95	ナデ、工具痕、ス ス付着、黒変、粘 土の接着目	ナデ	にほい黄褐色	にほい黄褐色、 性質	細良	
694	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(15.0)		ナデ、指痕痕	ナデ、指痕痕	にほい黄褐色	赤褐	1mm以下の褐色の粒、3mm以下の半透 明光沢粒、2.5mm以下黑色光沢粒	
695	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(12.0) (5.2)	5.15	回転ナデ	回転ナデ	僅、 にほい僅	僅、 にほい黄褐色	細良	
696	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(13.0)		回転ナデ、ヘラ切 り接ナデ	回転ナデ	にほい黄褐色	にほい黄褐色	細良	
697	土削器	直 筒 器	B4地区 N7層	(12.0) (6.1)	5	回転ナデ、ヘラ切 り接ナデ	回転ナデ	にほい僅	にほい黄褐色	細良	

第31表 B 4 地区出土遺物観察表 (3)

遺物 番号	種別 ・ 部類	出 土 地 点	法 量 (cm)			手法・調査・文書ほか		色 調		地 土 の 特 徴	考 察	
			口徑	底径	高さ	外 面	内 面	外 面	内 面			
688	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(13.0)	6.1	5.0	回転ナデ、ヘラ切 り抜ナデ、粘土のかえ り	回転ナデ	緑	緑	1mm以下の黒・褐色の粒	
699	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(12.7)	6.1	4.9	ナデ、粘土のかえ り	ナデ	に bei 黄緑	に bei 黄緑	きめ細か	
700	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(12.7)			ナデ	ナデ、スス付着	緑	緑	0.5mm以下の褐・茶色の粒	
701	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(12.9)			ナデ	ナデ	に bei 黄緑	に bei 黄緑	0.5mm以下の褐色の粒	
702	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(16.0)	(6.3)	7.5	回転ナデ、ヘラ切 り抜ナデ、朱施	回転ナデ、朱施	緑	緑	2mm以下の灰・褐・黄色の粒	
703	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(13.7)			回転ナデ	回転ナデ、粘土のつなぎ目	浅黄緑	黄緑	粗良	
704	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(16.7)			ナデ	ナデ	緑	に bei 黄	粗良	
705	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(13.0)			回転ナデ、墨書き	回転ナデ	緑	浅黄緑	1mm以下の黒・灰色の粒	
706	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(13.7)			回転ナデ	回転ナデ	に bei 黄緑	に bei 黄緑	粗良	
707	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(11.0)			ナデ、スス付着	ナデ、スス付着	に bei 黄緑	に bei 黄緑	0.5mm以下の褐色の粒	
708	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(17.2)			回転ナデ	回転ナデ	に bei 黄	に bei 黄	2mm以下の赤褐色の粒	
709	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層				回転ナデ	回転ナデ	に bei 黄	に bei 黄	2mm以下の赤褐色の粒	
710	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(5.8)			回転ナデ、ヘラ切 り抜ナデ	回転ナデ	に bei 黄緑	に bei 黄緑	粗良	
711	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(5.2)			ヘラ切り抜ナデ、 工具痕	ナデ	浅黄緑	浅黄緑	粗良	
712	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(6.1)			回転ナデ、ヘラ切 り抜ナデ、粘土の かえり	回転ナデ	浅黄緑	浅黄緑	1mm以下の透明光沢有、2mm以下の黒・ 灰色の粒	
713	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(5.9)			ナデ、ヘラ切り抜 ナデ	ナデ	に bei 黄	に bei 黄	きめ細か	
714	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(5.8)			ナデ、粘土のかえ り	ナデ	緑	緑	精良	
715	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(6.7)			ナデ、ヘラ切り抜 ナデ	ナデ	に bei 黄	に bei 黄	きめ細か	
716	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(6.8)			ナデ	ナデ	に bei 黄	に bei 黄	2mm以下の透明光沢有	
717	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(5.6)			ナデ、ヘラ切り抜 ナデ	ナデ、指跡痕	に bei 黄緑	に bei 黄緑	4mm以下の茶色の粒	
718	土器器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層				回転ナデ	回転ナデ	浅黄緑	に bei 黄緑	1mm以下の黑色胶、2mm以下の茶色の 粒	
719	土器器 類	高台寺 道・都	B4地区 N1層	(7.0)			ナデ	ナデ	に bei 黄緑	に bei 黄緑	精良	
720	土器器 類	高台寺 道・都	B4地区 N1層				ナデ	回転ナデ	浅黄	暗灰黄	2mm以下の透明光沢有	
721	土器器 類	高台寺 道・都	B4地区 N1層				ナデ、高台寺部に 使用痕	ナデ	明黄緑	浅黄	1mm以下の灰・茶・黒色の粒	
722	土器器 類	高台寺 道・都	B4地区 N1層	(7.2)			回転ナデ、灰皮	回転ナデ	浅黄緑	浅黄緑	2mm以下の灰・黒色の粒	
723	土器器 類	高台寺 道・都	B4地区 N1層	(7.4)			ナデ、風化気味	ナデ	明褐灰	浅黄緑	粗良	
724	土器器 類	高台寺 道・都	B4地区 N1層	(5.8)			回転ナデ、スス付 着	ナデ、指跡痕	に bei 黄緑	に bei 黄緑	2mm以下の茶色の粒	
725	土器器 類	高台寺 道・都	B4地区 N1層				ヘラ切り抜ナデ、 ナデ、ヘラ記号	回転ナデ、ヘラ記 号	浅黄緑	浅黄緑	1mm以下の茶・赤褐色の粒	
726	黑色土器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(18.6)			ナデ、風化気味	内黒、ミガキ、風 化気味	浅黄緑	暗灰	粗良	
727	黑色土器 類	京 都府 道・都	B4地区 N1層	(13.0)			ミガキ、風化氣味、 黒度	ミガキ	に bei 黄緑	暗灰	粗良	

第32表 B4地区出土遺物観察表(4)

遺物 番号	種別 部位	出土地点	法 集(m)		手法・調査・文様ほか			色 調		地土の特徴	備考	
			口径	底径	高さ	内面	外面	内面	外面			
728	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面	(12.7)		ナデ	内黒、ミガキ	灰黄	黒	精良		
729	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面	(15.6)		ナデ、削皮	内黒、ミガキ	に赤い黄櫈	黒	2mm以下の灰白・褐色の粒		
730	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面			ナデ、ハラ切り後 ナデ、墨書き「大人」	内黒、ミガキ	淡黄緑	黒	1mm以下の白・灰色の粒、透明光沢粒		
731	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面	17.3		ナデ	内黒、ミガキ	橙	黒	1mm以下の褐色の粒、4mmの灰色の粒		
732	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面	(14.6)		ミガキ、削皮	内黒、ミガキ	橙、黒	黒	5mm、8mmの灰白色の粒、1mm以下の 灰白・赤褐色の粒		
733	褐色土器	器物全体 口部-底部	B4地区 刀削面 墨書き	(12.6)		墨書き+ア、黒皮、 墨書き	内黒、ミガキ	淡黄緑	に赤い黄櫈	精良		
734	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面			ナデ、墨書き	内黒、ミガキ	に赤い黄櫈 橙	黒	精良		
735	褐色土器	器物全体 口部-底部	B4地区 刀削面	(12.4)		ナデ、削皮	内黒、ミガキ	に赤い黄櫈	黒	2mm以下の透明・黑色光沢粒		
736	褐色土器	器物全体 口部-底部	B4地区 刀削面	(13.0)		ナデ	内黒、ミガキ	淡黄緑	黒	2mm以下の透明光沢粒		
737	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面	(13.1)		ナデ、削皮	内黒、ミガキ	淡黄	黒	精良		
738	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面	(13.9)		ナデ、墨書き	内黒、ミガキ	に赤い黄櫈	黒	精良		
739	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面	(11.4)		ナデ、墨書き	内黒、ミガキ	に赤い黄櫈	黒	精良		
740	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面			ナデ、朱書き	内黒、ミガキ	灰黄、黒	黒	精良		
741	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面			ナデ	内黒、ミガキ	に赤い黄櫈、 に赤い黄櫈	黒	1mm以下の黑色の粒、透明光沢粒		
742	褐色土器	斧 底部	B4地区 刀削面	(6.4)		ナデ、ハラ切り後 ナデ	内黒、ミガキ、風 化兆跡	に赤い黄櫈	黒、灰	精良		
743	褐色土器	器物全体 口部-底部	B4地区 刀削面	(7.0)		ナデ	内黒、ミガキ	橙	黒	5mm、8mmの灰白色の粒、1mm以下の 灰白・赤褐色の粒		
744	褐色土器	器物全体 口部-底部	B4地区 刀削面	(6.5)		ミガキ	内黒、ミガキ	に赤い黄櫈	黒	3mmの淡黄の粒、1mmの褐色の粒		
745	褐色土器	器物全体 口部-底部	B4地区 刀削面	(5.9)		ナデ	内黒、ミガキ	灰黄	黒	3mmの灰褐色、灰白色の粒		
746	褐色土器	斧 口部-底部	B4地区 刀削面	(7.0)		ミガキ、風化兆跡 ナデ	内黒、ミガキ	に赤い黄櫈	黒、灰黄	1mm以下の透明光沢粒		
747	布紋土器	斧 口部	B4地区 刀削面			ナデ	布紋	明黄緑	に赤い黄櫈	3~6mmの褐・灰褐色の粒、2mm以下の 褐・灰色の粒		
748	土 器	粘土器	B4地区 刀削面	7.1	0.8	1.25	44.6	ナデ	ナデ	淡黄緑、 に赤い黄櫈	2mm以下の乳白色の粒、透明・黑色 光沢粒	
749	土 器	粘土器	B4地区 刀削面	(5.5)	1.25	14.2	ナデ、 指痕跡	ナデ	ナデ	に赤い黄櫈	5.5mm以下の乳白色の粒、 3mm以下の透明・黑色光沢粒	
750	土 器	粘土器	B4地区 刀削面		1.0	5.1	ナデ	ナデ	ナデ	橙	精良	

第33表 B4地区出土石器計測表

レ(79) 番号	出土地点	器 種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重 量(g)	石 材	備 考
638	B4地区IV層	石 砺	2.35	1.6	0.4	1.4	チャート	
639	B4地区IV層	石 砺	2.0	1.8	0.35	0.8	チャート	
640	B4地区IV層	石 砺	2.65	1.95	0.35	1.5	チャート	
753	B4地区 刀削面	石 砺	38.2	20.3	12.2	7500	安山岩	

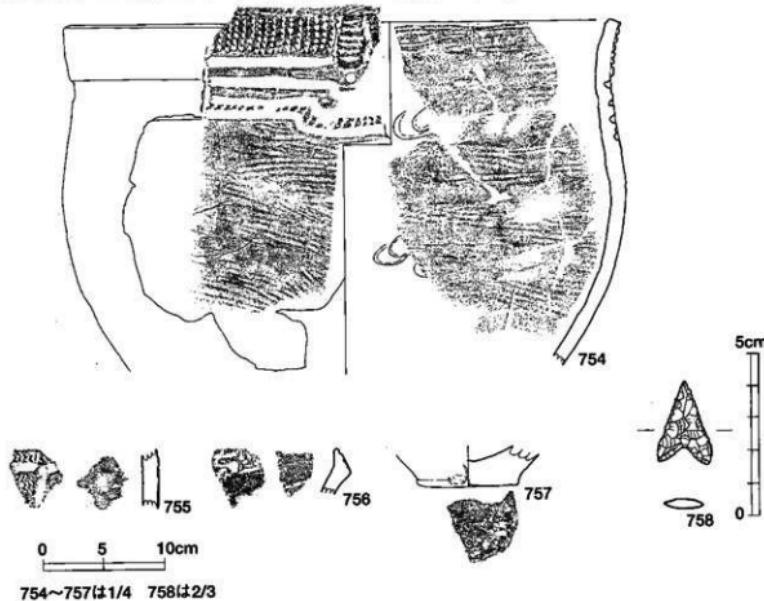
7. B 5 地区の調査の概要

B 5 地区では、他の地区と同様に古代の痕跡が調査区のはば全面に検出できたほか、堅穴住居址が1棟、堀立柱建物が18棟、土壙が19基、溝状遺構5条、時期・性格ともに不明のピット群が多数検出できた。

(1) 繩文時代の遺物

縩文時代の遺構はB 5 地区では検出できていないが、若干の遺物が出土している。

754は市来式の深鉢である。口縁部から体部にかけて比較的良好な状態で出土している。口縁部に貝殻文、沈線文を巡らし、体部は貝殻擦痕が施される。755は市来式土器の細片である。口縁部近くと思われるが細片のため詳細は不明である。756は縩文土器の口縁部である。沈線らしきものが確認できるが器表の摩耗が激しく細片であるため、文様帶の詳細はよくわからない。757は鉢の底部と思われる。網代底がわずかに確認できるが、全体に摩耗が激しく判然としない。



第96図 B 5 地区IV層出土縩文時代遺物実測図

(2) 弥生時代から古墳時代にかけての遺構

1号住居址 (S A 1・第98図)

調査区の南端で検出できた 5.8m × 5.8m のほぼ正方形の堅穴式住居である。主柱穴は二本で、径約 20cm、深さは住居址床面より約 60~80cm、柱間は約 3.8m を測る。検出面から床面までの深さは 20cm 強である。炉跡や壁帶溝、貼床等の施設は確認できていない。

堀立柱建物群

B 5 地区では堀立柱建物が18棟検出できている。堀立柱建物は、B 5 地区のほぼ中央の高台を中心には大きく4群に分けることが可能である。北から第1堀立柱建物群（7号から11号堀立柱建物）、第2堀立柱建物群（1号から4号堀立柱建物）、第3堀立柱建物群（5・6号堀立柱建物）、第4堀立柱建物群（12から18号堀立柱建物）とする。遺構からは時期を決定づけるような遺物は出土していないが柱穴埋土の状況から弥生時代から古墳時代にかけてのものと思われる。

①第1堀立柱建物群（SB 7～11・第99図・第100図）

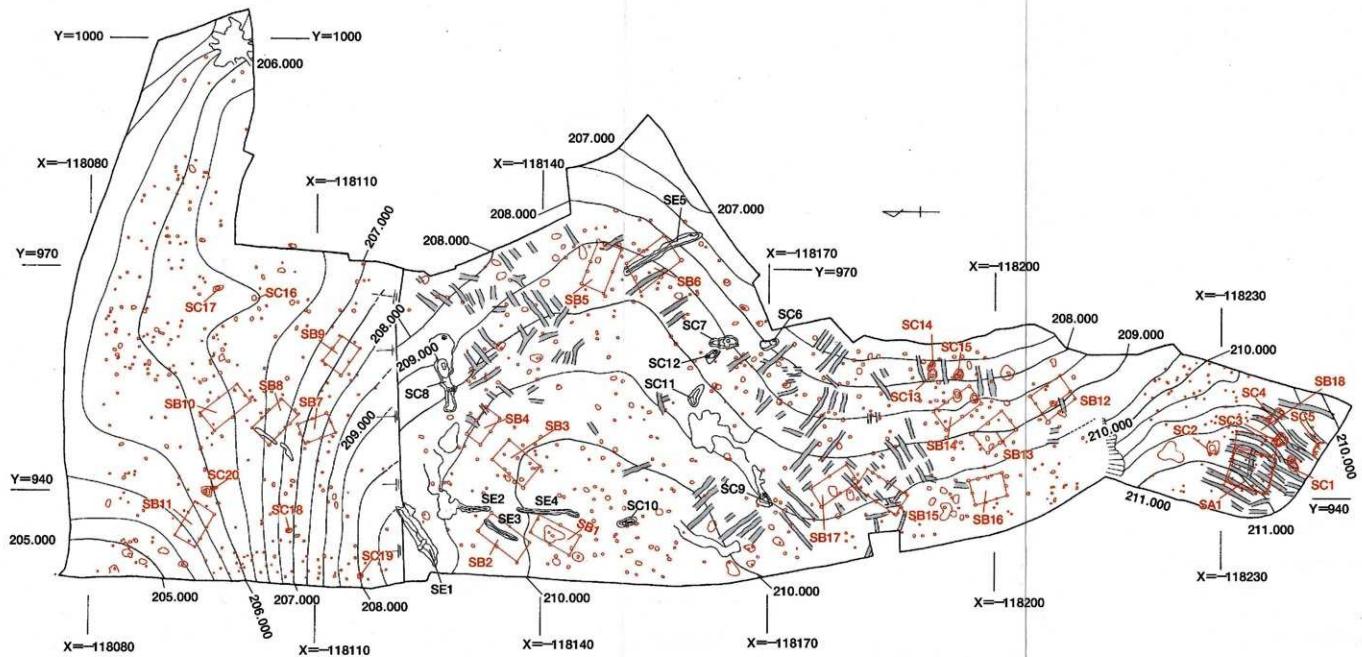
調査区の北側の緩斜面に分布する5棟で構成される堀立柱建物群である。建物の主軸方向は7号堀立柱建物が座標北よりN25°Wである他はN60°Wの前後である。第1堀立柱建物群は全て側柱で二間二間のもの（7号堀立柱建物）が1棟、一間二間のもの（9号および10号堀立柱建物）が2棟、一間三間のもの（8号および11号堀立柱建物）が2棟存在する。7号堀立柱建物は梁側の柱間が約1.2mから1.35m、桁側の柱間が約2mで、深さは検出面から30cmから80cmとまちまちである。8号は梁側の柱間は1.68mから2.16mで、桁側の柱間は約2.93mから3mである。9号は梁側の柱間が約3mから2.8mで桁側の柱間が約2.04mから2.40mである。10号は梁側、桁側とともに3m前後を測るが、南東に向けて柱筋が狭まっており、南東の梁側の柱間は約2.64mと狭い。11号は梁側の柱間は約3mで桁側は約1.2mから2.04mである。

第1堀立柱建物群は7号が大きく北に振れている以外は、おおよそ同じ方位をとる。コンターライン等からみると、地形的な制約より、方位に規制されている可能性が高い。方向、遺物その他から明確な時期差は確認できないが、少なくとも7号の建てられた時期と他の4棟が建てられた時期の2時期以上が考えられる。また、柱穴の径が40cmを大きく上回るものが無く、柱間、柱筋、柱穴の深さ等が一定していないことから考えると、恒常的建物とは考えにくい。現時点では短期間に使用された作業小屋程度のものを想定しておきたい。

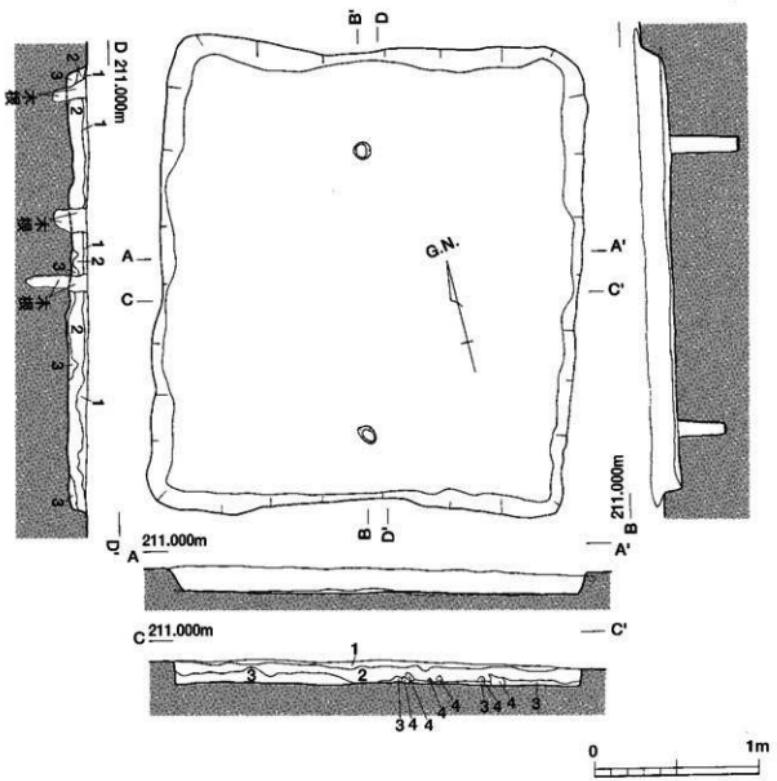
②第2堀立柱建物群（SB 1～4・第99図）

調査区は中央の高台から北東にわずかに下る斜面上に分布する4棟で構成される堀立柱建物群である。建物の主軸方向は、4号以外はN27°EからN39°Eの間におさまる。4号の主軸はN35°Wと他の3棟にはほぼ直交する。第2堀立柱建物群は全て側柱の一間二間である。1号堀立柱建物は梁側で柱間約2.52mから2.88m、桁側で3m前後である。2号堀立柱建物は、梁側で柱間3m、桁側で3mから3.24mである。3号堀立柱建物は梁側で柱間約3.36mから3.54m、桁側で柱間約2.58mから2.94mとなる。4号堀立柱建物は梁・桁側とともに柱間2.16mから2.28mと他の堀立柱建物と比較して規格性が高い。

第1堀立柱建物群同様に柱穴の径は小さいが、比較的柱筋の通りはよく、柱穴の深さも60cmから80cmの間におさまるものが多く規格性が高い。また方位による規制が大きく働いているようで建物の主軸方向もほぼ一定である。高所の比較的平坦な場所に築かれていることと合わせて考えると、第1堀立柱建物群とは違った性格を想定する必要があるかもしれない。なお、建物相互の時期差を検証するデータに乏しく同時存在をした建物をとらえることはできなかった。

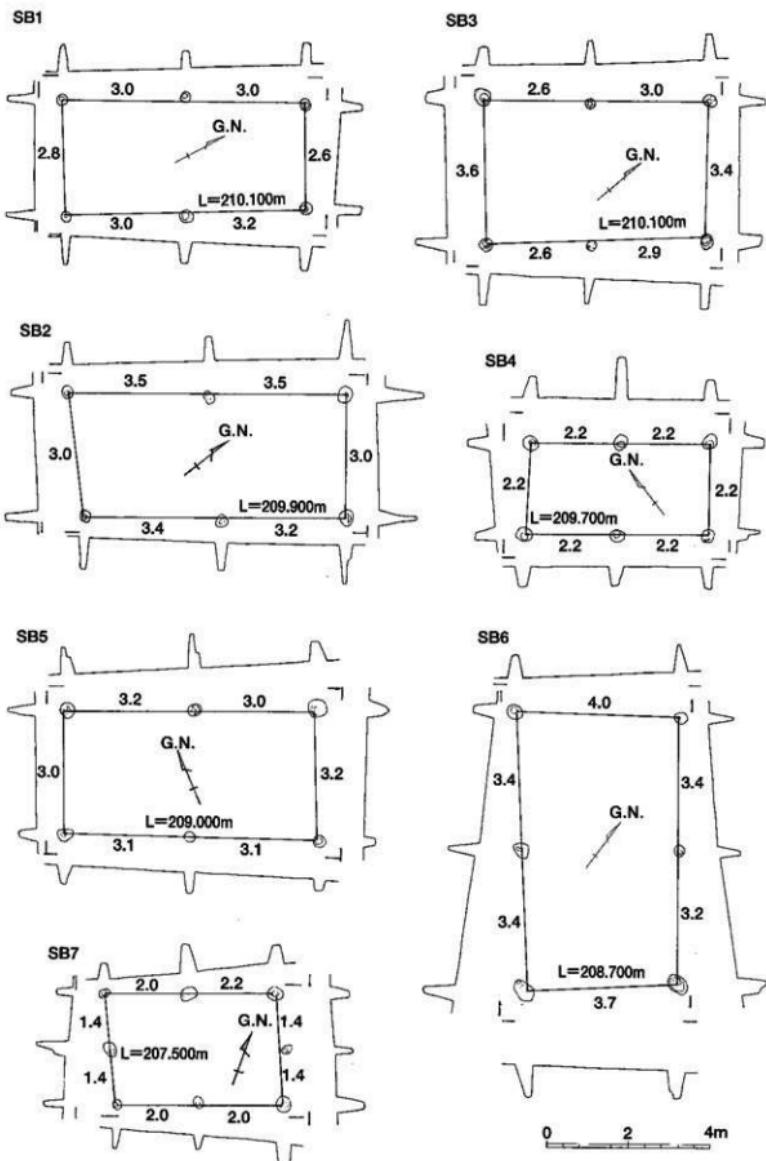


第97図 B5地区構造分布図 (S=1/500)



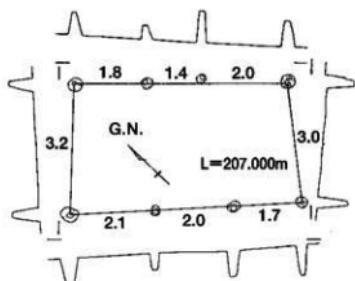
- 1……黒褐色土。しまりがあり、2~3mmの炭化物を多く含む。1~2mm程度の赤褐色バミスを若干含む。
- 2……褐色土。1よりもややしまりあり。2~3mmの炭化物と5mm程度の御池ボラを若干含む。
- 3……暗褐色土。かなりしまりが強い。炭化物を含まず、2~3mm程度の御池ボラ、2~5mm程度の赤褐色バミスを含む。
- 4……牛ノ脛上層ブロック。赤褐色バミスを若干含む。

第98図 B 5 地区 1号住居址実測図 (S = 1/60)

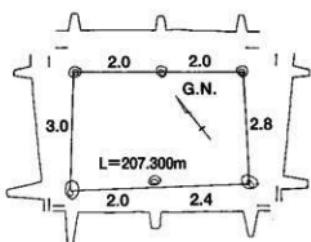


第99図 B 5地区1～7号掘立柱建物跡（SB 1～7）実測図①（S=1/120）

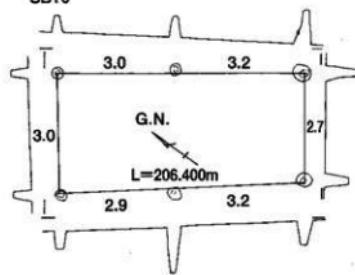
SB8



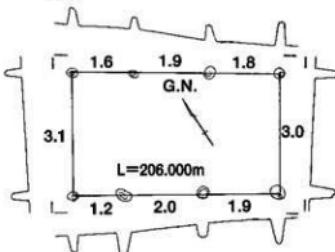
SB9



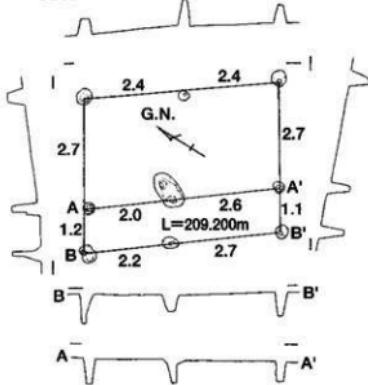
SB10



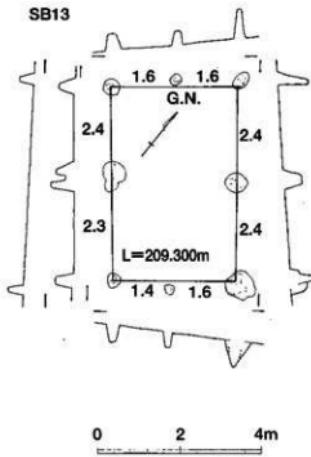
SB11



SB12

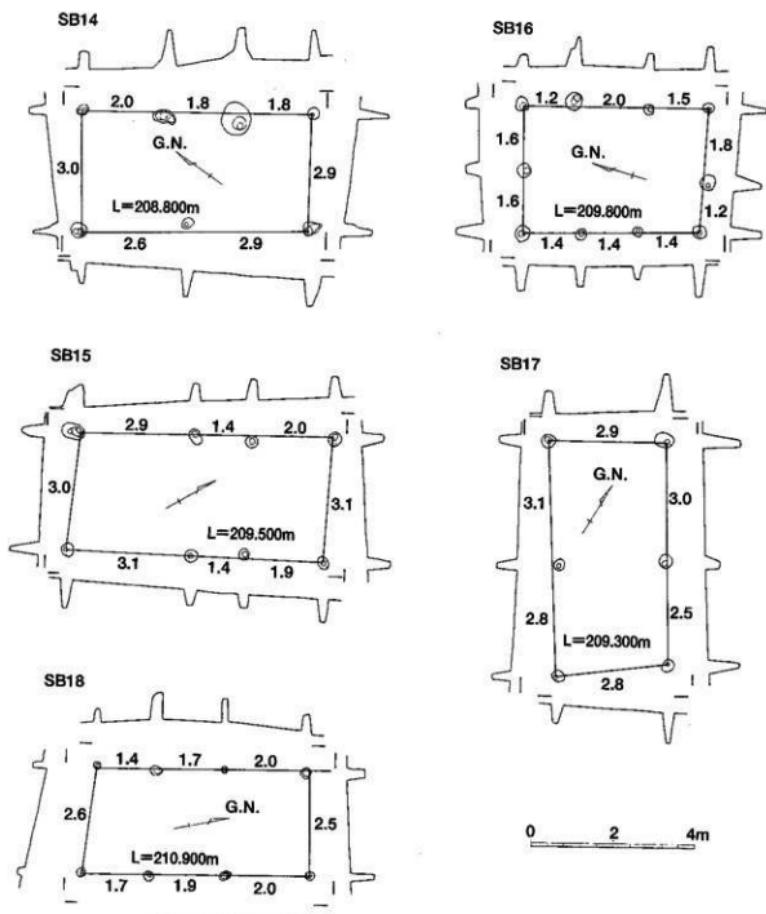


SB13



0 2 4m

第100図 B 5地区 8~13号掘立柱建物跡 (SB 8~13) 実測図② (S=1/120)



第101図 B 5 地区14~18号堀立柱建物跡 (S B 14~18) 実測図③ (S = 1/120)

③第3堀立柱建物群（S B 5～6・第101図）

調査区の中央東側の斜面で検出できた2棟で構成される堀立柱建物群である。2棟とも一間二間で柱間は3mを下回るものがない。5号堀立柱建物は柱間が3.0mから3.24mと比較的規格性が高い。主軸方向は座標北からN67°Wである。6号堀立柱建物は梁側で3.72mから4.08mで桁側で3.24mから3.6mである。主軸方向はN32°Wとなる。

第3堀立柱建物群は2棟のみしか検出できておらず、調査区外に建物群が広がる可能性も考えられ、検討材料に乏しい。また、柱間が柱穴の径に対し異常に広く、堀立柱建物ではなく柱列など別の性格の遺構を想定した方が妥当かもしれない。

④第4堀立柱建物群（S B 12～18・第100・第101図）

調査区の南側で検出できた7棟の堀立柱建物で構成される堀立柱建物群である。建物の主軸はN35°W前後のもの（12・13・14号）、N14°Wのもの（16号）、N33°Wのもの（15号）、ほぼ南北を向くもの（18号）がある。6棟の内訳は、一間三間のものが15・18号の2棟、二間二間のものが13号の1棟、二間一間のものが16号の1棟、一間二間のものが17号の1棟、一間二間の一面庇のものが12号の1棟である。なお14号は桁側が三間と二間の変則的な規格である。

第4堀立柱建物群は柱間、柱筋の通り、柱穴の深さなど全てまちまちで、規格性が非常に乏しい。また、柱間が3m以上のもののがかなりあり、特に桁側で3mを越えているものは柱穴の深さと合わせて考えると建物が建っていたとは考えにくい。また、18号は調査区の南端に他のものとは離れて存在することから別の群を構成する可能性が高い。これらの点から、15号と17号・18号を堀立柱建物群から除外すると群のまとまりがとらえやすい。主軸方向から、12・13・14号の3棟と16号の2時期以上に分けられると考えられる。

（3）弥生時代から古墳時代にかけての遺物

1号住居址出土遺物

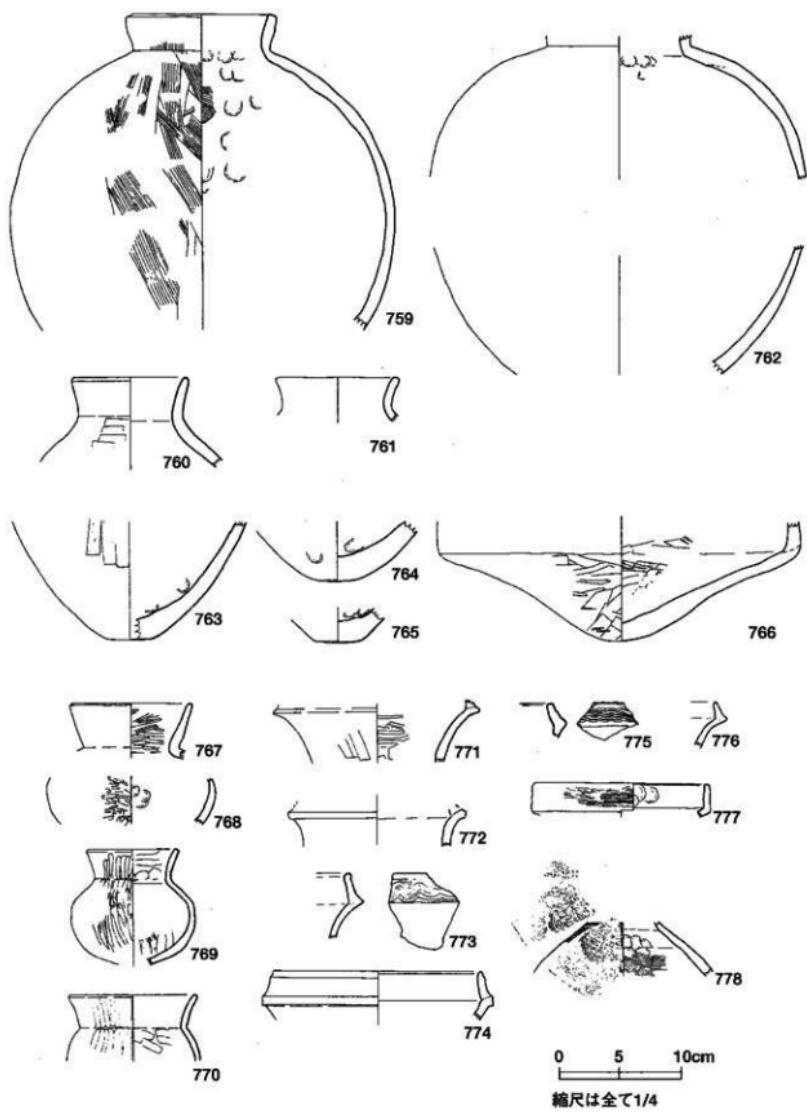
1号住居址からは庄内から布留式土器併行期と思われる土器片が数点出土しているが、他の遺構や包含層出土のものと接合するものをのぞくと壺の口縁部から体部にかけての破片が一点出土しているのみであり、出土状況からこの壺も流れ込みの可能性が高いため全て包含層一括資料として扱う。

IV層包含層出土の上器（第102図から第106図）

759から762は短頸の直口壺である。口縁部から頸部までの長さ・頸部から体部の形態により、幾つかに分類が可能であるようであるが、個体数や出土状況の良好なものが少ないためここでは分類は行わない。

763から766は壺の底部である。763から765は若干の平底を有するものである。766は尖底気味の丸底をケズリにより造り出しており、体部に向かって大きく開くラインを描く。

767から770は小型壺である。外面は丁寧にミガキが施され、内面はナデである。頸部から口縁部への開き具合、および体部の張りにより分類が可能であると思われるが、個体数が少ないのでここでは分類は行わない。

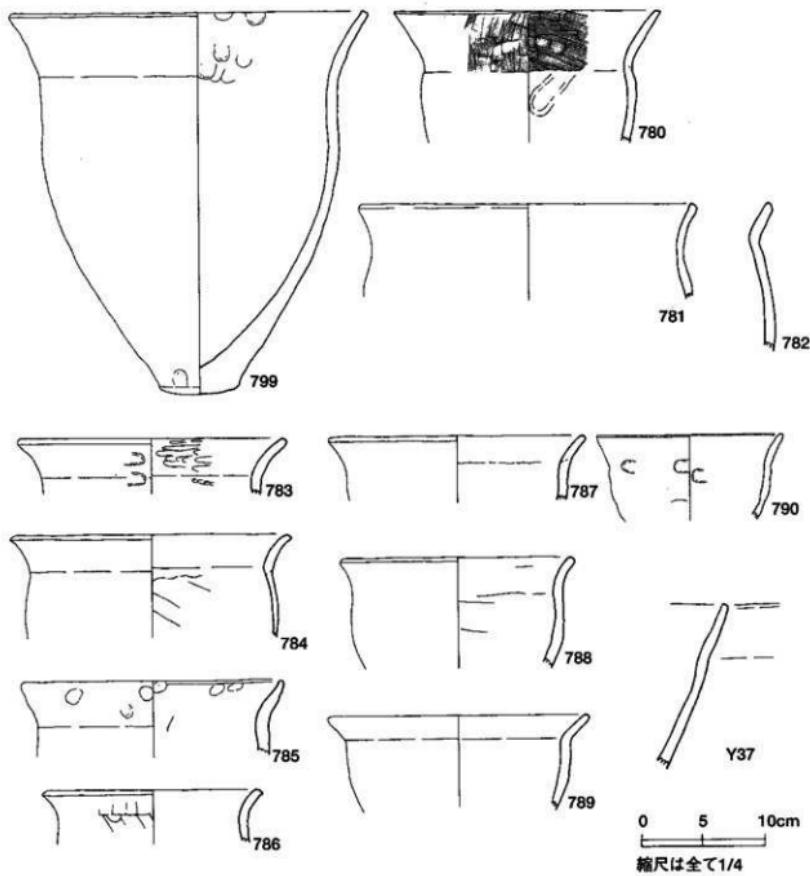


第102図 B 5 地区IV層出土遺物実測図 (弥生時代から古墳時代①)

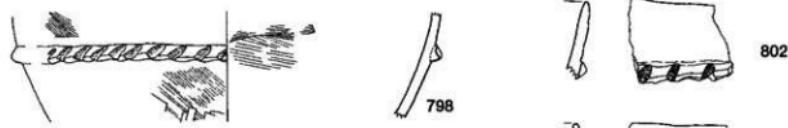
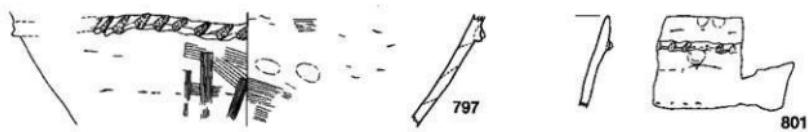
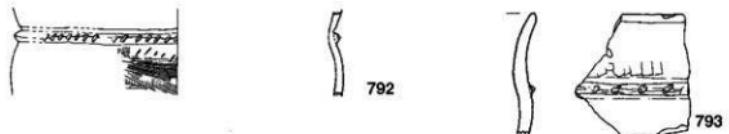
771から777は複合口縁壺である。771と772は第二次口縁を欠いており判然としないが、第一次口縁に第二次口縁が内傾して接続すると思われる。773から776は第一次口縁に第二次口縁がやや内傾して接続する。773と775の第二次口縁には櫛描波状文が巡る。777は第一次口縁にはほぼ垂直に第二次口縁が接続する。第二次口縁には櫛描波状文が巡る。

778は重弧文土器である。横位のス線と下向きの重弧文が一段ずつ施文されており、西分類（西健一郎『重弧文長頸壺』『弥生文化の研究 弥生土器II』1987）の第2型式にあたる。

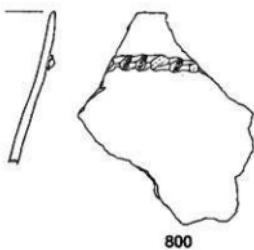
779から825は壺である。刻目突帯の有無により大きく2群に分かれる。突帯のないもの（779から791）は口縁部から体部の形態に着目して、大きくラッパ状に開く口縁部を持つもの（779・780）、口縁部が



第103図 B5地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代②）

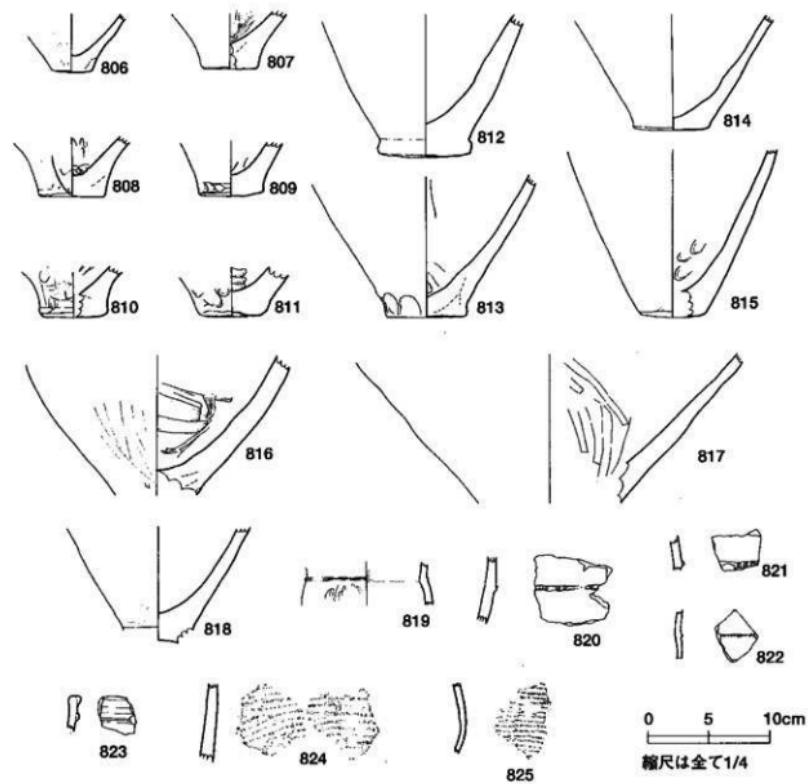


0
5
10cm
縮尺は全て1/4



第104図 B5地区IV層出土遺物変測図（赤生時代から古墳時代③）

短く直線的に立ち上がるるもの（781・782）、口縁部が短くかつ大きく屈曲し体部の張りが小さいもの（783から787）口縁部が外に屈曲しボウル状の体部を持つもの（788から790）、口縁部の屈曲が無く、体部はほぼ直線的なラインを描き、頸部に屈曲部の痕跡程度の沈線が巡るもの（791）の5形態に分類できる。突帯のあるものは、突帯部で「く」の字に屈曲するもの（792から796）と、体部から口縁部までやや内湾しながら直線的なラインを描くもの（797から805）に分かれる。「く」の字に屈曲するものは、細く繊細な刻目突帯をもつもの（792から793）と、太くやや荒いもの（794から796）とに分類できる。刻目突帯を持つものは、全体的に「く」の字に屈曲する口縁を持つものが直線的なものよりも丁寧な作りである。806から815は甕の底部である。806から811は小さな高台状の平底を持つものである。812から813は高台状の底部がやや大型のもので814と815は平底のものである。816から818は甕の体部である。大きく開く体部を持ち、脚を持つと思われるが判然としない。819から823はミニチュアの甕である。824と825は外面に叩きを持つ甕の体部片である。布留式土器併行期のものか古代のものか判然としないが、

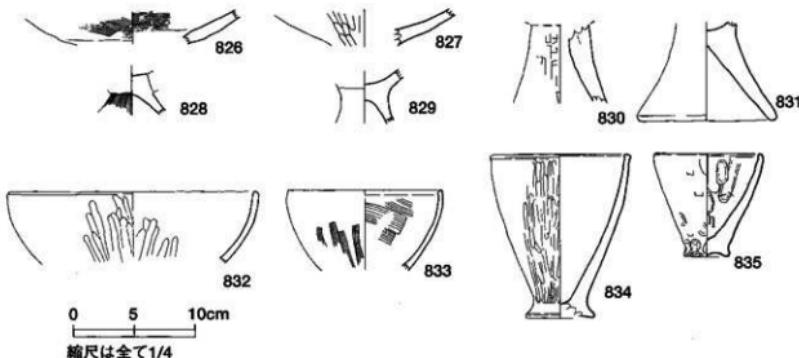


第105図 B5地区IV層出土遺物実測図（弥生時代から古墳時代④）

胎土の状況から布留式土器併行のものと考えておきたい。

826から831は高环である。個体数、出土状況が良好なものともに少なく、ここでは分類は行わない。

832から835は鉢である。832と833は口縁部から体部にかけてが出土しており、832は内外面ともにミガキが施されている。834と835はやや上げ底の脚台状の底部を持つもので、やや大型の834は外面にミガキ、内面にナデが施され、薄手で繊細な作りをしている。835はやや小型で内外面ともに荒いナデと指ナデが施され厚手で無骨な印象を受ける。



（4）古代の遺構

畝状遺構（第97図）

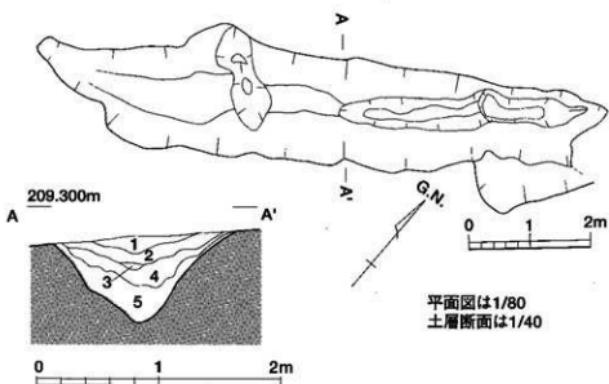
他の地区と同様に調査区のほぼ全面に畝状遺構が検出できているが、遺存状況は良好ではない。調査区中央の平坦な高所、北側の比較的急な斜面には畝状遺構は検出できおらず、調査区の南端に密集して検出できている。畝の方向は多くは中央の高所に向かってコンターラインに直交してのびているが、調査区南端とその他若干の部分でコンターラインと並行して走る。他の地区と同様に栽培作物は確定できていない。遺構の重複が顕著でないことから長期間の耕作は考えにくい。埋土の状況から他の地区で検出できた畝状遺構とほぼ同時期のものと考えられる。

1号溝状遺構（SE1・第107図）

調査区中央の高所の西端に検出できた溝状遺構である。黒褐色の埋土が主であり、埋土中には白色火山灰（Ⅲ-b層）の堆積もみられた。畝状遺構と大差ない時期のものと思われる。溝はほぼ東北東から西南西に走り、約9.6mの長さを測る。溝の幅は最大で2m、深さは80cm前後となる。

2から5号溝状遺構（SE2～5・第97図参照）

1号同様、黒褐色の埋土が主体の溝である。古代のものと考えられる。畝状遺構との重複が認められないことから島の区画などの機能が考えられる。



- 1.....黒色土。しまりがなく、砂質が強い。灰白色火山灰（III-b層）がブロック状に混入。
- 2.....黒褐色土。1より多く灰白色火山灰が混入する。
- 3.....黒褐色土。2よりややしまりがない。灰白色火山灰が混入する。
- 4.....黒色土。1～3よりややしまりが強い。0.1～0.2mm程度の御池ボラ粒、白色砂粒を若干含む。
- 5.....黒褐色土。しまりが強い。1～5mm程度の御池ボラを若干含む。1～3mm程度の炭化物粒を多く含む。

第107図 B5地区1号溝状遺構実測図

（5）古代の遺物（第108図）

836は甕である。出土状況からは時期は確定できなかったが胎土の状況・器形から古代のものであると判断した。内外面ともに丁寧なナデが施してある。

837は鉢である。外面はナデが、内面にはミガキ施されている。

838から840は黑色上器である。838と840は口縁端部が外反する。839は底部でヘラ切り離しで高台がつく。

841から843は土師器の坏である。841は口縁端部が直線的なラインである。842は円盤状高台を持つもので板状圧痕が確認できる。843は高台付の坏である。内面は丁寧なナデが施されている。底部はヘラ切り離しで刻書で押と書いてあるのが確認できる。九字の変形と考えられる。

古代の遺物は全体に出土数が少なく、形態の検討等はできなかった。

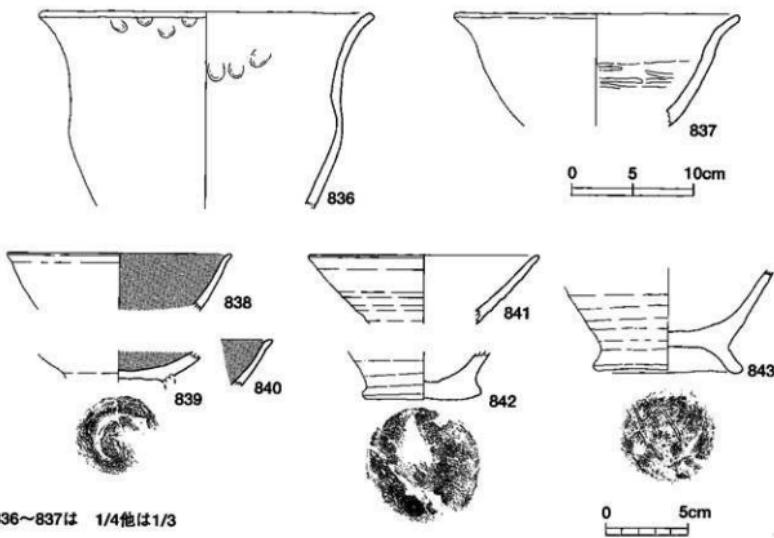
（6）その他の遺構

ピット群（第97図参照）

調査区のかなり広い範囲で時期、性格とも不明のピット群が検出できている。埋土は弥生時代から古墳時代にかけての遺構とほぼ同様のものであり、この時代前後のものと考えられるが決め手はない。

土壤 (S C 1 ~ 20・第97図参照)

B 5 地区では土壤が20基検出できている。土壤の埋土は黒褐色のものが主で、古代のものが殆どであると思われる。性格を確定できるようなデータは取れなかった。土壤の詳しい計測値等は後述の表(第38表)に譲ることとしたい。



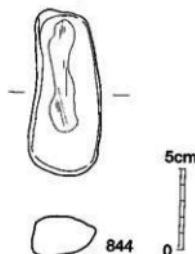
第108図 B 5 地区IV層出土古代遺物実測図

(7) 他の遺物

844は砥石である。背面に擦痕が確認できる。全体に熱を受け赤変している。時期を決定するデータに乏しく、時期不明の遺物として扱った。

(8) 小結

B 5 地区は調査区の面積に比べ、非常に遺物に乏しい。また歟状遺構の検出状態も悪く遺跡の性格付けを行うことも困難な状況である。堀立柱建物群柱建物群は方位にかなり規制されて建てられていることは見て取れるが、その変遷を見るためのデータは取れていない。この地区的検討は他地区との総合的な検討にゆだねたい。



第109図 B 5 地区IV層出土砥石実測図

第34表 B 5地区出土土器觀察表(1)

遺物 番号	種別 部位	出土 場所	法量(cm)			手法・表面・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
			口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面			
754	直土器 (弓張式 土器)	口輪部 ・脚部	IV層中	33.0 (標準)		且鏡腹型による脚 立文・弦文・貝 殻模文	ナデ	浅灰色(2.5Y 1/4)	明赤褐色 (SYR5/6)	2mm程度の褐色、灰褐色の砂粒、 2mm以下の火照色、赤褐色、灰白色、 透明光沢の砂粒を含む。	口輪部の1/ 15程度残 存	
755	直土器 (弓張式 土器)	IV層中				且鏡腹型による脚 立文・弦文	ナデ	にない赤褐色 (SYR5/6)	にない赤褐色 (SYR5/6)	0.1mm以下の乳白色の砂粒、0.3mm程 度の半透明の砂粒を含む。	脚部	
756	直土器	IV層中				棒状工具による刻 文、凹線文	ナデ	黄褐色(2. SYR5/1)	にない黄褐色 (SYR5/4)	0.1mm以下の乳白色、半透明の砂粒 を含む。		
757	直土器	IV層中	6.25 (標準)			網代底	ナデ	にない黄褐色 (SYR5/6)	にない黄褐色 (SYR5/4)	2.0mm程度の灰白色、透明光沢、透 明光沢の砂粒を含む。	底部の1/ 4程度残 存	
758	直土器 ・口輪部 ・脚	IV層中	11.15 (標準)			刷毛目	刷毛目・ナデ	青赤褐色 (SYR5/6)	青褐色(5YR 6/6)	2.0mm以下の黒褐色、2.0mm以下 の火照色、1.0mm以下の透明光沢、灰 白色の砂粒を含む。	760	
760	直土器 ・口輪部 ・脚	IV層中	9.3 (標準)			ナデ	ナデ	にない黄褐色 (SYR5/6)	黄褐色(2. SYR5/4)	2.0mm以下の黒褐色、黑色、灰 白色の砂粒を含む。		
761	直土器 ・口輪部	IV層中	9.65 (標準)			ナデ	ナデ	浅黄色(7. SYR5/4)	浅黄色(7. SYR5/6)	0.1mm以下の黑色の砂粒、0.5mm以下 の透明白光沢の砂粒を含む。	口輪部の1/ 4程度残 存	
762	直土器 ・口輪部 ・脚	IV層中				ナデ	ナデ	にない黄褐色 (SYR5/7/4)	にない黄褐色 (SYR5/6)	0.5mm以下の褐色、系褐色、灰褐色、 灰白色的砂粒、0.5mm程度の透明光 沢の砂粒を含む。		
763	直土器 ・口輪部	IV層中	3.8 (標準)			刷毛目	ナデ	にない黄褐色 (SYR5/7/4)	灰褐色(5YR 6/6)	0.5mm以下の褐色、系褐色、灰褐色、 黑色の砂粒、1.0mm以下の透明白光 沢の砂粒を含む。		
764	直土器 ・口輪部	IV層中	2.8			ナデ	ナデ	にない赤褐色 (SYR5/6)	にない赤褐色 (SYR5/4)	0.5mm以下の赤褐色、黑色、系褐色、 黑色の砂粒、0.5mm以下透明白光 沢の砂粒を含む。	3.6cm	
765	直土器 ・脚	IV層中	3.6			ナデ	ナデ	にない赤褐色 (SYR5/6)	にない赤褐色 (SYR5/4)	0.1mm程度の透明白光沢の砂粒を含む。		
766	直土器 ・脚	IV層中				ケズリ	ナデ	にない赤褐色 (SYR5/6)	浅黄色(10. SYR5/6)	2.0mm以下の灰白色、褐色の砂粒、 1.0mm以下の灰白色、黑色の砂粒 を含む。		
767	土器底 ・口輪部	IV層中	9.6 (標準)			ミガキ	ミガキ	赤褐色(10. SYR5/4)	明赤褐色 (SYR5/6)	1.0mm以下の黑色、白色、乳白色、 透明白光沢の砂粒を含む。		
768	土器底 ・脚	IV層中	7.6 (標準)			ミガキ	ミガキ	赤褐色(10. SYR5/4)	明赤褐色 (SYR5/6)	2.0mm以下の灰白色、乳白色、系褐 色の砂粒、0.5mm以下の透明白光 沢の砂粒を含む。	767と同一 個体か	
769	土器底 ・脚	IV層中	10.3 (標準)			ミガキ	刷毛目・ナデ	褐色(7. SYR5/6)	褐色(7. SYR5/6)	2.0mm以下の褐色、系褐色、 黑色の砂粒を含む。		
770	土器底 ・脚	IV層中				ミガキ	ナデ	褐色(7. SYR5/6)	浅黄色(7. SYR5/6)	1.0mm以下の浅黄色、暗褐色の砂粒 を含む。	口輪部の1/ 4程度残 存	
771	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中			ナデ	ナデ	にない赤褐色 (SYR5/6)	にない赤褐色 (SYR5/6)	1.0mm以下の灰白色、乳白色、系褐 色の砂粒、0.5mm以下の透明白光 沢の砂粒を含む。	1/2程度残 存	
772	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中			ナデ	ナデ	褐色(7. SYR5/6)	褐色(7. SYR5/6)	2.0mm以下の黑色、系褐色、 黑色の砂粒を含む。		
773	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中			ナデ・擦擦波状文	ナデ	褐色(5. SYR5/6)	浅黄色(7. SYR5/6)	2.0mm程度の灰白色、褐色の砂粒、 0.5mm程度の赤褐色の砂粒を含む。		
774	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中	16.8 (標準)		ヨコナデ	ヨコナデ	にない黄色 (SYR5/6)	黄褐色(2.5Y 1/1)	黒褐色の透明白光沢の砂粒、1.0mm程 度の黑色、乳白色の砂粒を含む。		
775	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中			擦擦波状文	ヨコナデ	褐色(7. SYR5/6)	褐色(7. SYR5/6)	1.0mm以下の褐色、系褐色、 黑色の砂粒を含む。	1/2程度残 存	
776	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中			ヨコナデ	ヨコナデ	にない黄褐色 (SYR5/6)	にない黄褐色 (SYR5/6)	2.0mm以下の黑色、透明白光沢の砂 粒、0.5mm以下の黑色、乳白色の砂 粒を含む。		
777	土器底 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中	14.4 (標準)		擦擦波状文	ナデ	浅黄色(7. SYR5/6)	浅黄色(7. SYR5/6)	2.0mm以下の赤褐色、灰白色、 灰褐色の砂粒を含む。		
778	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中			ミガキ、弦文、 重弧文	刷毛目	褐色(7. SYR5/6)	褐色(7. SYR5/6)	0.5mm以下の灰色、黑色の砂粒を含 む。		
779	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中	38.35 (標準)	6.5	31.3 (標準)	ナデ	ナデ	黄褐色(4. SYR5/7/2)	黄褐色(4. SYR5/7/2)	1.0mm以下の透明白光沢、灰白色、 褐色、赤褐色、黑色光沢の砂粒を含 む。	穴形の1/ 2程度残 存
780	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中	31.2 (標準)		刷毛目	刷毛目・ナデ	灰褐色(2. SYR5/2)	灰褐色(2. SYR5/2)	5.0mm程度の灰褐色の砂粒、3.0mm以 下の火照色、灰白色、灰褐色、によ い橙色、透明白光沢の砂粒を含む。		
781	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中	27.0 (標準)		ナデ	ナデ	浅黄色(10. SYR5/4)	浅黄色(10. SYR5/4)	0.2mm以下の灰白色、黑色、褐色、 透明白光沢の砂粒を含む。	口輪部の1/ 5程度残 存	
782	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中			ナデ	ナデ	淡黄色(2. SYR5/4)	淡黄色(2. SYR5/4)	0.5mm以下の灰白色、黑色、褐色、 透明白光沢の砂粒を含む。		
783	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中	21.3 (標準)		ナデ	ミガキ	浅黄色(2. SYT5/3)	浅黄色(2. SYT5/3)	0.1mm程度の褐色、系褐色の砂粒を 含む。	口輪部の1/ 4程度残 存	
784	直土器 ・脚	山古瀬 ・山古瀬	IV層中	23.0 (標準)		ナデ	ナデ	浅黄色(2. SYT5/3)	にない黄褐色 (SYE5/3)	0.1mm程度の褐色、系褐色の砂粒を 含む。	口輪部の1/ 4程度残 存	

第35表 B5 地区出土土器觀察表(2)

遺物 番号	種別	器種 部位	出 土 地 点	法 量 (m)		手 法・調整・文様はか		色 調		胎 土 の 特徴	備 考	
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
785	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	19.7 (0.96)			ナデ	ナデ	にない黄褐色 (10YR4 /3)	褐色 (7.5Y R6/2)	3.0m以下の褐色、淡黄色、灰白色、透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 5程度残存
786	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	18.9 (0.96)			ナデ	ナデ	灰黄色 (2, 5Y6/3)	灰黄色 (2, 5Y6/3)	0.2m以下の中黄色、淡褐色、赤褐色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 5程度残存
787	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	21.0 (0.96)			ナデ	ナデ	にない黄褐色 (10YR4 /3)	にない黄褐色 (10YR4 /3)	5.0m程度のない黄褐色の砂粒、0.2m以下の中黄色、淡褐色、赤白色、透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 5程度残存
788	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	18.3 (0.96)			ナデ	ナデ	灰黄色 (2, 5Y6/3)	淡黄色 (2, 5Y7/3)	0.2m以下の中黄色、灰褐色、黑色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 5程度残存
789	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	20.4 (0.96)			ナデ	ナデ	素黄色 (2, 5Y4/1)	素黄色 (2, 5Y7/4)	5.0m程度のない黄褐色の砂粒、0.2m以下の中黄色、淡褐色、黑色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 5程度残存
790	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	15.0 (0.96)			ナデ	ナデ	にない黄褐色 (10YR4 /3)	淡黄色 (2, 5Y7/3)	2.0m以下の褐色、灰色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 5程度残存
791	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ	ナデ	にない黄褐色 (10YR4 /4)	にない黄褐色 (10YR4 /4)	3.0m以下の灰色、褐色の砂粒を含む。	
792	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				刷毛目・刻目突唇	ナデ	にない黄褐色 (10YR4 /4)	にない黄褐色 (10YR4 /4)	1.0m~1.5m程度の淡黄色、透明光沢、黑色光沢の砂粒を含む。	
793	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ・刻目突唇	ナデ	浅黄色 (2, 5Y7/3)	にない黄褐色 (10YR4 /4)	2.0m以下の黑色、灰色、乳白色の砂粒を含む。	
794	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ・刻目突唇	ナデ	明赤褐色 (SYR8/6)	褐色 (7YR 8/6)	3.0m程度の暗褐色の砂粒、1.0m以下の淡黄色、乳白色、黑色光沢の砂粒を含む。	
795	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				刷毛目・刻目突唇	ナデ	にない灰黃色 (10YR4 /2)	灰 黄 色 低 (10YR4 /2)	1.0m~2.0m程度の黑色、淡黄色、乳白色、透明光沢の砂粒を含む。	
796	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ・刻目突唇	ナデ	にない灰黃色 (2.5YR8 /4)	にない灰黃色 (2.5YR8 /4)	2.5m以下の黑色、白色、淡褐色、灰白色の砂粒、1.0m以下透明光沢の砂粒を含む。	
797	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				刷毛目・刻目突唇	刷毛目	明赤褐色 (SYR8/6)	明赤褐色 (SYR8/6)	2.0m以下の白色、透明光沢の砂粒を含む。	
798	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				刷毛目・刻目突唇	刷毛目	明赤褐色 (SYR8/6)	明赤褐色 (SYR8/6)	1.0m以下の灰白色、淡黄色、褐色の砂粒、0.5m以下透明光沢の砂粒を含む。	
799	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				刷毛目・刻目突唇	刷毛目	にない灰褐色 (2.5YR8 /4)	にない灰褐色 (2.5YR8 /4)	1.0m以下の白色、乳白色、透明光沢の砂粒を含む。	
800	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ・刻目突唇	ナデ	にない灰褐色 (10YR4 /4)	褐色 (10Y R4/4)	2.0m以下の黑色、白色、黑色、透明光沢の砂粒を含む。	
801	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ・刻目突唇	ナデ	にない灰褐色 (2.5YR7 /4)	にない灰褐色 (2.5YR7 /4)	1.0m以下の黑色、灰色、褐色、透明光沢の砂粒を含む。	
802	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ・刻目突唇	ナデ	にない灰褐色 (SYR8/4)	素褐色 (5 YR4/4)	1.0m以下の黑色、灰色、透明光沢の砂粒を含む。	
803	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ・刻目突唇	ナデ	明赤褐色 (SYR8/6)	明赤褐色 (SYR8/6)	1.0m以下の白色、乳白色、透明光沢の砂粒を含む。	
804	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				刷毛目・刻目突唇	刷毛目	にない灰褐色 (10YR8 /3)	にない灰褐色 (10YR8 /3)	0.1m程度の乳白色、透明光沢の砂粒を含む。	
805	土器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ・刻目突唇	ナデ	にない灰褐色 (SYR8/4)	にない灰褐色 (SYR8/4)	2.0m以下の白色、黑色、淡褐色の砂粒、1.0m以下透明光沢の砂粒を含む。	
806	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣				ナデ	ナデ	にない灰褐色 (10YR4 /4)	素褐色 (2, 5Y7/4)	2.0m以下の灰白色、灰色、褐色、黑色光沢の砂粒、0.5m以下透明光沢の砂粒を含む。	底盤の1/2 程度残存
807	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	4.6 (0.96)			ナデ	刷毛目	にない灰褐色 (5YR8/3)	灰褐色 (6 YR5/2)	2.0m以下の灰白色、灰色、褐色、黑色光沢の砂粒、1.0m以下白色、黑色光沢、透明光沢の砂粒を含む。	
808	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	5.5 (0.96)			ナデ	ナデ	にない灰褐色 (SYR8/4)	にない灰褐色 (SYR8/4)	3.0m程度の灰白色の砂粒、1.0m以下灰白色、乳白色、黑色光沢、透明光沢の砂粒を含む。	
809	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	5.2 (0.96)			ナデ	ナデ	灰黄色 (2, 5Y7/2)	浅黄色 (2, 5Y7/4)	2.0m以下の灰黄色、灰白色、灰褐色、透明光沢の砂粒を含む。	
810	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	5.6 (0.96)			ナデ	ナデ	にない灰褐色 (10YR8 /3)	にない灰褐色 (10YR8 /3)	1.0m以下の灰黄色、灰白色、灰褐色、透明光沢の砂粒を含む。	底盤の1/4 程度残存
811	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	4.7 (0.96)			ナデ	ナデ	にない灰褐色 (10YR4 /4)	にない灰褐色 (10YR4 /4)	0.2m以下の灰褐色、赤褐色、灰白色、透明光沢の砂粒を含む。	
812	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	7.0 (0.96)			ナデ	ナデ	灰黄色 (2, 5Y7/2)	淡黄色 (2, 5Y7/3)	2.0m程度の透明光沢の砂粒、1.0m以下灰白色、黑色、透明光沢の砂粒を含む。	
813	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	6.6 (0.96)			ナデ	ナデ	灰白色 (2, 5Y7/2)	灰黄色 (2, 5Y7/2)	4.5m以下の赤褐色、灰色の砂粒、2.0m以下灰白色、黑色、透明光沢の砂粒を含む。	
814	陶器(?)	食・ 土 器	食・ 山口縣	6.1 (0.96)			ナデ	ナデ	にない灰褐色 (10YR7 /2)	にない灰褐色 (10YR7 /2)	1.0m以下の浅黄色、灰白色、透明光沢の砂粒を含む。	

第36表 B 5 地区出土土器観察表 (3)

遺物 番号	種別 ・ 部位	出 土 場 所	法 量 (cm)		手法・調査・文様ほか		色 調		地 土 の 特 徴	考 察
			口括 底径	高 さ	外 面	内 面	外 面	内 面		
815 陶土器 壺・底部	N層中	5.1 (底径)	ナデ	ナデ	にない褐色 (7.5YR5/ 4)	にない黄 色(10YR6/ 3)	0.1mmの白色、灰白色、透明光沢の 砂粒を含む。	底面の1/2 程度残存		
816 陶土器 壺・底部	N層中		ナデ	刷毛目	にない褐色 (7.5YR5/ 4)	にない黄褐色 (10YR6/ 3)	1.0mm~3.0mmの乳白色、黑色光沢を 含む。			
817 陶土器 壺・底部	N層中		ナデ	ナデ	灰褐色(2. 5YR7/2)	褐色(10 YR4/3)	1.0mm程度の淡黄色、灰色、透明光 沢、黑色光沢の砂粒を含む。			
818 陶土器 壺・底部	N層中		ナデ	ナデ	灰黄褐色 (10YR4/2) 84.4/3)	褐色(10Y R4/3)	0.1mm程度の灰白色の砂粒を含む。			
819 陶土器 壺・上部 チャコ	N層中		ミガキ・刻目突起	ナデ	にない褐色 (5YR6/4)	にない黄褐色 (10YR6/ 3)	0.5mm以下の透明光沢、黑色光沢の 砂粒を含む。			
820 陶土器 壺・上部 チャコ	N層中		ナデ・刻目突起	ナデ	灰黄褐色 (10YR5/ 4)84.8/3)	浅黄色(2. 5YR6/1)	2.0mm以下の透明光沢の砂粒を含む。			
821 陶土器 壺・上部 チャコ	N層中		ナデ・刻目突起	ナデ	にない黄褐色 (10YR5/ 4)	褐色(10Y R5/4)	2.0mm程度の灰白色の砂粒を含む。			
822 陶土器 壺・上部 チャコ	N層中		ミガキ・刻目突起	ナデ	褐色(2.5YR 6/6)	褐色(7.5YR 7/6)	0.5mm以下の透明光沢の砂粒を含む。			
823 陶土器 壺・上部 チャコ	N層中		ナデ・突堤	ナデ	にない褐色 (7.5YR5/ 3)	褐色(2.5YR 5/3)	0.1mm程度の透明光沢の砂粒を含む。			
824 陶土器 壺・底部	N層中		ナデ・タキ	刷毛目	灰褐色(2. 5YR6/2) 84.8/3)	浅灰色(2. 5YR6/1)	1.0mm~1.5mm程度の淡黄色、透明光 沢、黑色光沢の砂粒を含む。			
825 陶土器 壺・底部	N層中		ナデ・タキ	刷毛目	にない黃褐色 (10YR6/ 3)	灰黄褐色 (10YR6/ 3)	1.0mm以下の白色、赤褐色、黑色、 透明光沢の砂粒を含む。			
826 陶土器 壺・底部	N層中		刷毛目	刷毛目	明黄褐色 (10YR6/4)	褐色(2.5YR 6/4)	0.1mmの白色、透明光沢の砂粒を含 む。			
827 陶土器 壺・底部	N層中		刷毛目	ナデ	褐色(5YR 6/6)	にない黃褐色 (10YR6/ 3)	1.0mm以下の黄白色、褐色、透明光 沢の砂粒を含む。			
828 陶土器 壺・底部	N層中		ミガキ	ナデ	明黄褐色 (10YR6/4)	灰黄褐色 (10YR6/ 3)	2.0mm以下の底褐色、灰褐色、灰白 色、透明光沢の砂粒を含む。			
829 陶土器 壺・底部	N層中		ナデ	ナデ	灰白色(2. 5YR6/1)	灰褐色(2. 5YR6/1)	5.0mm程度の浅黄色の砂粒、1.0mm以 下の白色、透明光沢の砂粒を含む。			
830 陶土器 壺・底部	N層中		ナデ	ナデ	褐色(7.5YR 6/6)	褐色(7.5Y R6/6)	2.0mm以下の灰白色の砂粒、0.5mm以 下の白色光沢、透明光沢の砂粒を含 む。			
831 陶土器 壺・底部	N層中	10.75	ナデ	ナデ	にない黃褐色 (10YR7/ 2)	褐色(10Y R7/2)	1.0mm以下の透明光沢の砂粒、2.5mm 以下の底褐色、浅黄色の砂粒を含む。			
832 陶土器 壺・底部	N層中	19.9 (底径)	ミガキ	ミガキ	にない褐色 (7.5YR6/ 4)	にない褐色 (7.5YR6/ 4)	1.0mm以下の底褐色の砂粒を含む。	口縁部の1/ 4程度残存		
833 陶土器 壺・底部	N層中	12.45 (底径)	刷毛目	刷毛目	褐色(7.5YR 6/6)	にない黃褐色 (10YR7/ 2)	1.0mm以下の黒褐色、灰色、赤褐色、 透明光沢の砂粒を含む。			
834 陶土器 壺	N層中	10.7 (底径)	5.4 (底径)	13.35 (底径)	ミガキ	ナデ	にない褐色 (7.5YR6/ 4)	1.0mm~1.5mm程度の淡黄色、透明光 沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 4程度残存	
835 陶土器 壺・底部	N層中	8.6	3.6 ~3.9	8.46	ナデ	ナデ	黄褐色(10 YR6/4)	浅黄色(2. 5YR6/1)	1.0mm~2.0mm程度の淡黄色、茶色、 黑色光沢の砂粒を含む。	ほぼ完形
836 土器底 壺・口縁 部	壁上部	27.0 (底径)			ナデ	ナデ	灰褐色(10Y R6/4)	褐色(10Y R6/4)	2.0mm以下の灰褐色、白灰色、黑褐 色、黑色光沢の砂粒、1.0mm以下の透 明光沢、黑色光沢の砂粒を含む。	底面の1/ 4程度残存
837 土器底 壺・口縁 部	壁上部	23.0 (底径)			ナデ	ミガキ	にない褐色 (7.5YR6/ 4)	褐色(7.5Y R7/6)	2.0mm以下の褐色、茶褐色、黑褐色、 乳白色、透明光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 4程度残存
838 黑色土 壺・底部	N層上	13.7 (底径)			ナデ	ミガキ	明黄褐色 (10YR6/ 3)	褐色(CN1.8 /1)	1.0mm以下の黑色光沢の砂粒を含む。	口縁部の1/ 4程度残存
839 黑色土 壺・底部	N層上	6.8			ナデ	ミガキ	浅黄褐色 (7.5YR6/ 4)	褐色(CN1.8 /1)	2.0mm以下の茶褐色の砂粒を含む。	底面の1/ 2程度残存
840 黑色土 壺・口縫 部	N層上				ナデ	ミガキ	浅黄褐色 (10YR6/4)	褐色(CN1.8 /1)	微細な透明光沢の砂粒を含む。	
841 土器底 壺・底部	N層上	14.1 (底径)			ナデ・ヘラケズリ	ナデ	褐色(7.5Y R7/6)	褐色(7.5Y R7/6)	1.0mm以下の茶褐色、黑色の粒子を 含む。	口縁部の1/ 4程度残存
842 土器底 壺・底部	N層上	7.3			ナデ・ヘラケズリ	ナデ	にない黃褐色 (10YR6/ 3)	褐色(7.5Y R7/6)	2.0mm以下の茶褐色、黑色、灰褐色 の砂粒、0.5mm以下の透明光沢の砂 粒を含む。	
843 土器底 壺・底部 ・底盤	N層上	9.1			ナデ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR6/ 4)	褐色(7.5Y R7/6)	3.0mm以下の茶褐色、灰白色の砂 粒を含む。	底盤に削痕 を認す

第37表 B 5 地区出土石器計測表

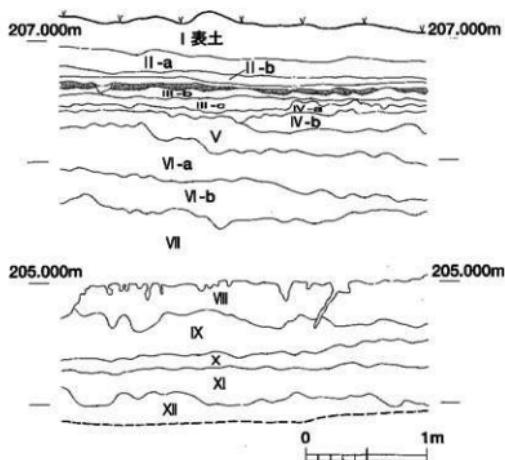
レジスト 番号	出土地点	品種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
758	Ⅳ層中	石 砂	2.6	1.7	0.3	1.2	砂岩	
844	Ⅳ層上面	砾 石	6.8	2.8	1.9	158	砂岩	

第38表 B 5 地区土壤計測表

土壤 番号	形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	備考
SC 1	楕円形	2.20	1.09	0.25		中央に深さ0.12mの落ち込み有り
2	不定円形	2.10	1.84	0.28	炭化材: クスノキ出土	
3	不定形	1.82	1.31	0.52		
4	隅丸長方形	2.50	1.02	0.21		
5	楕円形	2.37		0.21		両端に深さ0.31mのピット
6	不定楕円形	2.14	1.25	0.38		南端に深さ0.31mのピット
7	不定楕円形	3.62	1.62	0.35	流れ込みの土器片が若干有り	中央に深さ0.27mの落ち込み有り
8	長楕円形	2.50	1.34	0.6		
9	不定楕円形	2.47	1.68	0.33		東端に深さ0.27mの落ち込み有り
10	長楕円形	3.14	1.35	0.39		
11	不定形	2.70	1.70	0.33		
12	不定形	2.23	1.50	0.26		東端に深さ0.83mのピット
13	不定楕円形	1.80	0.85	0.38		中央に深さ0.22mのピット
13'	不定形	1.79	1.00	0.25		中央に深さ0.26mのピット SC13・13'は切り合う
14	円形	1.50	1.30	0.61		中央に深さ0.85mのピット
15	楕円形	1.51	1.20	0.46		
16	楕円形	0.90	0.68	0.19		
17	楕円形	1.60	0.95	0.238		
18	楕円形	1.30	0.80	0.62		北端に深さ0.14mのピット
19	楕円形	1.15	0.85	0.414		
20	不定形	2.25	1.55	0.41		

第3節 C地区の調査

1. 基本層序



第110図 C地区基本土層図 ($S = 1/40$)

2. 調査の概要

C地区は、B地区の北側、標高約202～206mの丘陵地に位置する。調査面積は約11,620m²である。調査対象地は丘陵地全体で、3区画の平坦面と西と南向きの斜面地からなる。C地区を大きく3地区(C1・2・3)に分け、まず数箇所にトレンチを設置して確認調査を行なった。トレンチ確認の結果、C2地区は畑地としてかなり掘削され、遺物包含層の第IV層が残っておらず、C3地区は、遺構・遺物は確認されなかった。C1地区はB地区と同様、畝状遺構と遺物が確認されたため、第I層と第II層(高原スコリア)を重機で除去し、全面調査を行なった。

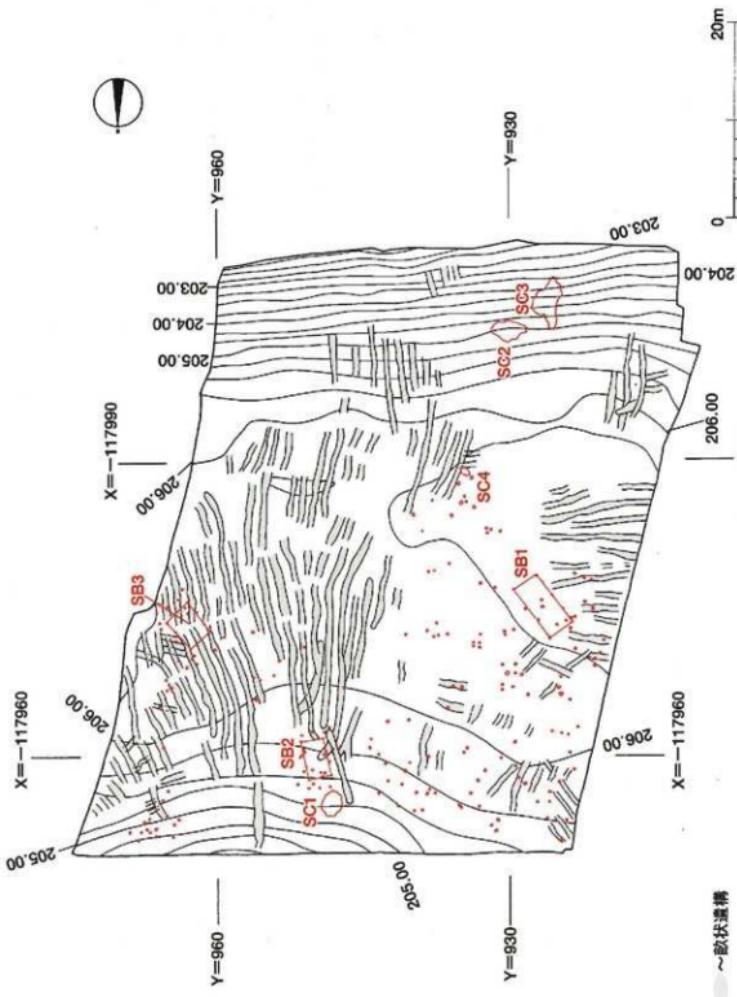
C1地区は中央に平坦面をもち、北側に緩斜面、南側に急斜面をもつ地形を有する。第III-c層面で畝状遺構が確認できたが、木根などの搅乱で全容を捉えることが困難であったため、人力で薄く土を除去しながら精査を行ない、第IV-a層面で畝状遺構を検出した。また、第IV層の遺物包含層からは、縄文後期、古墳時代、古代の遺物が少量出土した。第V層上で精査を行ない、掘立柱建物跡3棟、土壙4基、柱穴群が確認された。

(1) 縄文時代の遺構と遺物

遺構は確認されなかつたが、南向き斜面の第IV層中から土器片が僅かに出土している。遺物は第112図に示している。845は平口縁で口縁部が外反する深鉢である。外器面文様は沈線文と沈線文間に貝殻腹縁刺突がみられる。内器面はナデである。846は波状口縁を呈する鉢である。肥厚する口縁上面に

第I層～第VII層までの層位、堆積状況に関してはB地区と同じである。C地区では、更に下層の確認を行なつたので記述する。第IX層は、第VII層よりも暗い暗褐色粘質土である。牛の脛の粒子、白色粒(3～5mm程)、黄褐色のボラ粒(1～2cm角)を若干含む硬質土である。第X層は暗褐色シルト層である。第IX層より白色粒(1～3mm程)、黄褐色ボラ粒(1cm角)を若干多く含む。第XI層は暗褐色粘質土で、白色粒(1～3mm程)と黄褐色ボラ粒(0.5～1.5cm程)を多く含む。第XII層は暗灰色粘質土で、白色粒(2mm程)を若干含む。やや軟質土である。

第111図 C地区遺構分布図 (S=1/500)



2条の沈線と沈線間に貝殻復線刺突、沈線外側に刺突が施されている。器面調整は内外器面とも貝殻条痕である。847は深鉢の胴部である。内外器面ともナデ調整で、外器面に幅広の凹線が施されている。848・849はチャート製の石鏡である。

(2) 弥生時代および古墳時代の遺構と遺物

遺構は確認されなかったが、遺物が第IV層から出土している。出土遺物は第112図に示している。850～852は土師器である。850は刻み目を持つ突帯が頸部に貼り付けられた壺である。胴部上位に最大径を持ち、頸部がくびれて口縁部に向かって緩やかに外反する。器面調整は内外器面ともハケ目である。851・852は壺の底部である。851は小さい平底、852は尖底を呈する。

(3) 古代の遺構と遺物

畝状遺構（第111図）

B地区の畝状遺構と同じように、平面で、第IV層の褐色土の地山に平行して走る黒褐色土の溝として確認している。畝状遺構は遺存状況が良好でないため区画を捉えることは難しい。長さ20m前後、幅約0.7～0.8mの溝が走っている。溝の走行方向から5区画程に分かれると考える。

- ①調査区の北東側に、北北西～南南東方向に平行して走る約22条。
- ②調査区の中央部に、北北東～南南西方向に平行して走る約13条。①の区画に切られる。
- ③調査区の西側中央平坦地、南北約20mに東西方向に平行して走る約14条。
- ④調査区の北西側隅に、北西～南東方向に平行して走る4条。
- ⑤調査区南側の斜面地に南北方向に平行して走る8条。

溝はすべて等高線に直交する。畝状遺構に伴う遺物は出土していないが、B地区の畝状遺構と同じ層位検山、遺構形態からみて古代の畠跡と推測する。栽培作物は断定できなかった。

包含層の遺物

出土遺物は第113図に示している。853・854は平安時代の土師器坏である。853は底部ヘラ切りで、底部から口縁にかけてやや内済しながら延びている。口唇部は丸く仕上げている。

(4) その他の遺構と遺物

掘立柱建物跡（SB1～3、第113図）

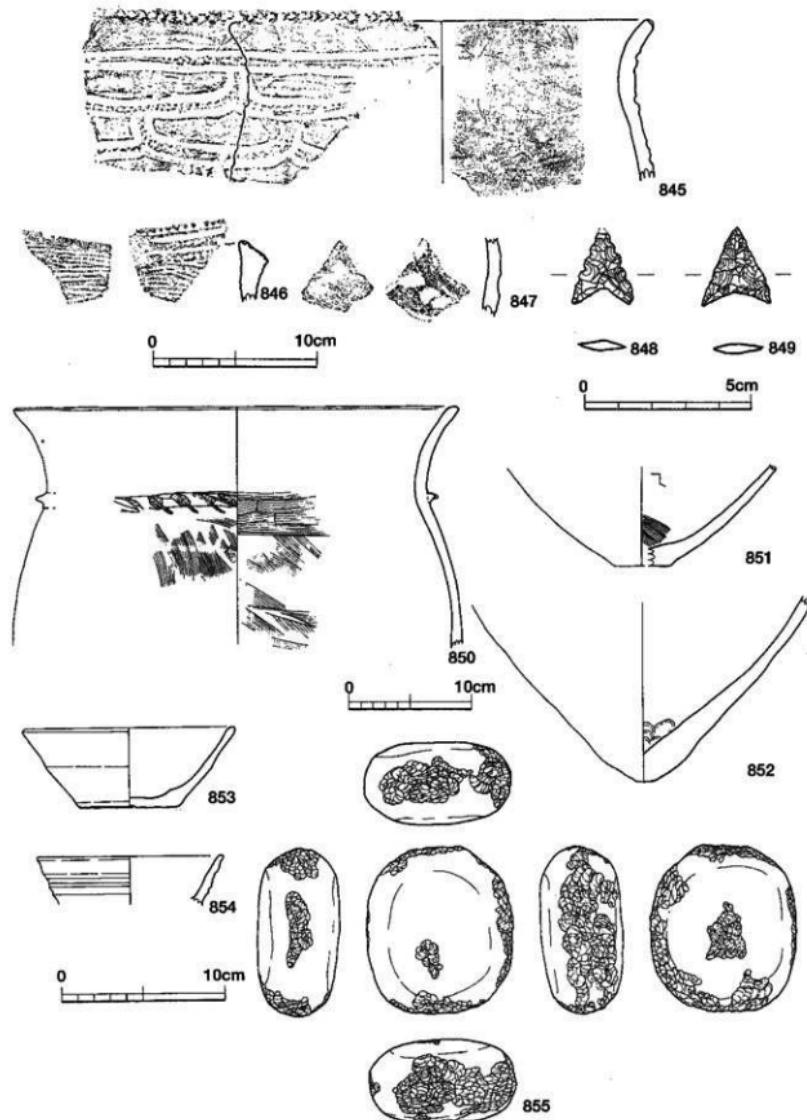
検出された建物は3棟で、すべて1間×3間の建物である。柱穴群および掘立柱建物跡は、第V層上で検出した。出土遺物が無いため時期決定は出来ないが、柱穴の埋土状況からみると第IV層土混じりの暗オリーブ色軟質土で畝状遺構がつくられる以前のものと考えられる。柱穴間の距離は図に示してある。

・1号掘立柱建物跡（SB1）

主軸をN-40°-Wにとる1間×3間の建物である。梁2.8～3m、桁行5.9～6.2mを測る。柱穴径20cm前後で、深さ30～60cmである。

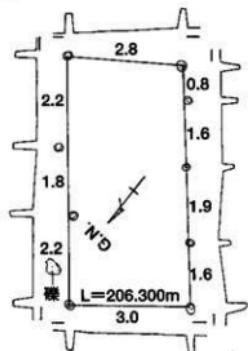
・2号掘立柱建物跡

主軸をN-14°-Wにとる1間×3間の建物である。梁2.2～2.4m、桁行4mを測る。柱穴径は20cm前後で、深さ30cm前後と一樣である。

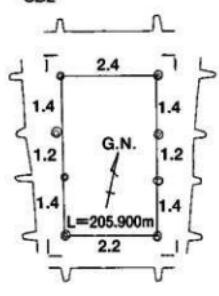


第112図 C地区出土遺物実測図 (845~847、853~855 S = 1 / 3, 848、849 S = 2 / 3, 850~852 S = 1 / 4)

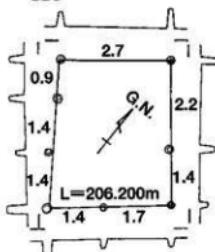
SB1



SB2



SB3



0 4m

第113図 C地区1・2・3号掘立柱建物跡 (SB1・2・3) 実測図 (S=1/120)

3号掘立柱建物跡

主軸をN-35°-Wにとる2間×3間の建物である。梁2.7~3.1m、桁行3.6~3.7mを測る。柱穴径は15cm前後で、深さ20~50cmである。

土壤 (SC1~4、第114図)

第V層上で4基検出された。出土遺物が無いため時期決定はできないが、土壤の埋土状況からみると全て黑色軟質土で、畝状構造と同時期の存在が考えられる。

1号土壤 (SC1)

調査区の北側中央に位置する。長軸約2.5m、短軸約2.1m、検出面からの深さ約0.25mの梢円形プランを呈する。遺物は出土していない。

2号土壤 (SC2)

調査区の南側斜面に位置する。長軸約3.5m、短軸約2.1m、検出面からの深さ約0.35mの不定梢円形プランを呈する。長軸の東側に柱穴状の落ち込みがあり、炭化材や炭化物粒が埋土中に確認できる。

3号土壤 (SC3)

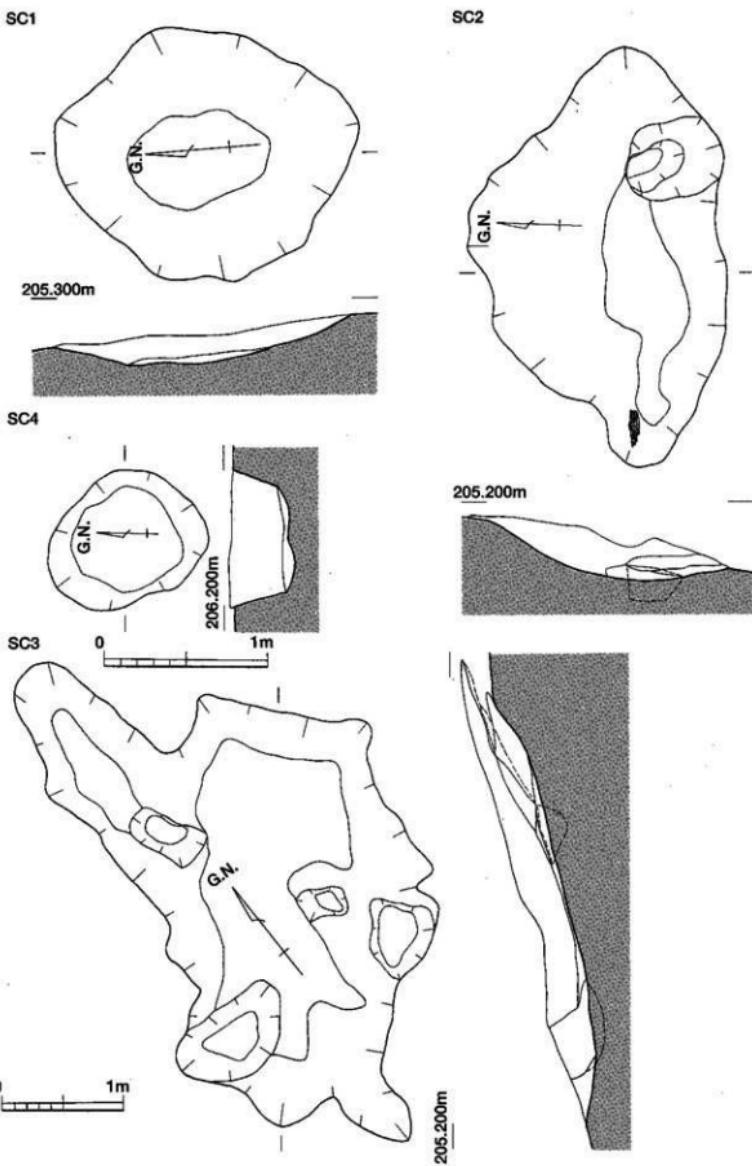
2号土壤の南西側に位置する。長軸約5m、短軸約2.3m、検出面からの深さ約0.3mの不定型プランを呈する。

4号土壤 (SC4)

調査区の中央平坦面やや南寄りに位置する。長軸約1m、短軸約0.75m、検出面からの深さ約0.4mの不定円形プランを呈する。

包含層の遺物

第112図に示している。855は凝灰岩製の敲石である。南側斜面地の第IV層内から出土している。



第114図 C地区1・2・3・4号土壤 (SC1・2・3・4)
実測図 (SC1・2・3、S=1/3, SC4、S=1/30)

(7) 小結

C 1 地区は遺構・遺物の出土は希少ながらも、縄文から古代までの幅広い遺物が出土している。C 2 地区は削平されていたが、耕作上に多くの遺物が含まれていることから、遺構の中心は C 1 地区から東側にあったと推測する。掘立柱建物跡は炉を伴うものではなく、規模からみても簡易小屋的なものであったと思われる。

畝状遺構は、更に東側に向かって広がる可能性がある。東から西に延びる丘陵の平坦地と南向きの急斜面地に畝状遺構が確認され、西に向かって傾斜する C 3 地区に確認されなかったことは、日当たりを慮して作っていることが考えられる。

第39表 C 地区出土遺物観察表（1）

遺物 番号	種別	器種 部位	出土 場所	法量(cm)			手ぬ・調査・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
				口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
845	縄文	直 筒 口 盆	C地区 IV層	(25)			口唇壓溝網目文 ナデ、三輪文、葉文、スヌ村文	ナデ、風度	褐、黒褐	にぶい褐	2.5mm以下の褐色の粒	
846	縄文	直 筒 口 盆	C地区 IV層				口唇壓溝網目文 ナデ、三輪文、葉文、貝殻模様	貝殻模様	青、にぶい褐	明褐	2.5mm以下の褐色の粒 2.5mm以下の黒褐色の粒 1.5mm以下の黒褐色・透明光沢粒	
847	縄文	直 筒 口 盆	C地区 IV層				大型凹輪、ナデ スヌ村文	指蹠痕	褐	にぶい黄褐	0.5~1.0mmの黒・白・透明光沢粒	波状口縁
850	土師器	直 筒 口 盆	C地区 IV層	(38.0)			貼付剣呂目突唇 ナデ、横・斜・ハケ目	にぶい黄褐	浅黄 暗灰黄	浅黄 暗灰黄	1.0mm以下の黒・淡黄褐色・灰色の粒	
851	土師器	直 筒 口 盆	C地区 IV層	(4.8)			工具ナデ	鉛・錫ハケ目	にぶい黄褐	灰黄	0.5~1.0mmの黒、白、乳白色の粒、 3.0mmの透明光沢粒	
852	土師器	直 筒 口 盆	C地区 IV層				工具ナデ、黒質	工具ナデ、指蹠痕	浅黄褐	淡黄	5.0mm以下の黒、系、褐、灰色の粒	
853	土師器	直 筒 口 盆	C地区 IV層	(13)	(6)	4.9	圓転ナデ、ヘラ切	圓転ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	0.5~1.0mm黒、茶色の粒	
854	土師器	直 筒 口 盆	C地区 IV層	(11.0)			圓転ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	0.5mm以下の黒色の粒、透明光沢粒	

第40表 C 地区出土石器計測表

レーベル 番号	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
848	C地区IV層	石 鋸	2.15	1.85	0.3	0.8	チャート	
849	C地区IV層	石 鋸	2.45	2.1	0.3	0.9	チャート	
855	C地区IV層	敲 石	10.3	8.8	4.9	589.1	緑灰岩	

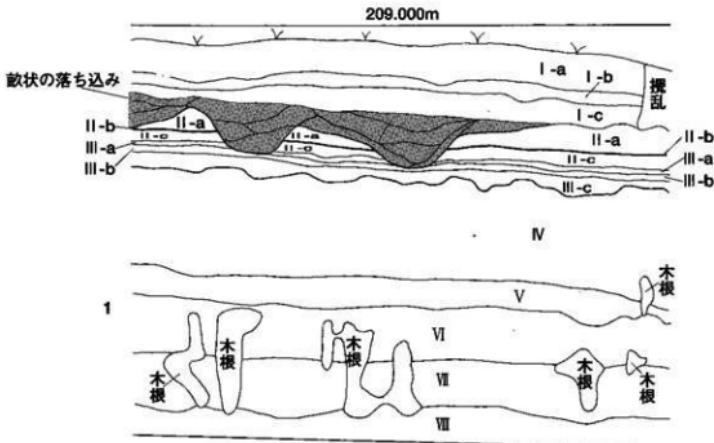
第4節 D地区の調査

1. 基本層序（第115図）

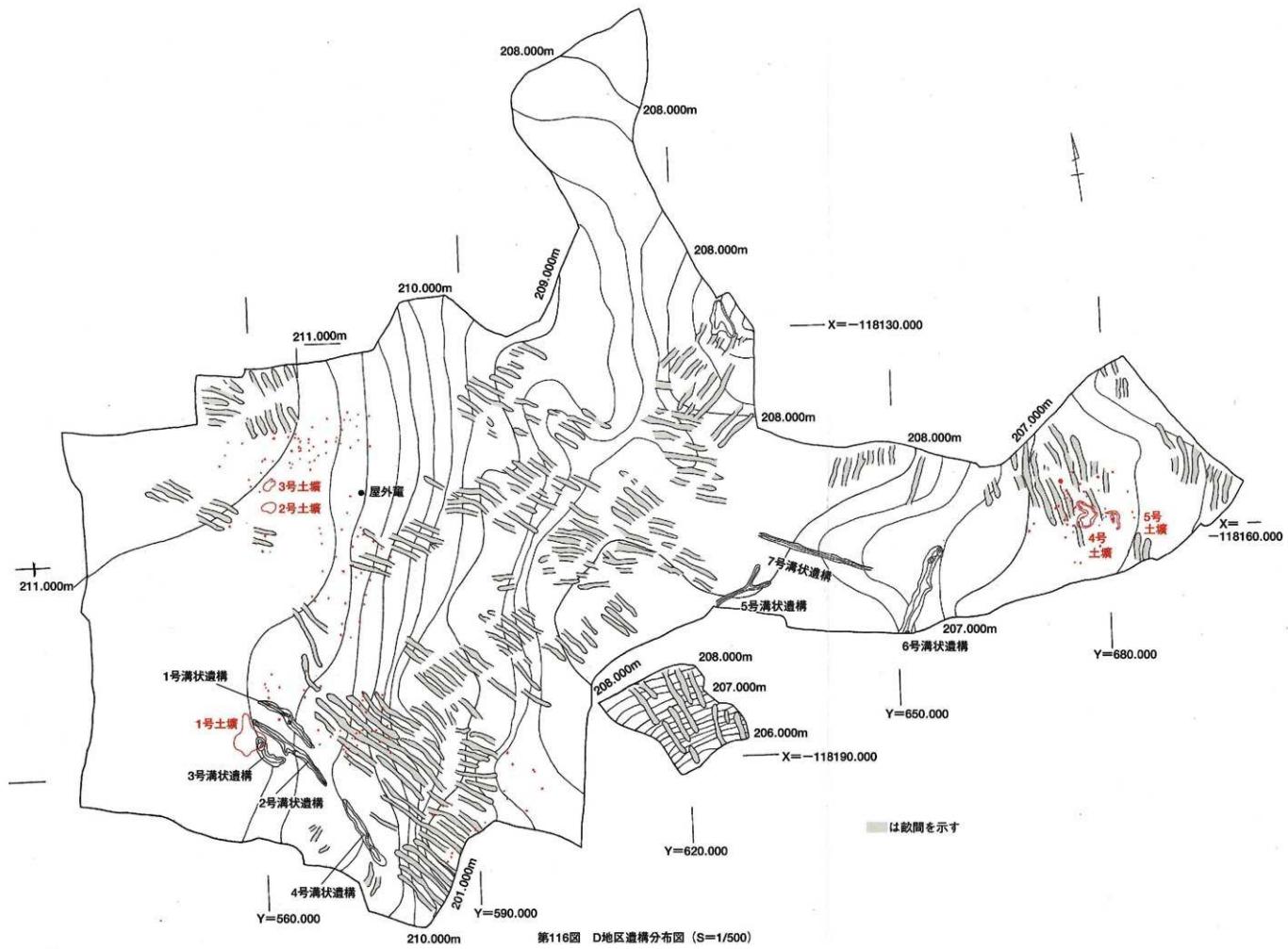
D地区はA地区同様、以前畠地として開墾されていたが後に杉の植林が行われ調査直前まで林地を形成していたため、表面には腐葉土が10から15cm程堆積していた。腐葉土を除去すると以前の畠地の耕作土（I-a層）が現れる。耕作土の下約25cmから30cmには1717年に降下した新燃岳スコリアの層（I-b層）が確認できた。I-b層の下には高原スコリアを多少含む漸移層の黒褐色土（I-c層）が存在する。以下はA地区と同様の層序が確認でき、高原スコリアの層（II層）が25cmから30cmの厚さで、その下には灰白色火山灰層（III-b層）を含んだ30cmから40cmの黒褐色土層（III-a,c層）、黄褐色土層（IV層）、鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰（VI層）、牛ノ脛上層（V層）、下層（VII層）が堆積する。遺物の出土もA地区と同様であり、III層最下部からIV層にかけて出土し、III層最下部では古代の上器が、IV層中では縄文後期から古墳時代初頭までの土器が混在していた。また、下層確認のために掘削したトレーニチのうち一つでは、牛ノ脛下層の下、バミスを含む褐色ローム層（VII層）中に塞ノ神式と思われる土器片が確認できた。

2. 調査の概要

D地区においてはIII-c層上面まで重機により掘削を行い、IV層上面まで人力による掘削を行った。その結果、IV層上面で調査区のほぼ全面に畝状の遺構が検出できたほか、溝状遺構や屋外窓と思われる遺構が確認できた。また、IV層中で土壤、ピット群などが確認できている。なお、新燃岳スコリアの下に畝状の落ち込みがあるのが土層で確認できた。



第115図 D地区基本土層図 (S=1/40)



第116図 D地区造構分布図 (S=1/500)

(1) 縄文時代の遺物 (第B・C図)

856は玦状耳飾りである。第IV層中から出土した玦状耳飾りである。穿孔に一度失敗しているらしく、貫通していない孔が貫通しているものに切られる形で確認できる。個体の半分ほどを欠損しており、現存で全長 1.3cm、最大幅 1.8cm、重量6.1gである。石材は淡緑色の鉱物で、暗褐色の不純物を若干含む。硬度は 2.0 前後で色調は淡い緑色を成す。硬度から考えると石膏の可能性が高いが、緑色の石膏が自然界に大きな固まりで存在することが少ない。色合いとのかねあいから滑石と考えられる。

857は黒曜石製のスクレーバーである。幅 3.7cm、厚さ 0.9cmで刃部には細かい使用痕が確認できる。

858は黒曜石の剥片である。長さ2.45cm、幅 1.3cmで重さは1.2gである。

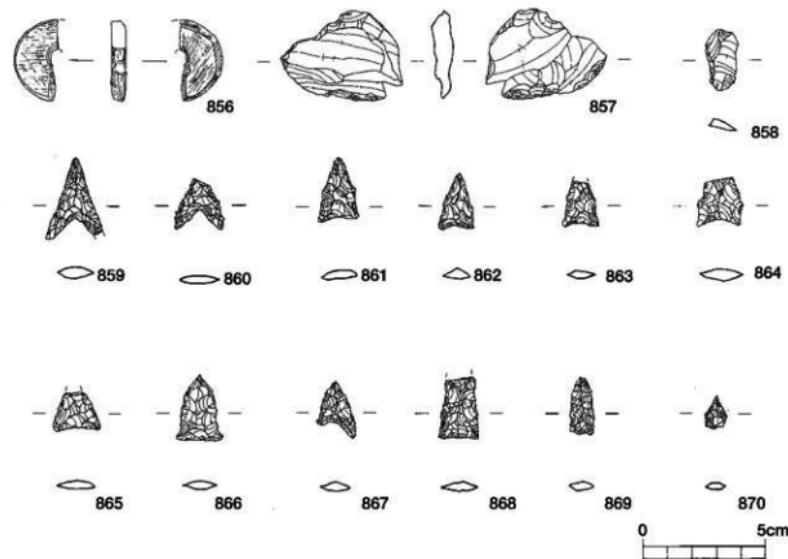
859から870は石鏃である。859から867まではチャート製で868から870までは黒曜石製である。重さは0.3gから1.9gで、抉りのあるものとないものに分かれる。

871は牛ノ脛火山灰層の下から出土した塞ノ神式土器の口縁部である。器表には貝殻押し引き文が確認でき、口唇部には刺突文がめぐる。

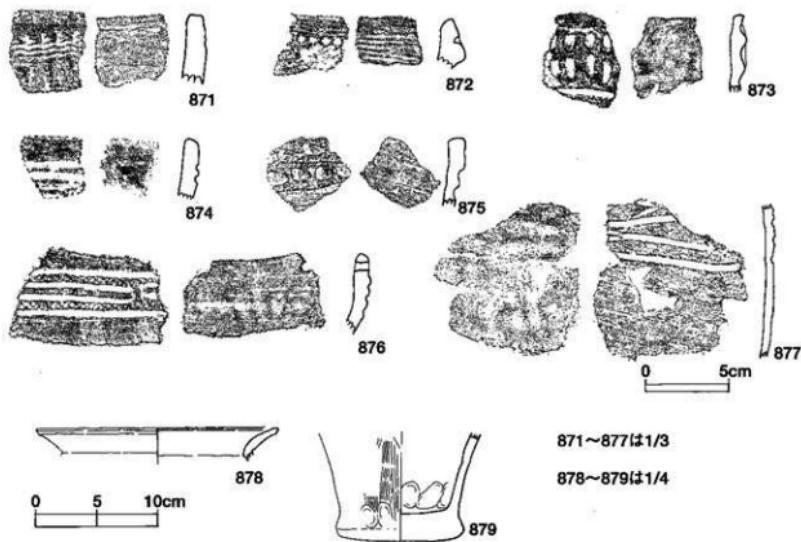
872から879は縄文中期以降の土器群である。阿高式や、據消縄文系のもの等が確認できる。小片のため器形等ははっきりしないものが多い。878は磨研土器の鉢、879は深鉢の底部である。

(2) 弥生時代および古墳時代の遺構

当概期の遺構は土壤が5基検出できている他、ピット群が確認できている。



第117図 D地区IV層出土縄文時代石器実測図 (S=1/2)



第118図 D地区出土縄文土器実測図 (S=1/3)

土壤

。1号土壤（第118図）

調査区の西側で検出できた土壤である。埋土中に多量の炭化物と、焼土が確認できた。長軸約610cm、短軸約540cmで深さは検出面より110cmである。平面形態は大小二つの土壤を溝でつなげたような形をしている。遺物は確認できていないが埋土から弥生時代から古墳時代のものであると予想される。

。2号土壤（第119図）

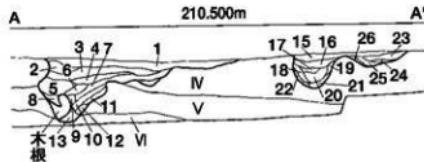
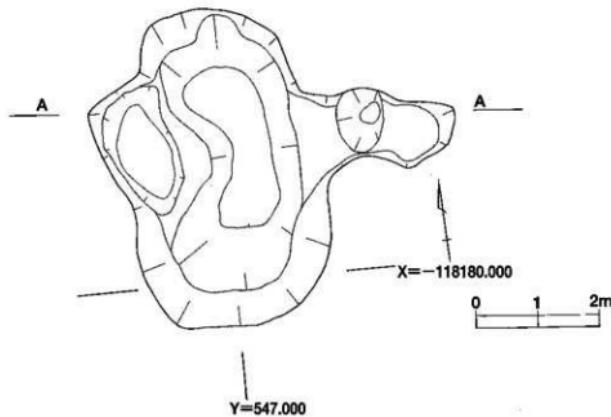
調査区のはば中央で確認できた土壤である。長軸約460cm、短軸約360cmで、深さは検出面から約30cmである。土壤中からは壺（第123図の880）が出土している。

。3号土壤（第F図）

2号土壤の北方約3mで検出できた土壤である。長軸約240cm、短軸約128cm、深さは検出面より約28cmで平面形は不正型である。遺物は弥生土器片が数点出土しているが、流れ込みの可能性が高く時期決定の決め手とはならない。埋土から弥生時代から古墳時代の間のものであると思われる。

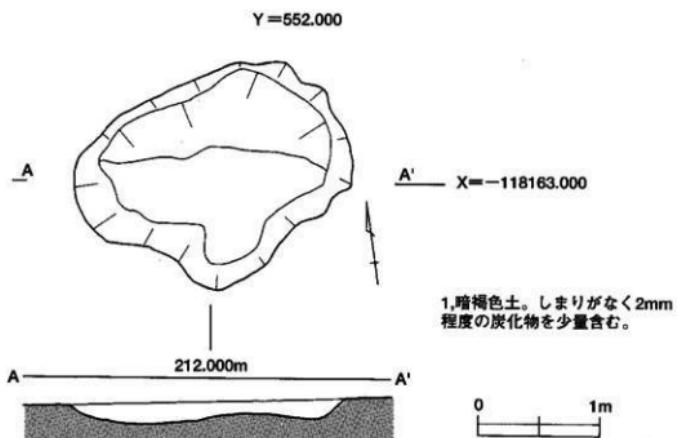
。4号土壤（第G図）

調査区の東側で確認できた不正型の土壤である。南北約440cm、東西約272cmで深さは検出面より56cm

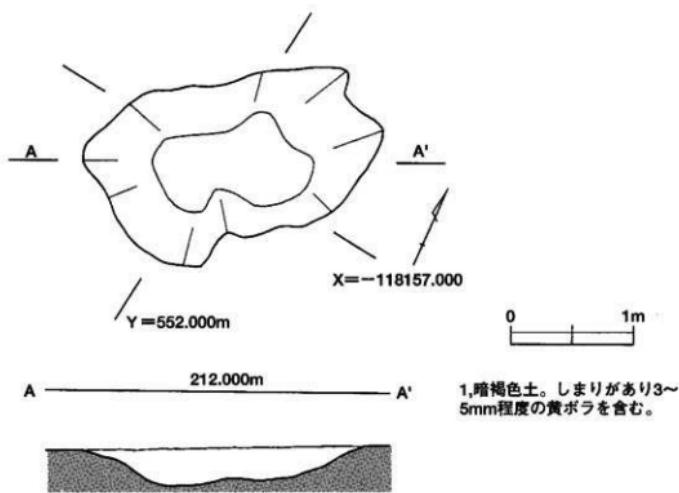


- 1 喀灰色土硬質。よくしまっていてさらさらしている。砂粒を含む。
- 2 黄褐色土軟質。炭化物を少量含む。やや粘性あり。
- 3 喀褐色土軟質。2よりややしまりがあるが、粘性は2より強い。小ボラを少量含む。
- 4 喀褐色土軟質。2よりやや大きめの炭化物を少量含む。粘性はほど同じ。しまっている。砂粒が少量。
- 5 喀褐色土軟質。2, 4より炭化物の含有量が高い。粘性は強いが3, 4ほどではない。
- 6 黄褐色土軟質。ほど粘性はないが、5よりもしまっている。ごく少量の炭化物を含む。
- 7 喀褐色土軟質。粘性は6とはほほ同じ。しまっている。炭化物、焼土を少量含む。砂粒が目立つ。
- 8 喀褐色土軟質。土が非常に柔らかく粘性が強い。炭化物を多量含む。焼土も少々混じっている。
- 9 黄褐色土硬質。よくしまっていて粘性はあまりない。小ボラを少量含み、焼土が少し入っている。炭化物を少量含む。
- 10 喀褐色土軟質。よくしまっていて粘性あり、小さい炭化物と多量の焼土が全体に広がっている。砂粒が目立つ。
- 11 喀褐色土軟質。よくしまっていて粘性あり。10よりもやや硬め、炭化物を含む。焼土が少々混ざる。
- 12 黑褐色土軟質。しまりがなく粘性でもない。目の細かい炭化物と焼土を含む。
- 13 黑褐色土軟質。12よりもしまりがあり、粘性も多少ある。10, 12に比べ炭化物は目立たない。適しくした黒土の粒が混ざる。
- 14 喀灰色土硬質。よくしまっていて粘性あり。炭化物をごく少量含む。
- 15 喀灰色土硬質。しまりがあるが粘性はない。黄褐色の土の小プロックを少量含む。
- 16 梅色土軟質。さらさらとしてよくしまっている。炭化物を含み、砂粒が混ざっている。粘性はない。
- 17 梅色土軟質。粘性は多少あるが、あまりしまっていない。炭化物を少量含む。焼土が全体に広がる。
- 18 梅色土軟質。ややしまりがあるが、17よりも粘性がある。少量の炭化物と焼土の小さい塊を含む。
- 19 黄褐色土軟質。やや粘性があり16よりも柔らかい。炭化物の混入はみられない。
- 20 黄褐色土軟質。土はあまりしまっていないが粘性がある。小粒の炭化物を含み、焼土が全体に混ざっている。
- 21 黄褐色土軟質。しまりがわるくて粘性も強くない。ごく少量の炭化物を含む。
- 22 黄褐色土軟質。21よりも粘性はあるがあまりしまっていない。砂粒を含み炭化物はほとんどみられない。
- 23 黄褐色土硬質。よくしまっている。やや粘性あり。炭化物をごく少量含む。
- 24 喀褐色土硬質。よくしまっていて23より粘性はない。炭化物の混入はみられない。小ボラをごく少量含む。
- 25 梅色土硬質。よくしまっている。粘性は薄着でない。ごく少量の焼土を含み、砂粒を含む。
- 26 梅色土硬質。よくしまっている。25よりも粘性がある。小ボラを少量含む。砂粒もわずかに見られる。

第119図 D地区1号土壤実測図 (S=1/80)



第120図 D地区 3号土塚実測図 ($S = 1/40$)



第121図 D地区 3号土塚実測図 ($S = 1/40$)